



39
105
M

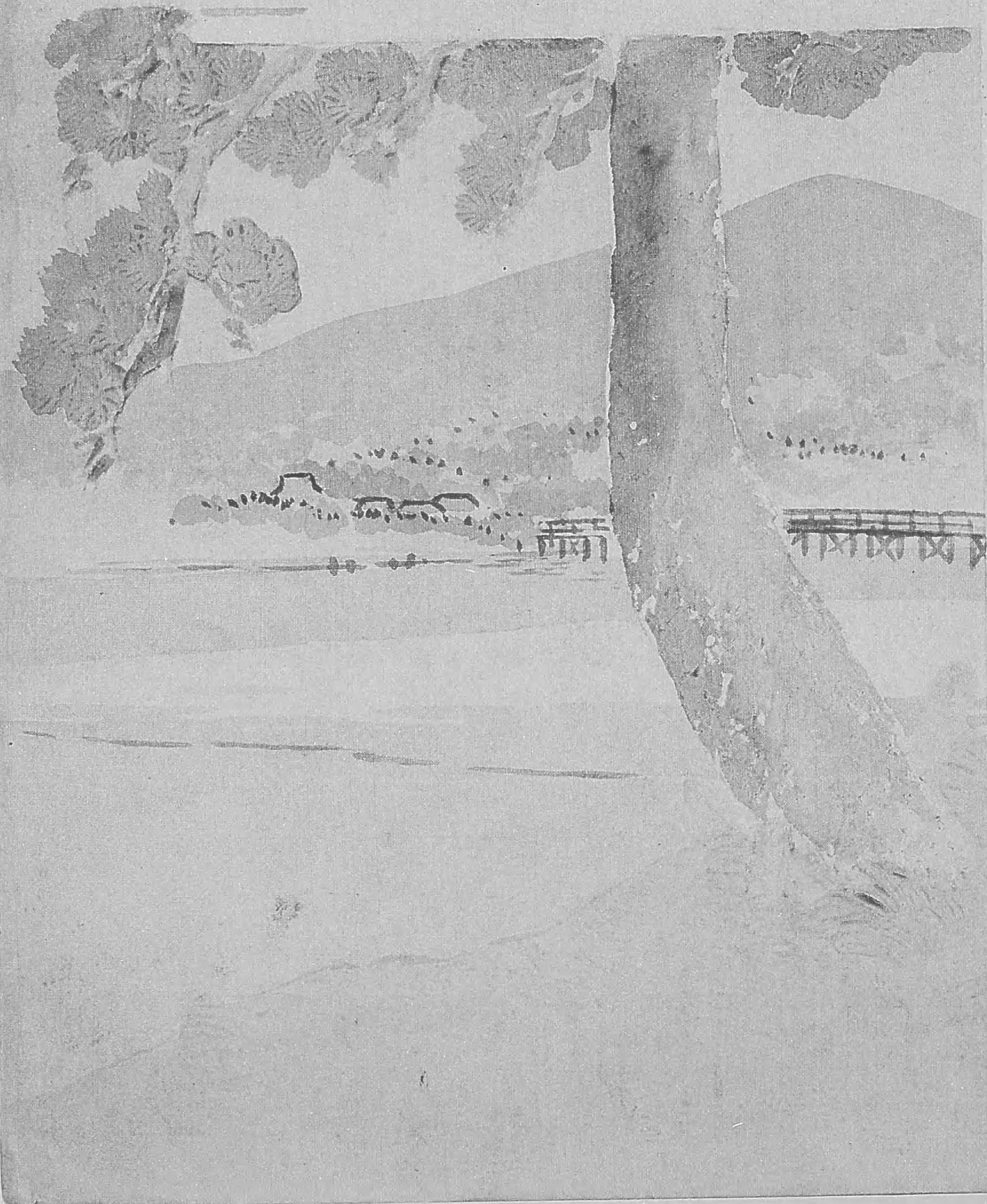


始



39
108

京都府寒泉帖

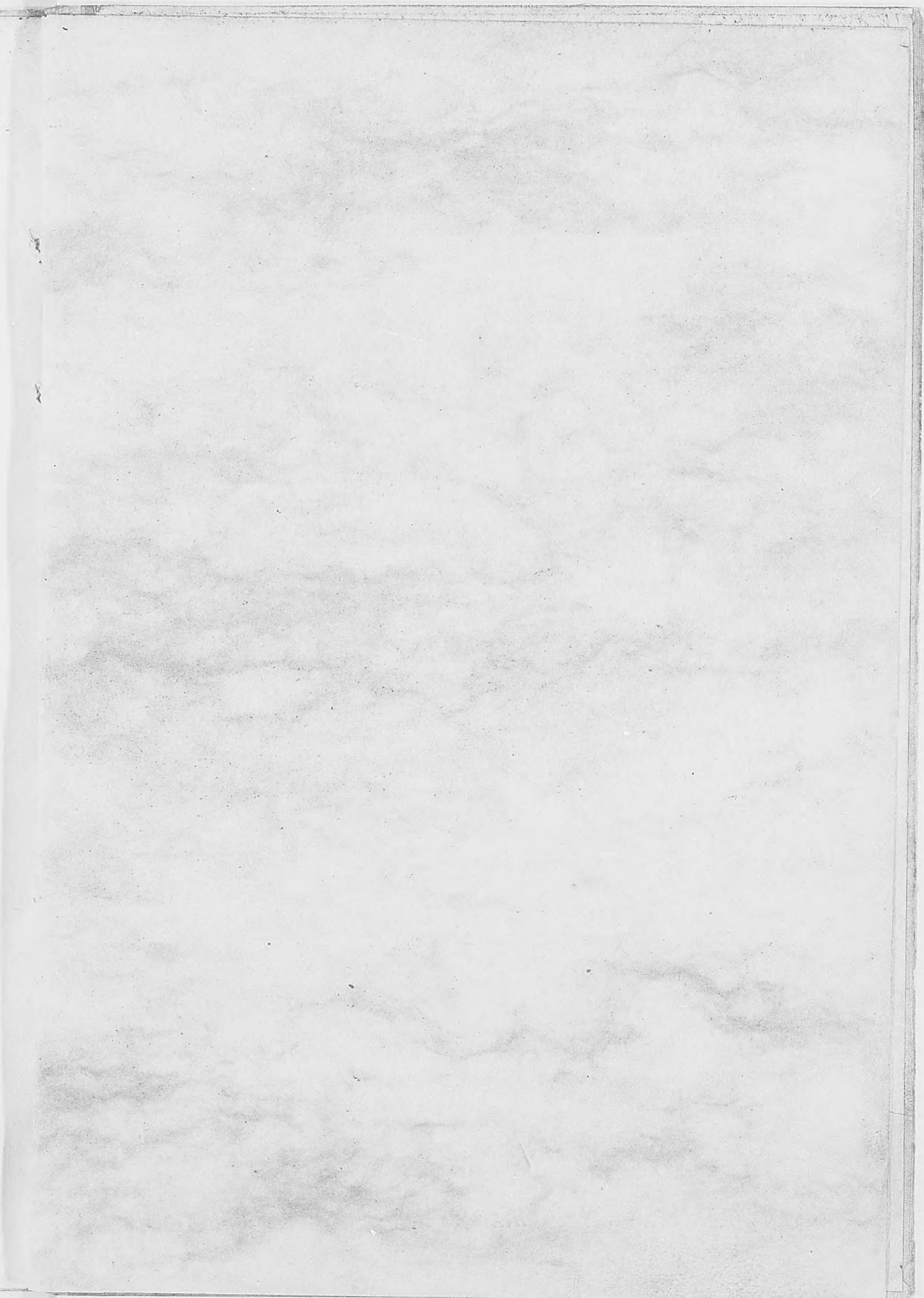
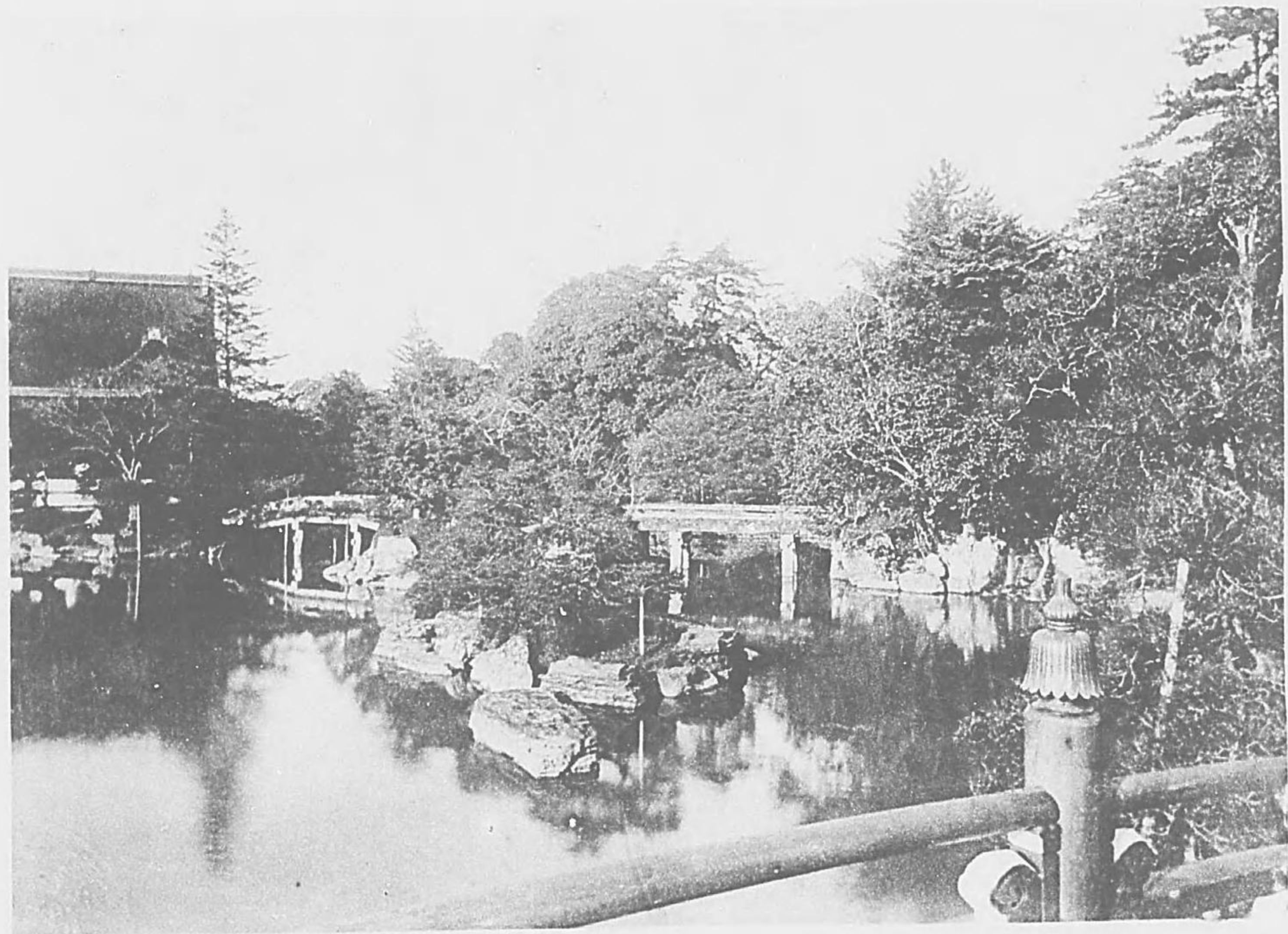


39-105



京都府寫真帖

明治
47 11 27
内交



京都府寫眞帖目次

卷首寫眞 御所御庭

京都市

一 堺町御門	一
二 建禮門	一
三 御苑	二
四 大宮御所	二
五 紫宸殿	三
六 清涼殿	四
七 仙洞御所御庭園	五
八 祐の井	六
九 二條離宮	六
一〇 二條離宮御車寄	六
一一 二條離宮御庭	七
一二 京都帝室博物館	八
一三 京都府廳	八
一四 京都市役所	九

目次

一五 京都地方裁判所	九
一六 京都郵便局	九
一七 京都帝國大學	〇
一八 京都高等工藝學校	〇
一九 第三高等學校	〇
二〇 府立第一中學校	一
二一 府立第一高等女學校	一
二二 府立第二高等女學校	一
二三 府立醫學專門學校療病院	二
二四 市立盲啞院	二
二五 市立柳池尋常小學校	二
二六 京都停車場	三
二七 京都市水利部	三
二八 インクライン(傾斜軌道)	三
二九 市立記念動物園	四
三〇 市立陶磁器試驗場	四
三一 赤十字社京都支部	五
三二 平安神宮及大極殿	五

一

三三	八坂神社	一六
三四	吉田神社	一六
三五	北野神社	一七
三六	護王神社	一七
三七	豐國神社	一七
三八	梨木神社	一八
三九	教王護國寺(東寺)	一八
四〇	神泉苑	一九
四一	妙法院	一九
四二	清蓮院	二〇
四三	真正極樂寺(真如堂)	二〇
四四	方廣寺(大佛)	二一
四五	蓮華王院(三十三間堂)	二一
四六	智恩院	二二
四七	金戒光明寺(黒谷)	二二
四八	禪林寺(永觀堂)	二二
四九	法然院	二三
五〇	南禪寺	二三
五一	東福寺	二三
五二	建仁寺	二四
五三	相國寺	二四
五四	慈照寺(銀閣)	二四
五五	高臺寺	二五
五六	歌中山清閑寺	二五
五七	本能寺	二六
五八	本因寺	二六
五九	清水寺	二七
六〇	本派本願寺	二七
六一	大谷派本願寺	二八
六二	本派本願寺廟所	二八
六三	大谷派本願寺廟所	二九
六四	武德殿	二九
六五	京都商業會議所	三〇
六六	日本銀行京都出張所	三〇
六七	第一銀行京都支店	三〇
六八	三井銀行京都支店	三一

六九	鴻池銀行京都支店	三一
七〇	京都織物株式會社	三一
七一	絹絲紡績株式會社	三一
七二	飯田新七刺繡工場	三二
七三	西陣襪絲再製株式會社	三三
七四	日本捺染株式會社	三四
七五	川島甚兵衛織物工場	三四
七六	西村總左衛門友禪染工場	三五
七七	福永カ子織物工場	三五
七八	錦光山宗兵衛陶器工場	三六
七九	並川靖之七寶工場	三六
八〇	島津製作所	三七
八一	蔬菜速成栽培	三七
八二	都ホテル	三八
八三	京都ホテル	三八
八四	加茂川	三九
八五	五條大橋	三九
八六	高瀬川曳舟	三九
八七	圓山公園	四〇
八八	若王子	四一
八九	西行庵	四一
九〇	不審庵	四二
九一	將軍塚	四二
九二	藤原兼實公墓	四三
九三	豐太閣墓	四三
九四	耳塚	四三
九五	細川幽齋墓	四三
九六	池大雅堂墓	四四
九七	皆川淇園墓	四四
九八	香川景樹墓	四四
九九	圓山應舉墓	四四
一〇〇	藤原惺窩墓	四四
一〇一	山崎闇齋墓	四四
一〇二	中山愛親卿墓	四五
一〇三	梁川星嚴墓	四五
一〇四	賴山陽墓	四五

一〇五	玉松樗墓	四五
一〇六	木戸孝允公墓	四五
愛宕郡		
〇	修學院離宮	四六
一〇七	上離宮	四六
一〇八	中離宮	四七
一〇九	下離宮	四八
一一〇	京都府師範學校	四九
一一一	賀茂別雷神社	四九
一一二	賀茂御祖神社	四九
一一三	建勳神社	五〇
一一四	三千院	五〇
一一五	寂光院	五〇
一一六	鞍馬寺	五一
一一七	大徳寺	五一
一一八	詩仙堂	五一
一一九	惟喬親王御墓	五二
一二〇	小野篁墓	五二
葛野郡		
一三二	桂離宮	五六
一三三	桂離宮松琴亭	五七
一三四	桂離宮御庭	五八
一三五	京都蠶業講習所	五九
一三六	二條停車場	五九
一三七	府立農林學校	六〇
一二一	藤原藤房公髮塔	五二
一二二	紫式部墓	五二
一二三	石田三成墓	五二
一二四	蒲生氏郷墓	五三
一二五	細川忠興墓	五三
一二六	小堀政一墓	五三
一二七	岩倉具視公髮塔	五三
一二八	叡山模範林苗圃	五四
一二九	鐘ヶ淵紡績株式會社京都工場	五四
一三〇	大原女	五五
一三一	白川女	五五

一三八	府立農事試驗場	六〇
一三九	京都府農會	六〇
一四〇	松尾神社	六一
一四一	平野神社	六一
一四二	愛宕神社	六二
一四三	仁和寺	六二
一四四	大覺寺	六三
一四五	廣隆寺	六三
一四六	法輪寺	六四
一四七	二尊院	六四
一四八	清涼寺	六五
一四九	天龍寺	六五
一五〇	妙心寺	六六
一五一	鹿苑寺(金閣)	六六
一五二	日本製布株式會社工場	六七
一五三	梅津製紙株式會社	六七
一五四	京都農園	六八
一五五	北山臺杉林	六八
~~~~~		
一五六	嵐山	六九
一五七	大堰川	七〇
一五八	雙丘	七〇
一五九	清瀧	七一
一六〇	神護寺	七一
一六一	高尾	七二
一六二	槇尾	七二
一六三	梶尾	七二
一六四	廣澤池	七三
一六五	大澤池	七三
一六六	時雨亭の跡	七三
一六七	和氣清麿公墓	七四
一六八	三條西實隆公墓	七四
一六九	角倉了以墓	七四
一七〇	伊藤仁齋墓	七四
一七一	三條實萬公墓	七五
一七二	本阿彌光悅墓	七五
一七三	三條實美公髮塔	七五

一七四 佐久間象山墓……………七五

乙訓郡

一七五 長岡天満宮……………七六

一七六 寶積寺……………七六

一七七 光明寺……………七六

一七八 妙喜庵……………七七

一七九 江南竹林……………七七

一八〇 苦竹林……………七七

一八一 山崎古戰場……………七七

紀伊郡

一八二 第十六師團……………七八

一八三 歩兵第三十八聯隊……………七八

一八四 工兵第四大隊……………七八

一八五 府立第二中學校……………七九

一八六 稻荷神社……………七九

一八七 農事試験場桃山分場……………七九

一八八 松風陶器合資會社工場……………八〇

一八九 大阪紡績株式會社伏見分工場……………八〇

一九〇 濱口罐詰工場……………八〇

一九一 伏見城址及桃山……………八一

一九二 荷田東磨墓……………八一

宇治郡

一九三 醍醐寺……………八一

一九四 勸修寺……………八二

一九五 萬福寺……………八二

一九六 宇治茶園……………八三

一九七 松尾嘉平治製茶工場……………八三

一九八 大石良雄舊址……………八三

一九九 田村將軍墓……………八三

久世郡

二〇〇 宇治神社……………八四

二〇一 巨椋池……………八四

二〇二 寺田村李畑……………八四

二〇三 宇治平等院……………八五

二〇四 宇治橋……………八五

二〇五 興聖寺……………八五

二〇六 男山八幡宮……………八六

二〇七 酬恩庵……………八六

二〇八 有智鄉村梨畑……………八六

二〇九 八幡町美豆村聯合排水工事……………八六

二一〇 井手玉川……………八七

二一一 澱川……………八七

二二二 淨瑠璃寺……………八七

二二三 笠置寺……………八七

二二四 笠置行在址……………八八

二二五 木津川……………八八

二二六 相樂園……………八八

二二七 瓶原村柑橘園……………八八

二二八 藤原百川公墓……………八八

南桑田郡

二二九 保津川……………八九

二三〇 出雲神社……………八九

二三一 常照寺……………九〇

二三二 山國招魂社竝碑……………九〇

二三三 杉林及柚人……………九〇

二三四 府立種畜場……………九一

二三五 園部公園……………九一

二三六 園部公園……………九一

二三七 瑠璃溪……………九一

二三八 歩兵第二十聯隊……………九二

二二九 工兵第十大隊……………九二

二三〇 府立第三中學校……………九二

二三一 福知山城址……………九二

二三二 保信館桑園……………九三

二三三 農事試験場綾部分場……………九三

二三四 郡是製絲株式會社工場……………九三

二三五 船井郡……………九一

二三六 天田郡……………九二

二三七 何鹿郡……………九三

二三八 何鹿郡……………九三

二三九 何鹿郡……………九三

二三〇 何鹿郡……………九三

二三一 何鹿郡……………九三

二三二 何鹿郡……………九三

二三三 何鹿郡……………九三

二三四 何鹿郡……………九三

二三五 何鹿郡……………九三

二三六 何鹿郡……………九三

二三七 何鹿郡……………九三

二三八 何鹿郡……………九三

二三九 何鹿郡……………九三

二三〇 何鹿郡……………九三

二三一 何鹿郡……………九三

二三二 何鹿郡……………九三

二三三 何鹿郡……………九三

二三四 何鹿郡……………九三

二三五 何鹿郡……………九三

二三六 何鹿郡……………九三

二三七 何鹿郡……………九三



二三五	城丹鑑業講習所	九三	二四九	天橋立灣内	九九
加佐郡			二五〇	金引瀧	九九
二三六	舞鶴鎮守府	九四	二五一	伊根灣	一〇〇
二三七	舞鶴要塞司令部	九四	二五二	浦島子	一〇一
二三八	松尾寺	九四	中郡		
二三九	由良川	九五	二五三	府立織物試験場	一〇一
二四〇	由良灣 附桃島	九五	二五四	松下庄次縮緬工場	一〇一
二四一	田邊城址心種園	九五	竹野郡		
與謝郡			二五五	溝谷村耕地整理地	一〇二
二四二	府立第四中學校	九六	二五六	上宇川村蠶種貯藏風穴	一〇二
二四三	府立水産講習所	九六	二五七	島津村琴彈濱	一〇三
二四四	籠神社	九六	二五八	間人村城島	一〇三
二四五	成相寺	九七	熊野郡		
二四六	智恩寺	九七	二五九	本願寺	一〇四
二四七	宮津城址	九七	二六〇	久美濱灣	一〇四
二四八	天橋立	九八			

目次終

卷首寫眞 御所 御庭

御庭は小御所の前面に在り古色翳鬱とし加ふるに池水は清く美はし  
く池の周圍には奇石老巖相連り、或は峰を作し或は溪をなし遠きか如  
く近きか如し處處圮橋石梁を架し或は浮ふるに小舟を以てし奇樹嘉  
木名花芳草其間に點綴し天然の風致を極め禁園の勝概、雲上の清覽眞  
に仙境神區の想ひあらしむ



### 一 堺町御門

御苑の正南面堺町にあり故に名く、皇居九門の一なり近時附屬の番所を建て舊時の式に復せらる此御門内には舊來應司邸と九條邸東西に相對す元治の變、應司邸は長州軍の據る處にして久阪義助、入江九一等此に戦死せり

### 二 建禮門

建禮門は皇居正殿の前に在り、中古已來皇居は苟めの建築なりしを天明火災の後、光格天皇の勅旨を奉し時の徳川將軍家齊、閣老松平定信に命し柴野邦彦等に古制を調査せしめ延暦皇居の體制に據りて再興せらる於是諸事舊儀に復し、天皇寂感、御製の詩を宸筆に染められ將軍に賜はる其後嘉永七年四月に焼失せしを安政年間更に造營あり即ち今の皇居之なり維新後雜舎は毀撤せられしか正殿の部、修理保存せられ儼然舊儀を存せり其前の舊門は即ち建禮門にして門内の瓦屋は承明門、其内の大殿は即ち紫宸殿なり



### 三 御苑

南北七百餘間、東西三百八十餘間、石垣を周らし、南に堺町、東に石薬師、清和院寺町、西に中立賣、下立賣、新町、北に今出川御門あり、皇居を中にし、舊仙洞、桂宮、賀陽宮、主殿寮、諸陵寮出張所等、其内にあり、舊時は公卿の邸宅、墳在せしを、維新後、取掃ひ、禁林を作られて、御苑と稱す。

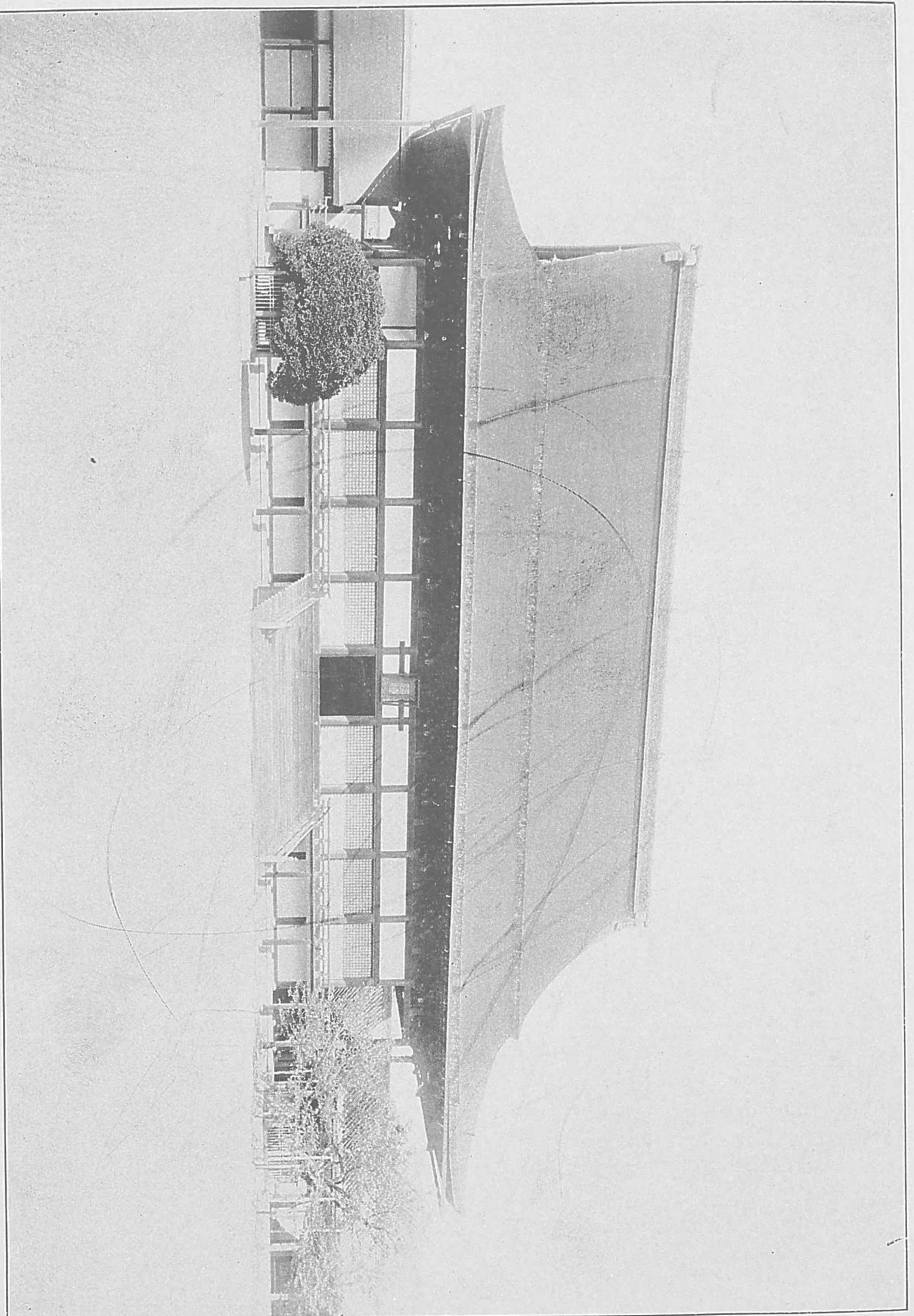
### 四 大宮御所

仙洞御所の西北に連なり、別に一區をなす、宮殿林泉あり、當年皇太后の御在所なり。

皇居の正殿にて承明門内にあり即ち南面す左右に日華月華の二門あり繞らすに長廊を以てす殿は桁行十六間五尺梁行十一間三尺五寸南階十三級左近の櫻右近の橘其左右にあり中古其儀を失ひしを寛政造營の時延暦の古法を考へ一切正式に法りて再興せらる現殿は安政の御造營にて常に玉座の設けあり畏くも今上

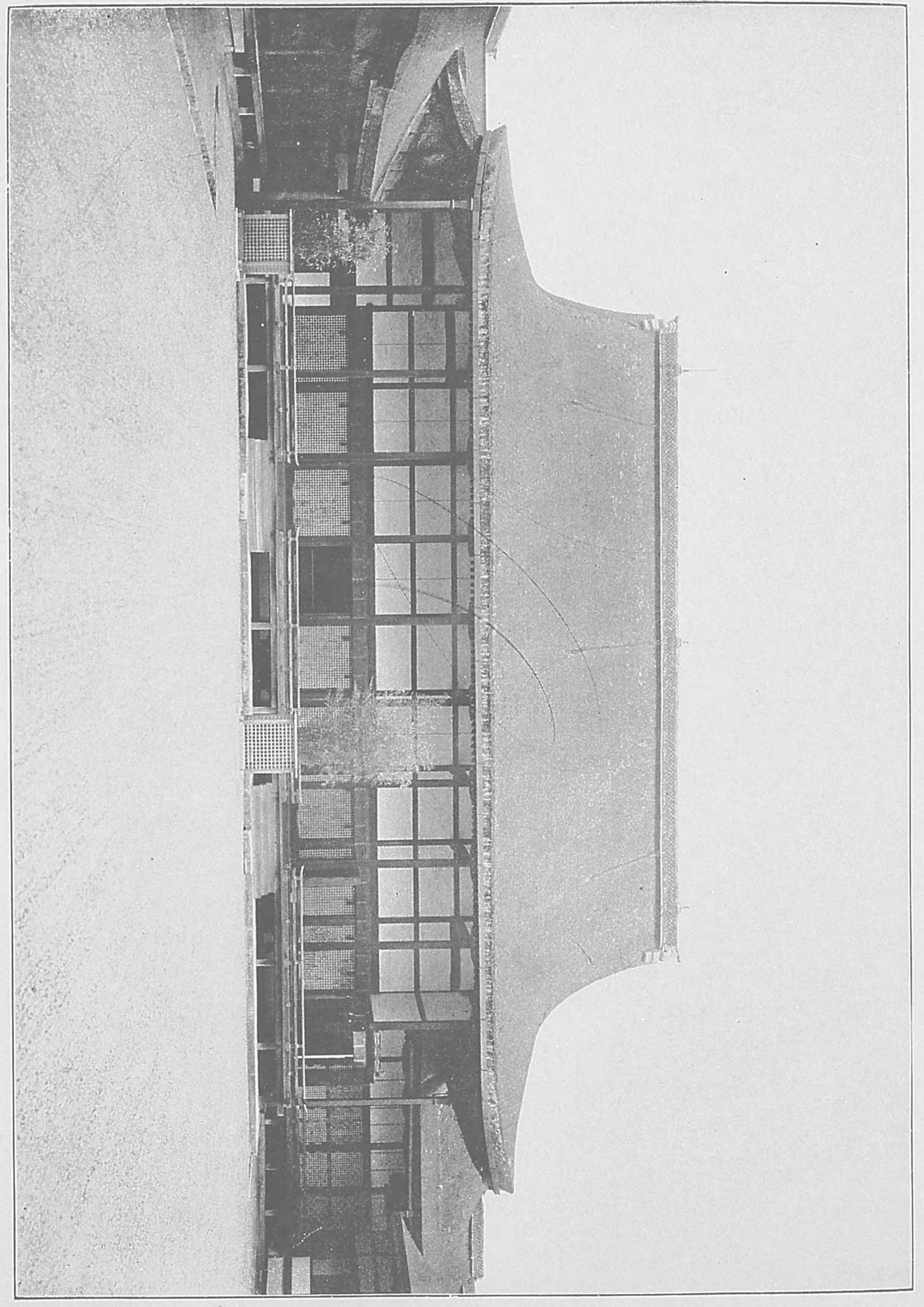
天皇の御即位あらせられし御殿なり

### 五 紫宸殿



紫宸殿の西北に在りて東面す晝御座、校御殿、石灰壇、朝餉間、臺盤所、  
荒海障子などあり、寛政御造營より舊式に復せらる殿前に吳竹、漢  
竹の臺あり

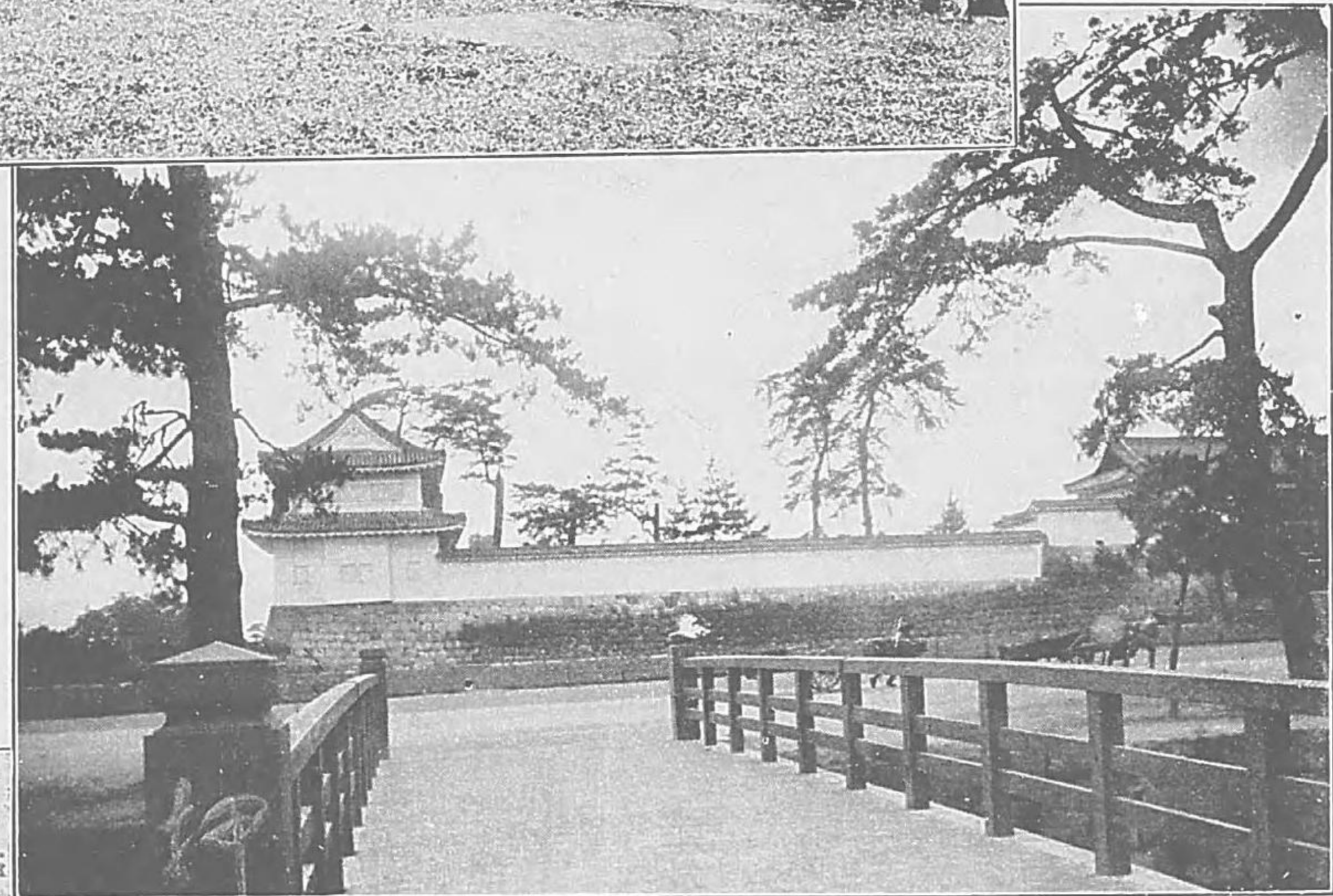
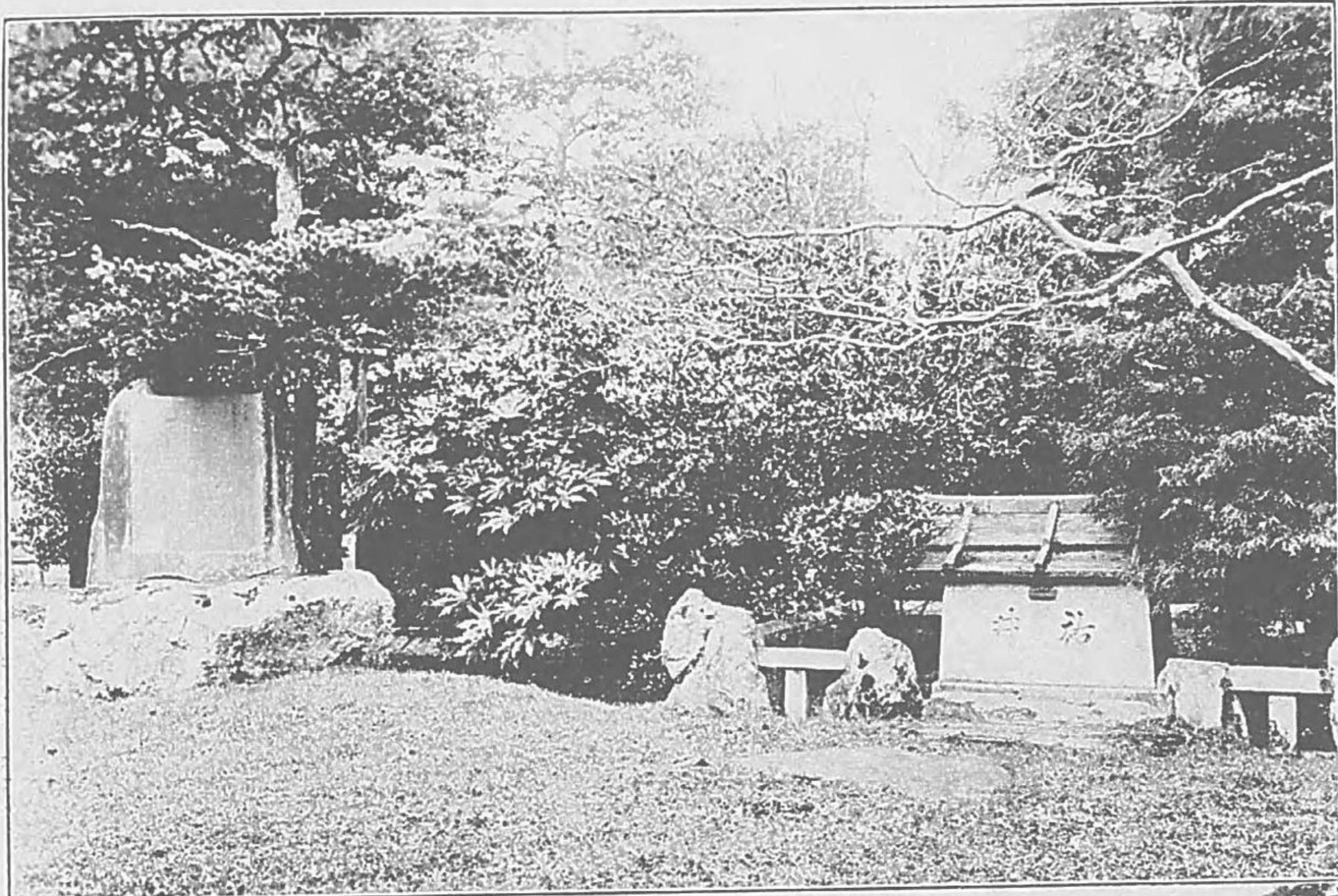
### 六 清涼殿



後水尾太上天皇の御時徳川幕府より造進せしものにして其  
後稍沿革あり宮殿は嘉永七年焼失し未だ再建に至らず林泉  
は舊時の構造にして老樹天に參し大池碧を湛へ飛瀑玉を濺  
き長橋虹を架し實に幽邃清雅なる禁苑なり

七 仙洞御所御庭園





### 八 祐の井

御所の東北なる御苑内に在り、舊時は中山家の邸なり嘉永五年九月廿二日(太陽曆十一月三日)至尊此にて御降誕あらせ給へり今其區域を畫し亭舎を築き御産湯の井を祐の井と稱せらる至尊の宮號に因み奉れるなり碑を井側に立て其御由緒を記し奉る

### 九 二條離宮

初め慶長五年徳川家康、關ヶ原の戦に勝ち天下の大勢を握るや京都に其居館無かりしを以て新たに地を相して築造せしもの之れなり其構造と地域とにより之を二條城といふ家康、秀忠、家光等上洛の日即ち此に居る、寛永三年後水尾天皇東福門院と此に行幸あり文久年間將軍慶喜、旆を此に駐む明治元年大政復古の後大政官代となり其後京都府廳となり陸軍省に附し宮内省に屬し終に昇せて離宮となし大に修理を加へ更に本丸に桂宮の建物を移し壯觀舊に復し二條離宮と稱す本殿の構造裝飾は徳川の初代に全力を注ぎしものにて當時の美術工藝を盡したり

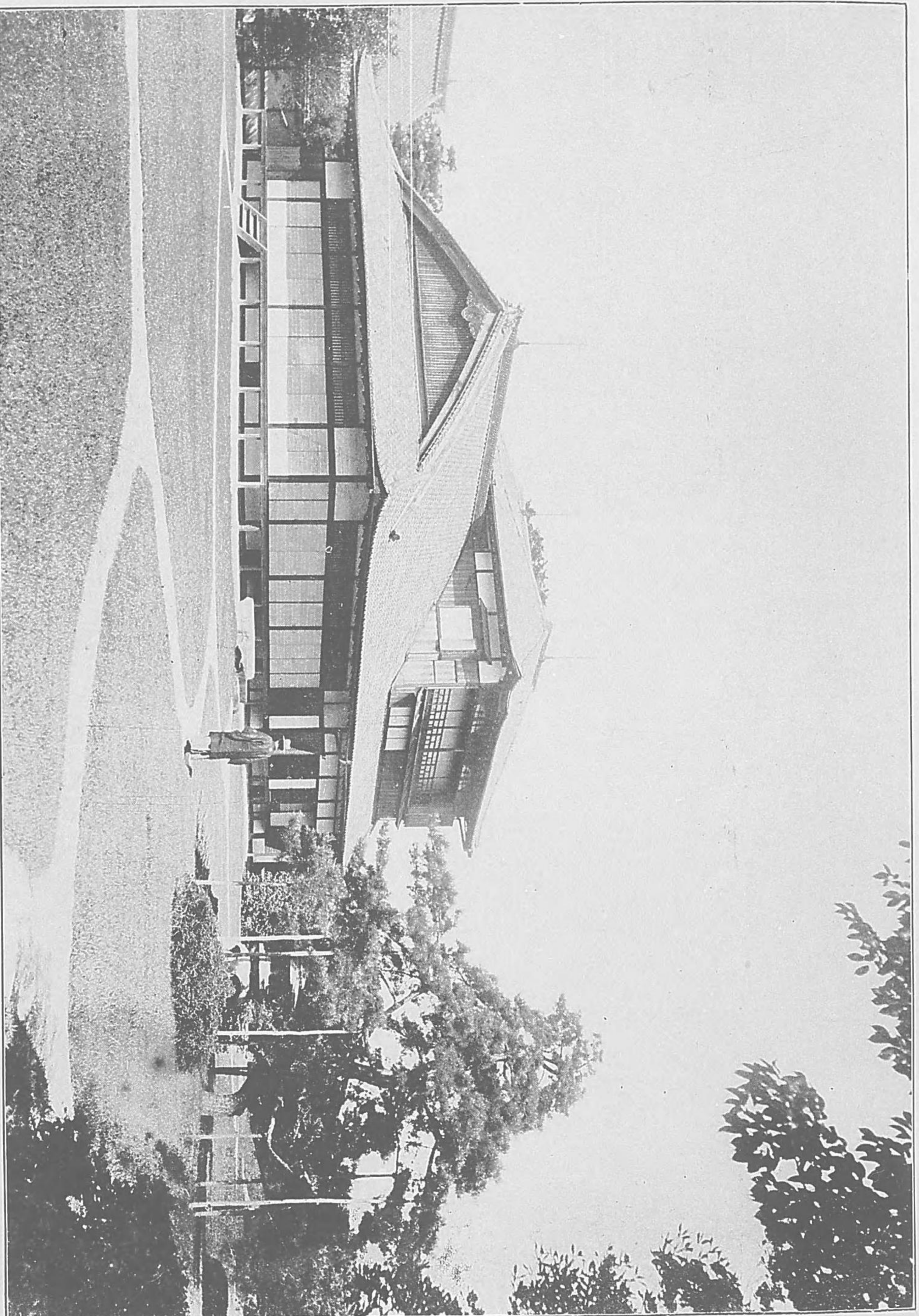
### 一〇 二條離宮御車寄

二條離宮の御車寄にて離宮の正面にありて南面せり

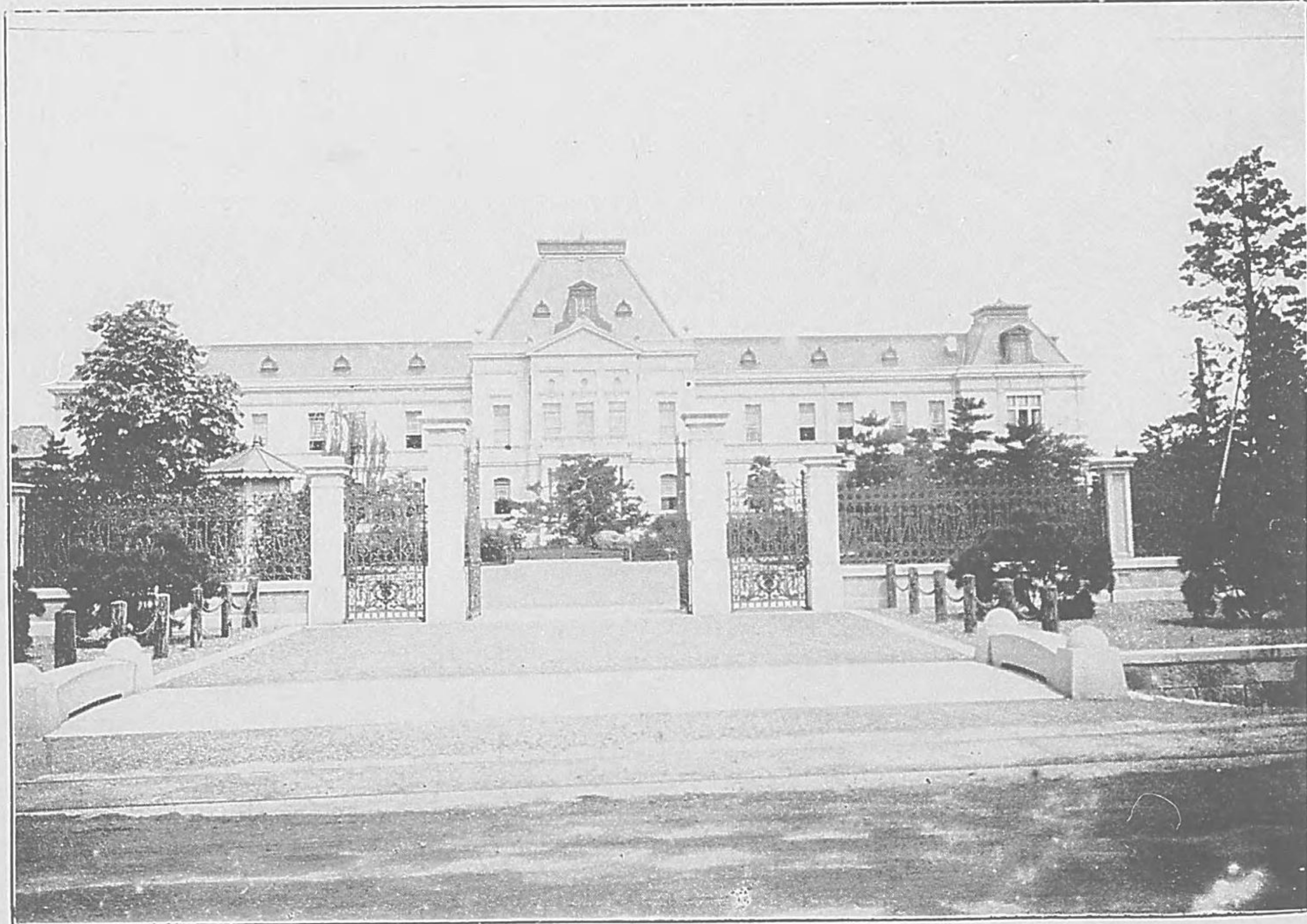
一一 二條離宮御庭

二條離宮の林泉にて御殿の西南にあり 奇岩珍石

古樹清泉あり 幽邃清雅の景に富あり





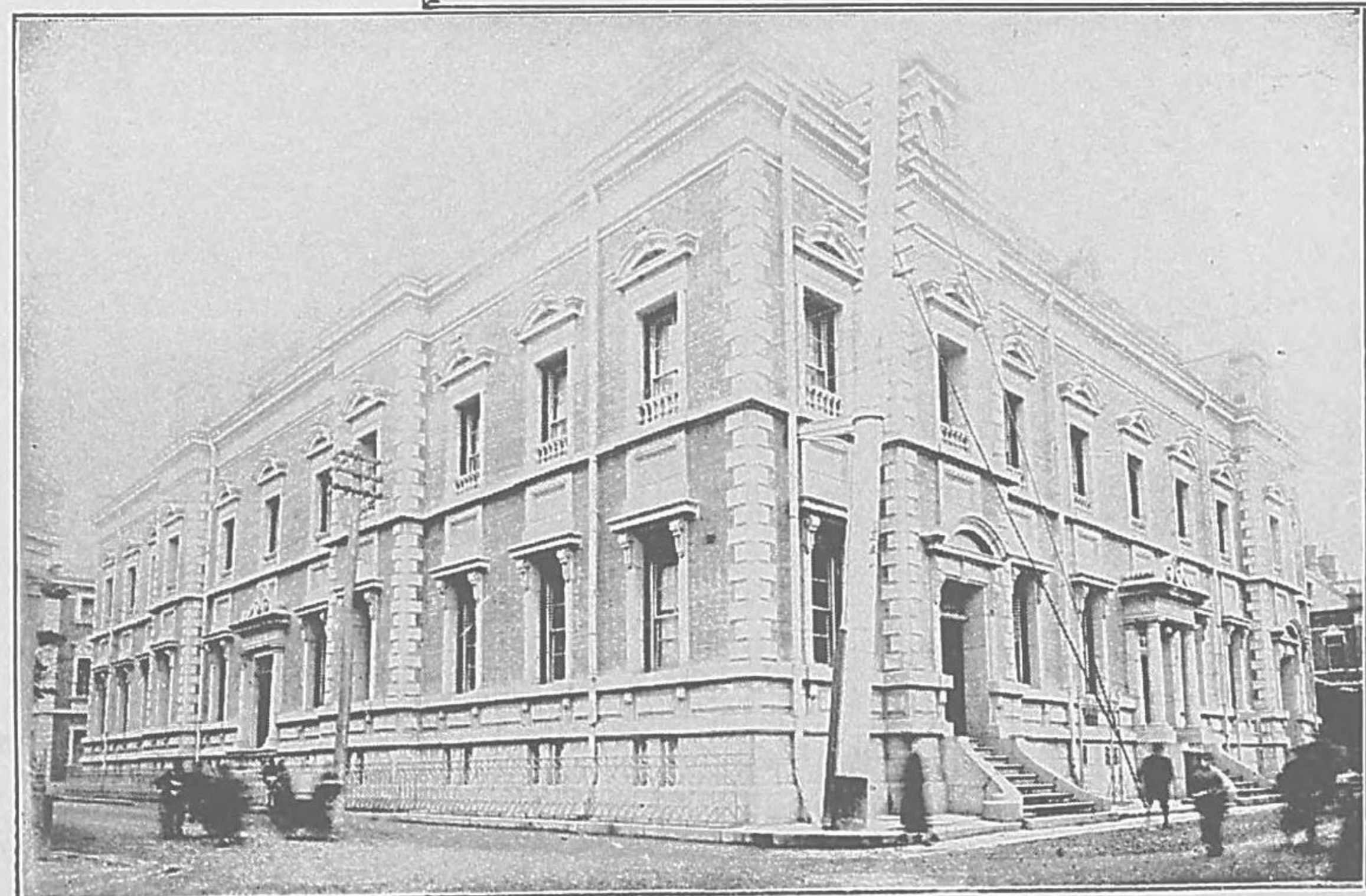
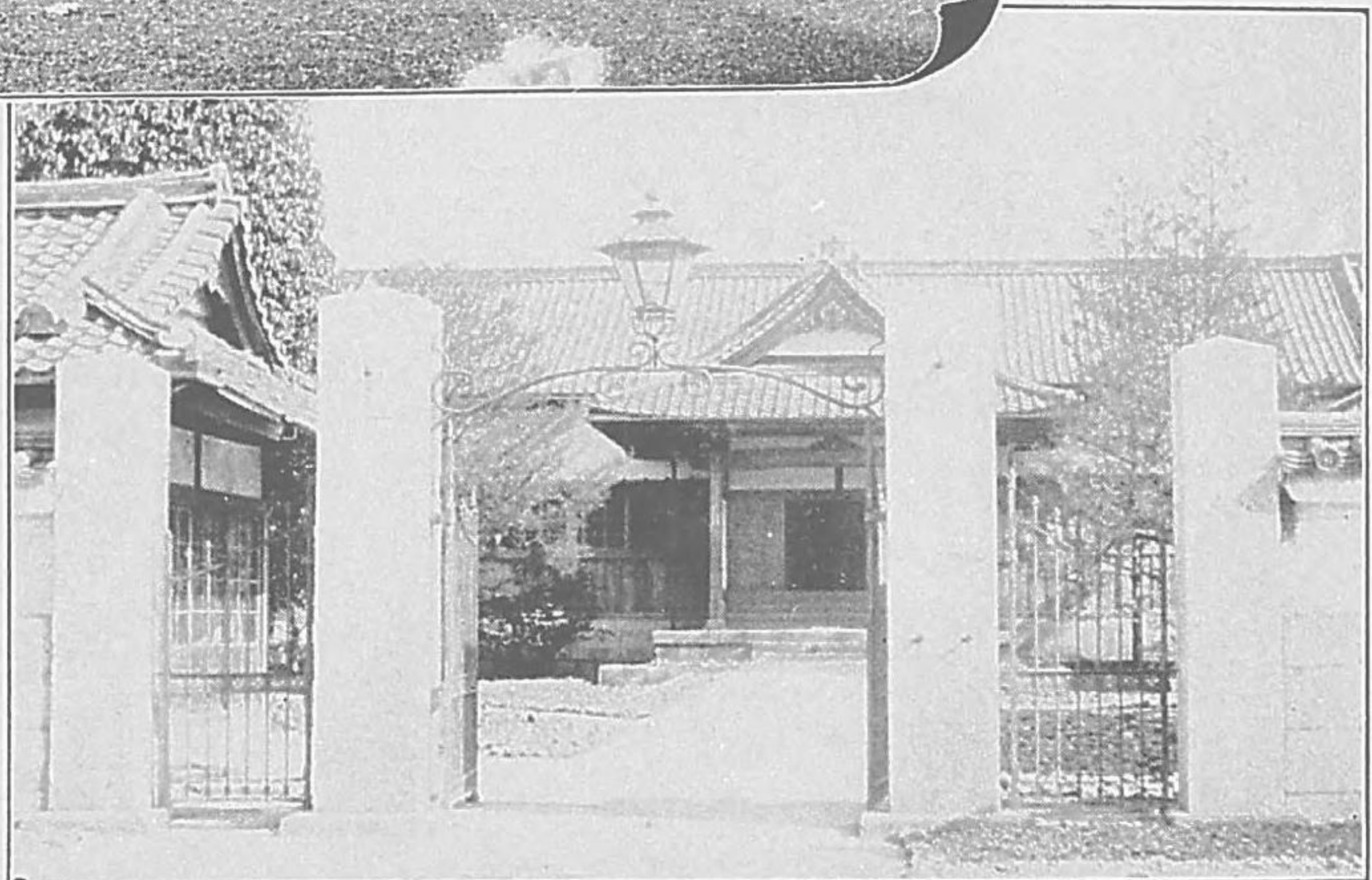


### 一二 京都帝室博物館

下京區七條通大和大路の上る茶町に在り、明治二十五年六月工を起し同二十八年十月竣工す。建築面積九百十二坪餘、間口四十一間、奥行三十五間餘、經費總額十六萬餘圓なり。

### 一三 京都府廳

本廳舎は明治三十四年度より三十七年度に至る繼續事業として經營し、三十七年十二月竣工せり。建築面積八百五十三坪、室數階上三十階、下三十三を有し、工費總額三十六萬六千二百餘圓を要したり。山城、丹波、丹後の三國を管す。



#### 一四 京都市役所

市役所は市議事堂と聯合せる建物にして明治二十八年四月の建築に係る敷地三千百六十餘坪を占め市の中央に位す上京、下京の兩區を管し中に町數千六百九十一を包み四十年末に於て現住戸數七萬七千九百七十三人口數四十萬八千四百十人を有せり

#### 一五 京都地方裁

##### 判所

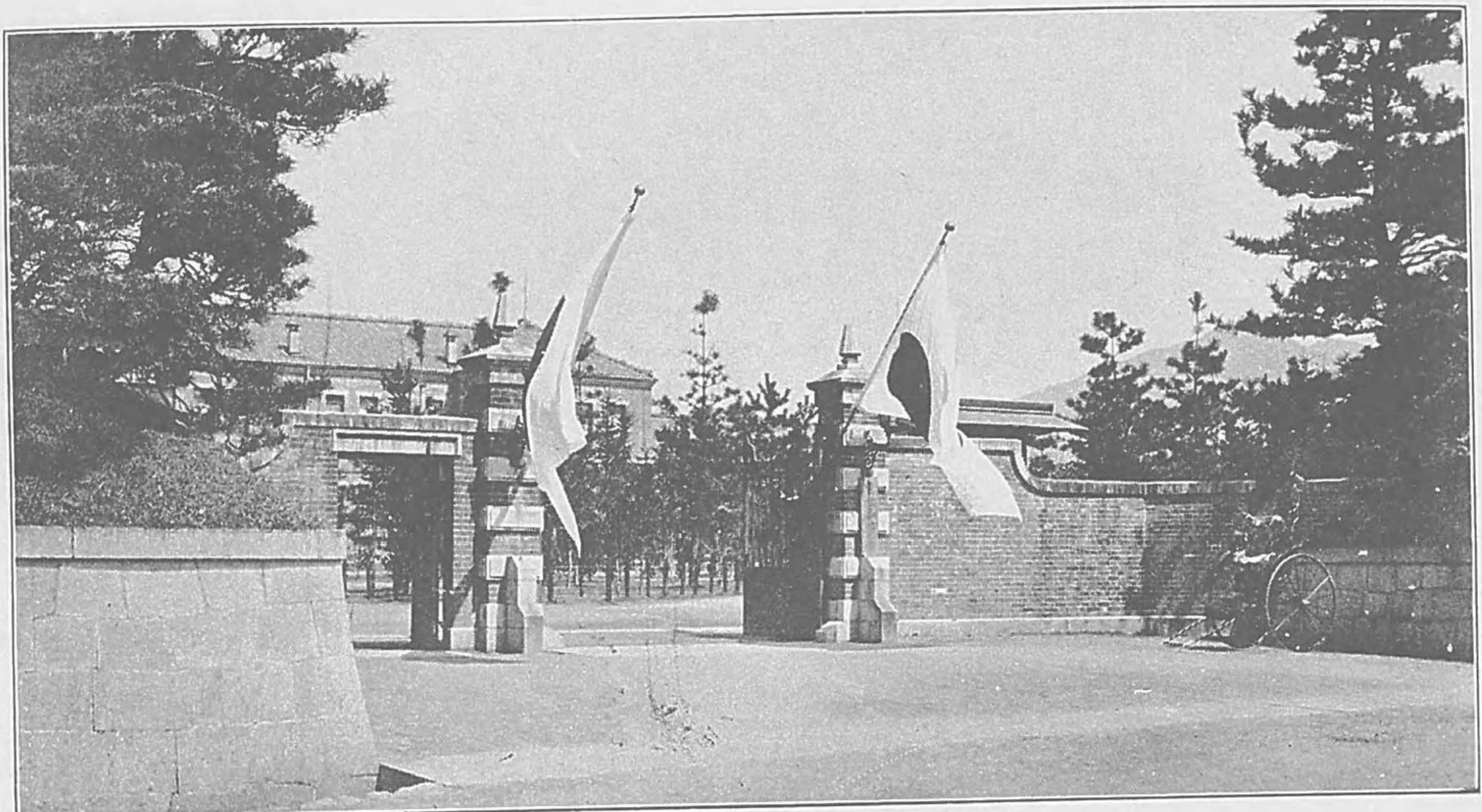
上京區榎屋町に在り支部を與謝郡宮津町(丹後)に置く其構内に京都區裁判所あり

#### 一六 京都郵便局

下京區三條通東洞院東へ入菱屋町に在り京都府及滋賀縣に於ける通信事務を管理せり

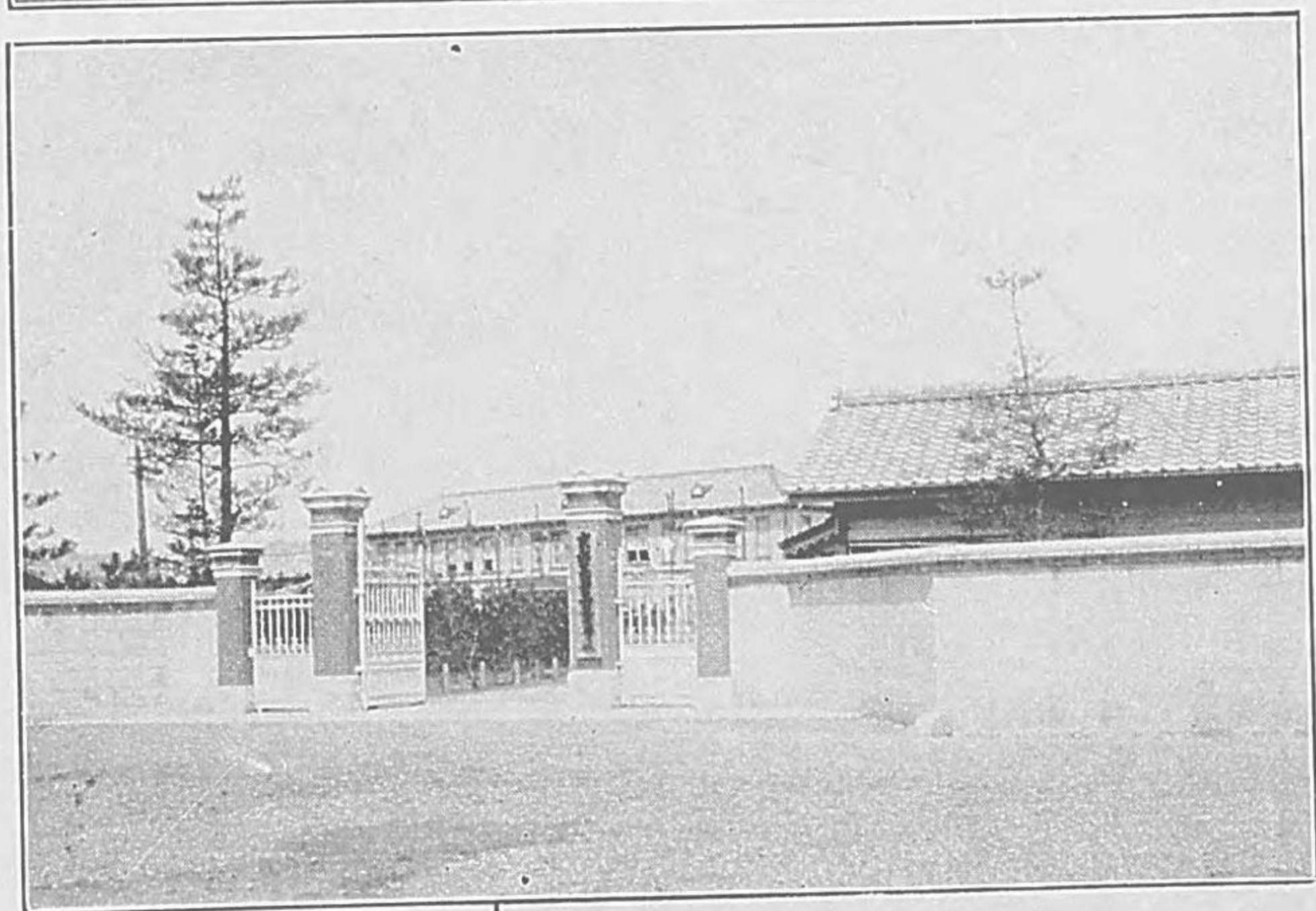
### 一七 京都帝國大學

上京區吉田町に在り、明治三十年の創立にして面積十一萬九千九百四坪、建坪一萬四千九百九十九坪を有す。大學院及び分科大學を以て構成し、分科を法科、醫科、文科、理工科の四大學に分つ。明治三十六年、皇后陛下明治三十三年、皇太子殿下行啓の榮を賜はる。開校以來の卒業生千四百十六名なり。



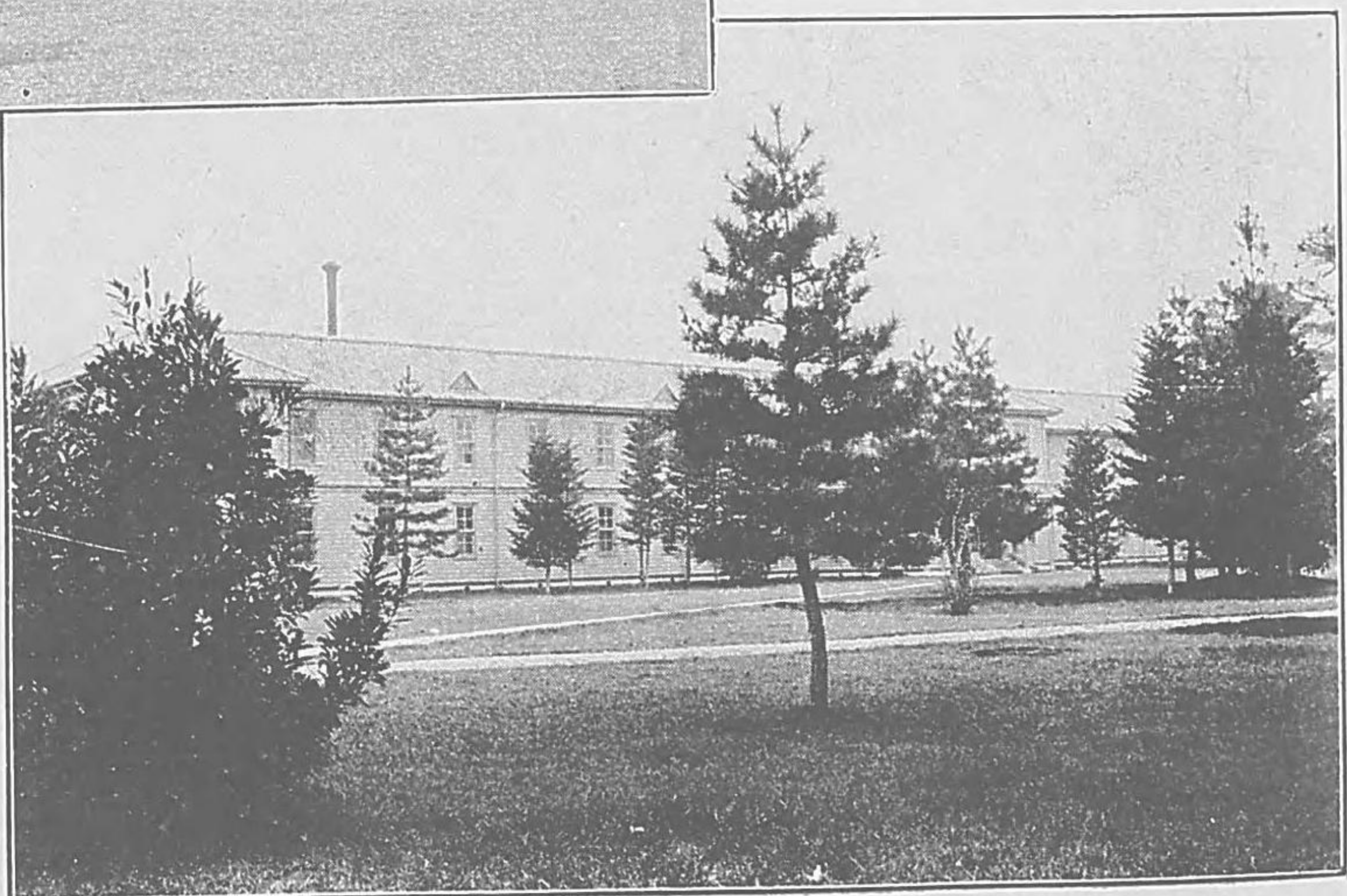
### 一八 京都高等工藝學校

上京區吉田町に在り、明治三十五年の創立にして面積一萬七千七百九十坪を有せり。教科は色染、機械、圖案の三科にして、在學生徒二百三十六名、開校以來の卒業生百九十二名なり。



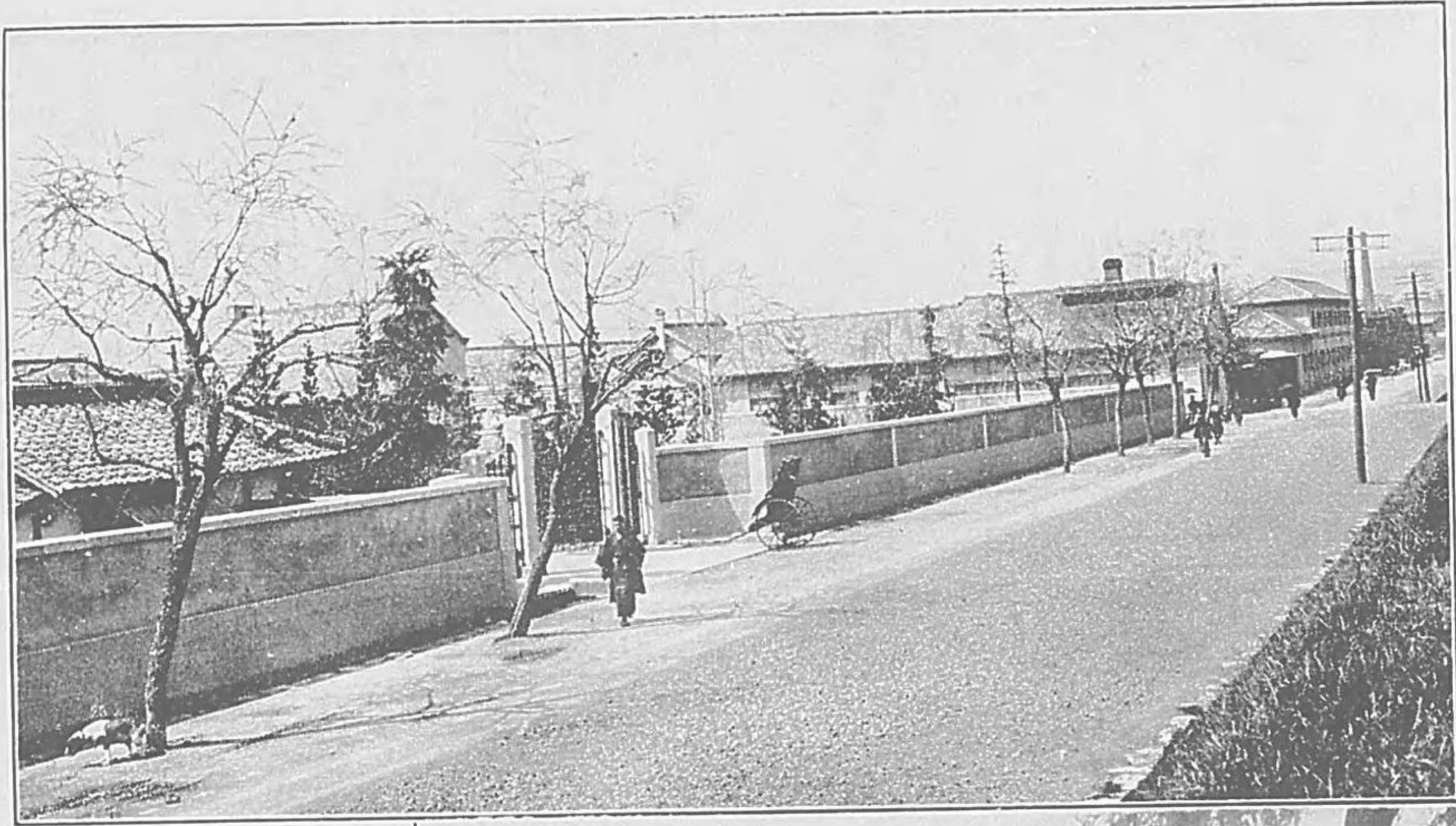
### 一九 第三高等學校

上京區吉田町に在り、明治二年大阪に創立せしものにして、初め舍密局又は洋學校と稱し、後に幾多の變遷を経て明治十九年第三高等學校と改稱し、文部省の直轄となり、明治二十二年府下吉田村に移り、二十七年高等學校令の實施に依りて、又現校名に改め、三十年其地所校舎は、即ち京都帝國大學の用に供し、本校は即ち今の地に移築す。面積一萬八千八百二十二坪、建坪二千八百八十坪餘を有す。教科は大學豫科にして、修業年限三年なり。現在生徒六百八十名、開校以來卒業生千七百五十七名なり。



一一〇 府立第一中學  
校

上京區吉田町に在り、明治三年舊京都所司代邸舎を改造して校舎となし、京都府中學と稱せしを以て創始とす、其後位置、組織等幾多の變遷を経て明治三十年中今の地に移築す、面積一萬四千四百五十七坪、創設以來、聖上陛下臨御の榮を賜ひしこと三回、其卒業生千二百五十四名の多きに達せり



一一一 府立第一高等女學校

上京區寺町通荒神口下る松蔭町にあり、明治五年四月今の府立第二高等女學校所在地に於て始めて業を開き、新英學校及女紅場と稱せり、是れ本校の起原にして、亦本邦女學校の嚆矢なり、後幾多の變革を経て、明治三十三年今の地に移築す、面積四千六百十坪、建坪二千九百九十五坪を有せり、創設以來、聖上皇后兩陛下並に諸親王殿下の御臨校を辱ふし、且金品を下賜せられし事數回に及へり、在學生徒七百七十三名にして、其卒業生は各科通計二千五百三十三名の多きに達せり



一一二 府立第二高等女學校

上京區土手町通丸太町下る駒の町にあり、今の府立第一高等女學校の舊校地校舎を襲用し、明治三十七年開校せり、在學生徒五百八十九名にして、開校以來の卒業生百六十一名なり



二二三 府立醫學療病院

河原町廣小路に在り明治五年の頃栗田口、青蓮院内に假治療所を設置せしに創まり、其後種種變革發達して明治十一年今の地に移り全く獨立の療病院となり傍ら醫學生を教授すへき醫學校を起し明治三十六年更に醫學專門學校と改稱し本院は其附屬となれり爾來幾多の改善を加へ學術研究上及授業上必須の設備の外院内には内科、外科、小兒科、眼科、神經及精神科、産科、婦人科、耳鼻喉科、皮膚科の八部及調劑部、庶務部を置き診察の事を分掌せり、病室は普通室百十五人、精神病室六十人、傳染病室二十五人、用室、施療室五十人を收容するの設備を有し常に患者滿院せり外來患者は一日概ね三百人乃至四百五十人にして往診療を謝絶するの止むを得ざる時あり

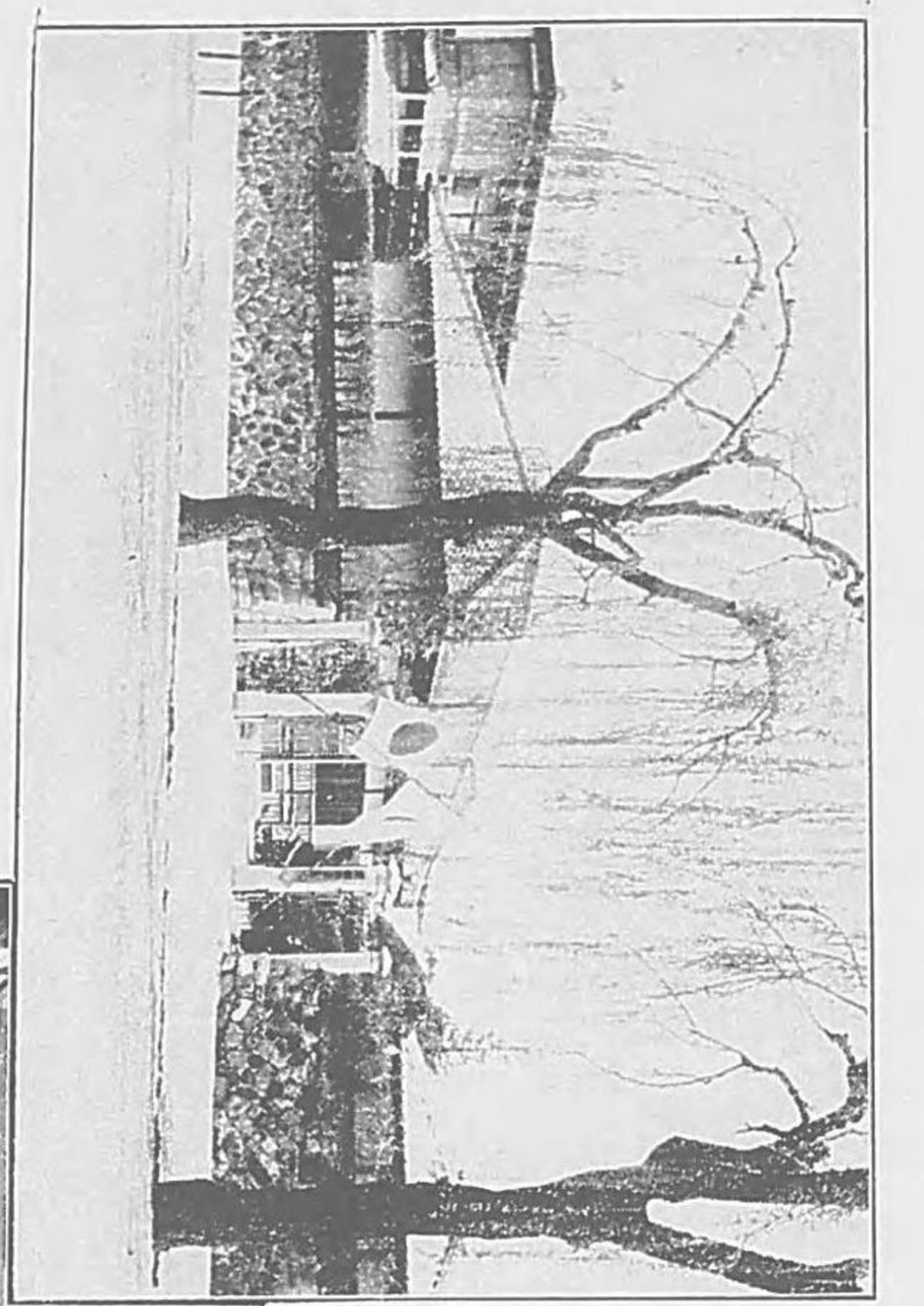
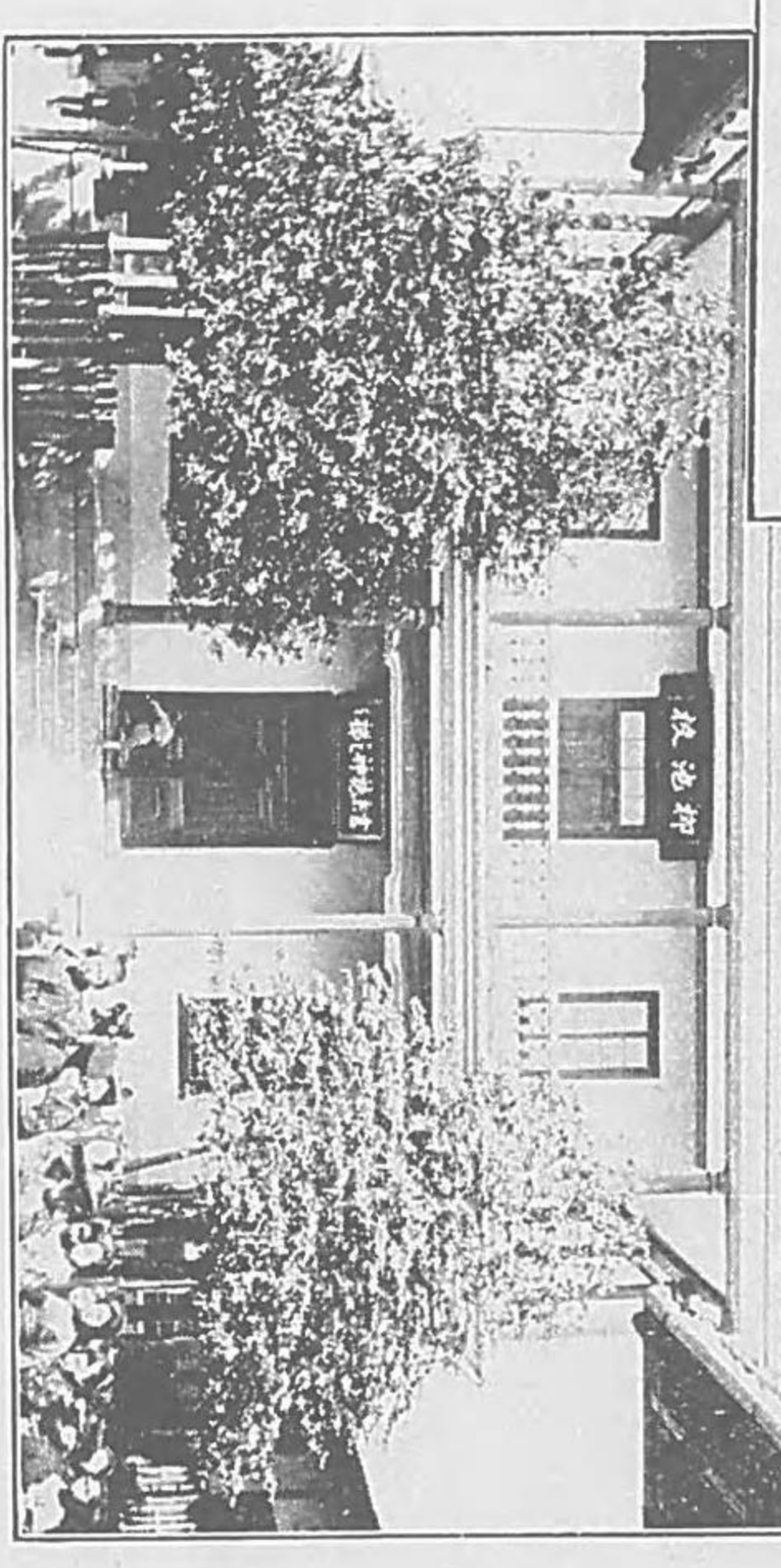
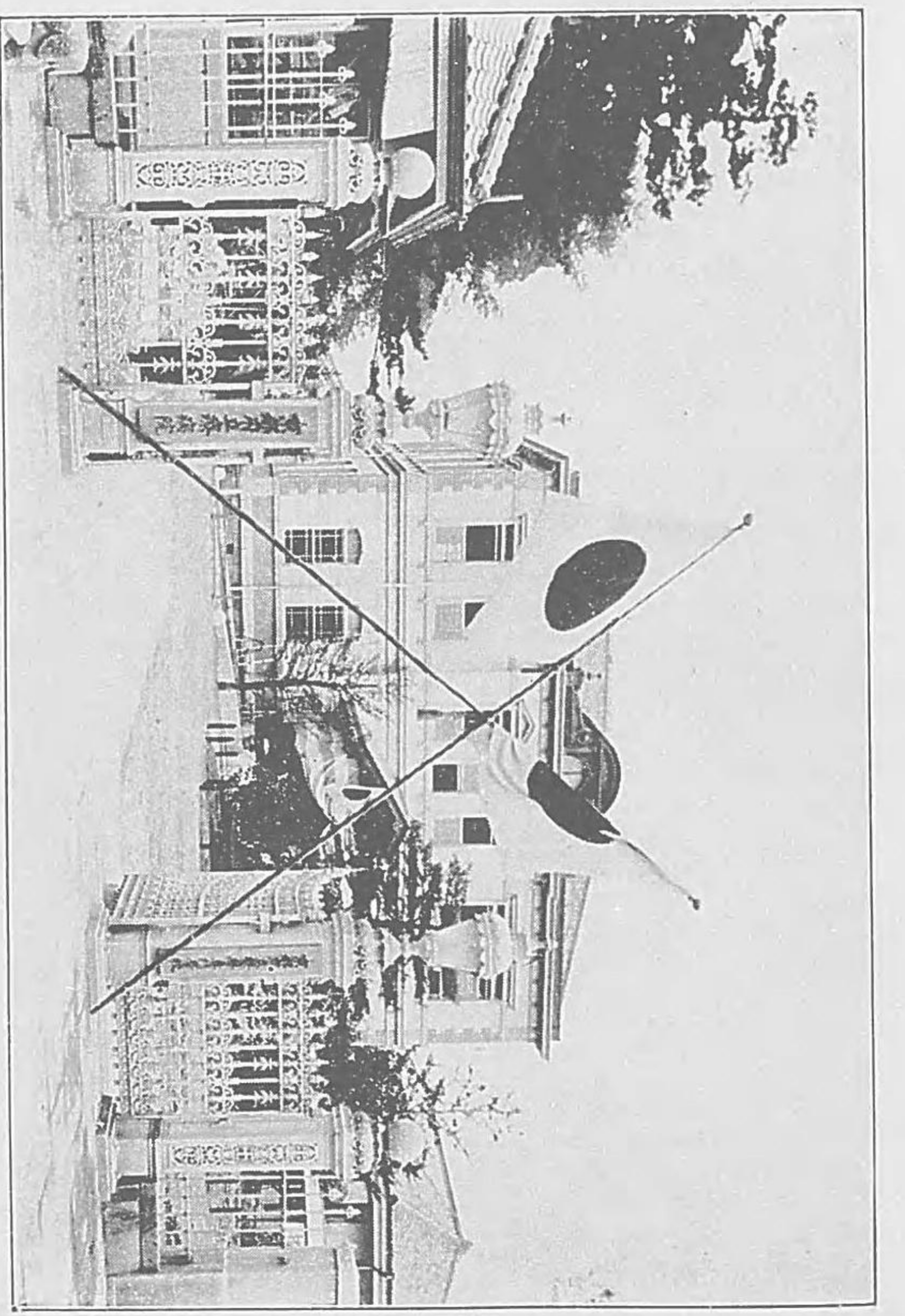
校院敷地は一萬坪餘建物三千五百九十餘坪を有し今増築中に係るもの八百餘坪にして自家用電燈、電氣應用、配熱、給水等の設備完成せり、又校院共に本府特別經濟にして一箇年收入十七萬圓餘支出二箇年十五萬圓餘なり

二二四 市立盲啞院

上京區釜座通榎木町南にあり明治八年の頃故古川太四郎等の特色を以て數名の盲啞生を教育せしに起り原し明治十一年府の統轄に歸す是れ本院の設立にして實に本邦盲啞院の嚆矢なり翌年校舎を現位置に移築し明治二十二年京都市の所屬に歸せり 聖上 皇后兩陛下並に諸親王殿下の御臨校を辱ふし且金品を下賜せられたる事數回に及び現在校生徒二百五十八名にして其卒業生は三百四十八名なり

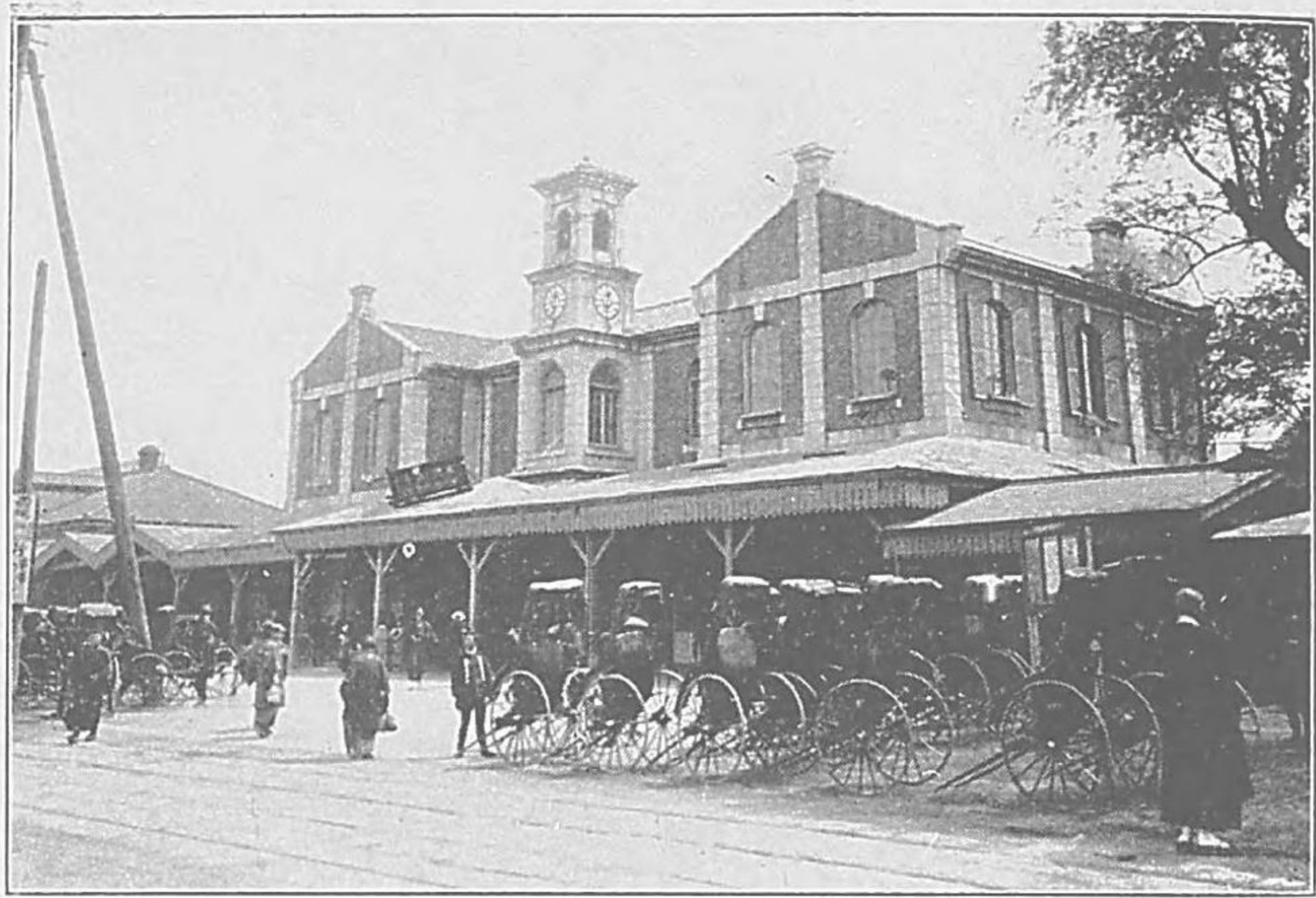
二二五 市立柳池尋常小學校

上京區御池柳馬場に在り、明治元年九月小學校設置の議未だ起らるに先ち中年寄熊谷直孝唱し自費又は有志の賤金を以て種痘館有信堂を建て學舎を開くに始まり、同二年富小路御池片山町に新築し其年五月開校式を行ふ是れ京都小學校の嚆矢にして實に本邦小學校の權輿なり、同六年今の地に移築す今も尙ほ市内屈指の小學校たり又女紅場幼稚保育科を設置せるも本校を以て創始とす



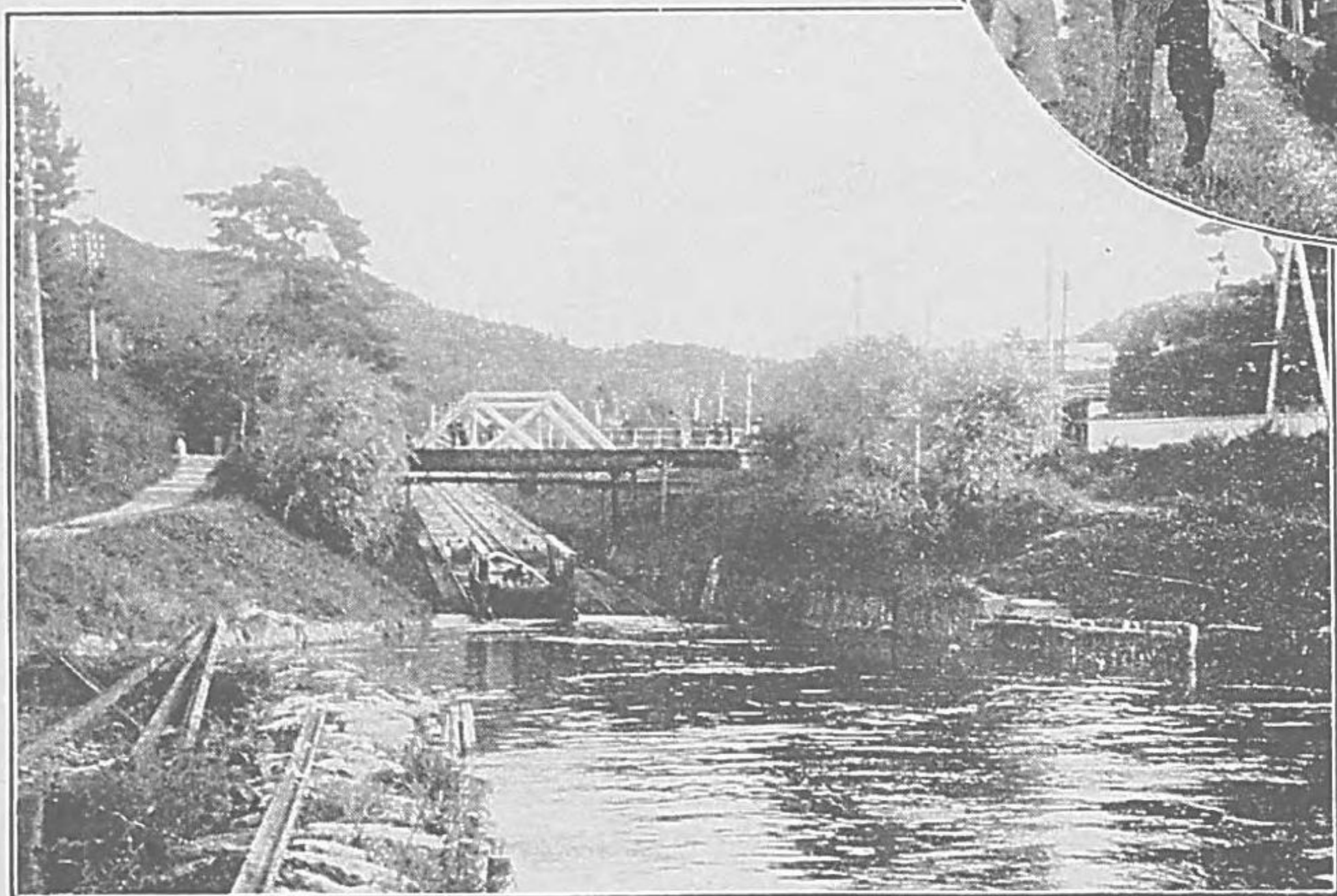
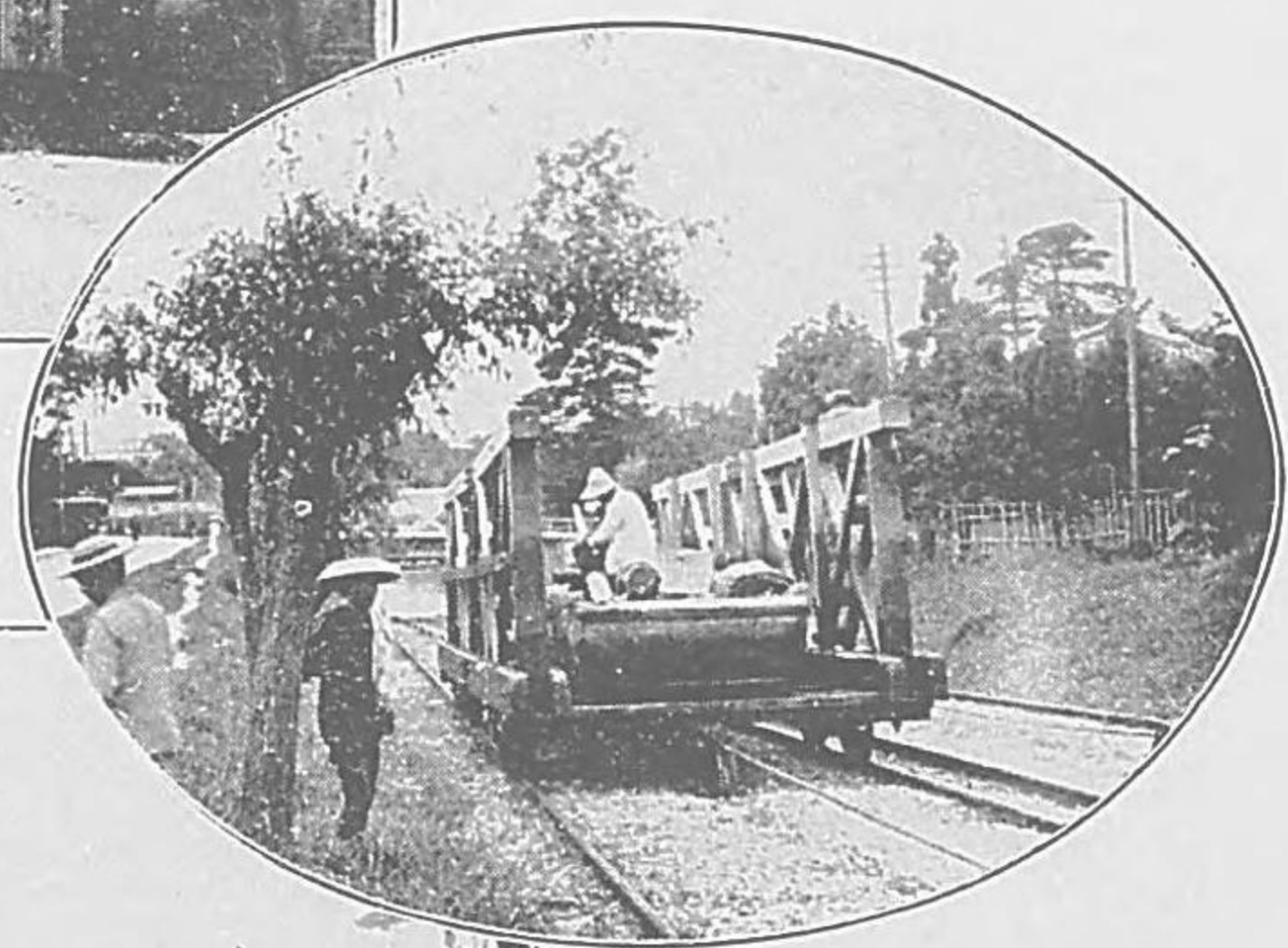
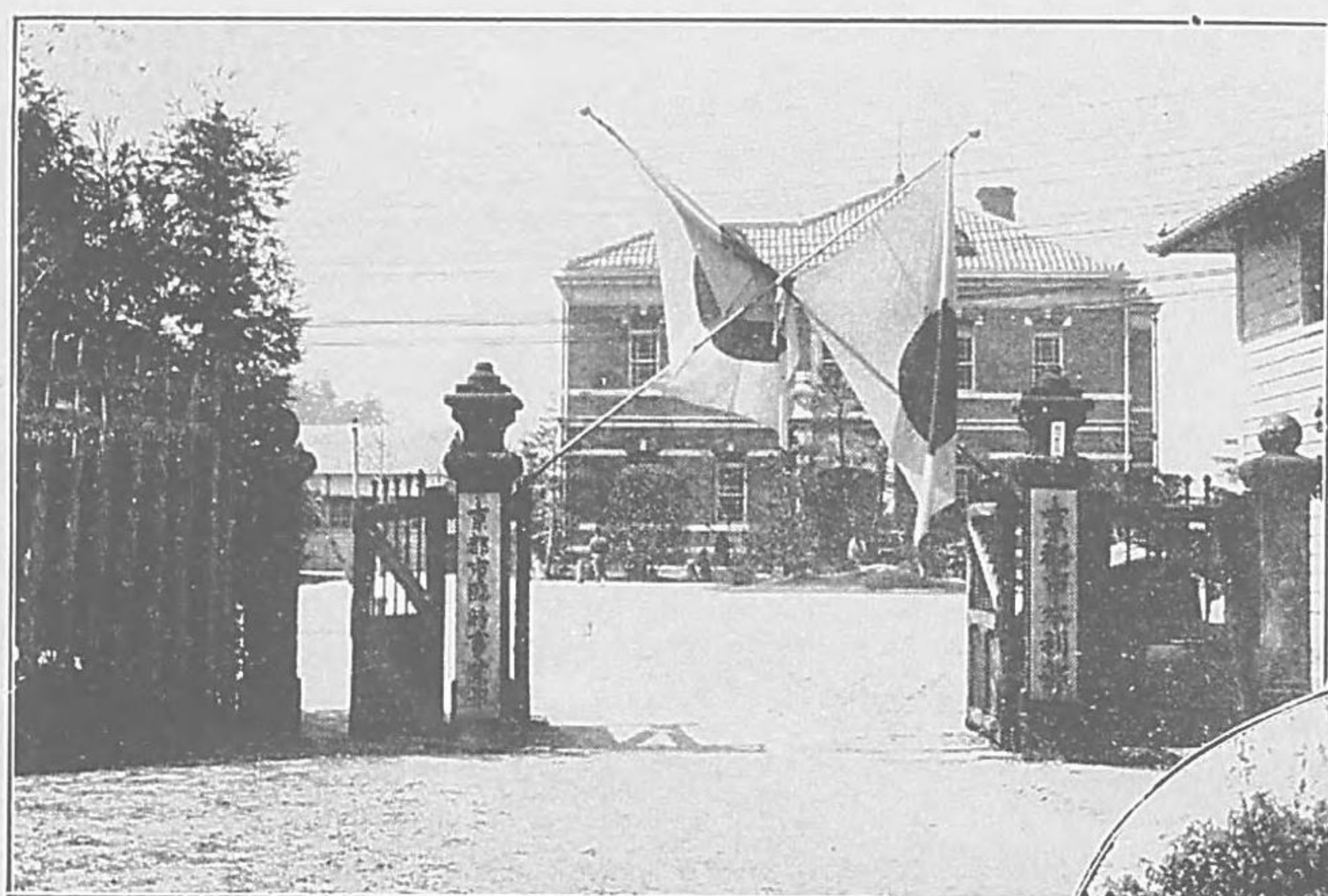
二六 京都停車場

下京區烏丸通七條下る東鹽小路町に在り、明治九年九月京都大阪間鐵道開通に際し創立され車駕親臨、盛なる開通式典を擧げさせ給へり最近一箇年の乗降客は三百三十萬二千二百四十二人に達せり



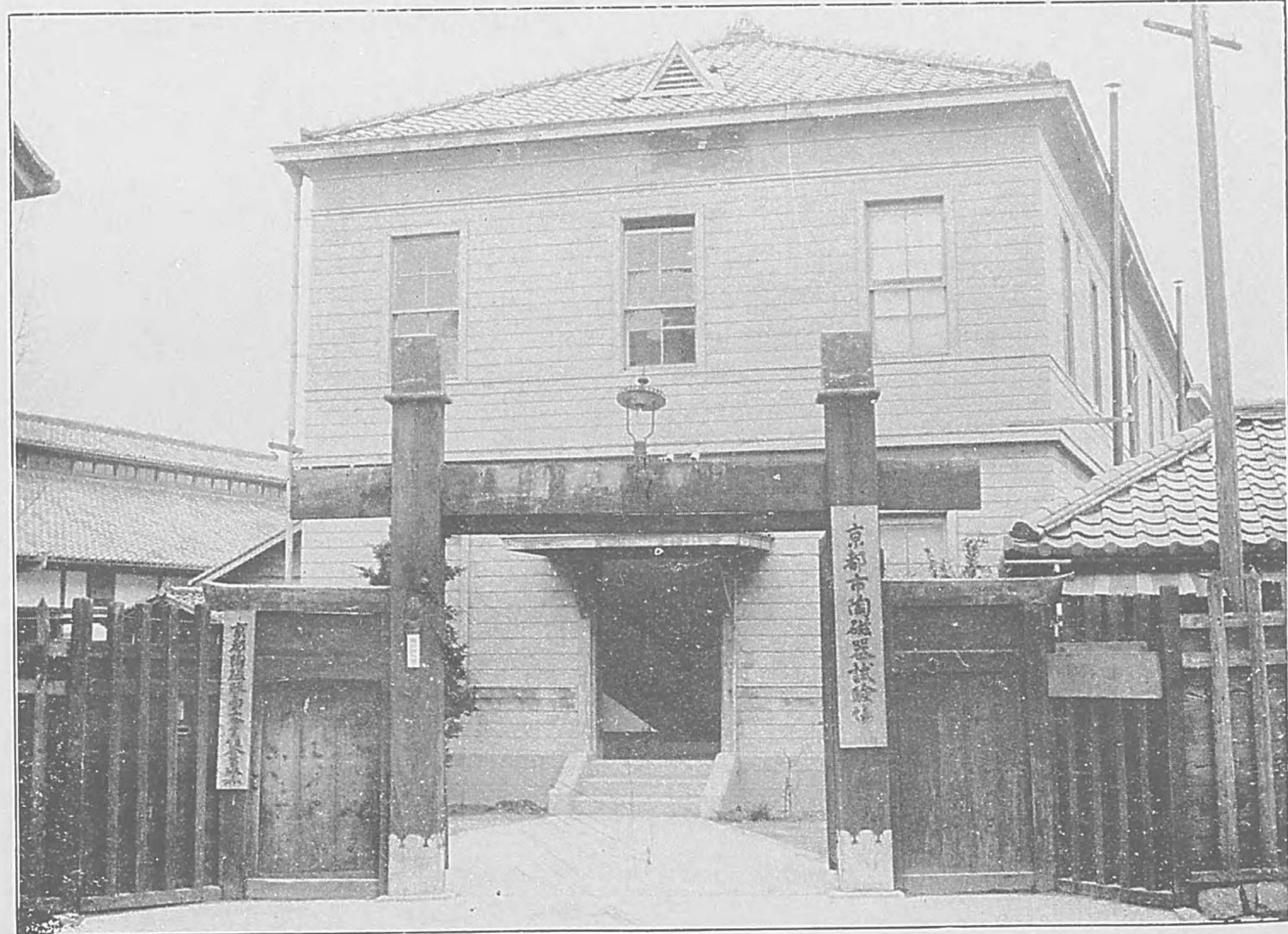
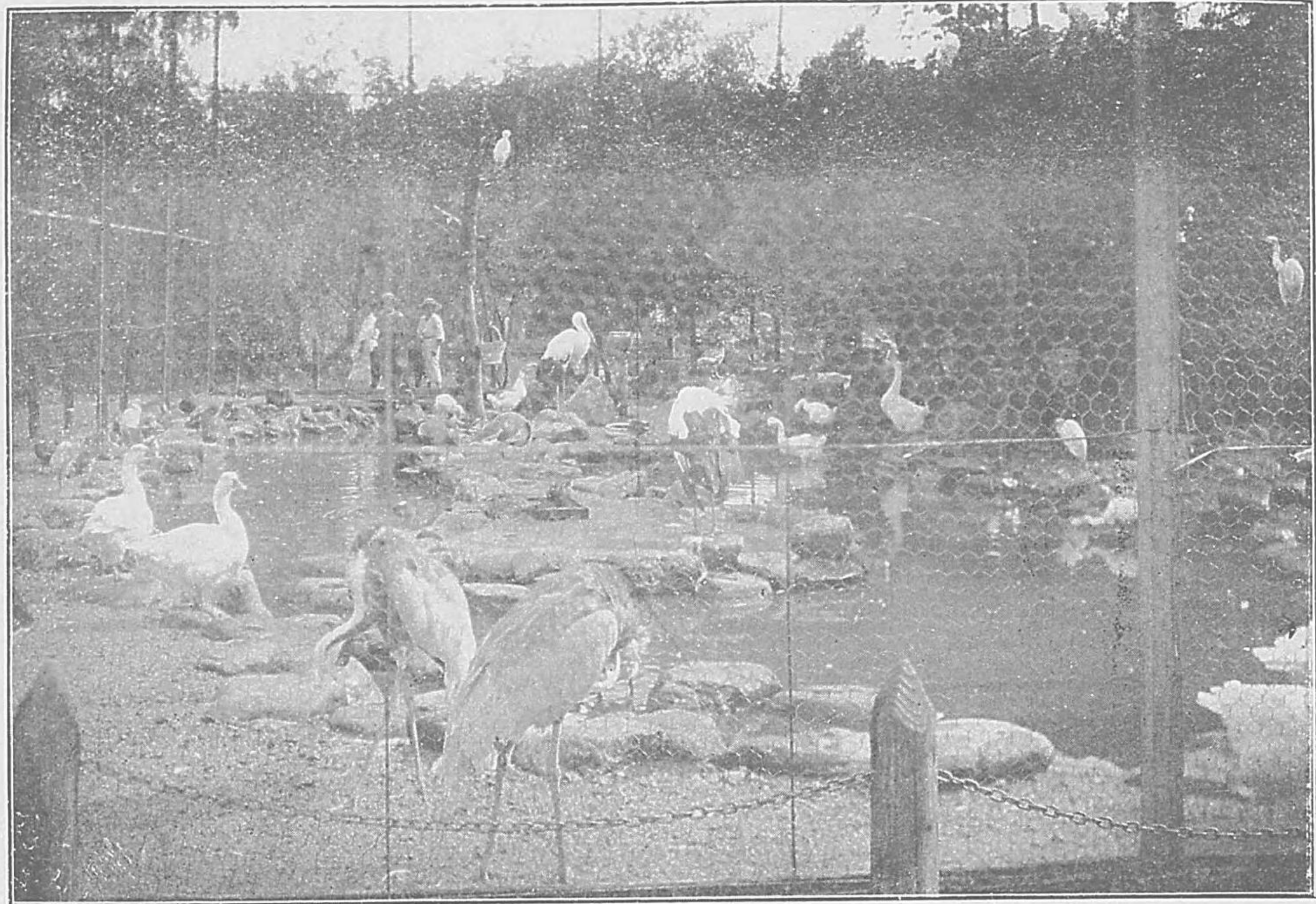
二七 京都市水利部

上京區粟田口町にあり、京都市の經營に係り琵琶湖疏水の電力、水力、運輸其他の事務を處理する所とす琵琶湖疏水は明治二十三年に竣功式を擧げ、天皇皇后兩陛下の御親臨を辱ふせり其水力は京都市及其附近の工事に供給するの外、火防灌漑等の用に供せられ水力電氣は二十四年に開始し爾來日に隆盛に趣き今や第二疏水事業に著手せらる本水路の延長一萬五千六百餘間總工費は百四十萬七百餘圓を要したり



二八 インクライン

琵琶湖疏水は湖畔三保ヶ崎に起り長等山の下に墜道を穿ち山科の山腹に沿ひ再び日岡山の下に墜道を穿ち京都市蹴上に到る蹴上に至りては其水位甚た高く百十八尺落の差あり此インクラインは十五分の一の傾斜面上に軌隔八尺二寸五分長千八百二十尺の複線軌道を敷設し舟の上下凡そ十二分間を要す此の如きインクラインは世界に於ける最長のものに屬す



### 二一九 市立記念動物園

上京區岡崎町に在り、明治三十三年 皇太子殿下御慶事奉祝記念として設立し、越て明治三十六年開園す同年十月 皇太子殿下行啓の榮を賜ひ御手つから松樹を植させ給ふ園内に小丘を作り清池を穿ち噴水を設け花卉を雜栽し其間に内外數百の珍禽奇獸を飼養せり又宮内省よりは屢、珍奇の動物を下賜せられ觀覽者常に多し

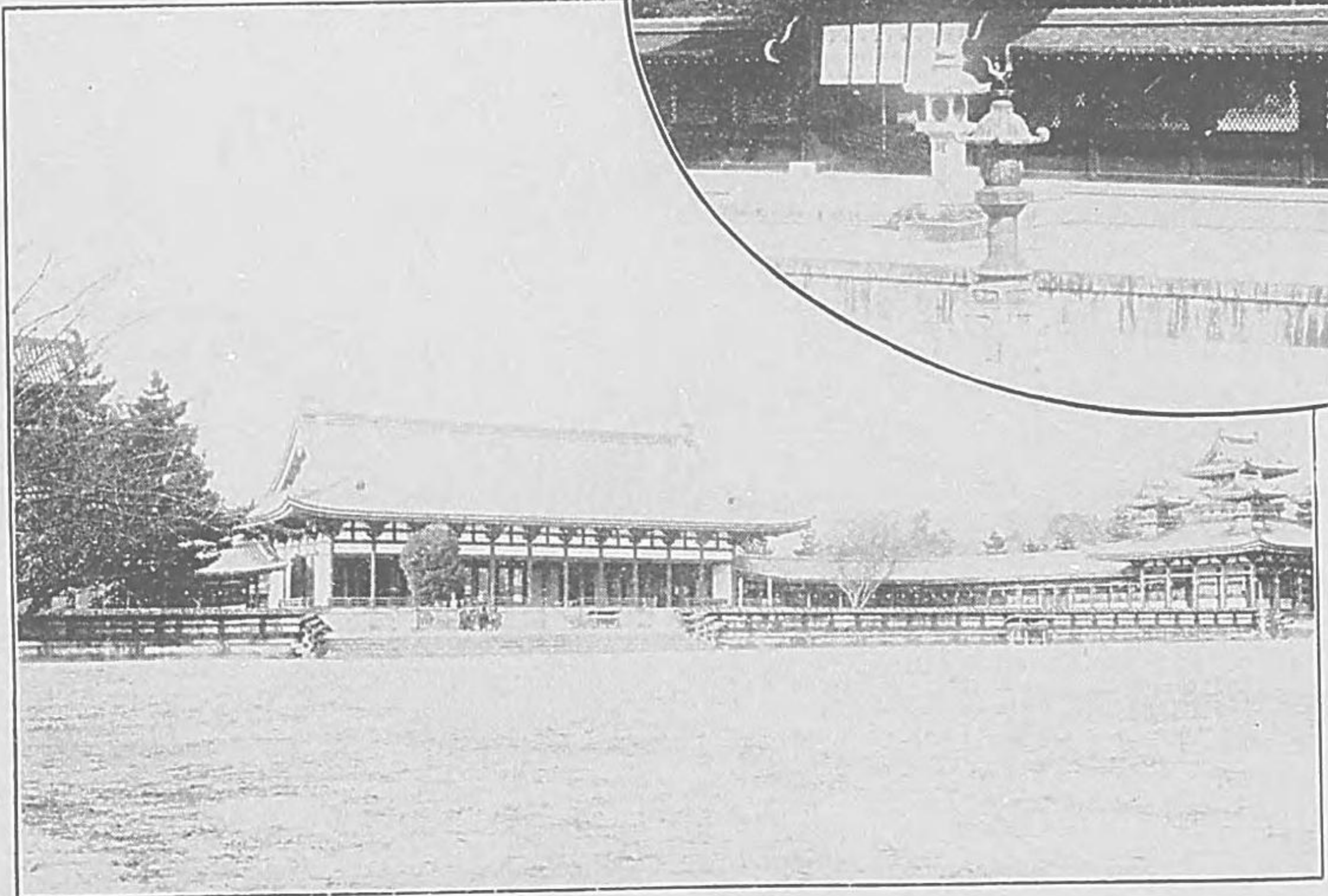
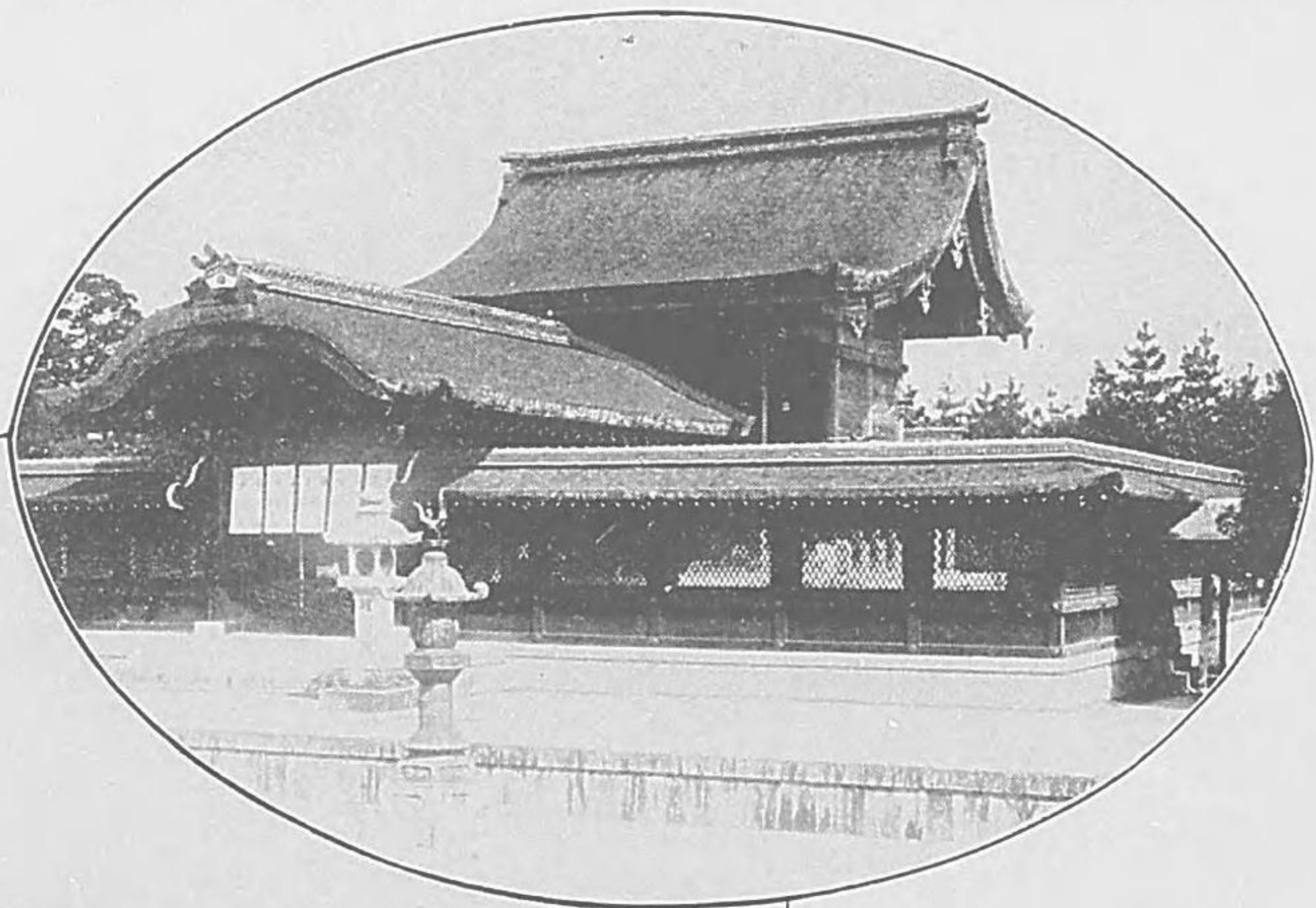
### 二三〇 市立陶磁器試験場

下京區廣道五條下る梅林町に在り、京都陶磁器の改善進歩を圖るを目的とし、明治二十九年八月一日に創立し三十一年一月四日を以て就業を始む爾後數次試験の結果、京都市窯業の上に與へたる裨益は洵に著大なるを見るを得たり



### 三三 赤十字社京都支部

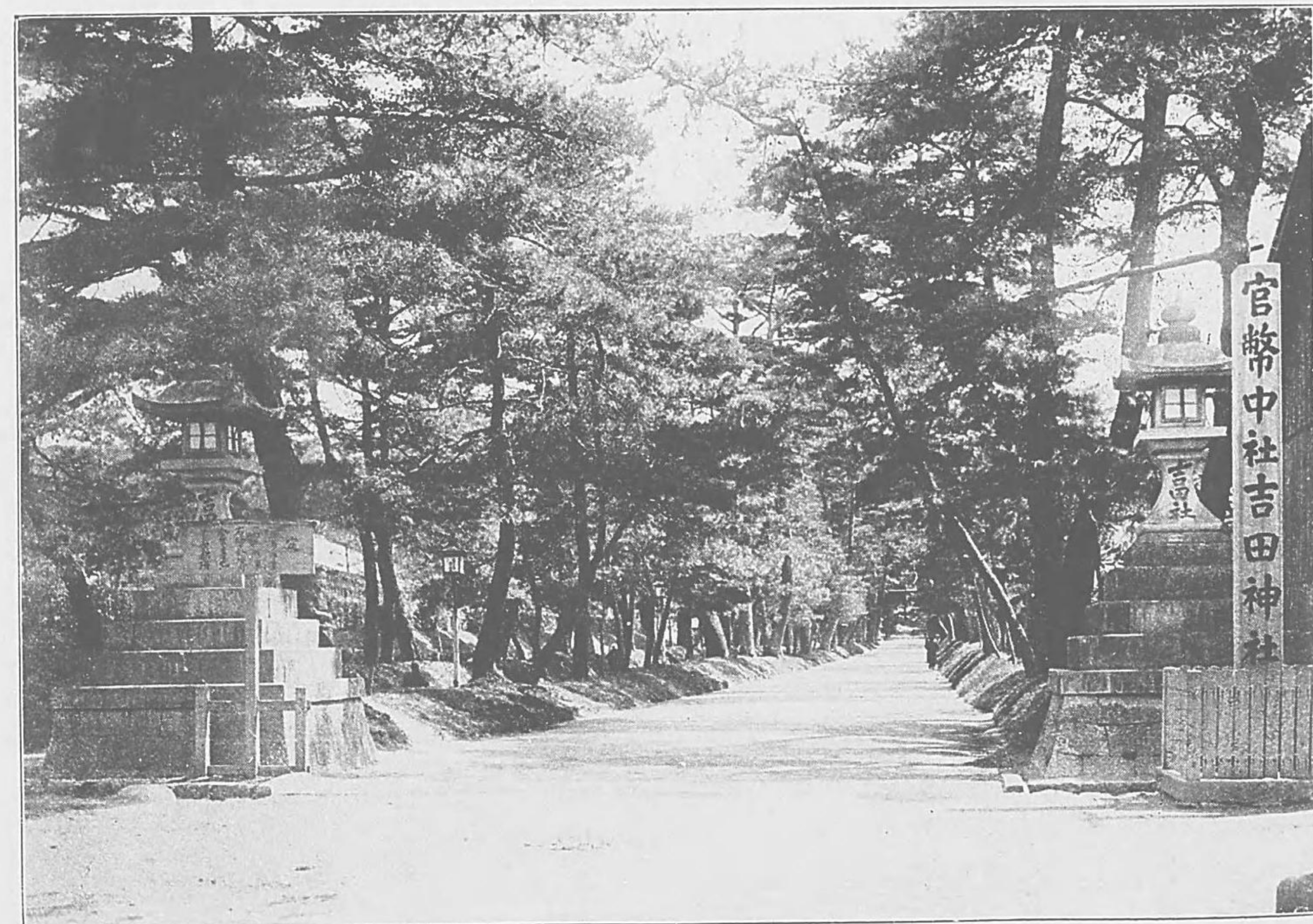
京都府廳舎の東北隅に在り其建物は本府舊廳舎の一部分を譲受け増築改造せしものにして明治三十四年十月に工を起し三十五年十月に竣功す現在社員總數三萬二千三百二十二人に達す



### 三三一 平安神宮及大極殿

上京區岡崎町に在り祭神は桓武天皇に在りまして官幣大社なり初め明治二十八年中の事なりし京都市民等桓武天皇の千歳の前に在りて帝都を此平安に奠め給ひし聖徳を追慕し且つ其鴻業を瞻仰して千百年祭を舉行し此地に於て天皇を奉祭せんことを計り同志を募り官允を得て新に殿舎を築造し天皇の最も叡念を留め給ひし大極殿を模し以て延曆の規模を示さんとし終に此建造を爲する至れり社號を平安神宮と定め官幣大社に列せられ内帑金二萬五千圓を下賜せらるる二十八年十月二十二日大に其式を執行す山階宮晃親王 天皇陛下の御名代として御臨祭あらせられたり神殿は正式に準し其大極殿、歩廊、二樓龍尾壇、應天門は稍、少なるも其式は全く延曆の舊形に依る例祭は四月十五日にして十月二十二日には市中舉りて延曆以來の時代行列をなし其儀最も盛なり



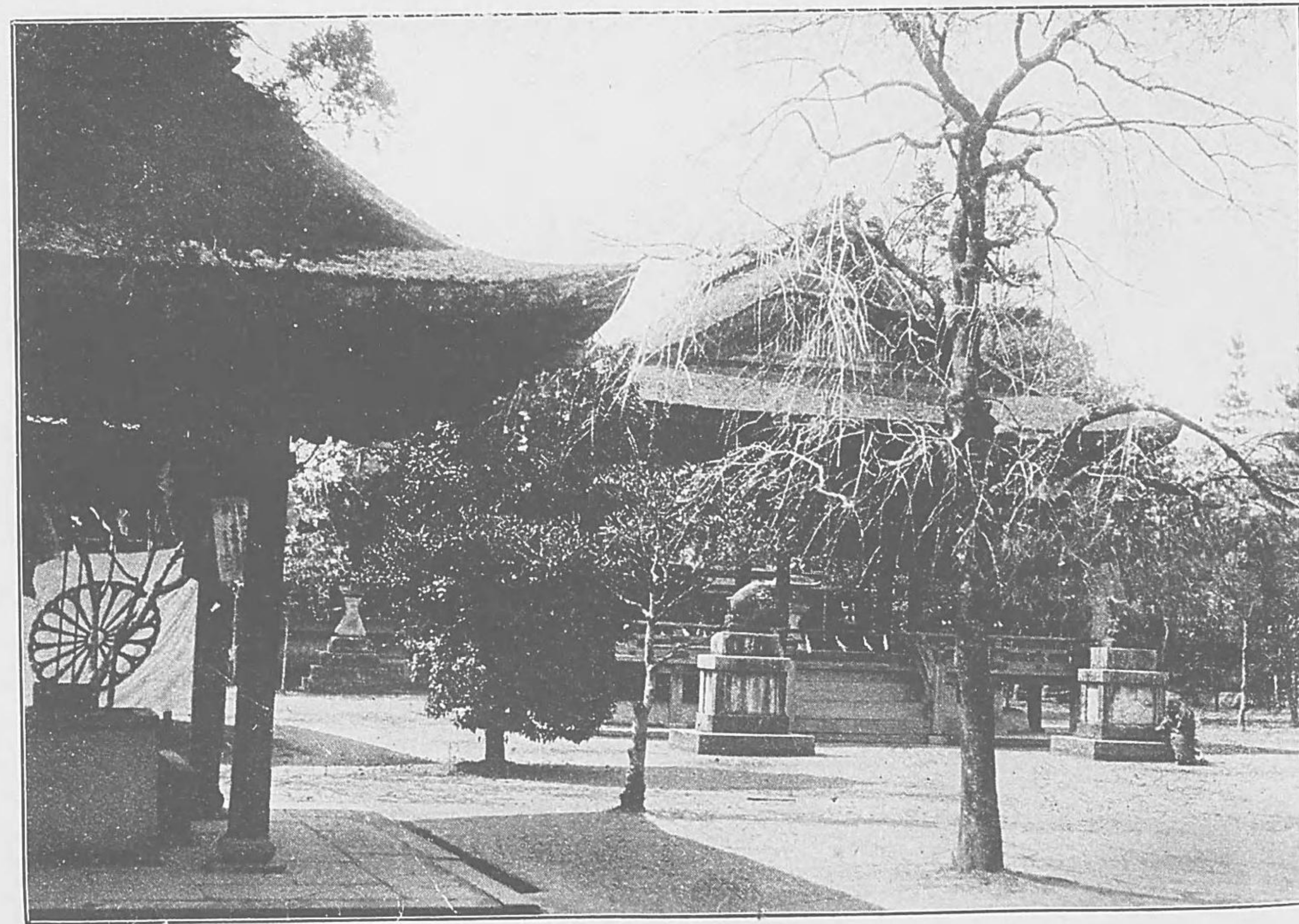
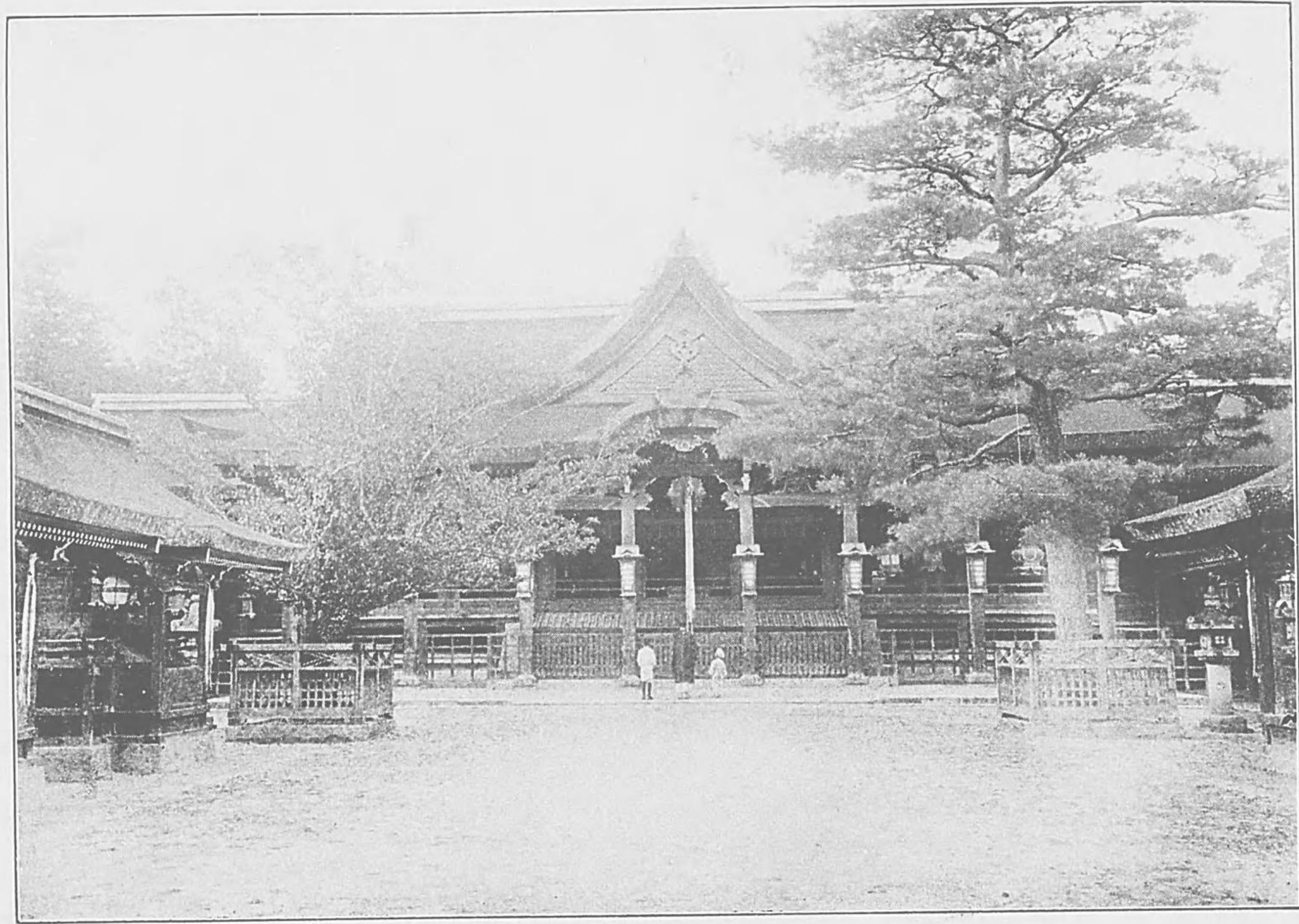


### 三三 八坂神社

下京區祇園町東側に在り官幣中社にして素  
 盞鳴尊を祀り尊の五男三女八柱神及び妃稻  
 田媛命を配す朝野の崇敬厚く十一社に列し  
 其の祭事は最も盛んなり又山鉦の事あり京  
 中第一の盛観と稱す

### 三四 吉田神社

上京區吉田町神樂岡に在り官幣中社なり祭  
 神は健甕賀豆智命伊波比主命天之子八根命  
 比賣大神の四柱にして例祭は四月十八日な  
 り

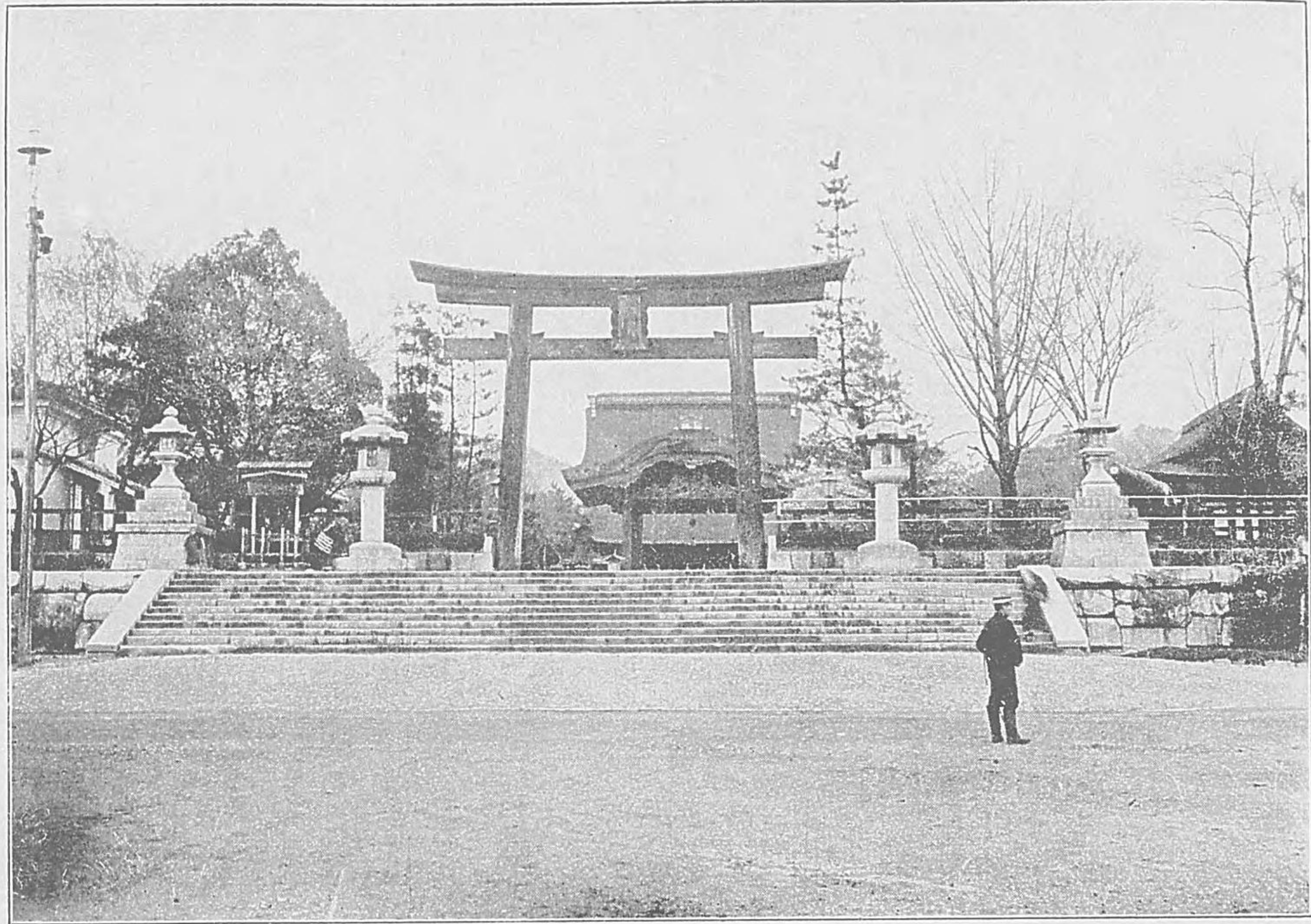


### 三五 北野神社

上京區御前通一條北字北野に在り、官幣中社にして祭神は菅原道真公なり本殿は慶長十二年豊臣氏の造營にして今は特別保護建造物となる例祭は八月四日にして其他私祭多く行はる

### 三六 護王神社

上京區烏丸出水に在り、祭神は和氣清麿公にして和氣廣虫、藤原百川、路豊長を合祀す初め高雄山神護寺に在りしを嘉永四年清麿公に正一位護王大明神の神號を賜ひ明治七年別格官幣社に列し十九年十一月三日今の地に遷せり

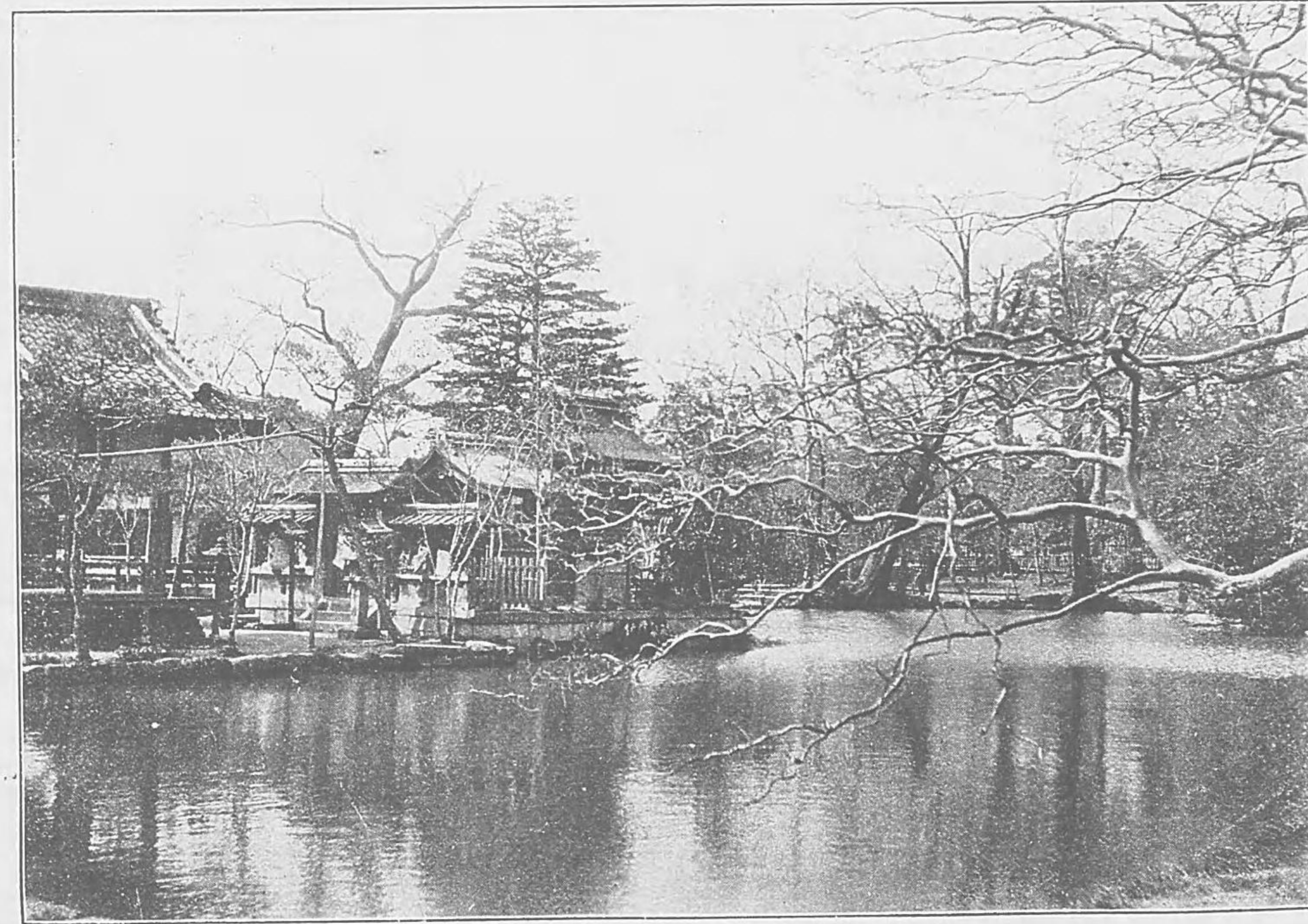


### 三七 豊國神社

建仁寺町通馬町南に在り、豊臣秀吉公を祀る  
 初の慶長四年公に豊國大明神の神號を賜ひ  
 祀廟を阿彌陀峯に建て規模宏壯を極めしも  
 徳川氏の世に至り荒廢に委せしを明治六年  
 八月別格官幣社に列せられ同年十二月神社  
 を造營す其中門は桃山の舊建物にして今は  
 特別保護建造物となる

### 三八 梨木神社

上京區寺町通廣小路西に在り、祭神は贈正一  
 位三條實萬公にして別格官幣社なり明治十  
 八年三保家舊地に就き創立せられたるもの  
 なり

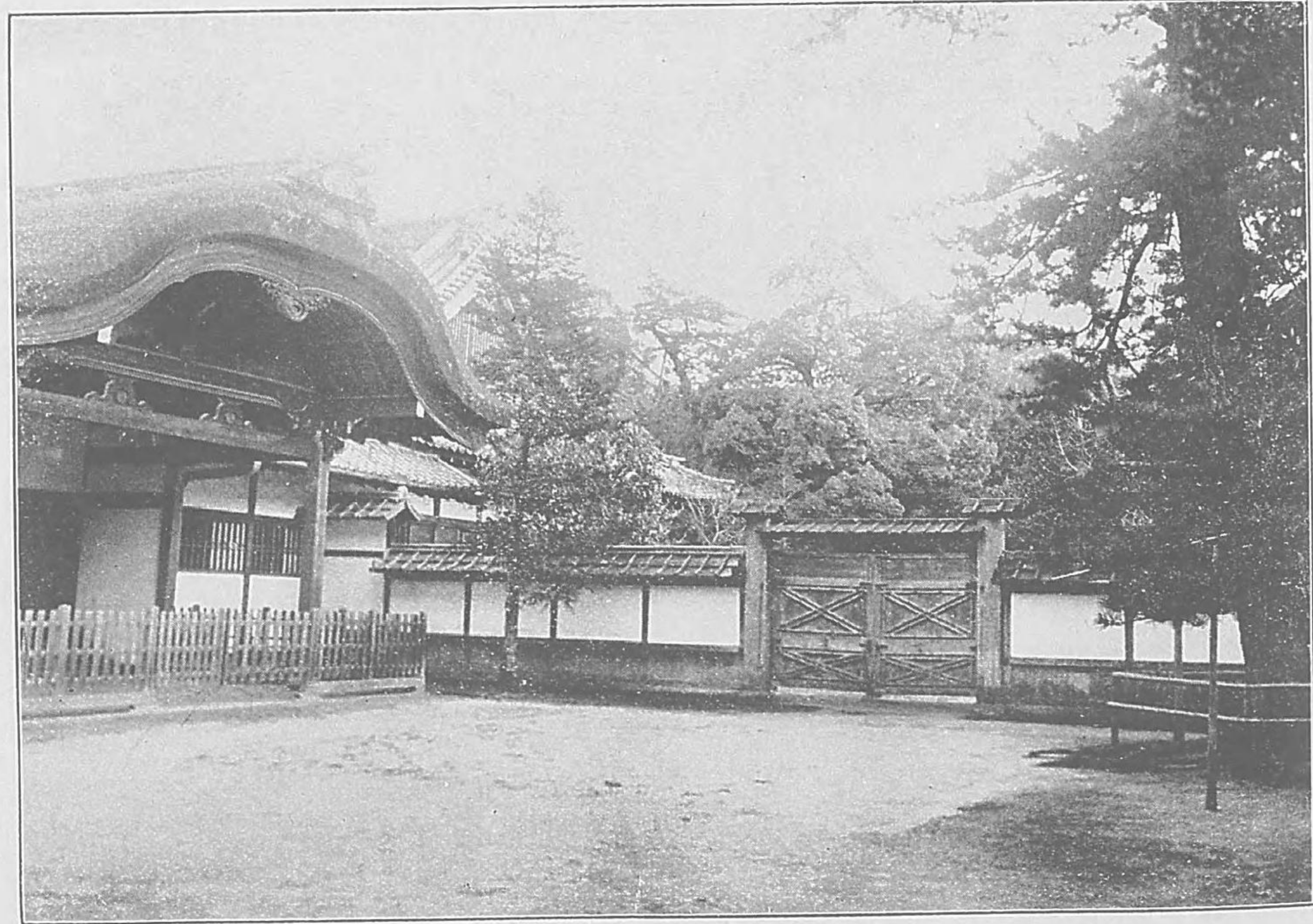
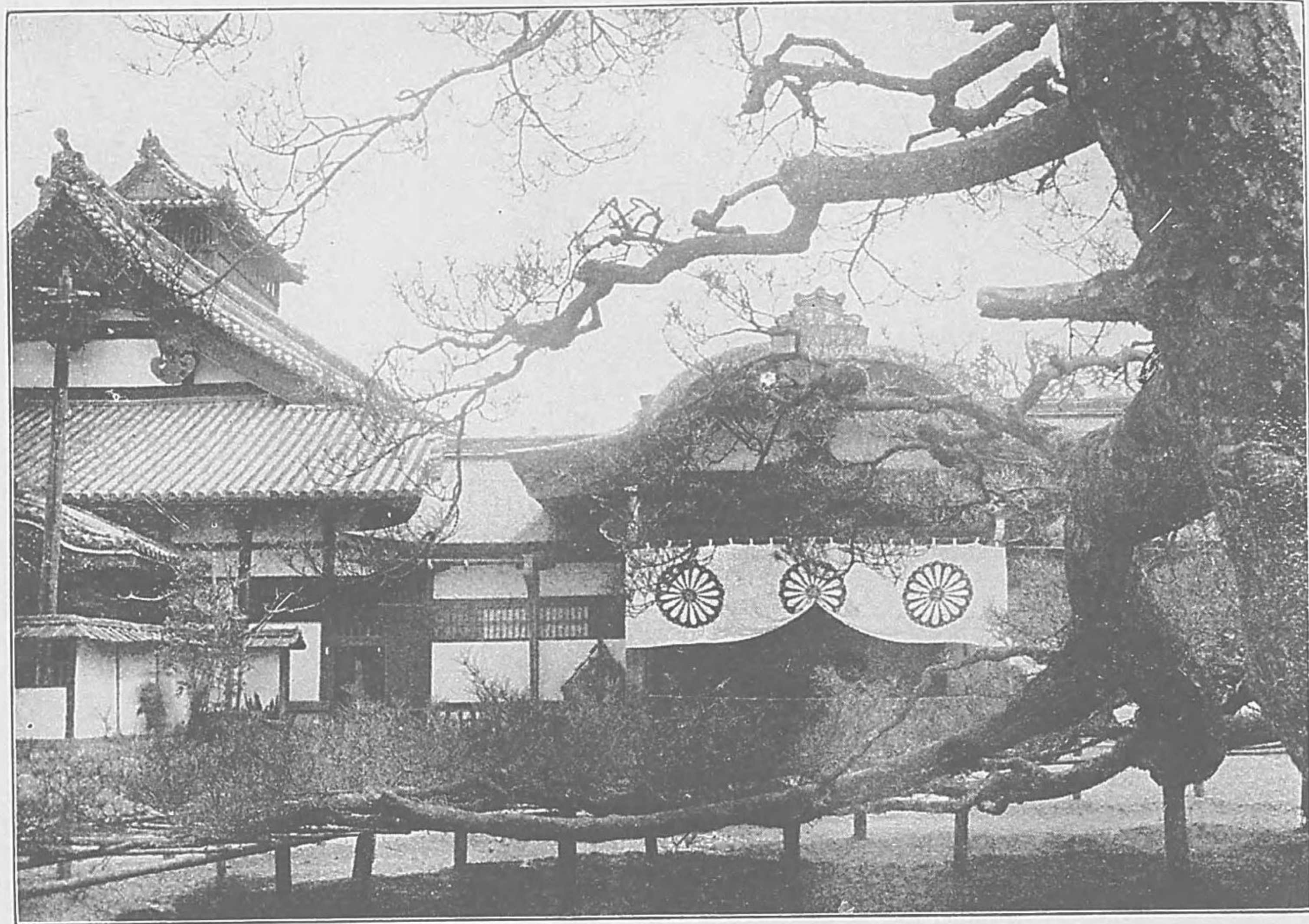


### 三九 教王護國寺(東寺)

下京區九條町に在り、桓武天皇の延暦十五年に勅して羅城門の東西に佛寺を建立し左右兩京の鎮護となす其左京に在るを以て東寺と號す弘仁十四年空海に勅して眞言宗を弘布せしむ空海即ち勅を奉して大に堂宇を營み之を教王護國寺と號す後建久中に文覺之を中興し豊臣、徳川二氏之を修營せり延暦創建以來一たひも其地を轉せず今猶境内二萬九千六百餘坪を有し保護建造物、國寶等甚た多し眞言宗本寺脈の本山なり近年御修法式復興せられ一宗の特例たり

### 四〇 神泉苑

大内裏の時の禁苑にして皇居の南、朱雀大路の東、三條の北大宮の西に在り、東西二町、南北四町内に假山、泉水、樓閣、亭榭あり其樓を乾闥閣と云ふ桓武帝已來世世の天皇屢臨幸あり文人を召し詩を賦し龍舟を泛へ樂を奏す其事數次國史に見へたり又祈雨の式あり其後大に荒廢せしを天正中寺院と爲し教王護國寺に屬す慶長中十方に勸化して之を中興し以て今日に至れり延暦の遺物として其幾分を現存するは唯是あるのみ



#### 四一 妙法院

天台宗門跡寺院の一にして下京妙法院前町に在り、後白川法皇を中興の祖とし此より後は皇族門跡なり、征西大將軍懷良親王は即ち當院の門主尊澄親王なり、其後豊太閤大佛造營の時、此に移り豊國廟を預り法運益盛なり、天明大火の時暫く皇后の御所となり、文久三年七卿長州落の時、先づ此に屯せらる、明治維新後特に行幸啓の事あり、後白川法皇御像其他皇室關係の重寶及び太閤の遺寶多し

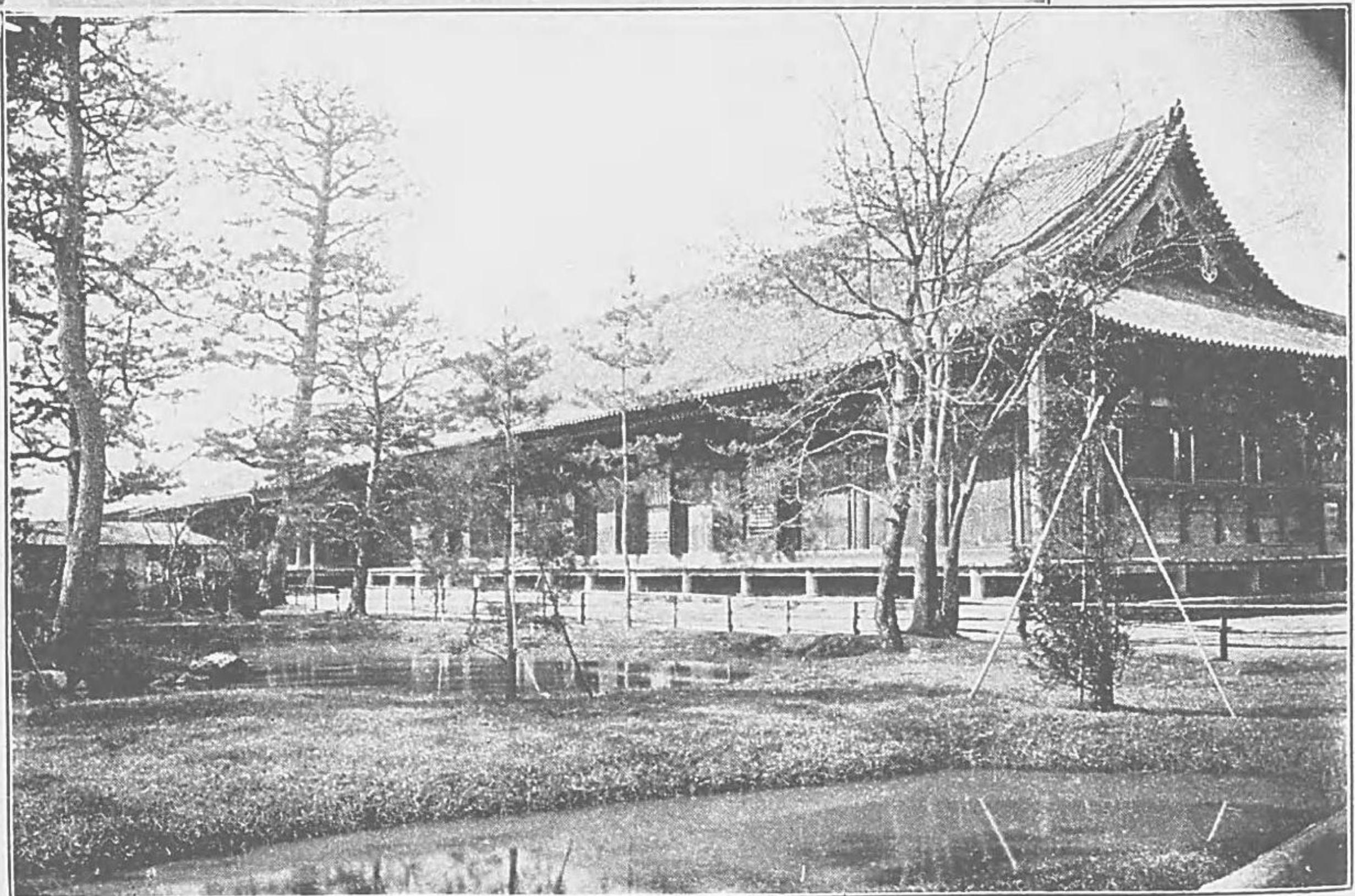
#### 四二 青蓮院

上京區粟田口町に在り皇族門跡の一なり、尊圓親王當院に住せられ、粟田様又は御家流の書風世に行はる、殿宇は明治二十六年回祿の災に罹り、其後新築せり、寶物は嵯峨天皇宸翰を始め舊記什器等頗る多し

### 四三 眞正極樂寺

(眞如堂)

上京區淨土寺町に在り天台宗にして戒算上人の開基なり數次變遷して舊地に復したり門内石磴の左右老楓行をなし霜葉錦の如し觀楓の勝地なり



### 四四方廣寺

(大佛)

京都の大佛なり豊太閤造立以來數次回祿に罹り今は僅に半身木像を安するのみ其大石垣と巨鐘は豊公當時の舊物なり地形は豊國神社造營帝室博物館創立以來大に變したり

### 四五 蓮華王院

(三十三間堂)

下京區三十三間堂廻り町に在り後白河天皇の勅願千手千眼觀音薩埵の像一千一體及び二十八部象を安置す本堂は南北の長棟にして六十間あり二間を隔てて柱を立つるか故に三十三間堂と曰ふ、建長元年三月火災に罹り同三年再建して同年八月上棟式を行ひ文永三年龜山天皇及後嵯峨後深草の兩上皇行幸ありて供養式を行はる現在の本堂は建長三年の造營にて特別保護建造物の一なり其佛像にも國寶少なからず

### 四六 智恩院

上京區林下町に在り、華頂山大谷寺と號す淨土宗の總本山なり徳川氏の初に淨土宗に歸依し大に之を擴張造營す即ち現在の建物なり山門の額は靈元法皇の御宸翰なり什寶多く國寶特別保護建造物も少からず



### 四七 金戒光明寺

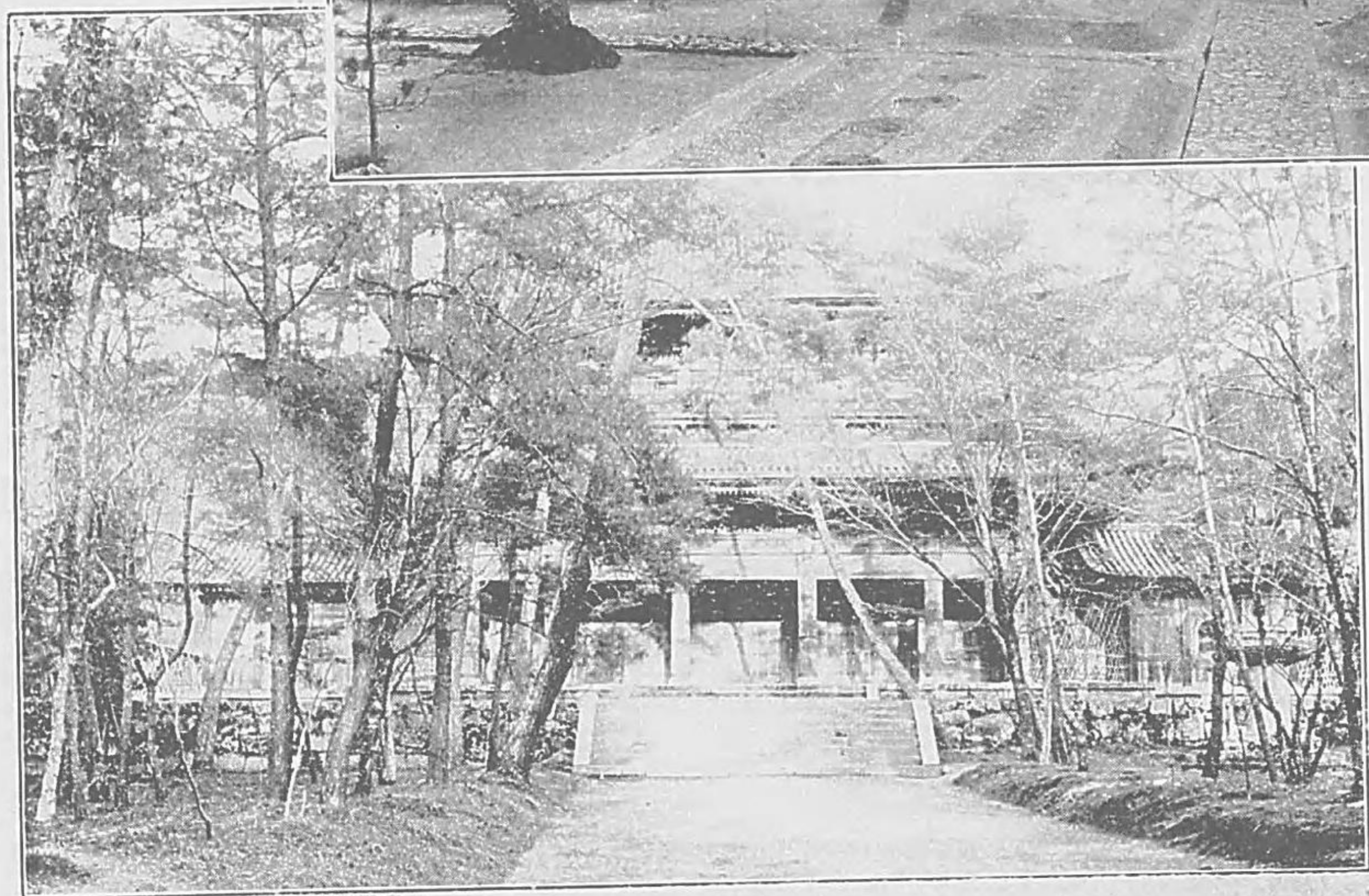
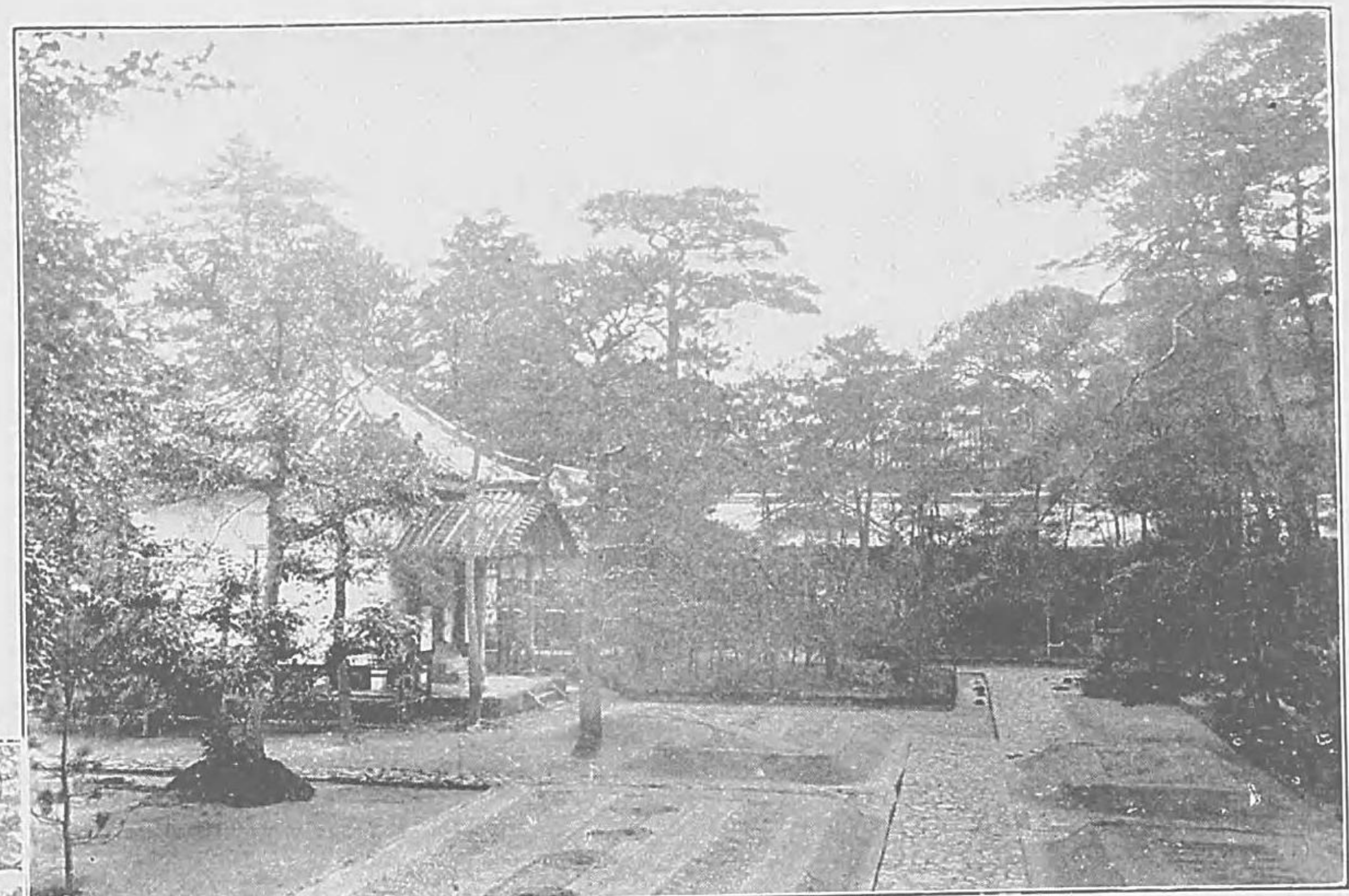
(黒谷)

上京區岡崎町に在り淨土宗鎮西四箇本山の一にして所謂黒谷なり開祖法然上人の舊蹟にして其後寺を建て今の號を賜ふ什寶少なからず名士の墳墓亦多し

### 四八 禪林寺

(永觀堂)

上京區南禪寺町にあり淨土宗西山派の總本山なり初めは天台宗にして開基は眞紹僧都なり康平年中永觀律師此に住し因て永觀堂と云ふ建久年中西山の徒此に住し淨土に改宗す池畔に楓樹を駢植し紅葉の名所たり



#### 四九 法然院

如意山の麓にあり浄土宗にして智恩院に属す寺域清麗別に一淨境を開く

#### 五〇 南禪寺

上京區南禪寺町に在り、臨濟宗の本山なり初め龜山上皇此地の風光秀麗なるを愛せられ離宮を造營せしか後に故ありて僧普門に賜ひ大に堂宇を造營す、此れに因りて境内に龜山帝の御陵あり五田の上位に居る應仁の兵亂に遭ひ烏有に歸せしを豊臣氏の時、再建す徳川家康深く當寺の僧大業和尚を信し軍國の顧問とし爲に之を中興とせり宸翰、舊記什寶等多く國寶亦尠からず、其方丈宸殿は宮殿の舊物と豊公の遺物にして特別保護建造物の一なり

#### 五一 東福寺

下京區本町十五丁目に在り、禪臨濟宗五山の一なり藤原道家の發願にて聖一國師を開山とす始め寺域廣大堂宇完美なりしを後年回祿に罹り今は山門、選佛場等を殘せるのみ特別保護建造物たり、瑠玉溪に廊橋を架す構造頗る奇巧にして俗に之を通天橋と稱す下を臨觀すれば楓樹林を爲し霜紅錦の如し洛南の名勝なり寶什多し屍殿司の佛畫其他國寶多し





### 五二 建仁寺

下京區四條の南建仁寺町にあり、禪臨濟宗の本山にして京都五山の二たり開祖は榮西禪師とす禪師入宋歸朝の後源頼家此地を寄附し巨剎を建て年號に因り建仁寺と號す京都最初の禪院たり今の方丈は東瓊か安藝の安國寺より移せしものなり重寶舊記多し

### 五三 相國寺

上京區今出川通相國寺門前町に在り、禪臨濟宗五山の二にて足利義滿奏請して創建せし巨剎なり文明の亂兩軍の争地と爲り兵火に災し衰微せしを徳川氏の初め中興せり什寶亦少からず

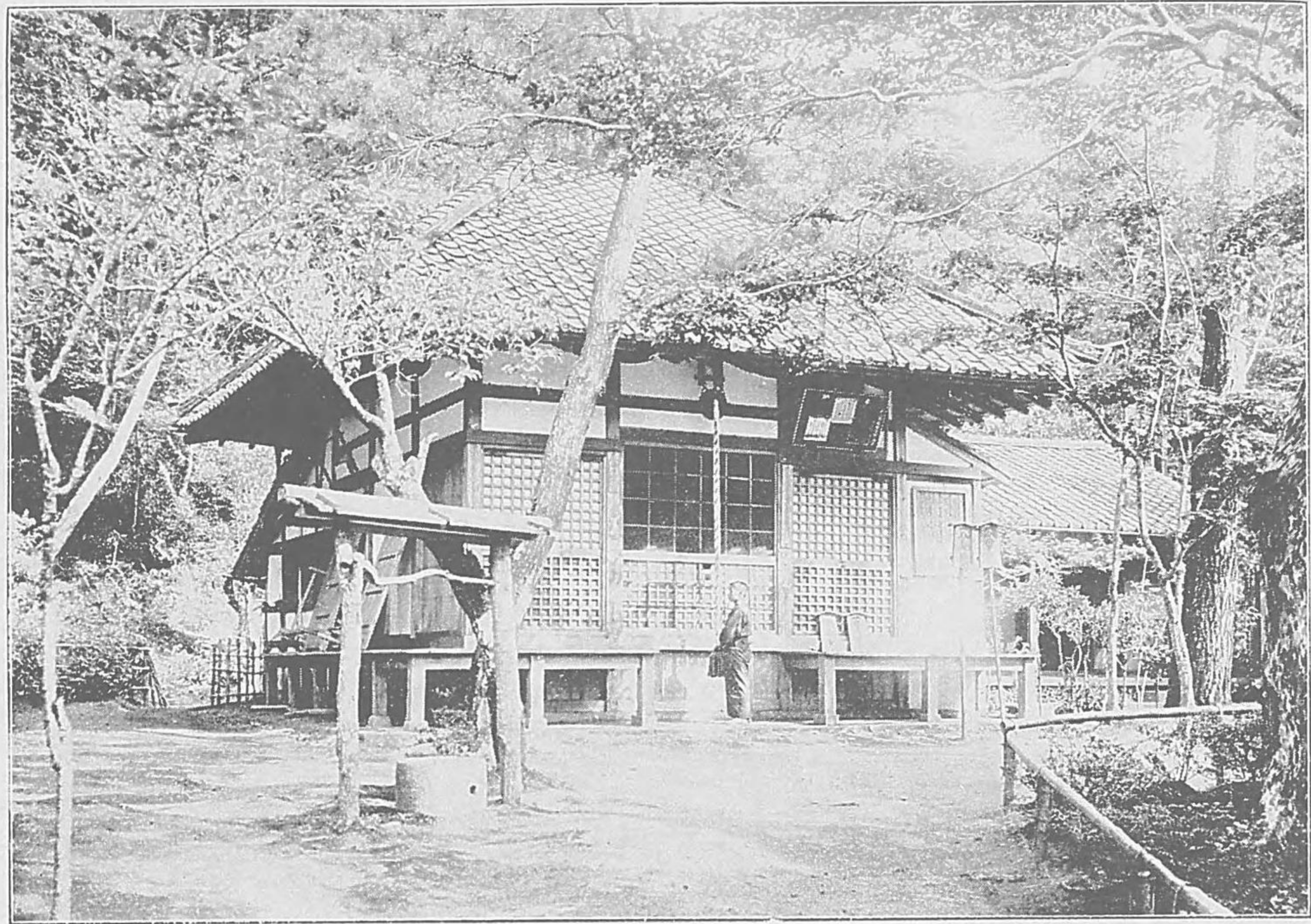


#### 五四 慈照寺(銀閣)

上京區淨土寺町にあり、文明中足利義政亂を厭ひ山莊を此に構へ風流自ら娛みし所にし、て林泉の美今猶存して人の知る處なり當時の建物は僅に銀閣と東求堂とを存す閣は二層にして中に義政の木像あり東求堂は四疊半茶室の始めとして茶人の模範とする所なり俱に特別保護建造物たり

#### 五五 高臺寺

下京區下河原町に在り、建仁寺に屬す豊臣秀吉公の大政所淺野氏公の冥福を祈らんか爲め之を建立し高臺寺と號す、其殿堂は豊公の舊物にて宏麗を極めしか回祿に罹り今は開山堂、豊公夫妻の廟等を存するのみ、時雨亭及び傘亭は山内に在り皆豊公の舊物なり

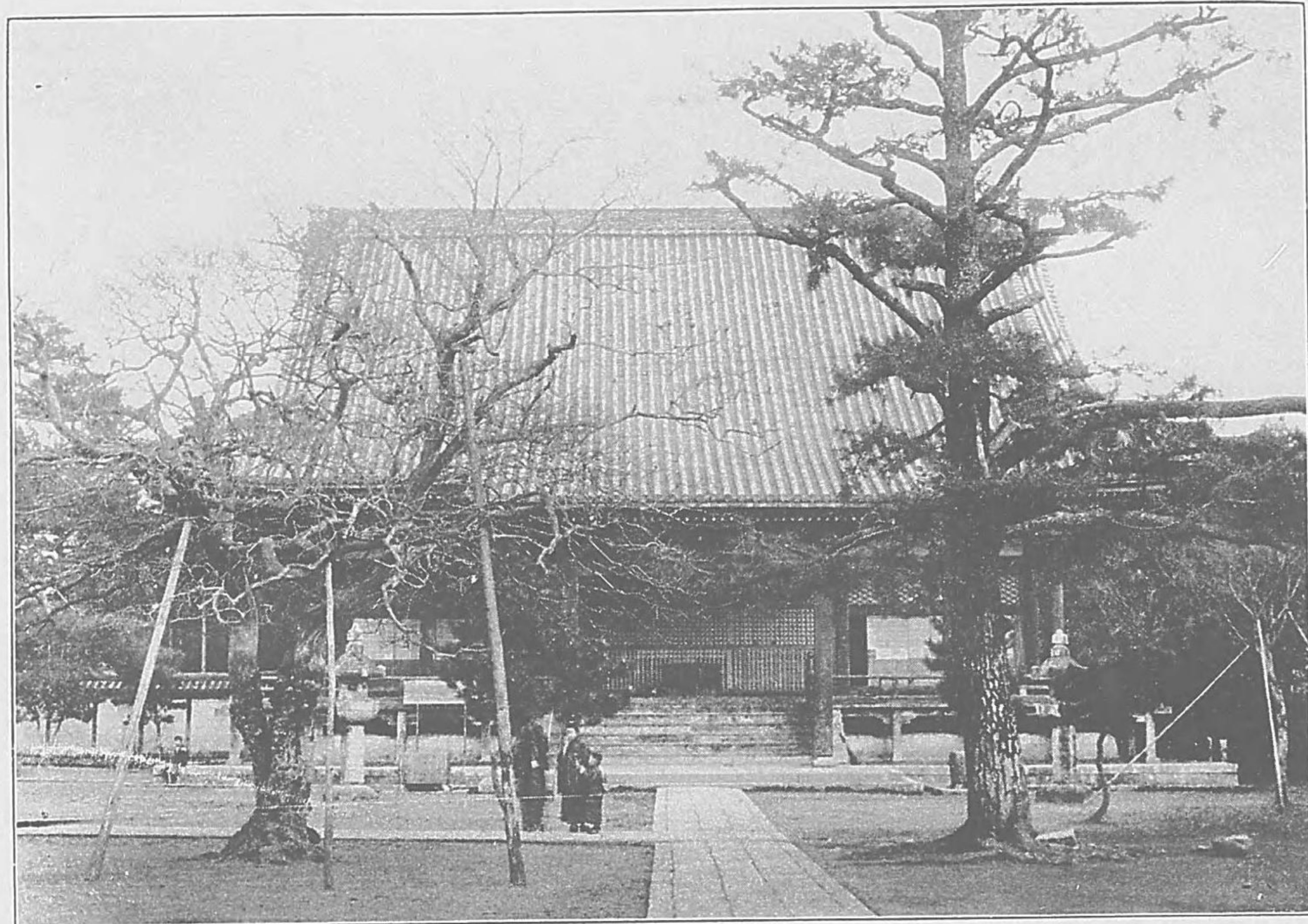


### 五六 歌中山清閑寺

清水の南東なる谷間にあり、古代の東國の官道に當れり。清閑寺は谷の北部に在る古刹にて、世に歌の中山と稱して著るし。高倉天皇の御陵あり。

### 五七 本能寺

上京區寺町通り姉小路に在り、法華宗本山の一にて、開基は日隆上人なり。天正の初めは六角の南、油小路の東に在り、其十年六月二日、明智光秀が織田信長を弑せしは、此所なり。後今の地に轉したり。

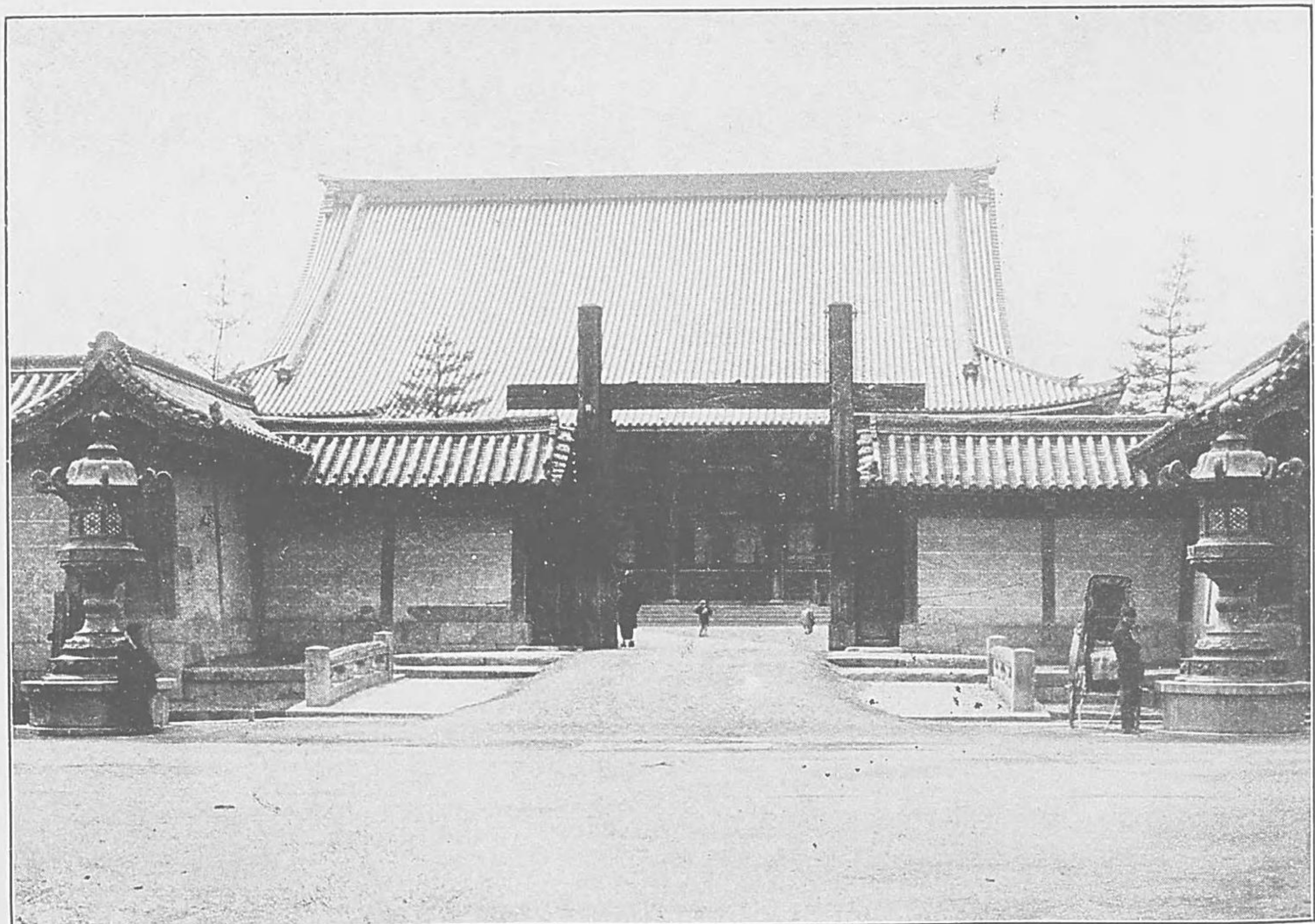


### 五八 本 国 寺

下京區松原通堀川西へ入柿本町に在り、法華宗本山にして元相州鎌倉に在りしを貞治元年此に移し勅願所と爲し大に堂宇を築く其後幾回盛衰ありしも猶同宗京都の第一寺たり子坊二十餘、寶物亦多し

### 五九 清 水 寺

下京區松原通清水坂の上に在り、法相宗にして阪上田村將軍の創立に係る本尊十一面千手觀世音は普く世の信仰する所なり今の本堂は寛永十年徳川氏の再建に係り特別保護建造物たり奥の院あり是亦古建築なり田村堂には將軍を祭れり地勢高燥にして幽靜又瀧あり音羽と云ふ潺湲として落ち清冽掬ふに堪へたり

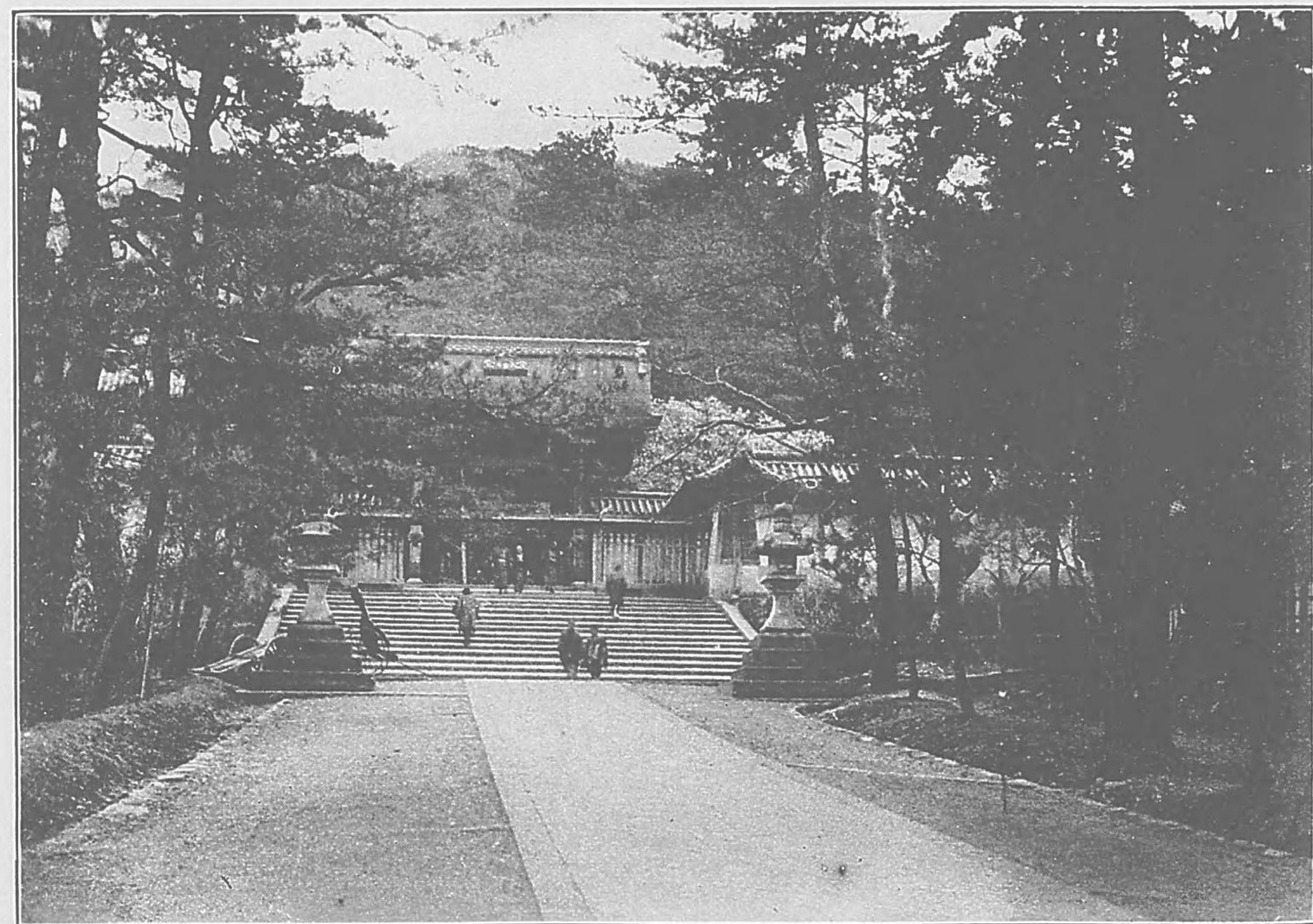
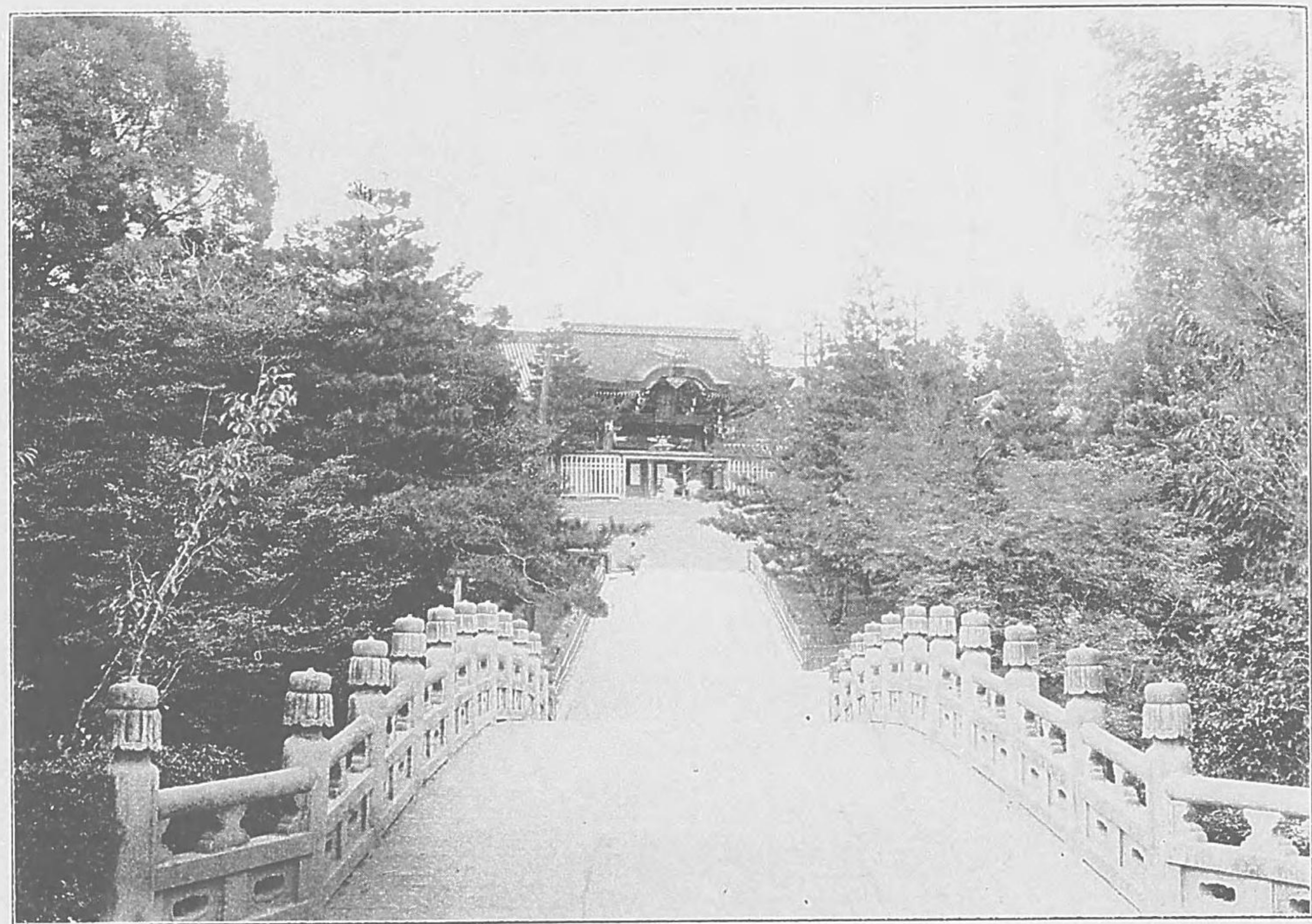


### 六〇 本派本願寺

下京區堀川通花屋町南入本願寺前町にあり、真宗の本山なり、豊臣氏の時此地に移す元和三年回祿に罹り間もなく改築す堂宇宏大なり、都下の一偉觀なり、白書院、黒書院及日暮門、飛雲閣等は豊太閤の故物にして建築の美を盡し特別保護建造物たり

### 六一 大谷派本願寺

下京區烏丸通七條上る常葉町に在り、真宗大谷派の本山にして徳川氏の初めに此地を寄進せらる屢、回祿に罹り現今の堂宇は明治二十八年の建築にして最も宏壯なり、火災を防ぐため大噴水を設く其噴騰全力は百三十尺餘に及ふと云ふ



### 六二 本派本願寺廟所

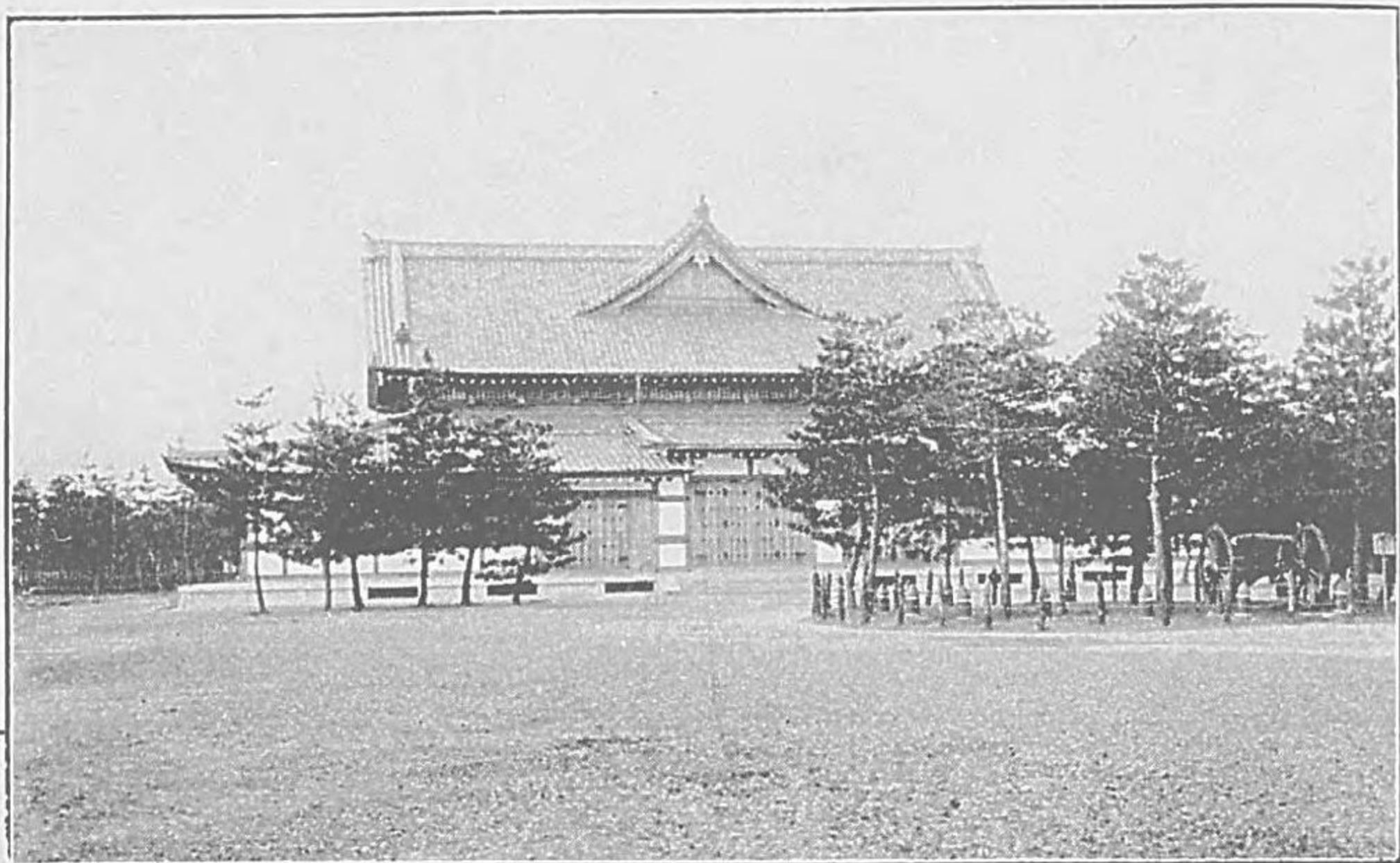
五條通、東山の下に在り、大谷本廟と稱す宗祖  
見真大師の廟所なり、安政年間門前の地を開  
き池を穿ち花崗石を疊み眼鏡橋を架し橋下  
に多く蓮を植ゆ池畔松翠の間に櫻楓二樹を  
點綴し頗る風致に富めり

### 六三 大谷派本願寺廟所

圓山公園の南に在り、大谷別院と稱す大谷派  
本願寺の廟所なり、元祿年間の造營に係り壯  
麗を極め幽庭老樹の間に五彩の燦爛たるを  
認むる等亦一種の妙趣あり

## 六四 武徳殿

上京區岡崎町平安神宮の境内に在り中古桓武天皇大に武徳を重んじ武徳殿を造營して専ら武技を奨勵し給ひし宏模を追仰し明治二十八年中に有志相謀りて武徳會を設立し小松宮彰仁親王を總裁に仰き平安神宮境内をトし此武徳殿を建築せり殿は大様を古の武徳殿に擬し之を演武場と爲し別に競馬場狹窄射技場等の設けあり



## 六五 京都商業會議所

上京區烏丸通夷川上る少將井町に在り明治十五年十月初めて商工會議所として組織せられ同二十四年七月今の名稱に改む創設以來孜孜として實業の發達に力め世に貢獻せること多大なり

## 六六 日本銀行京出張所

下京區三條通高倉西入菱屋町に在り明治二十七年四月創設し其後此地に新築し同三十九年七月竣功移轉せり

下京區鳥丸通三條下る饅頭屋町  
に在り明治七年二月に創設し三  
十九年五月今の地に新築せり

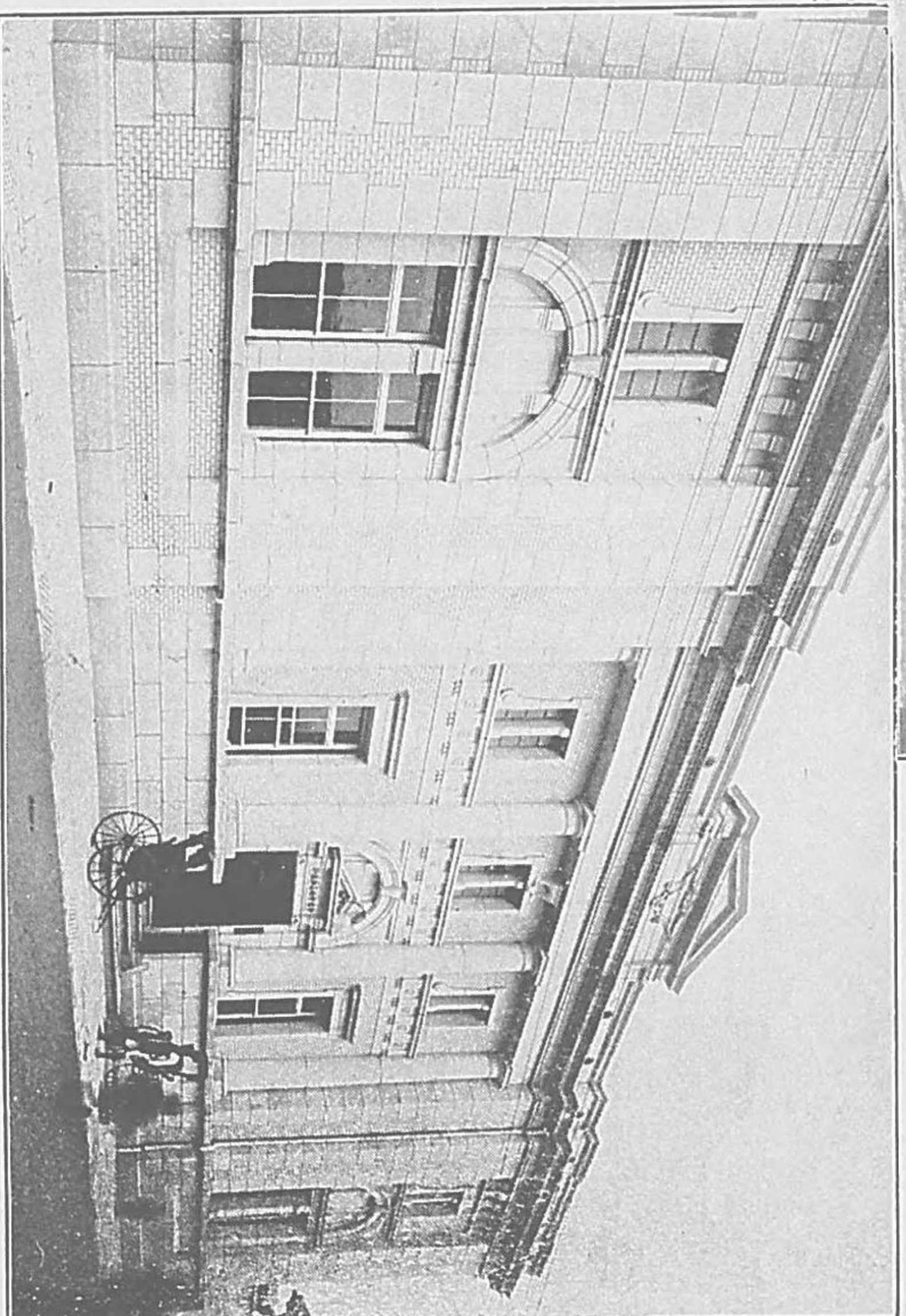
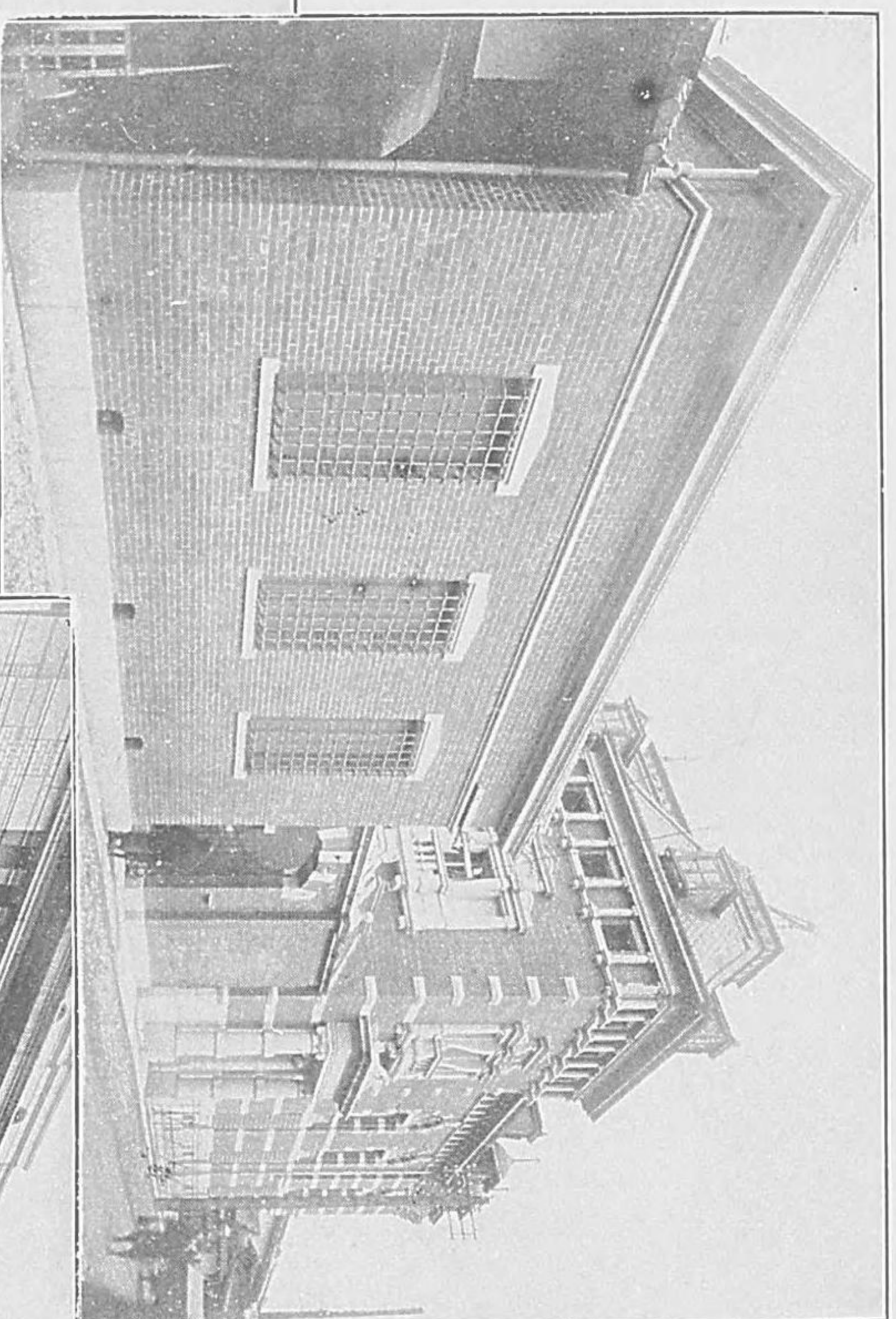
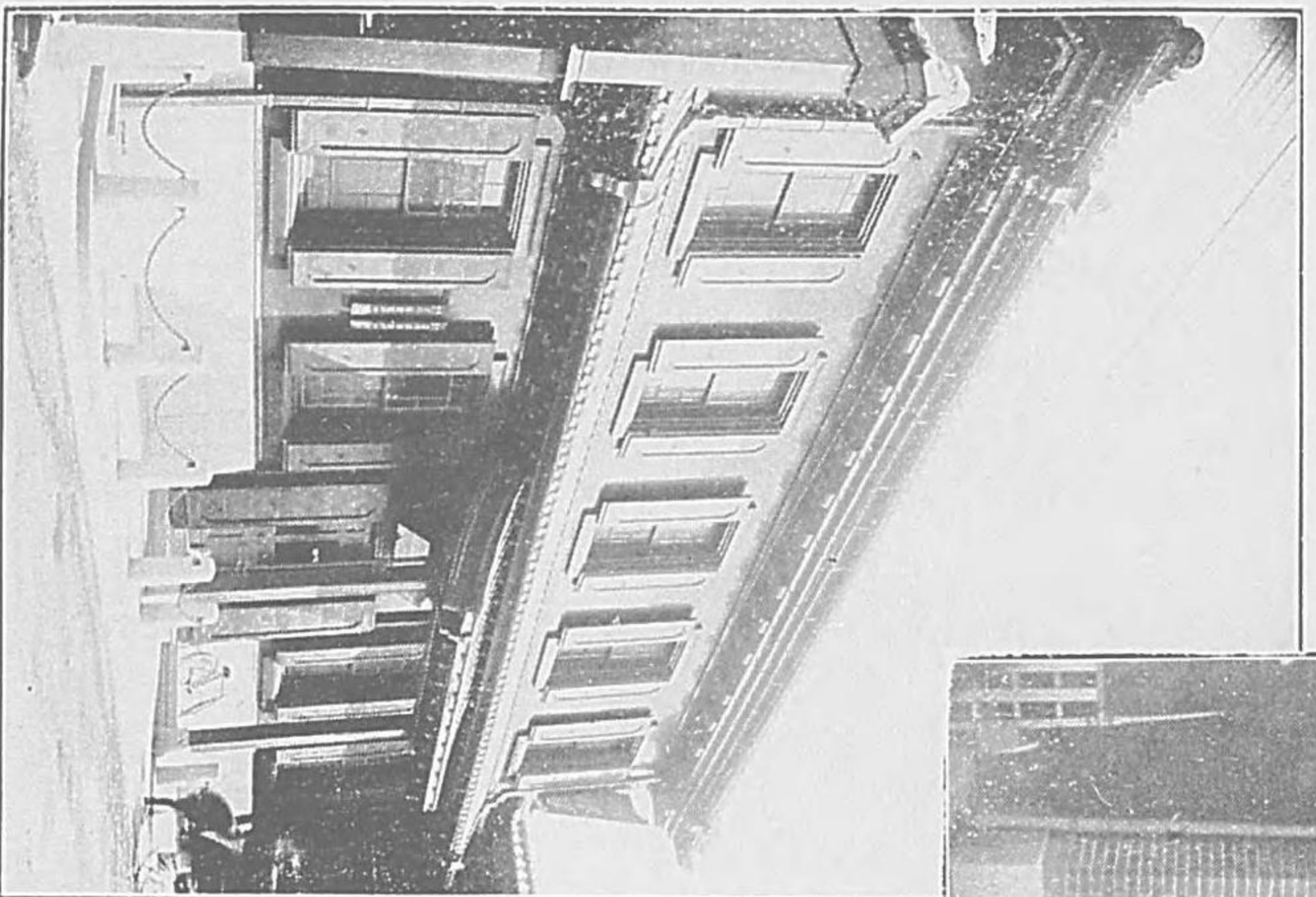
六七 第一銀行  
都支店

下京區四條通鳥丸東へ入る長刀  
鉾町に在り明治九年七月に開設  
し三十七年今の地に移築せり

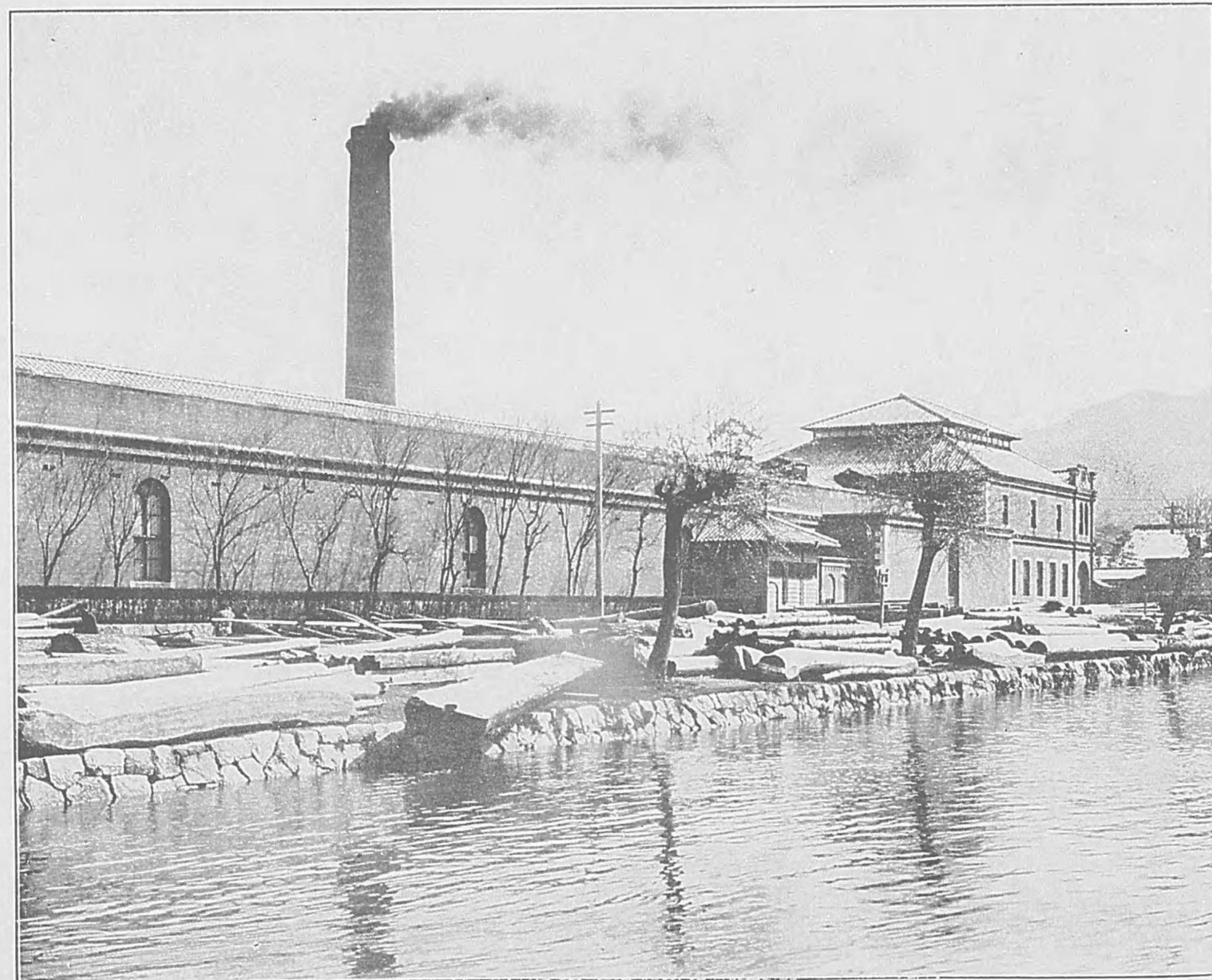
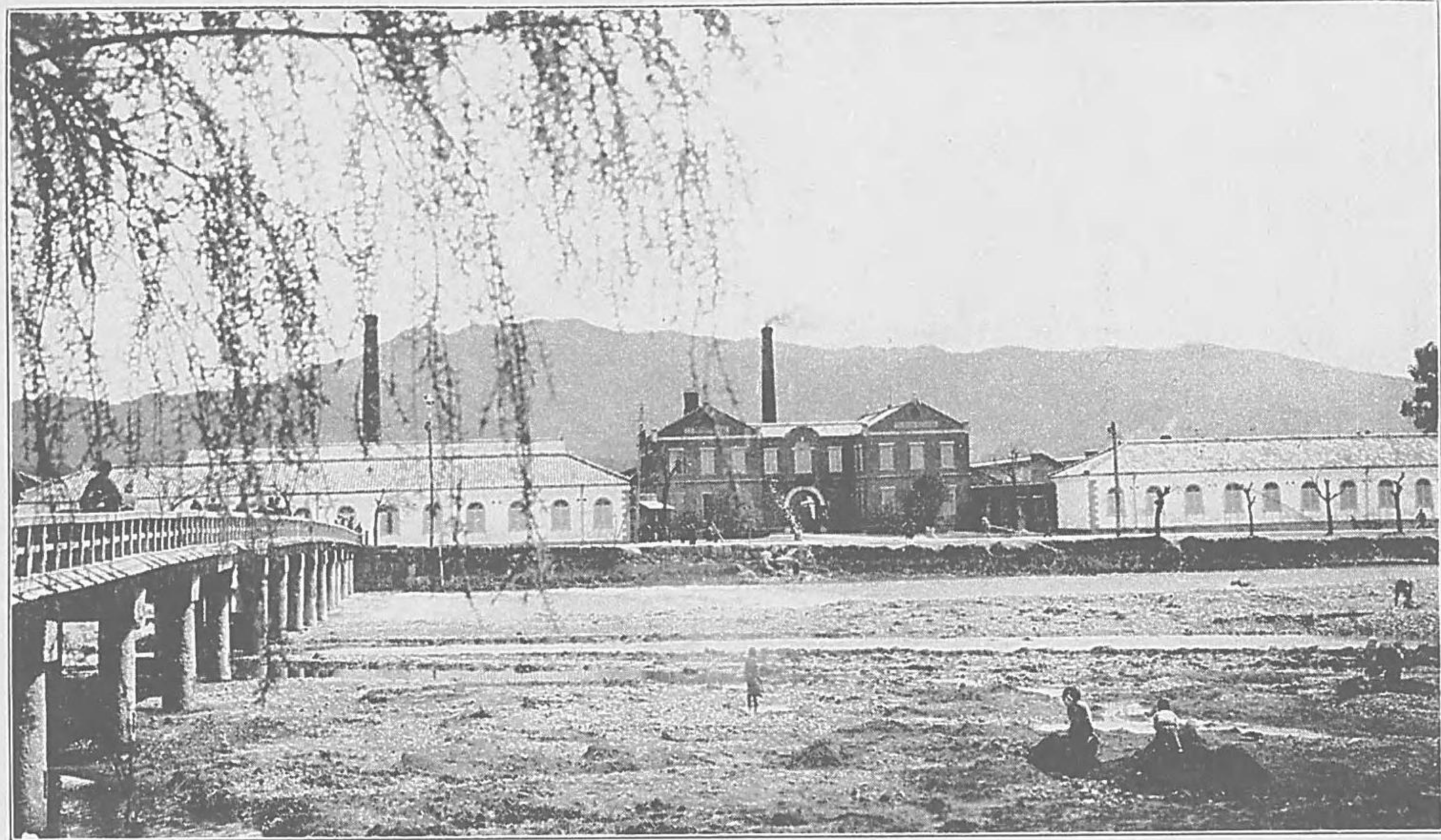
六八 三井銀行  
都支店

下京區四條通鳥丸西へ入函谷鉾  
町に在り明治十二年三月に創設  
し三十九年十一月今の地に移築  
せり

六九 鴻池銀行  
都支店





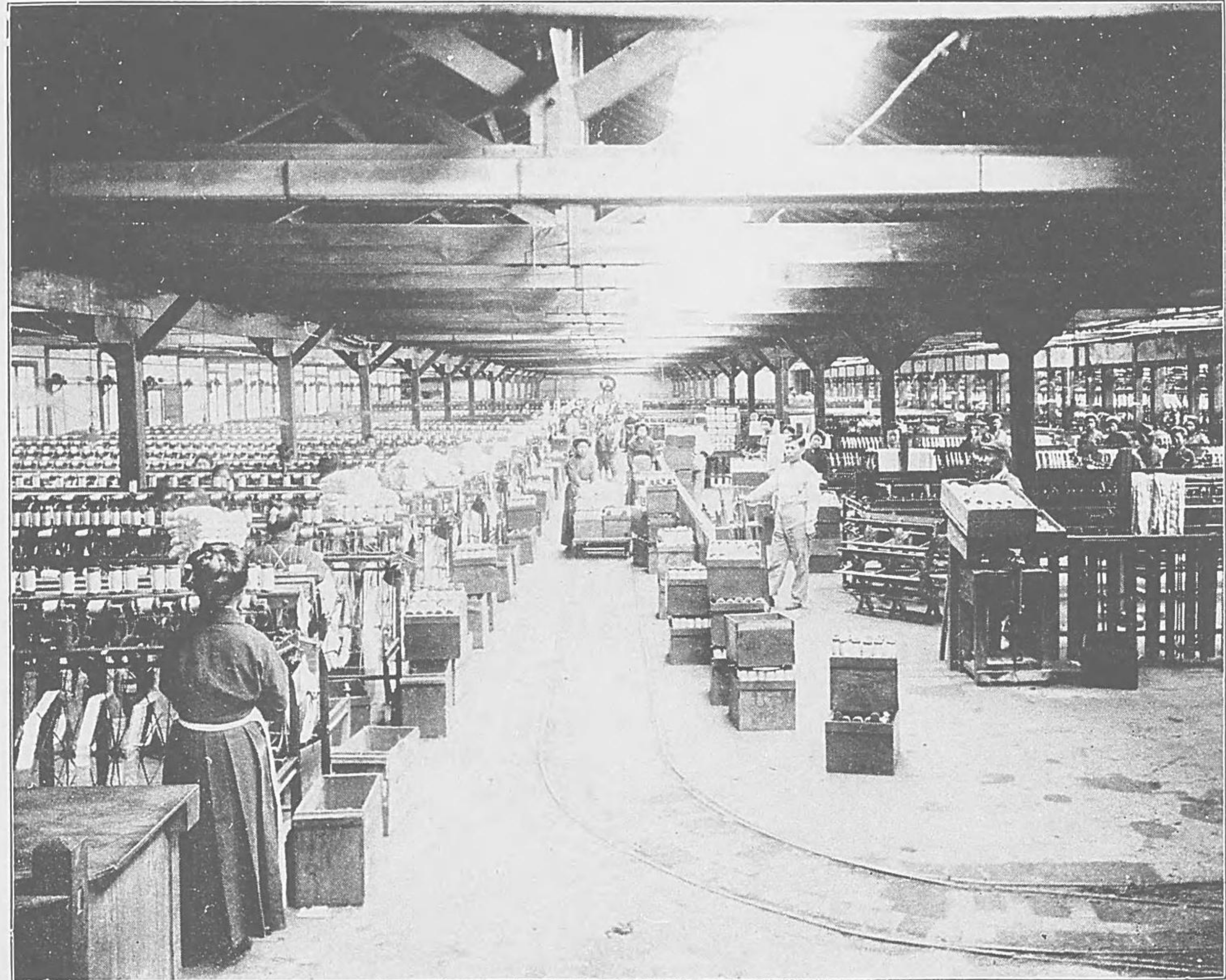
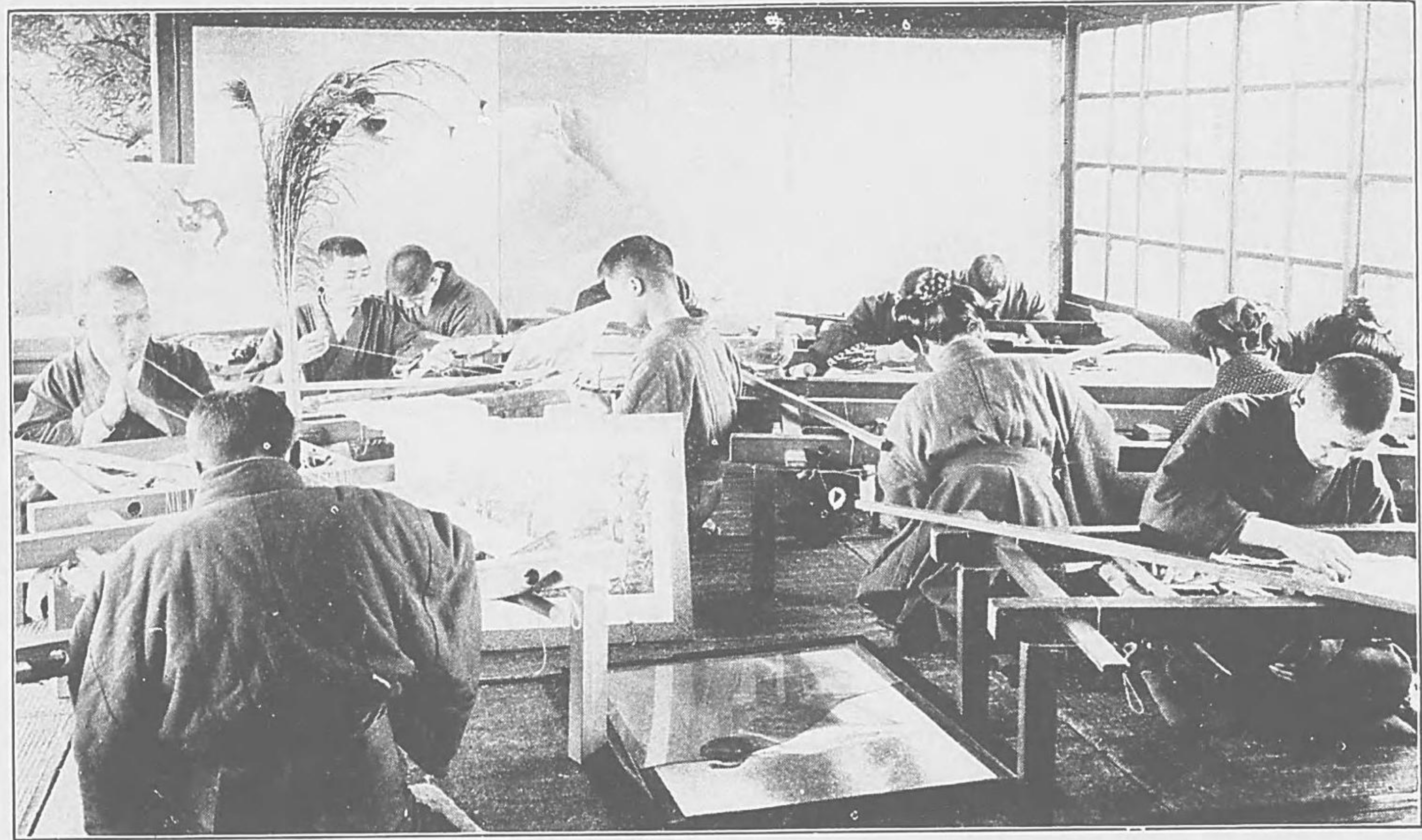


七〇 京都織物株式會社

上京區吉田町に在り、明治二十年五月舊織殿の事業を繼承して創立し、資本金二百五十萬圓なり。最近一箇年の製品は五千萬尺以上、價格百五十三萬六千餘圓にして、販路は内地並に清韓印度より遠く英米の各國に及ぶ。本社は織機八百餘臺を有し、撚絲染色及再整機械等を備へ、千有餘人の職工を使役し、全國屈指の染織工場たり。

七一 絹絲紡績株式會社

上京區東竹屋町に在り、明治三十五年七月全國各地に在る絹絲紡績會社を合併し、富士紡績株式會社を除く。本社及下京工場を京都に置き、各地に九箇所の工場を分有す。資本金六百八十七萬五千圓にして、最近一箇年間の製産價額は實に千四十七萬二千八百二圓に達す。

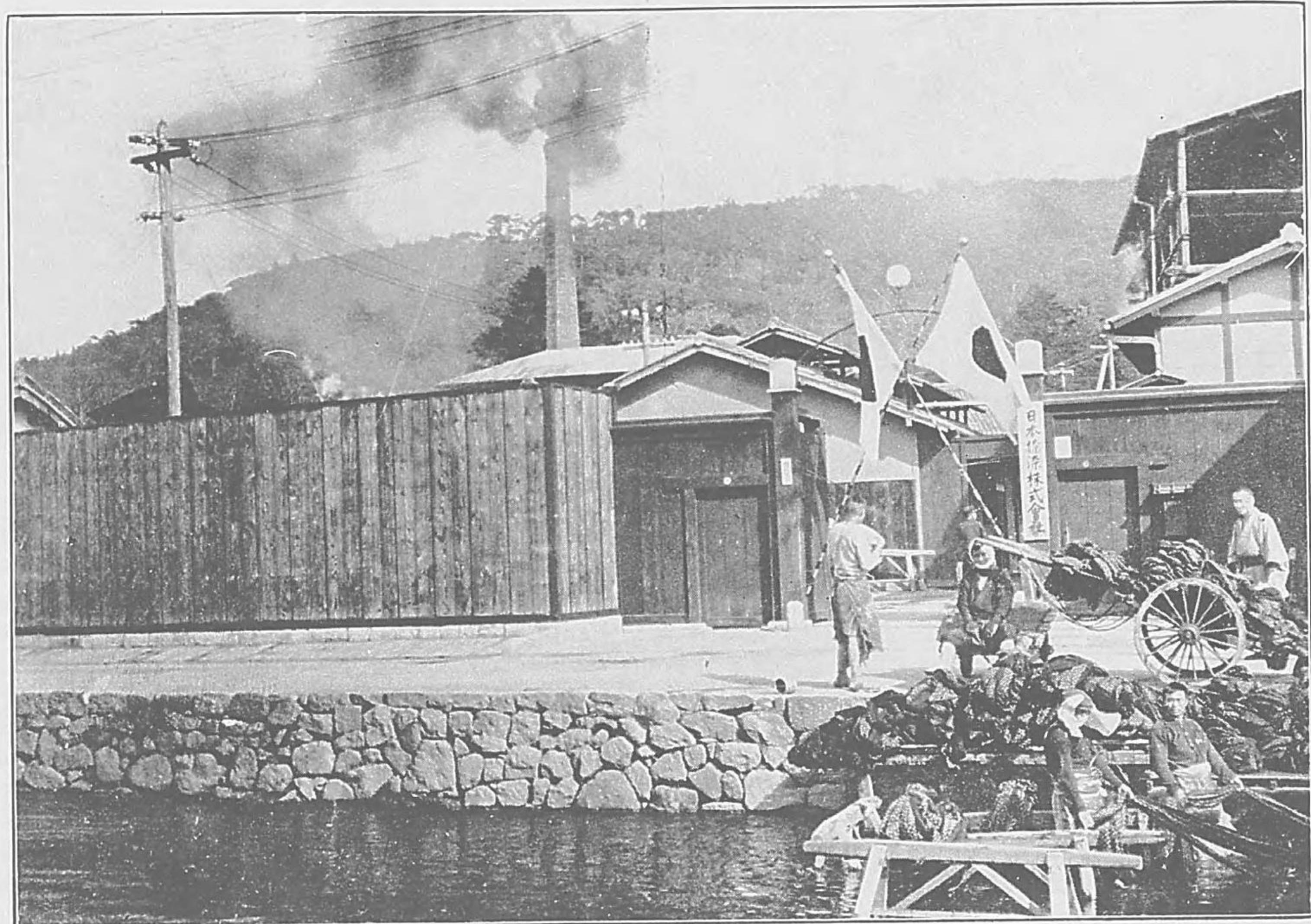


### 七二 飯田新七刺繡工場

下京區鳥丸通高辻南に在り京都屈指の織物商飯田新七の經營に係り明治二十八年三月一日始業し製品の種類は屏風、衝立、壁掛、窓掛、卓掛、寢臺掛、枕掛、外人向き日本著物等にて主として歐米各地に輸出せらる本場は美術刺繡の模範的工場たり

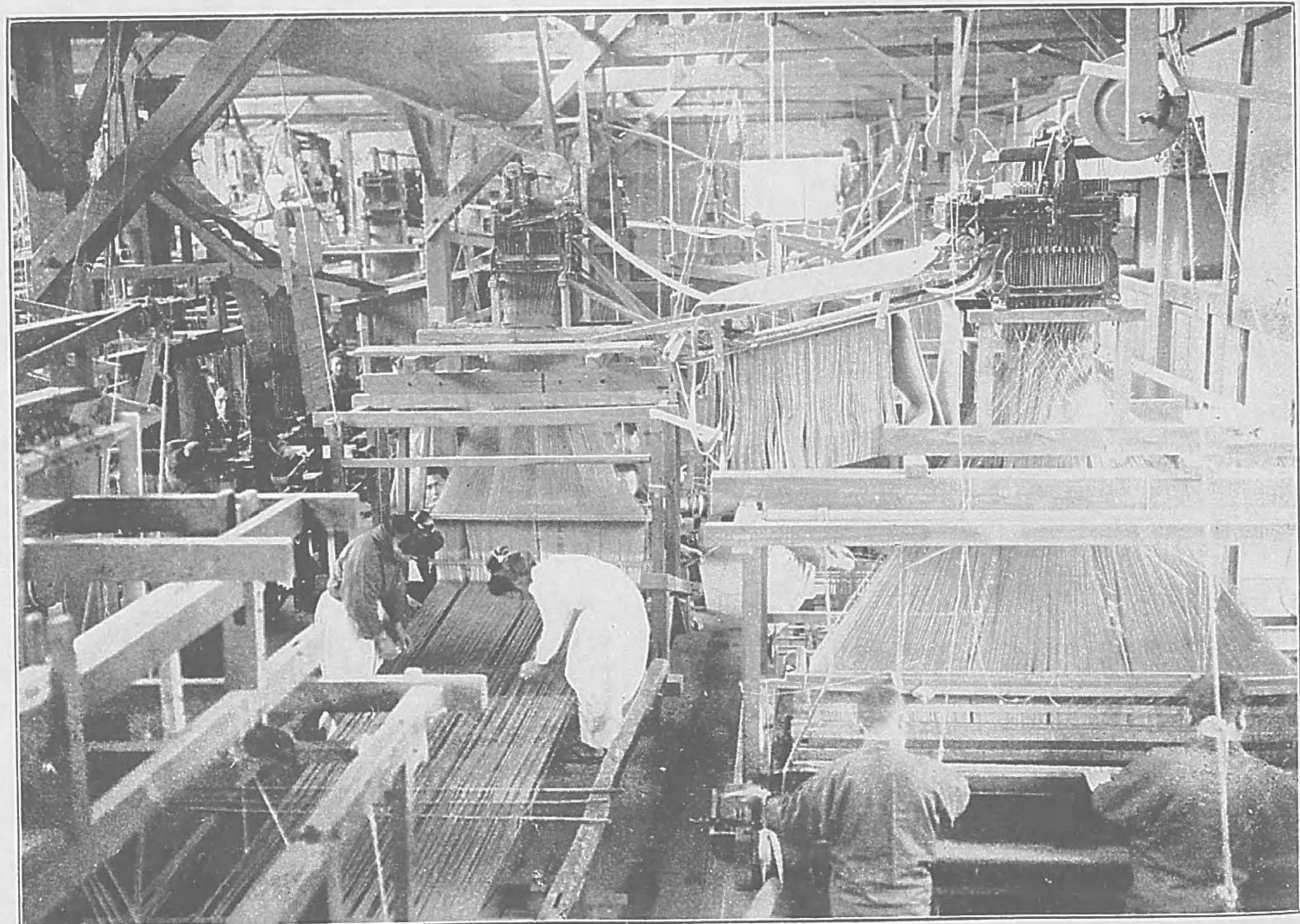
### 七三 西陣燃絲再整株式會社

上京區堀川頭寺の内上る上天神町に在り明治二十七年四月二十八日の創立にて、資本金十八萬圓本社は西陣其他機業者の委託に依り燃絲及織物再整の業に従ふ西陣機業の發達上に貢獻せしもの尠少ならず最近本社の收得賃金は五萬五千九百餘圓なり



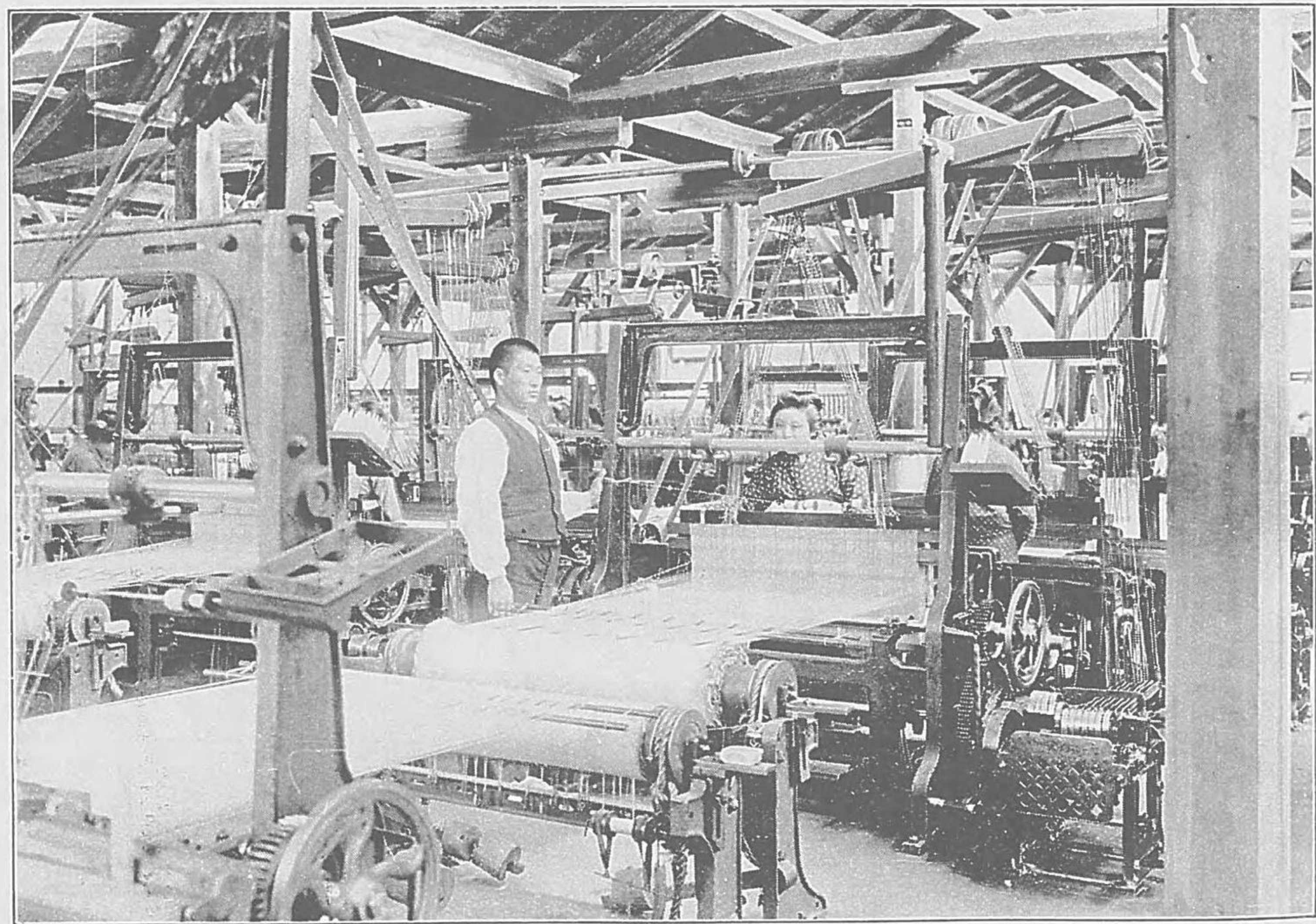
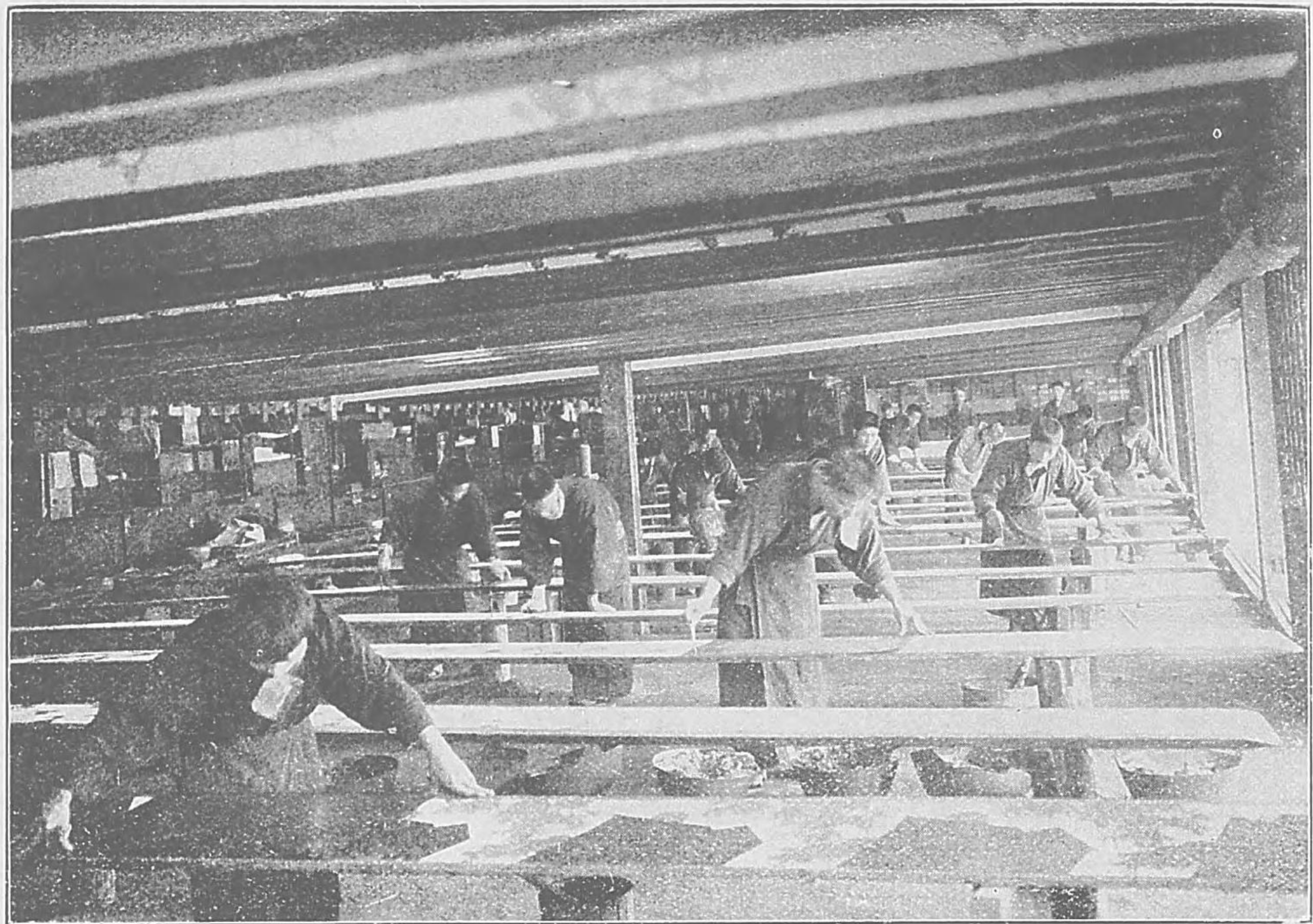
#### 七四 日本捺染株式會社

下京區白川筋東川端三條下る梅宮町に在り  
 元堀川新三郎の經營に係れる捺染工場なり  
 しか明治四十年之を繼承して本會社を創立  
 せり資本金四十萬圓縮「テル」、金巾及「モスリン」  
 を製出す最近一箇年の製産額は百二十六萬  
 圓餘なり



#### 七五 川島甚兵衛織物工場

本所は帝室技藝員川島甚兵衛の經營に係る  
 織物工場にして明治十六年舊法に革新を施  
 し近世式工場組織となせり最近一箇年の産  
 額は十七萬八千餘圓にして製品の半は諸外  
 國に輸出せらる本工場は主として綴錦及紋  
 織物を製造し他の模擬し難き獨特の妙趣を  
 有し屢、帝室の御用命を忝ふせり



## 七六 西村總左衛門 友禪染工場

上京區三條烏丸西入御倉町に在り、西村總左衛門の經營にして友禪染を主とす明治十年三月の創業一箇年製産數一萬七千餘疋價格五十四萬圓餘なり、場主西村總左衛門は刺繡天鵝絨、友禪縮緬、羽二重及友禪染の改善に苦心し大に其工を進む實に市内屈指の友禪染工場たり

## 七七 福永カネ織物工場

上京區中立賣通松屋町西入新泉丸町に在り福永カネの經營にて帽子巻りぼん及輸出向き生縞子を製織す最近一箇年の産額は十五萬圓とす

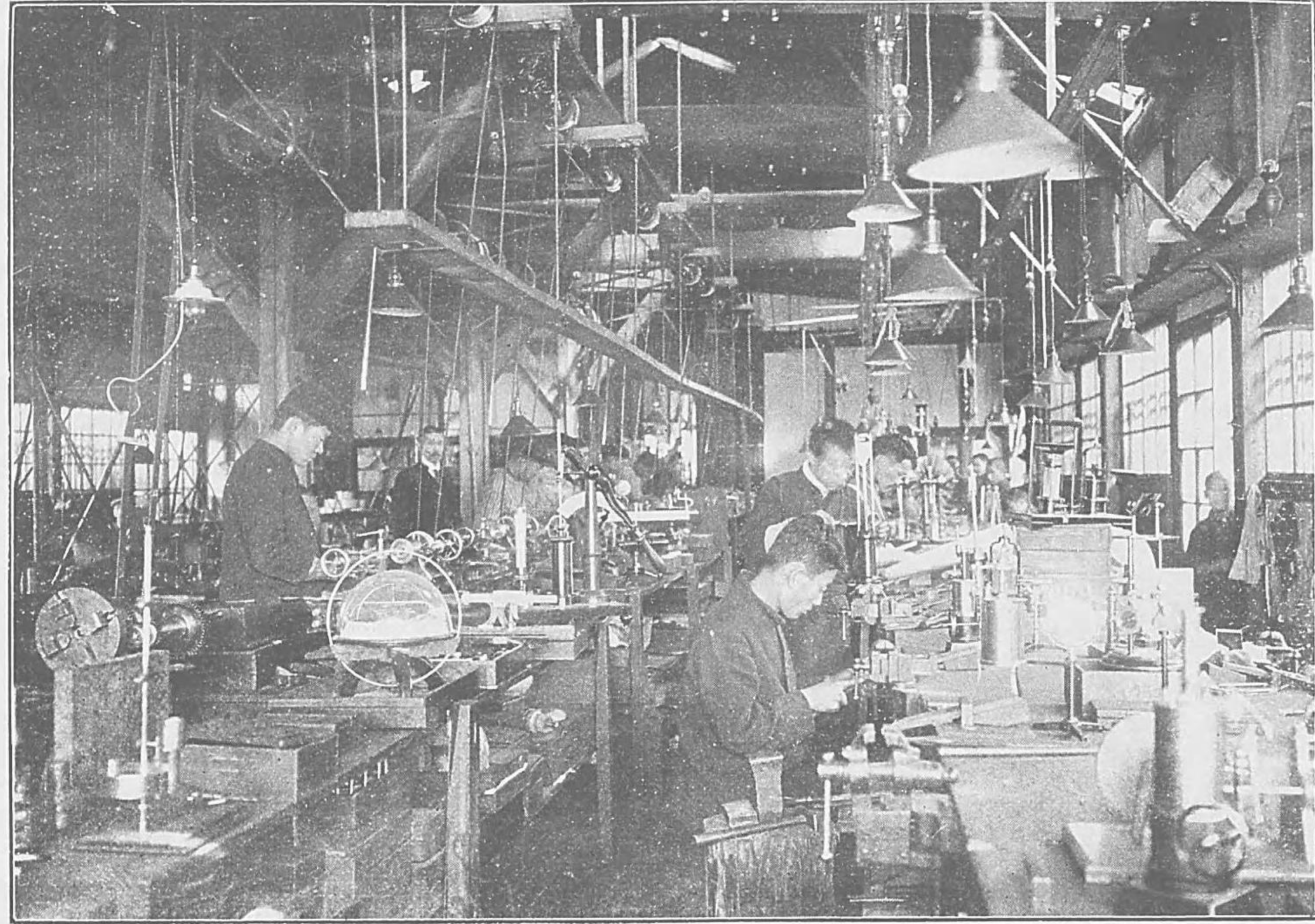


七八 錦光山宗兵衛  
陶器工場

上京區三條粟田口に在り、二百六十三年前の創業とす。世世業を傳へ、六世宗兵衛大に外國貿易の急務を覺り、製品を改善し、販路日に加はり、錦光山の名聲、中外に喧傳す。一箇年の産額は四十五萬圓、主として室内裝飾用品、日用品を製し、歐米各地及支那、印度等に輸出す。

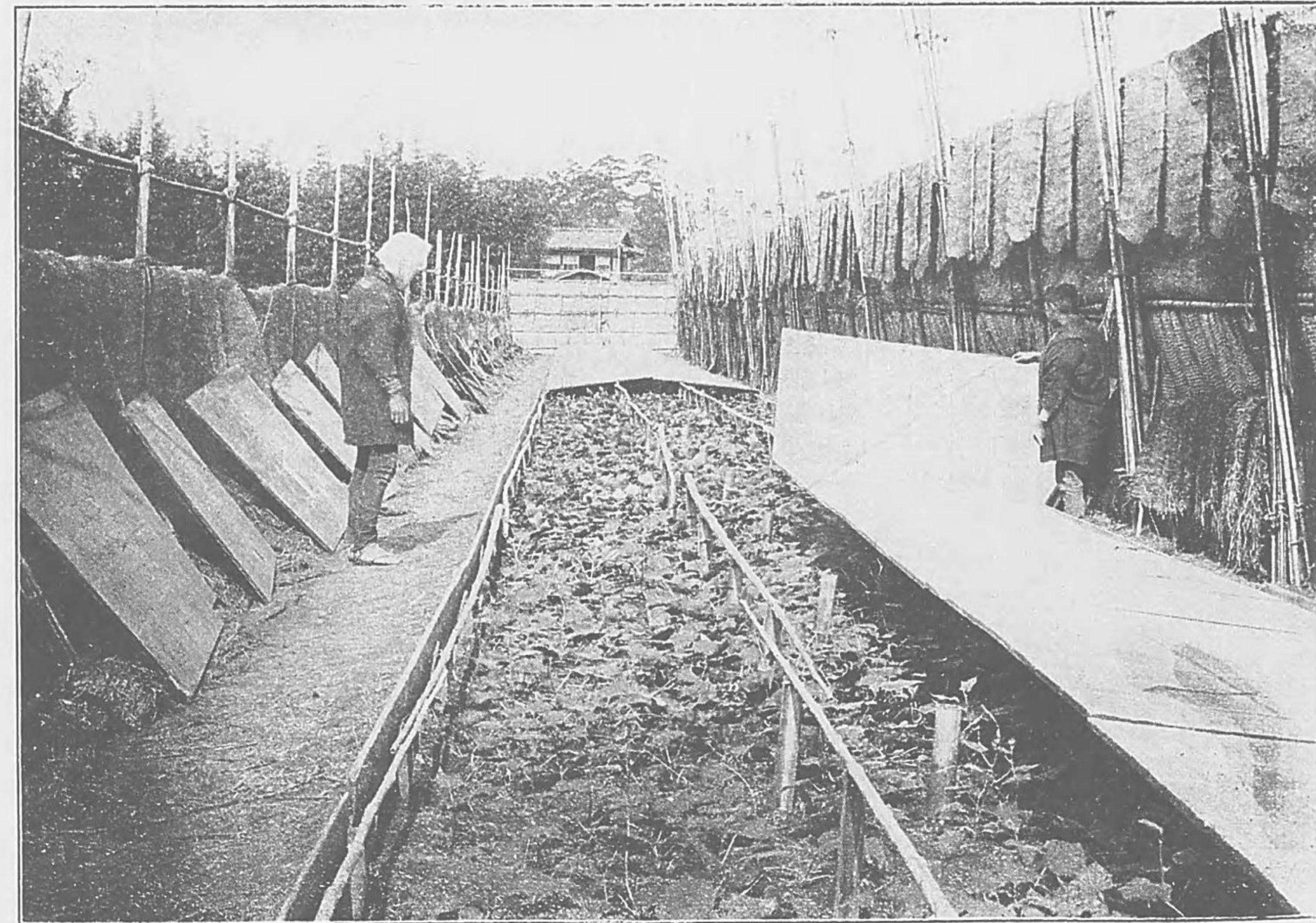
七九 並川靖之七寶工場

上京區三條白川橋北裏堀池町に在り。帝室技藝員並川靖之の經營にて、明治六年十二月の創業に係り、最近一箇年の産額約二萬圓にして、英米其他の各國に輸出せり。場主並川靖之は七寶製造を創め、多年の苦心を以て、今日に及び、並川七寶の名聲は遠く海外に傳はれり。



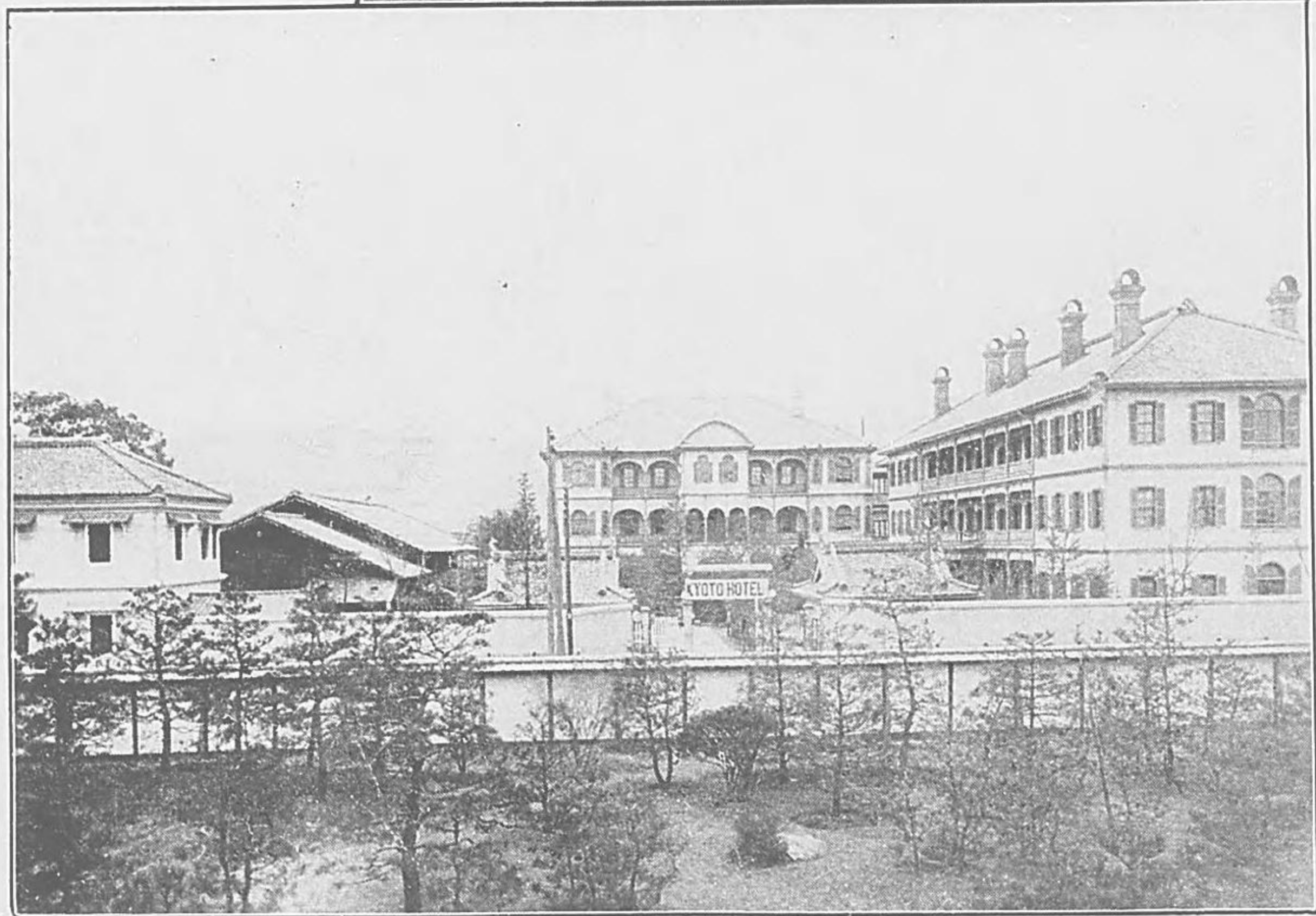
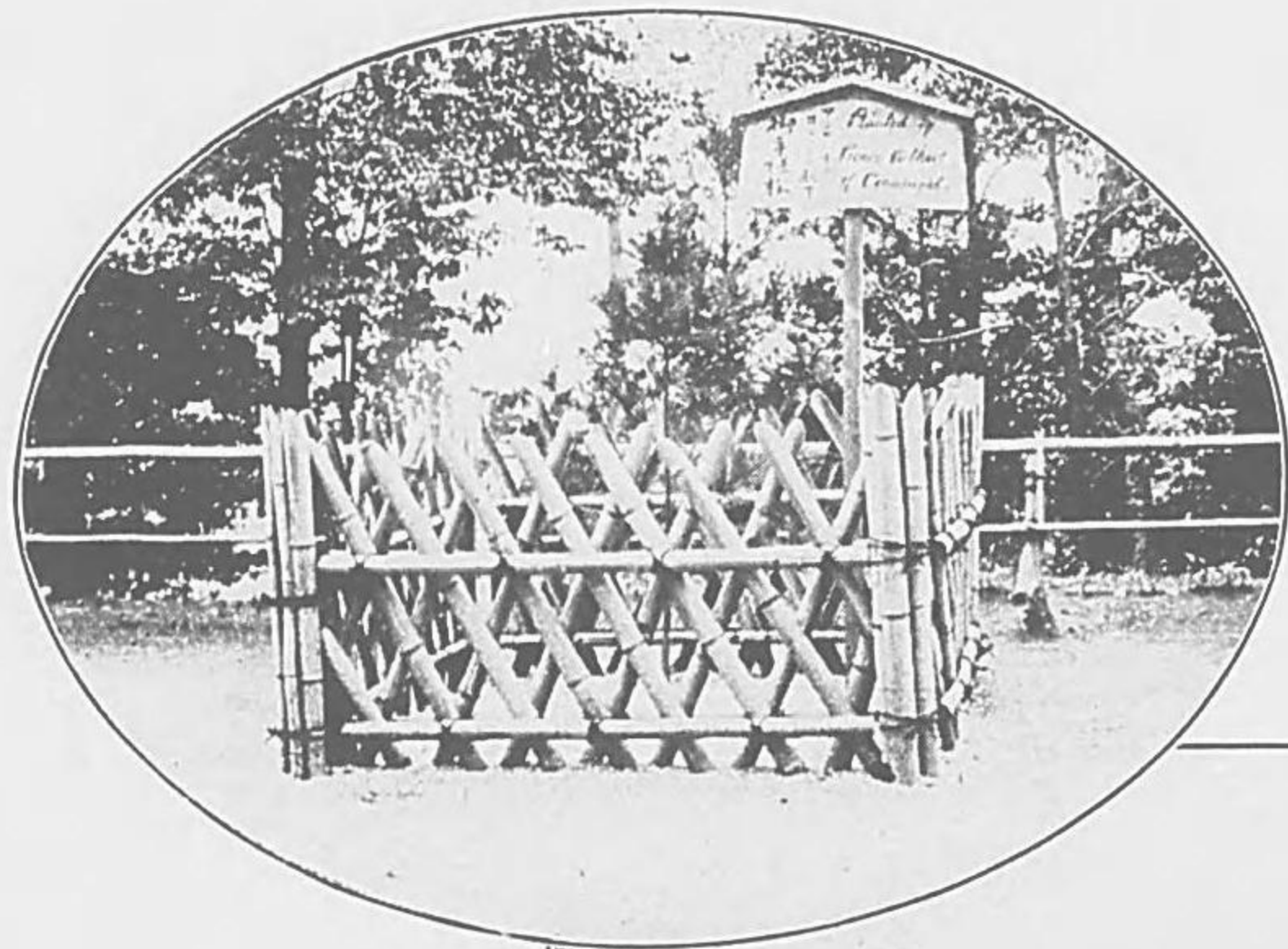
### 八〇 島津製作所

上京區河原町通二條の南に在り、島津源藏の經營にして明治八年の創業に係り主として理化學器械博物學標本の電氣機械等を製作し内地諸學校等に供給し又清韓諸國に輸出せり



### 八一 蔬菜速成栽培

上京區聖護院町にあり、本法の起源は天保年間において爾來幾多の改善を加へ遂に完成して附近に傳はり京都速成蔬菜の名世上に喧傳せり

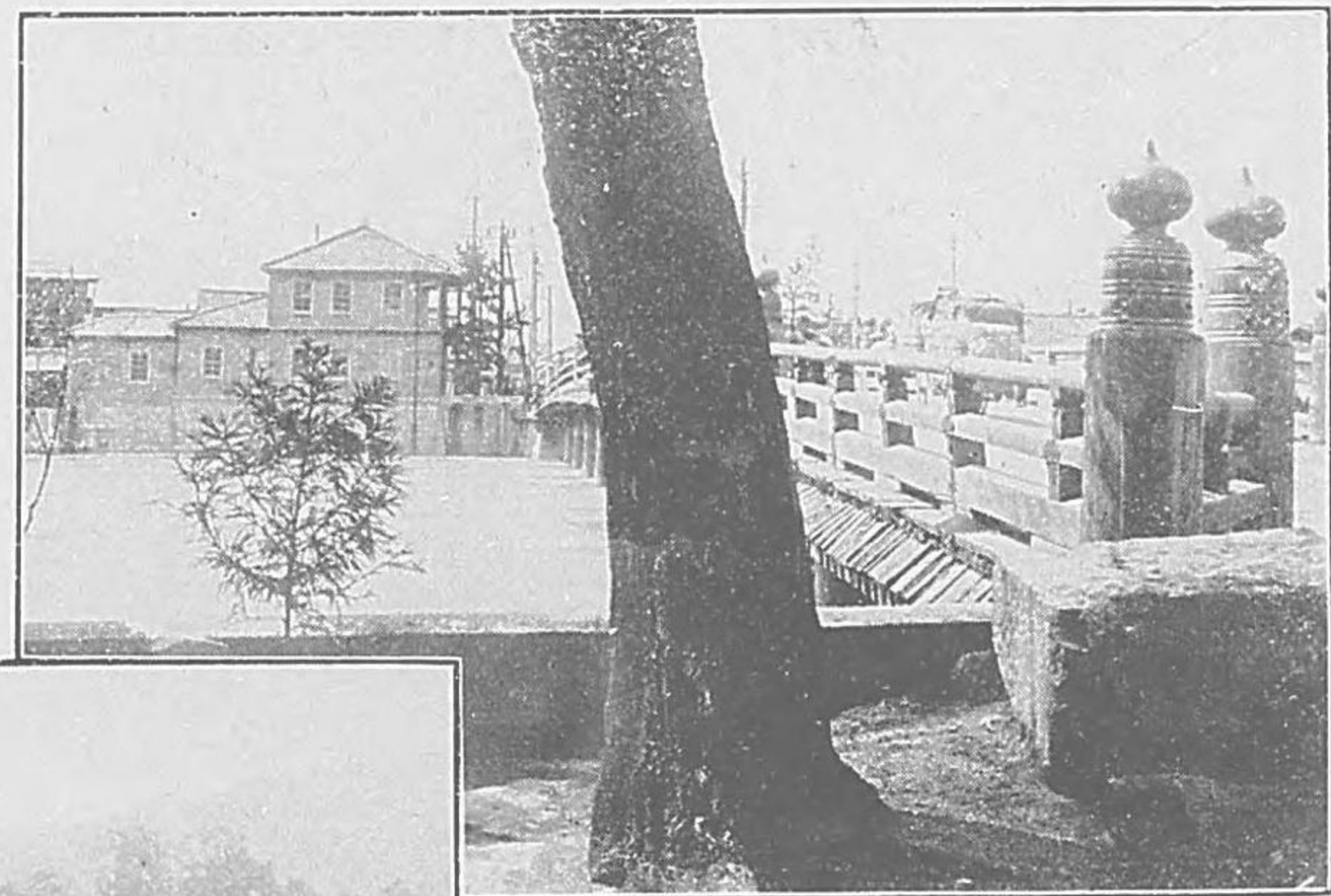
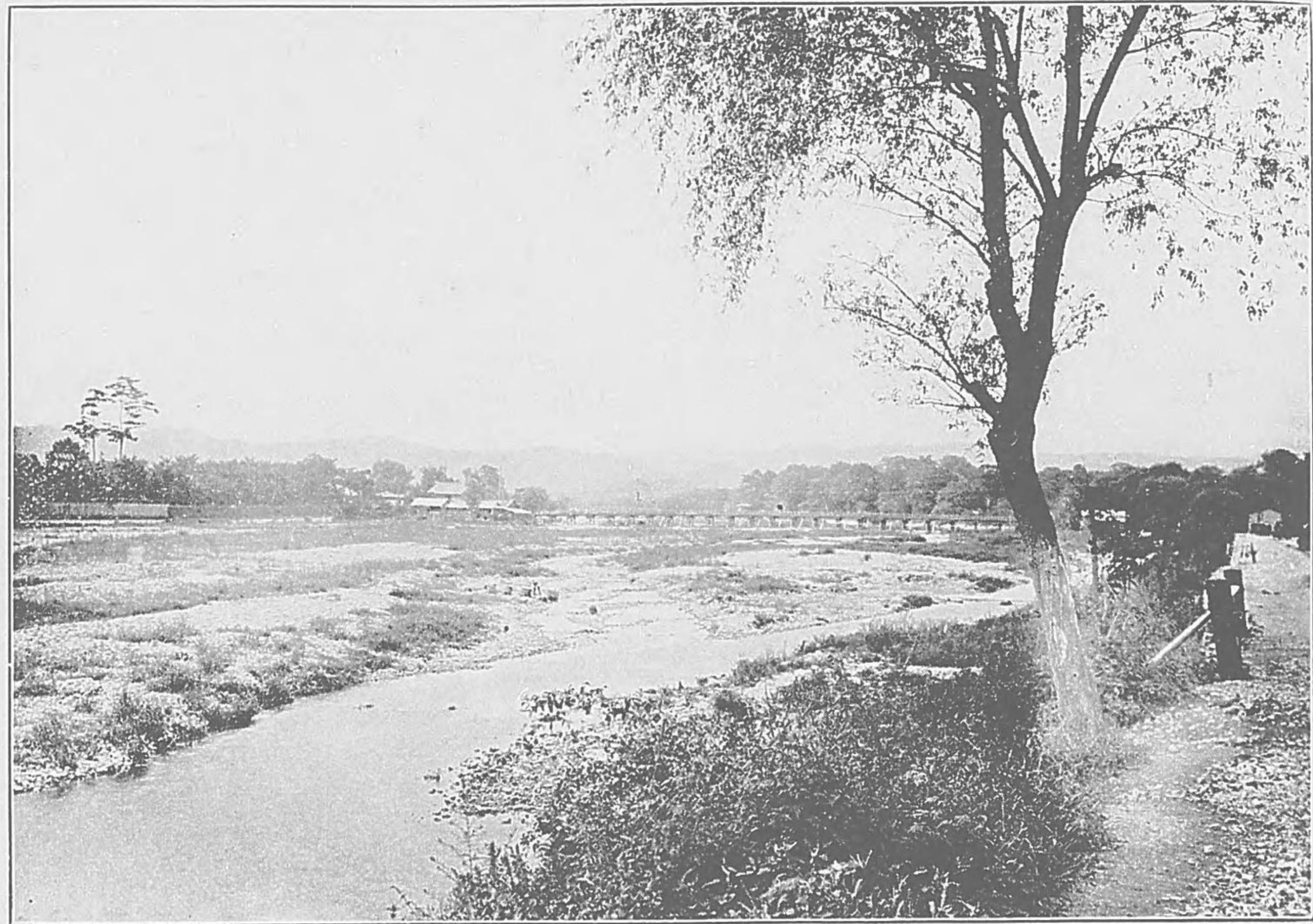


### 八二 都ホテル

三條通粟田口の東華頂山吉水園内に在り、大日本ホテル株式會社の事業にて地域二萬坪、建物總坪數二千五百坪現今百五十の客室を有し明治四十年中の宿泊人員三千五百餘人なり此旅館の後庭には三十九年三月來朝ありし英國皇甥コンノト殿下手つから植へられし記念の松樹あり

### 八三 京都ホテル

上京區河原町通二條南へ入舟入町に在り明治二十四年六月の創立にして資本金三十五萬圓を有す明治二十五年露國皇太子ニコラス殿下御滞在の時我天皇陛下の行幸あらせられたるを以て其名高く逐年客室を増築し百八十人の旅客を收容するに足るに至れり



#### 八四 加茂川

水源を愛宕郡の北部より發せし諸川下鴨に合して加茂川の稱を得京都の東部を貫流し水底砂石にして水質淨く潺々として東山の翠屏と相映し風景清麗なるを以て流れに臨みたる樓臺は遊觀の客常に絶ゆることなし

#### 八五 五條大橋

昔の五條通は今の松原にて當時は之を東海の本道とす今の五條橋は舊の六條坊門に當れり此邊東山に對する眺望に富み四時の繁華常に替ることなし

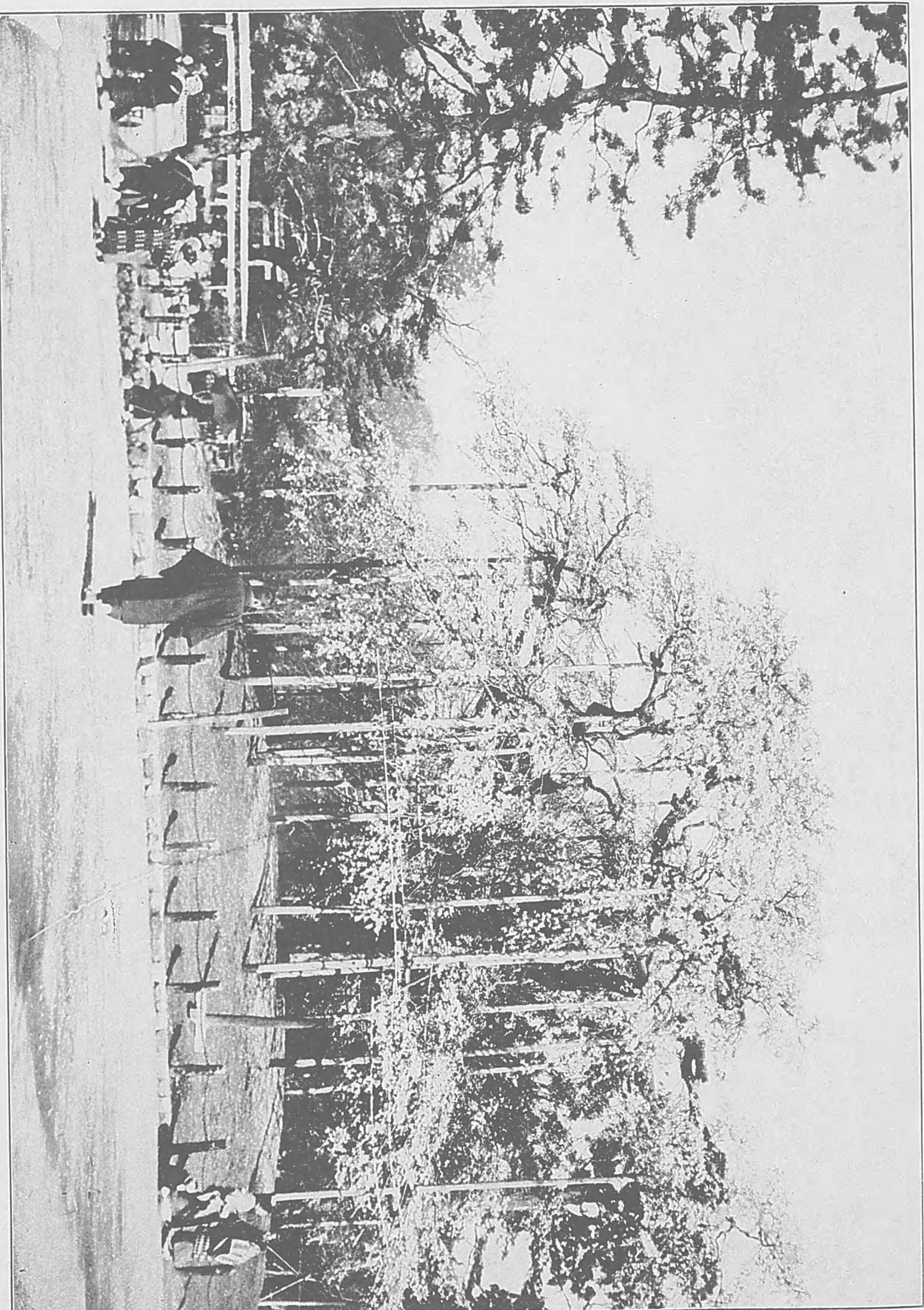
#### 八六 高瀬川曳舟

高瀬川は慶長中角倉了以の開通する所京都伏見間の運漕上に須要缺きかたき水路にして長三里餘運船數十艘日日絶えず之に衣食する者數百人近年其徒相計り了以の紀恩碑を立つ



東大谷八坂神社及び知恩院等の間一帯の地域を云ふ四時の  
勝景他に秀絶せるものあり殊に中央の丘上に在る一株の垂  
枝櫻は老幹榭材萬枝絲の如く垂れ艶陽の候香雪芳霧満園の  
美觀を呈し夜に入れば其下に篝火を點し紅燈を掲げて客の  
到るを待つ者ありて満都の士女競ふて樹下に群集觀賞す之  
れ有名なる祇園の夜櫻なり

### 八七 圓山公園



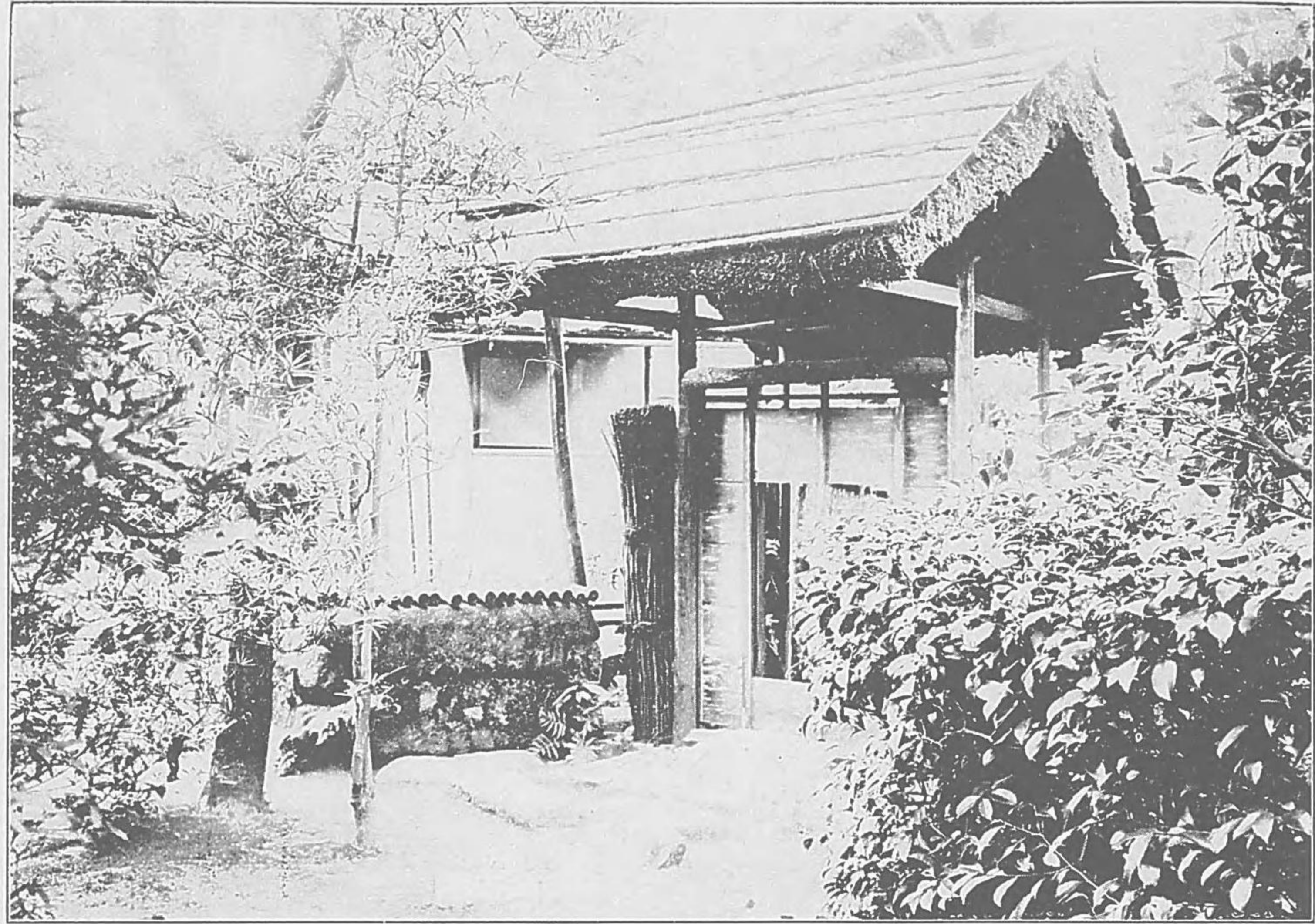


### 八八 若王子

若王子神社の在る所にして如意山の下なる  
溪間におり幽清閑雅にして岡あり、溪あり飛  
瀑に懸り清池碧を堪へ小亭其間に在り春  
の櫻花、秋の紅葉共に遊覽に適せり

### 八九 西行庵

圓山公園の傍に在り雙林寺に屬する小堂あ  
り西行の木像を安す、故に名く近年修理を加  
へ風雅なる茶寮を設けたり



### 九〇 不審庵

茶道千家の號にて上京區小川通上立賣に在り茶室、露次等風流數奇を盡し抹茶家の美稱する所なり

### 九一 將軍塚

東山華頂山上に在り舊傳に平安京鎮護の爲め延暦中偶人を埋められし所なりと云ふ山上の小阜に古樹ありしか近來大に其趣を易へ山上僅に逍遙に適するのみ

### 九二 藤原兼實公墓

下京區東福寺内に在り、近年大に修繕を加へ堂宇を築きて碑標を立て其事を記せらる

### 九四 耳塚

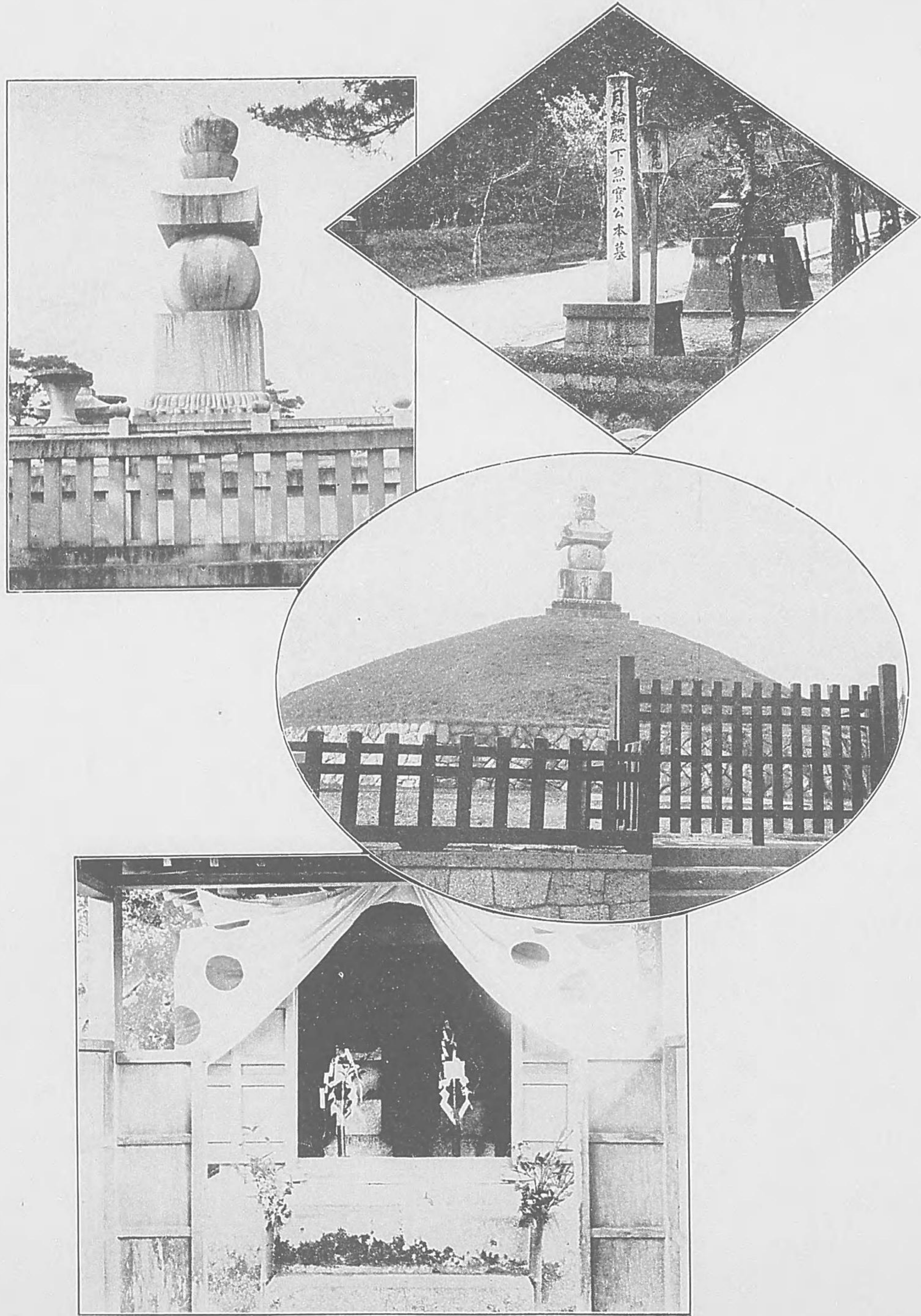
豊國神社の正面道路の南方に在り文祿征韓の役、諸將敵兵の首級を獲る數萬、即ち耳鼻を切りて實檢に供し、後鹽漬にして之を豊公に獻す公命して此處に瘞め上に巨大の五輪塔を置き大に供養し其靈を吊はしむ是敵國戰死の將士に對し平等博愛の主義を實行せしものにして豊公三百年祭に當り妙法院門跡大僧正寂順文を作り碑を立て其事を記せり

### 九三 豊臣太閤墓

阿彌陀ヶ峯の上にあり慶長三年豊公の薨するや遺骸を此に葬り大に廟宇を營み寺坊を建て莊麗を極めしか豊臣氏の滅亡後荒廢に委せしを王政復古、明治元年に至り朝廷豊公の功を追録し祠宇再興の命あり十一年現今の豊國神社を建築せしもの墳墓は尙ほ荒廢に委せしを豊公三百年祭を行ふに際し黒田、蜂須賀等の舊諸侯有志者と相議し豊國會を起し墳墓を修營し終に現狀を爲すに至れり

### 九五 細川幽齋墓

上京區南禪寺内天授庵に在り、別に墓屋あり夫妻相併ふ又畫像あり傍らに其傳を詳記し寺に藏せり



九六 池大雅堂墓

禪師の碑文を刻す

九九 圓山應舉墓

下京區錦大宮町悟真寺内に在り

九八 香川景樹墓

上京區聞名寺に在り、方柱狀にして高さ二尺一寸、面に從五位下肥後守松平朝臣景樹墓、左側に號寬參院悟阿在焉居士、背に明和五年戊子四月十日生天保十四年癸卯三月三十日卒すと刻す

一〇一 山崎闇齋墓

上京區金戒光明寺文珠堂の北にありて東面す、碑高四尺許、山崎嘉右衛門敬義の墓、背に天和二年九月十六日と刻す

九七 皆川淇園墓

上京區寺町頭阿彌陀寺に在り、面に小篆にて處士皆川弘道先生と書す別に碑あり墓に面して立つ高六尺、門人松浦侯の撰文にて膳所侯の書、詳細に弘道先生の傳を錄す

一〇〇 藤原惺窩墓

上京區今出川相國寺内林光院墓域に在り、元和五年九月十二日惺窩先生歿す、林光院は其舊栖なるを以て此に葬る、舊來一株の榊を其上に栽る、枝葉翁蔚たりしか、明治二十一年有志碑を立つるの舉あり、其枝を剪伐し其背に鞍馬石を立て表に惺窩先生之墓、背に明治二十一年以恩賜金建之碑面集石川凹之寫と刻せり



一〇二 中山愛親

卿墓

上京區盧山寺内に在り別に碑ありて詳かに其傳を記せり

一〇四 頼山陽墓

下京區長樂寺山にあり別に副碑あり其贈位の宣文位記を録せり其側に其子三樹醇の墓あり

一〇五 玉松操墓

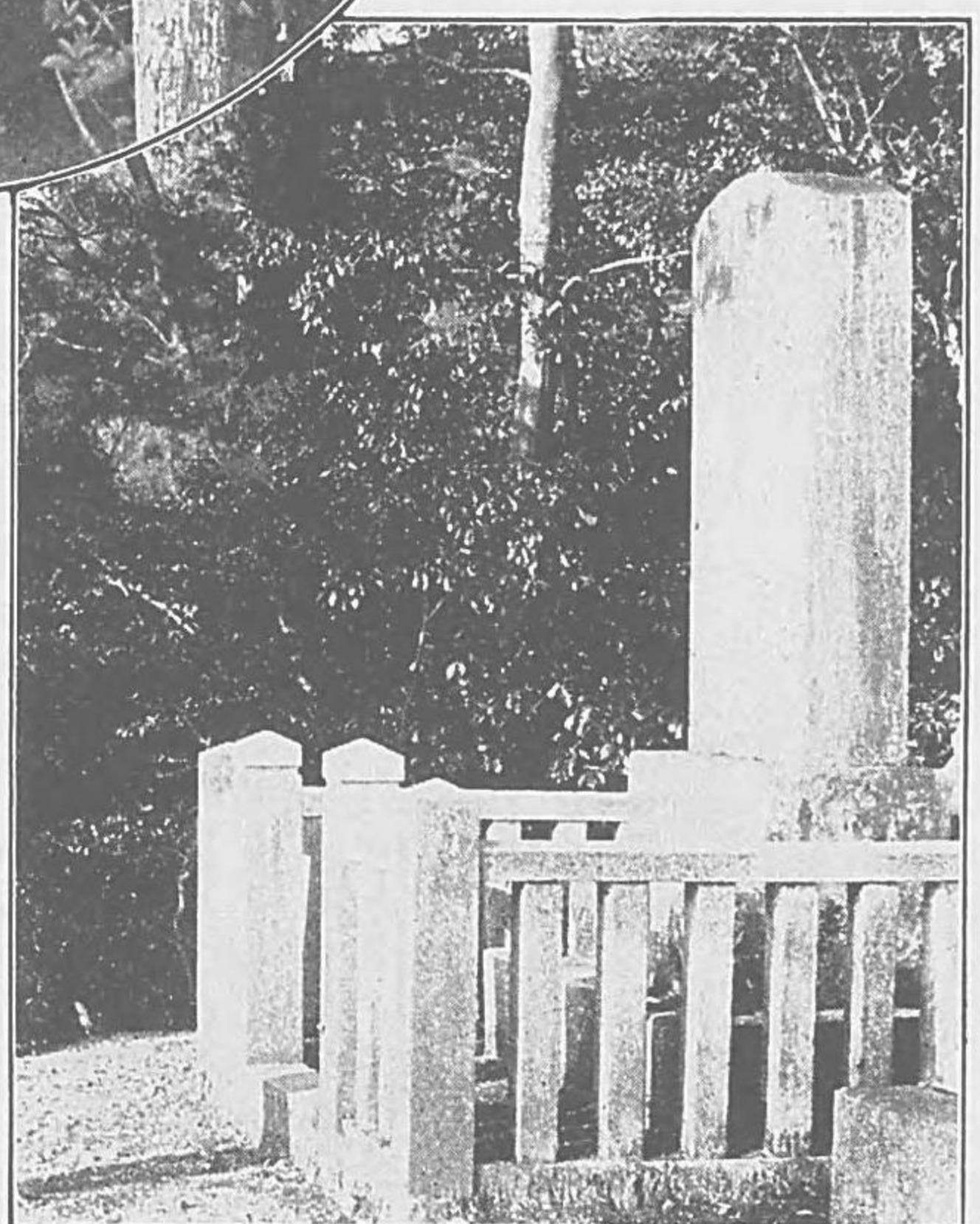
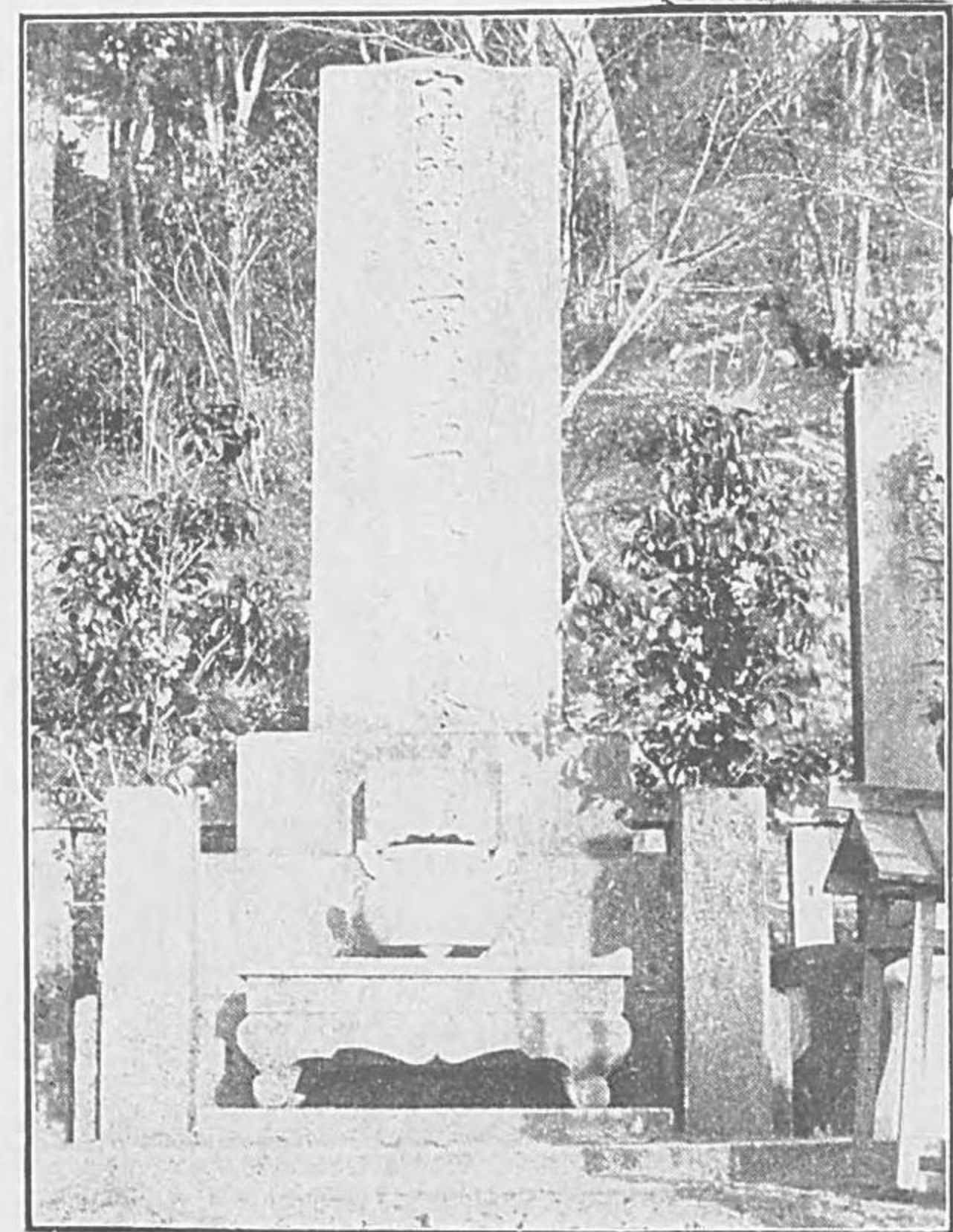
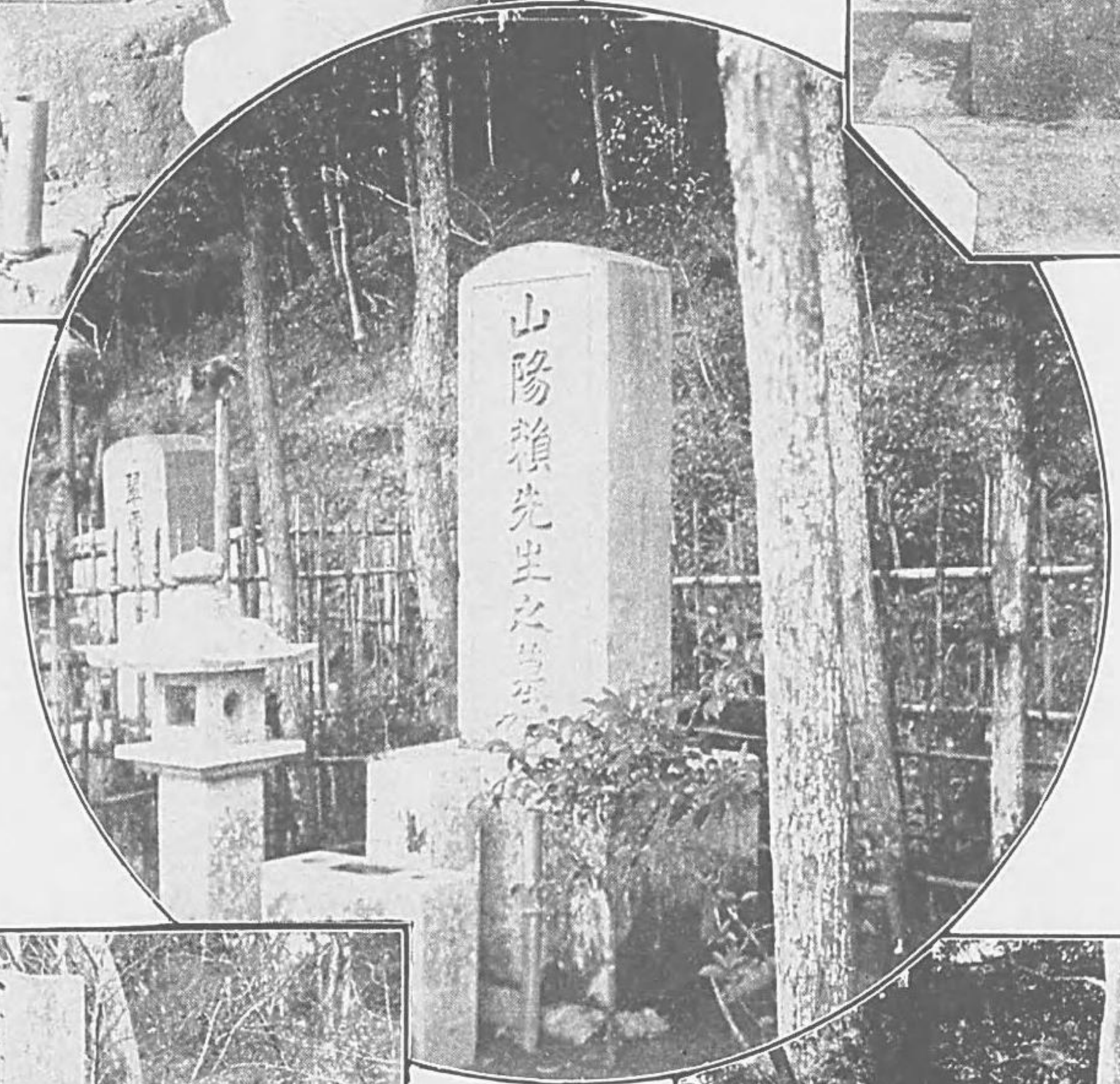
名は眞弘從四位下山本公弘の子、初め僧となり後還俗す岩倉公を輔け大政復古の偉業を策す侍講に任せられ明治五年卒す靈山に葬る碑あり其事を記す

一〇三 梁川星巖墓

上京區南禪寺内天授庵にあり其妻紅蘭女史の墓と相併ふ

一〇六 木戸孝允公墓

靈山に在り、公明治十年京都市に陪從中病重く五月十九日天皇親く病床に蒞ませ給ふ越て二十六日終に薨す年四十四、靈山に葬る

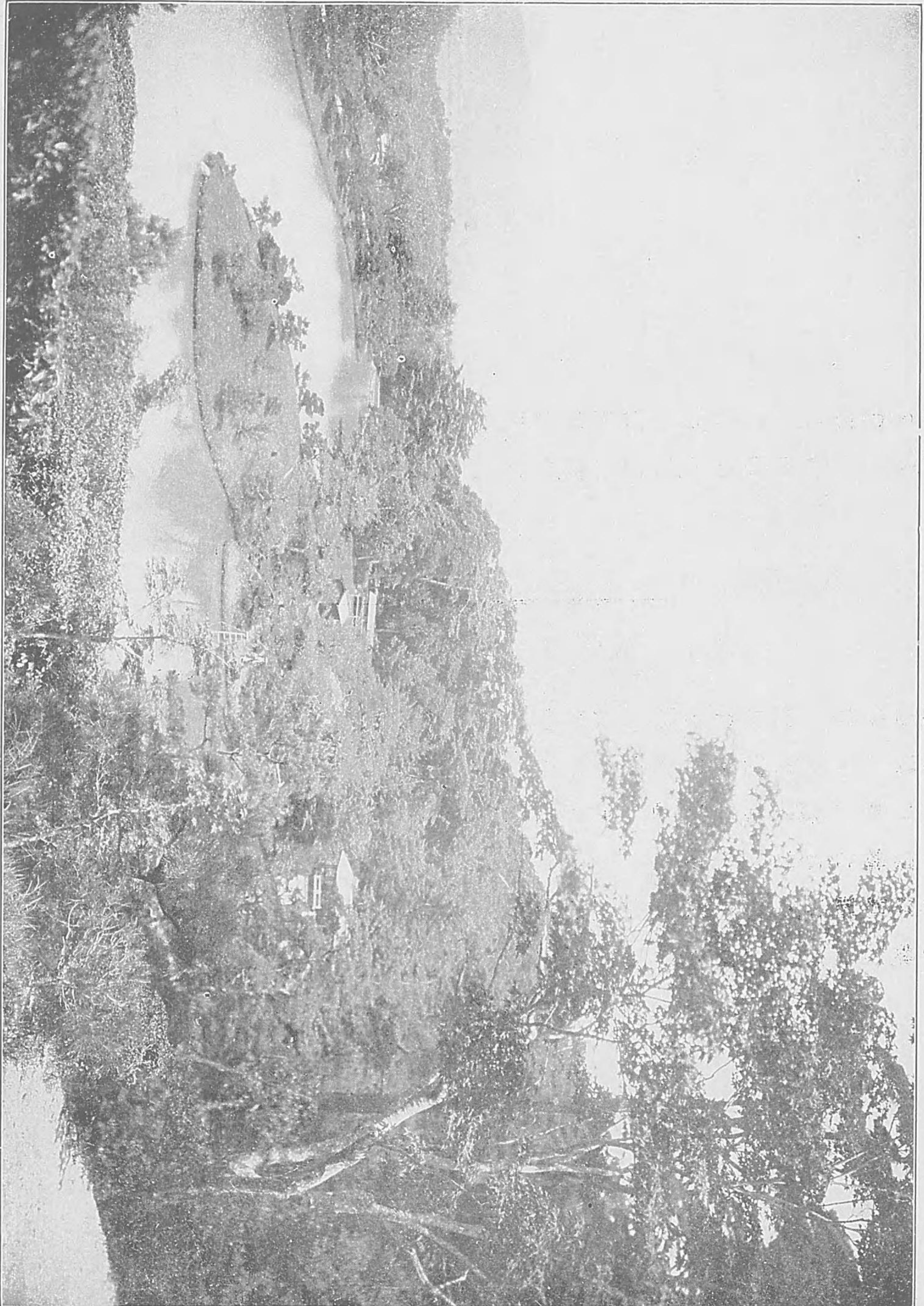


○ 修學院離宮

愛宕郡修學院村に在り、東は叡山を負ひ西南京洛を望み高爽開豁、泳泉の勝亭樹の觀音備はれり、三所に分れ上中下の離宮と云ふ、此離宮は承應年間徳川幕府が、後水尾上皇の御慮を感じ奉るため新たに構造せしものにして上皇東福門院と時御幸あり、靈元上皇も屢、御幸ありて宸記あり、光格上皇の時大に修理を加へ御幸あり、維新後一旦荒廢せしを近年定めて離宮となし、大に山林土地を購入し宮殿林泉を修營せられたり

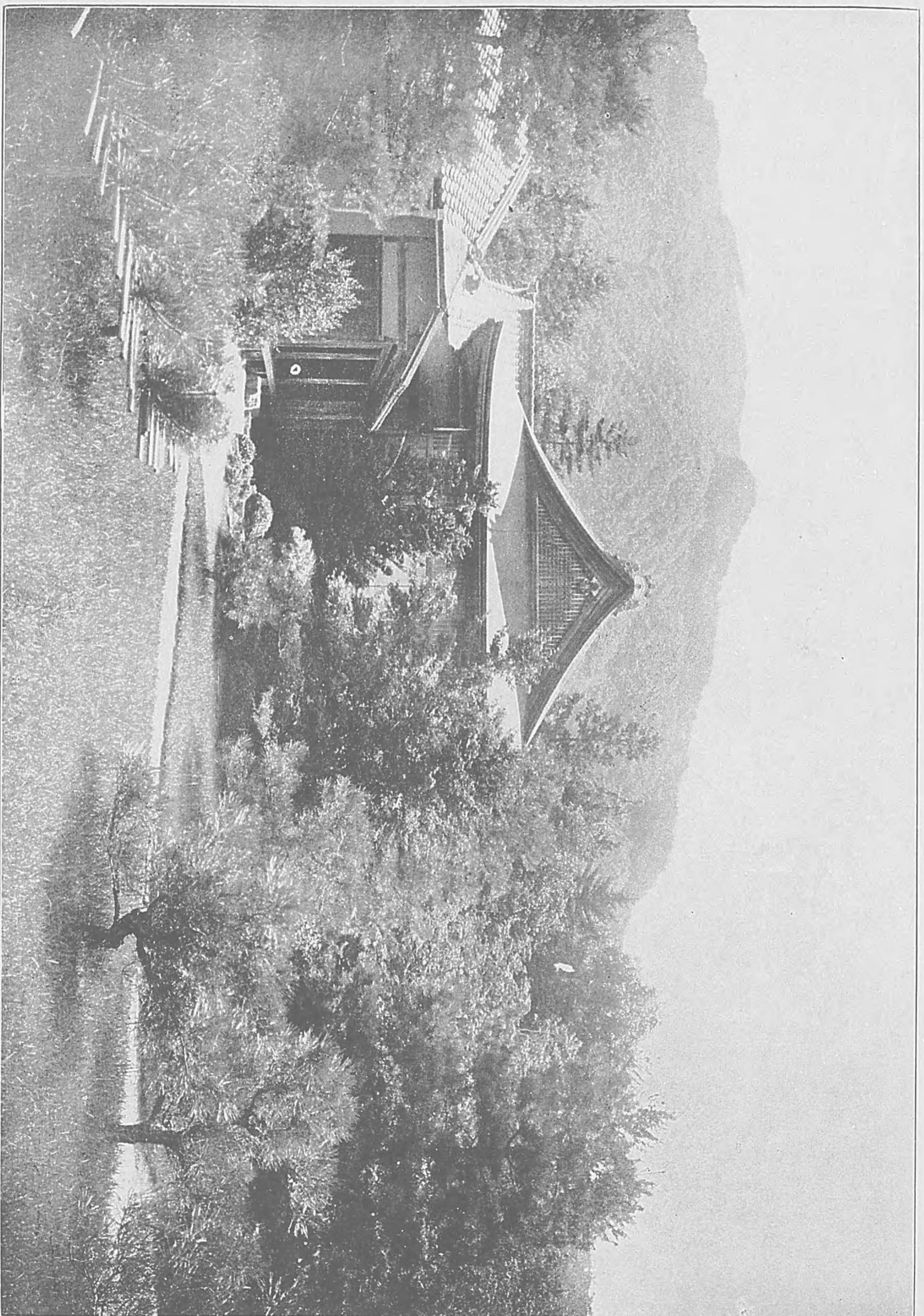
一〇七 上離宮

山に倚り谷を包み地勢高爽にして樹林花卉飛瀑、清池の間に隣雲亭洗詩臺、窮遠軒等あり、風流清雅にて眺望亦宏敞、紅葉の時を最も宜しとす



### 一〇八 中離宮

上離宮の南西に在り、舊時の離宮は林丘寺宮光子内親王に賜ひ禪寺となせしか、維新後其半を獻納し更に離宮となす、樂只軒は後水尾上皇の御殿にして又東福門院の御殿等あり





### 一〇九 下離宮

上離宮の下にあり、亦林泉の趣に富み亭を壽月觀といふ、三離宮の間なる土地を宮内省に御買収ありて其正門を此に設けらる





一一〇 京都府師範  
學校

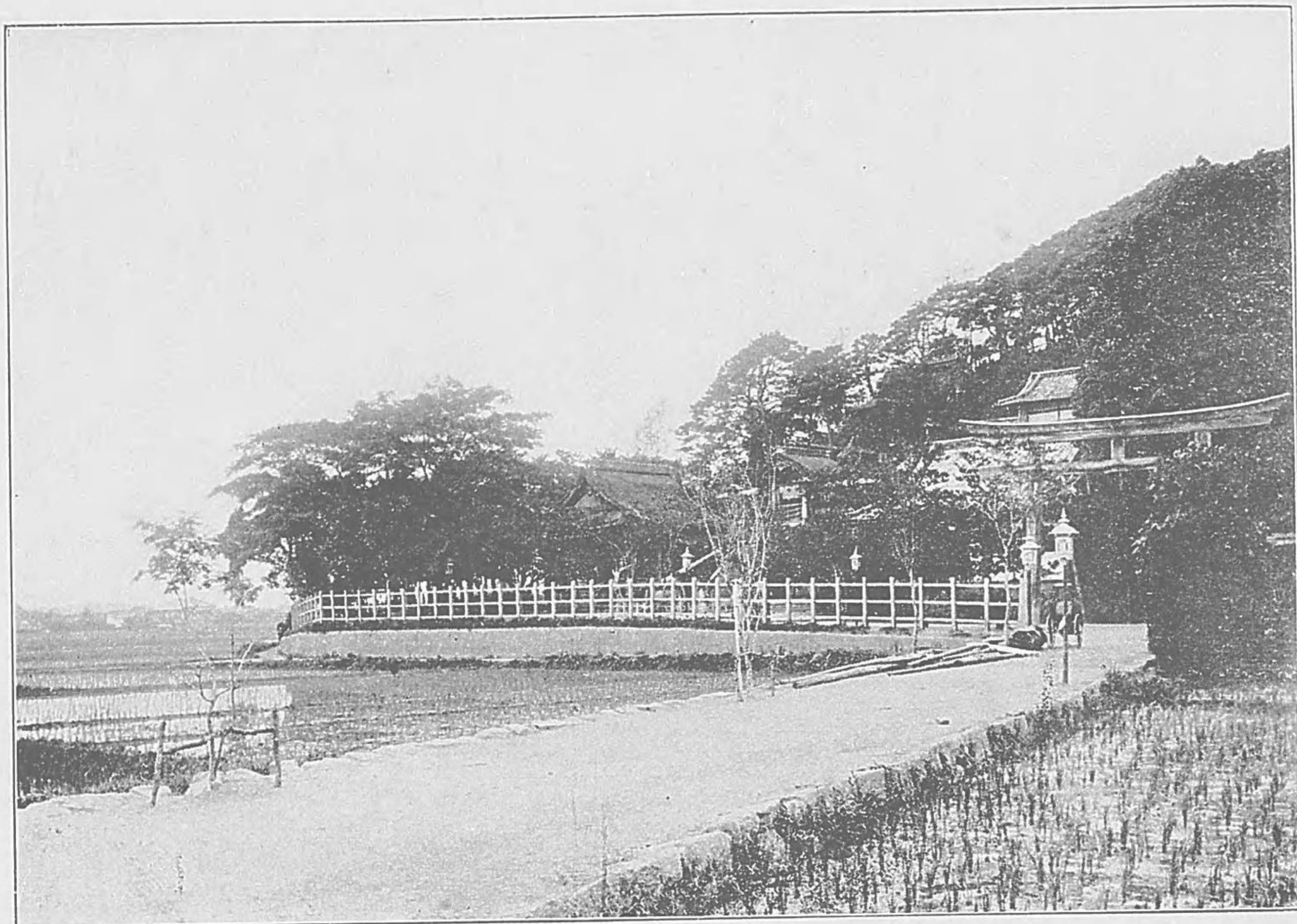
愛宕郡上賀茂村に在り、明治九年上京區舊准后里御殿をトし假校舍に充てたるを以て創始とす、其後現時の府立第一高等女學校所在地に移轉し明治三十四年今の地に移築す、建坪四千九百八坪、在學生徒三百六十名、開校以來の卒業生各科通計三千五百二十九名に達せり

一一一 賀茂別雷  
神社

愛宕郡上賀茂村に在り、官幣大社にして賀茂別雷神を祭る、御祖神社と共に古來朝廷の御崇奉最も厚く、伊勢神宮に次ぎ官幣大社の首位に在り、桓武天皇延暦遷都の時特に此神を京都の守護神とし先づ此に行幸あり、其後歴代の御尊崇奉からす、今上陛下も數回行幸あらせられ、皇后陛下、東宮殿下亦行啓あらせ給ふ、例祭は五月十五日にして御祖神社と同じく古式を以て行はる所謂葵祭なり、本社には競馬あり、其儀最も盛んなり、社地も廣大にして山谷を包ね古樹鬱蒼清川滌滌たる神地なり、社殿の構造古式に則とり多くは特別保護建造物なり、又古文書、舊記等多し

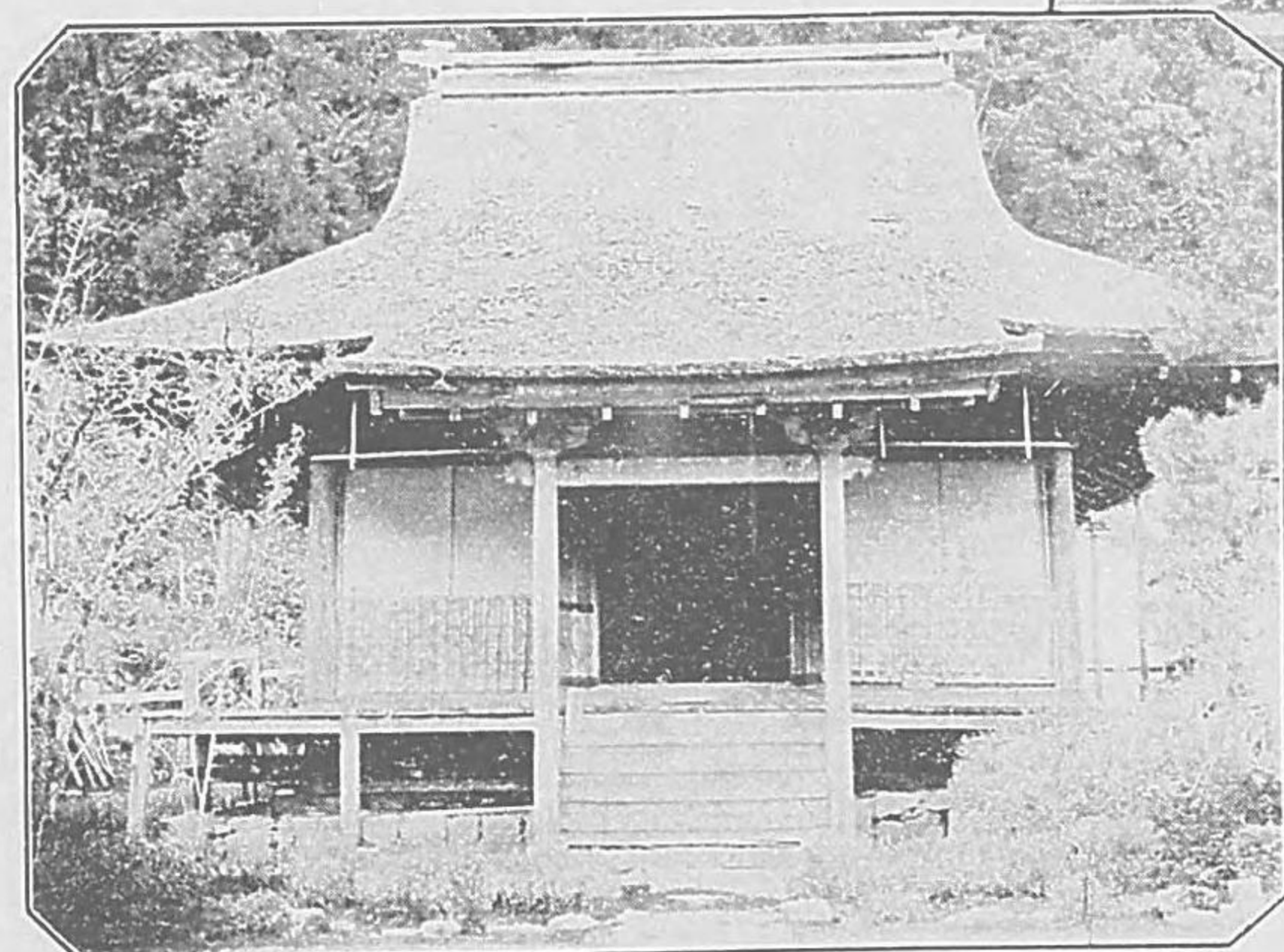
一一二 賀茂御祖  
神社

愛宕郡下鴨村に在り、官幣大社にして鴨健津見命玉依媛命を祭る、其創立山緒は上賀茂別雷神社に同じ朝廷の御崇敬總て兩社皆同じ、殊に孝明天皇の攘夷御祈願のため、兩社に行幸ありしは、人能く知る處なり、例祭は別雷神社と同じにして、本社には御蔭祭あり、其儀古式にて行はる、本殿其他建物多く特別保護物たり、其事別雷神社に同じ



一一三 建勳神社

愛宕郡大宮村舟岡山の東端に在り、織田信長公の靈を祀り、信忠を合祀す、別格宮幣社なり。此地は天正中豊太閤か公の爲に天正寺を建てんとせし縁故により、此に本社を建てしと云ふ、維新の初め朝廷公の舊勳を追賞し、東京なる織田家の邸に社を設けしめられしを後に此に移したるなり。

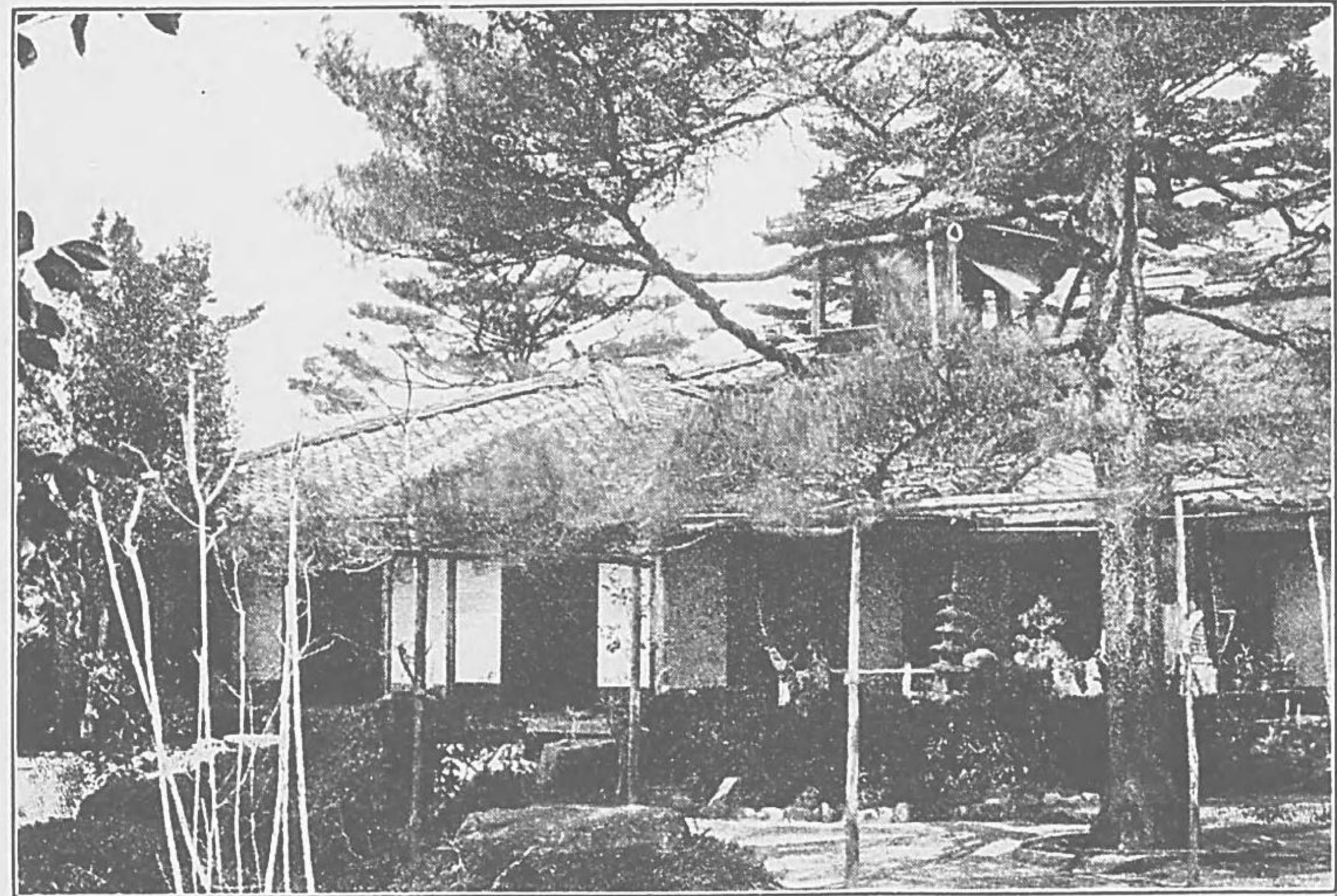
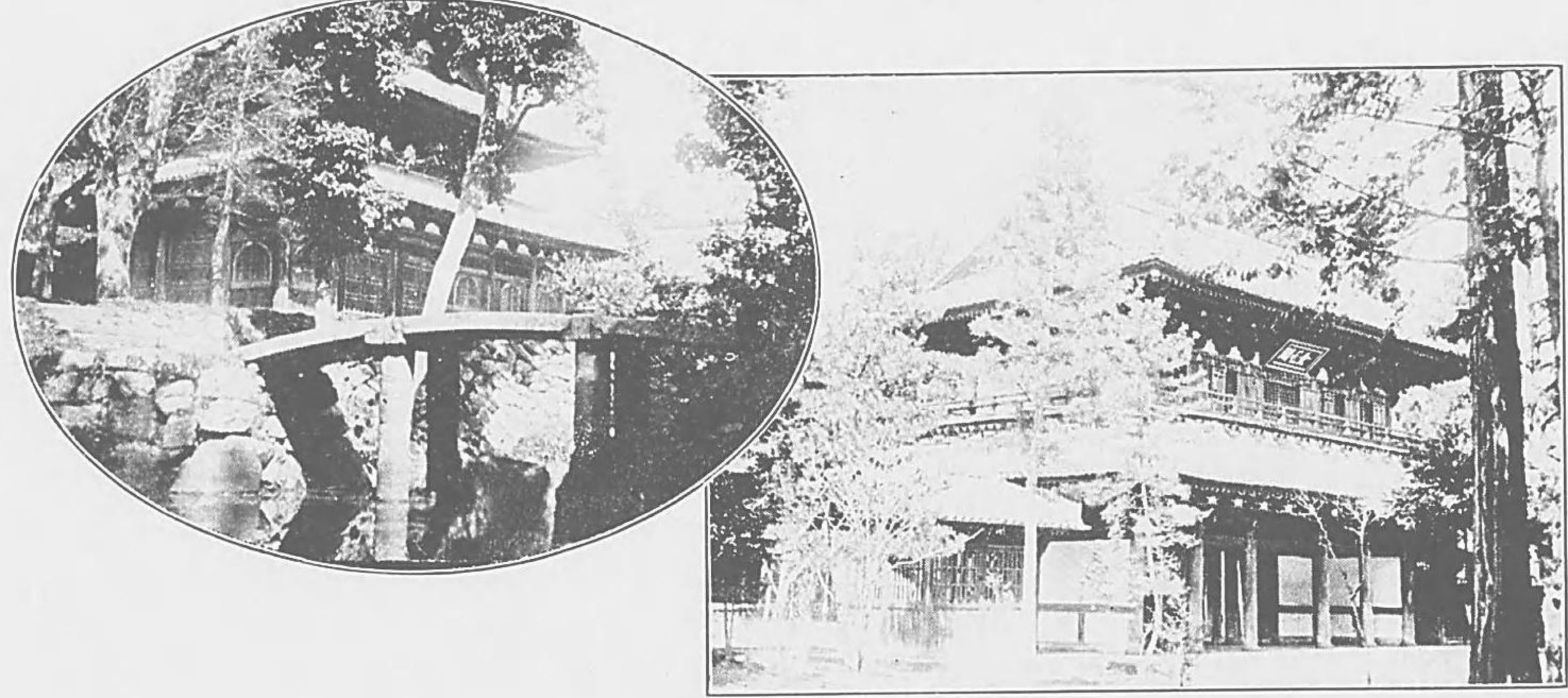
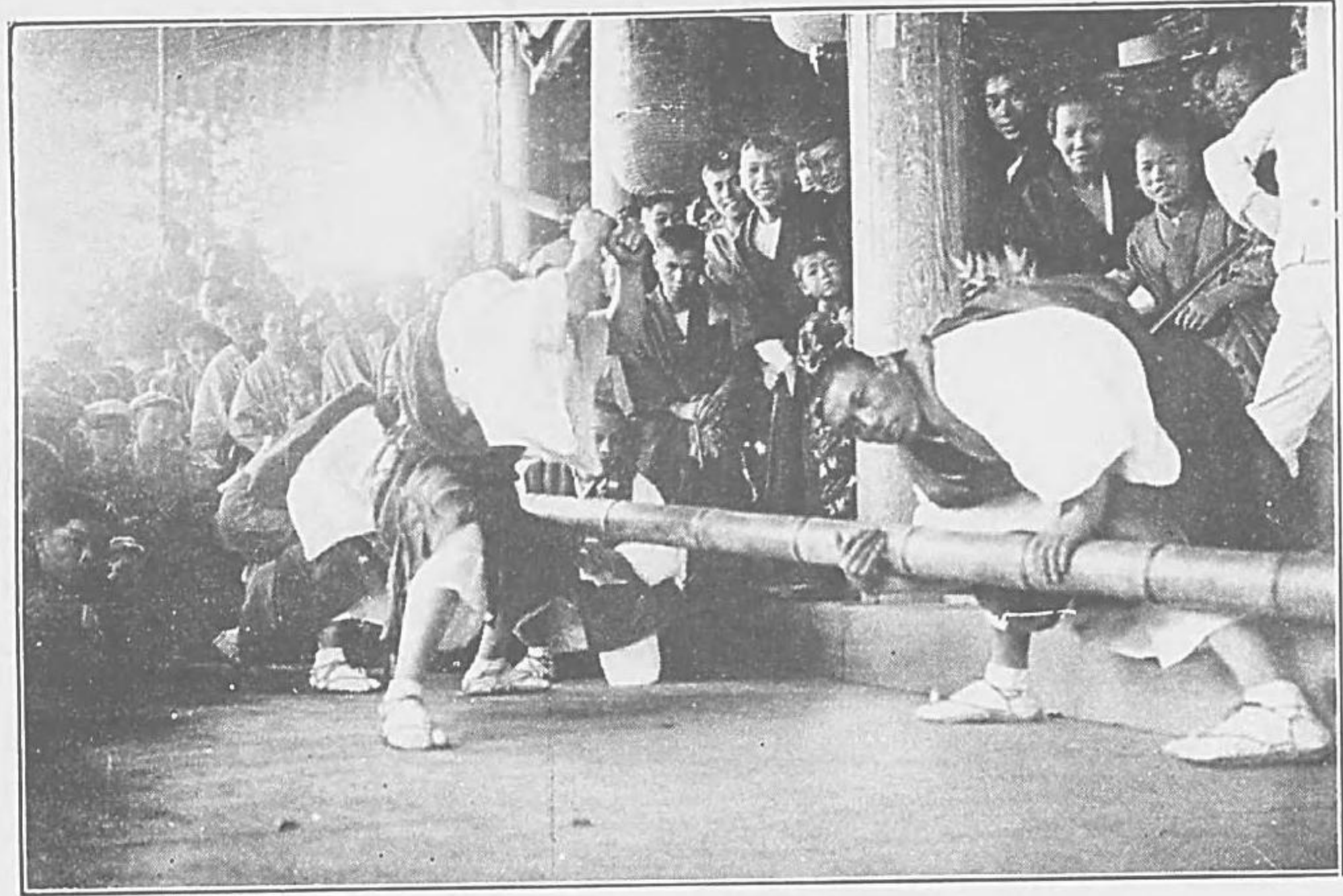


一一四 三千院

大原村に在り、天台宗の門跡寺院にて、即ち梶井宮なり。此地に來迎院、勝林院あり。大原寺と云ふ聲明の本源地として、佛界の靈境たり。三千院此に移るに及ひ、益著はる。其本堂極樂院は、惠心僧都の時の建築に係り、其三尊は僧都の心主靈佛なり。佛像は國寶、建物は特別保護建造物たり。寶物古文書多く、境内又櫻花紅葉に富み、山に音無の瀧あり。古人の遺跡多し。

一一五 寂光院

大原村草生にあり、天台宗の尼寺なり。寺傳に聖德太子の創立といふも、詳ならず。建禮門院の終焉の地、後白川法皇御幸の所にて、其名も史書に著はる。門院の御陵及大納言佐局の墓あり。大原御幸の記中の舊跡猶存し、千古の感慨深き所なり。



### 一一六 鞍馬寺

鞍馬村鞍馬山に在り、天台宗なり寶龜年間の創立にして屢、變遷あり朝家の崇敬深く寺門隆盛、京北の名刹なり山高く谷深く老杉天に參し幽邃なる靈境なり

### 一一七 大徳寺

大宮村に在り、禪臨濟宗の本山五山の一たり後醍醐天皇の朝、大燈國師の開基にして正中元年の創建にして其後屢、隆替あり應仁の亂後一休和尚之を再興し爾來繼承して今日に至る洛北の巨刹たり建物には特別保護建造物多く什寶には國寶及貴重の舊記什物等少からず又名賢の墳墓多し

### 一一八 詩仙堂

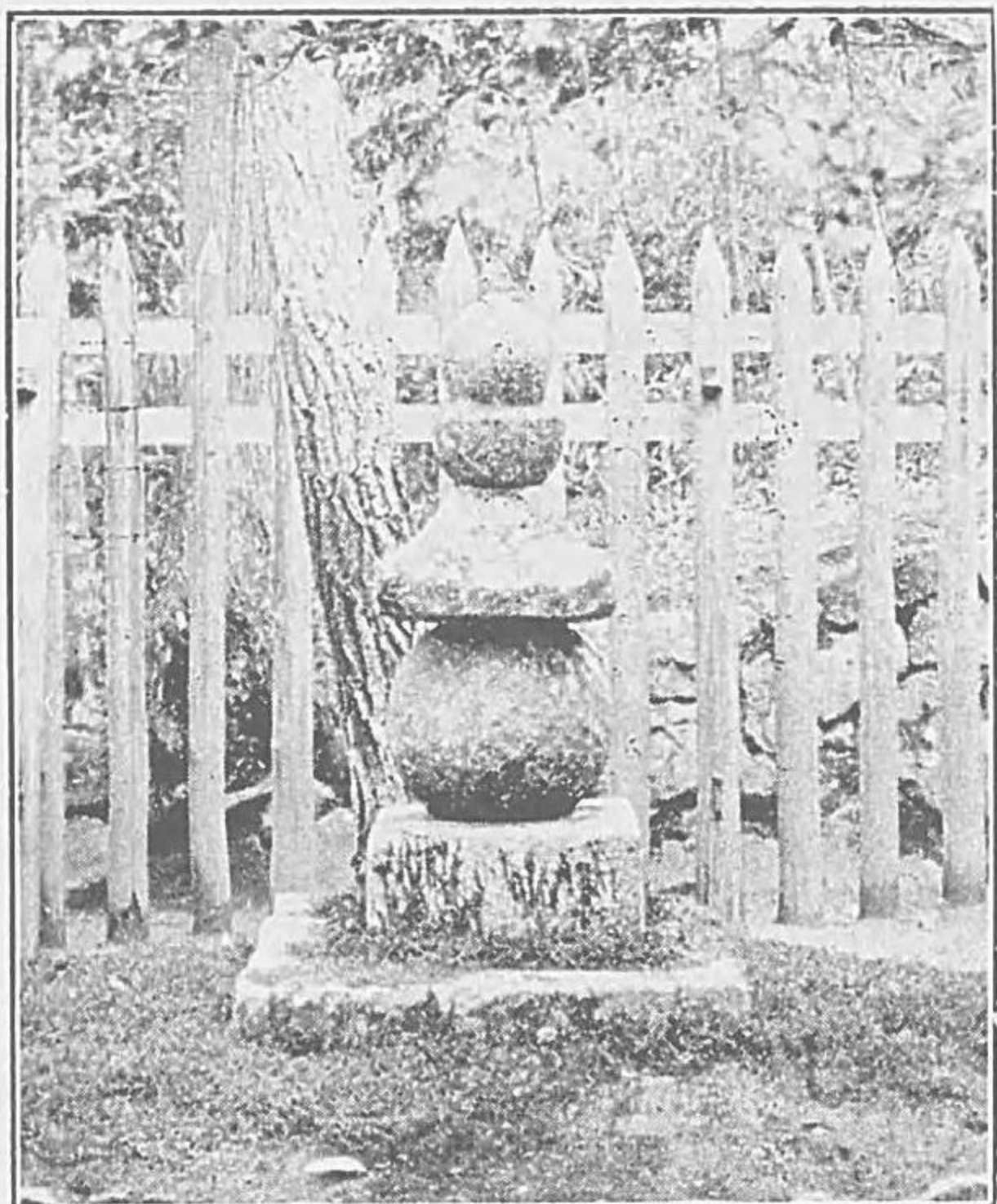
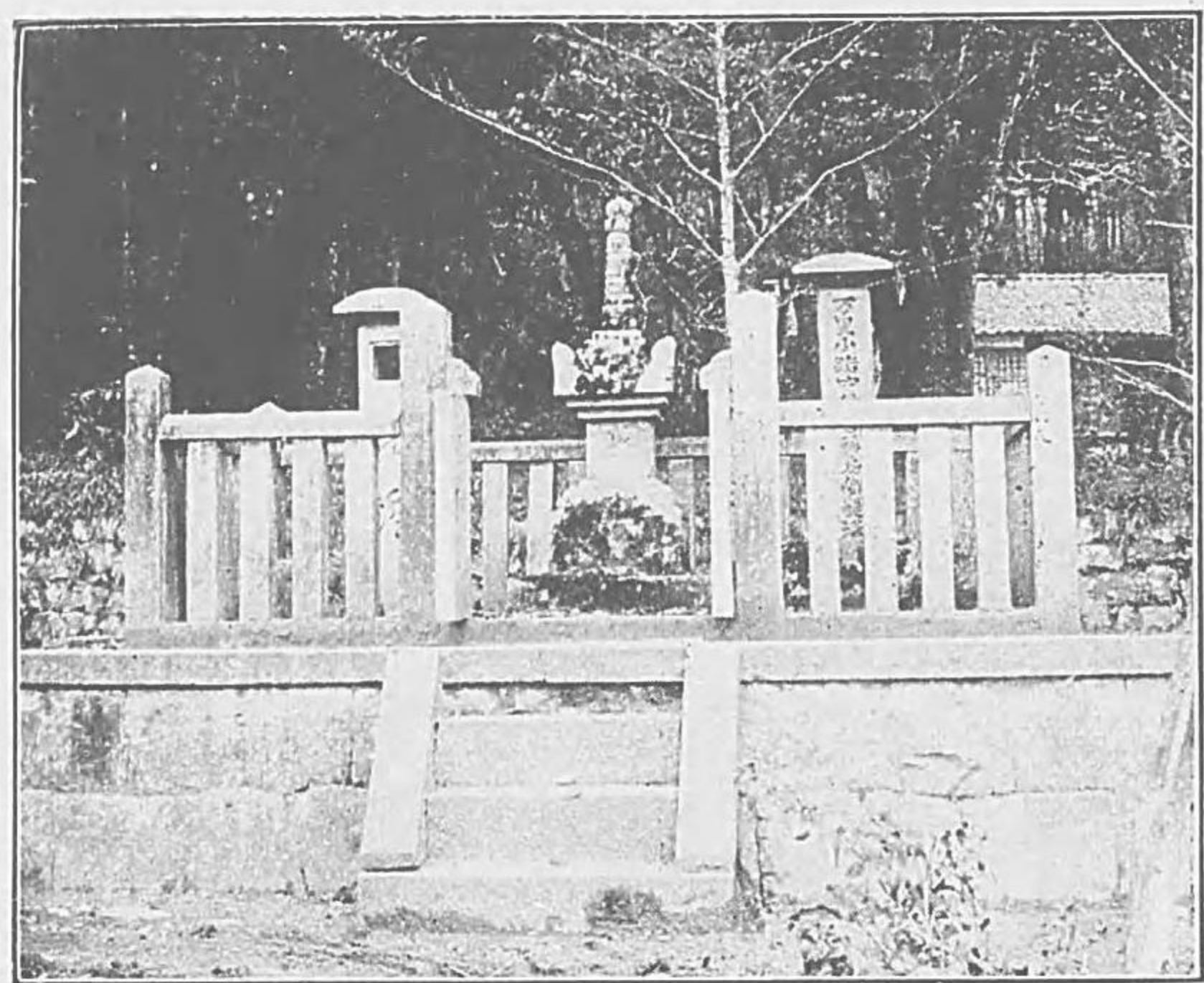
石川丈山翁隱栖の處にて修學院村一乗寺に在り、地勢は高爽清雅建物は風流瀟洒、嘯月樓、詩仙堂、樓閣等種種の唱あり皆翁の命する所、樓上眺望快豁なり丈山の遺物多し

一一九 惟喬親王  
御墓

大原村小野山下にあり、親王既に藤原氏の志むところとなり入道して此地の清閑を愛し草庵を結ひ閑居し上表して封戸を辭す清和天皇特に勅して允し給はさりし事あり大に當時の事情を見るへし在原業平は獨り舊誼を忘れず雪を踏て參候し國歌を詠せし所なり舊跡は稻荷と稱し御墓は其南にあり昔むしたる古輪塔を存す

一二一 藤原藤房  
公髮塔

岩倉村大雲寺不二房の下に在り、卿の世を棄て剃髮せし舊址なりといふ近年有志者更に碑を立て其事を表した



一二〇 小野篁墓

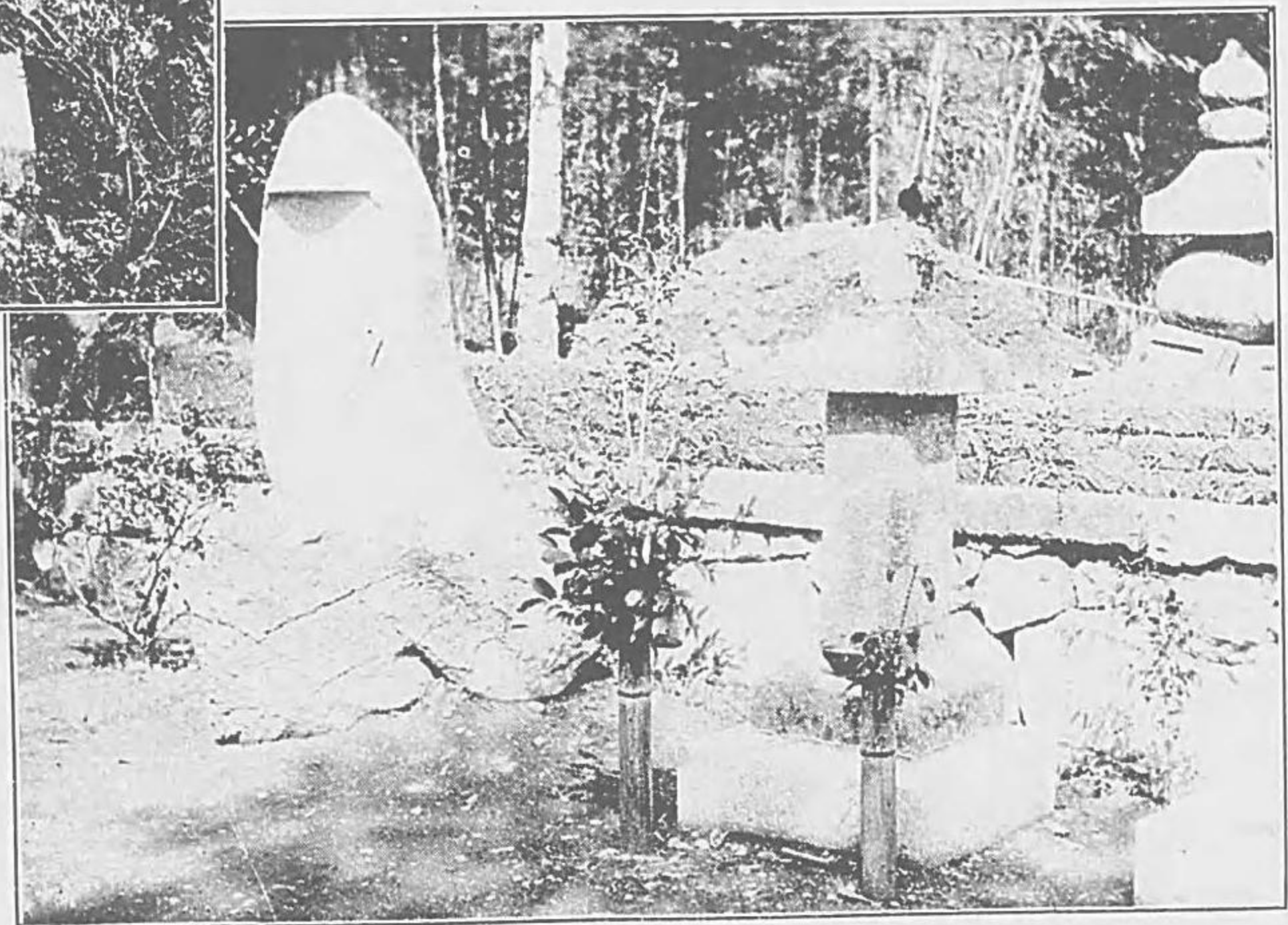
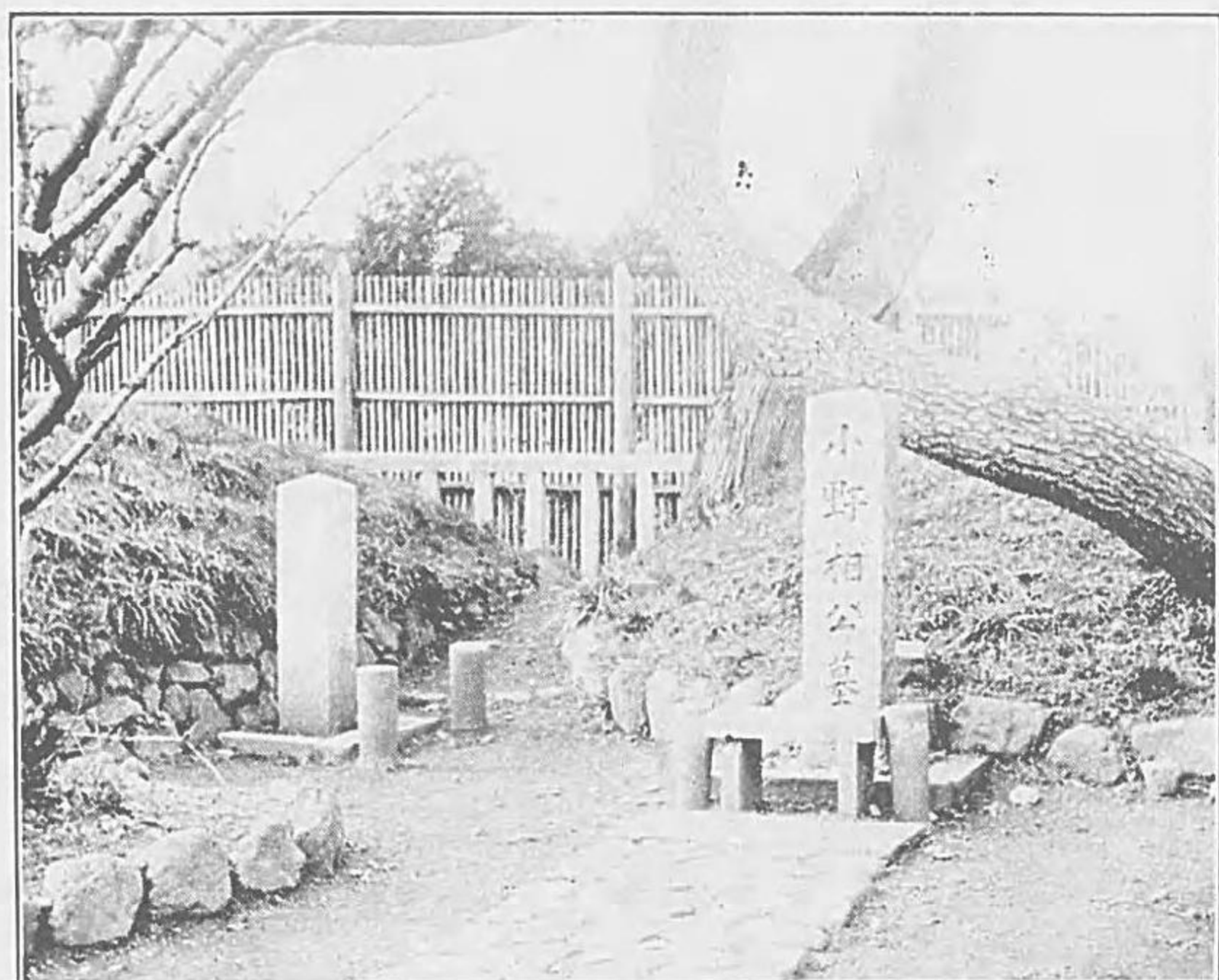
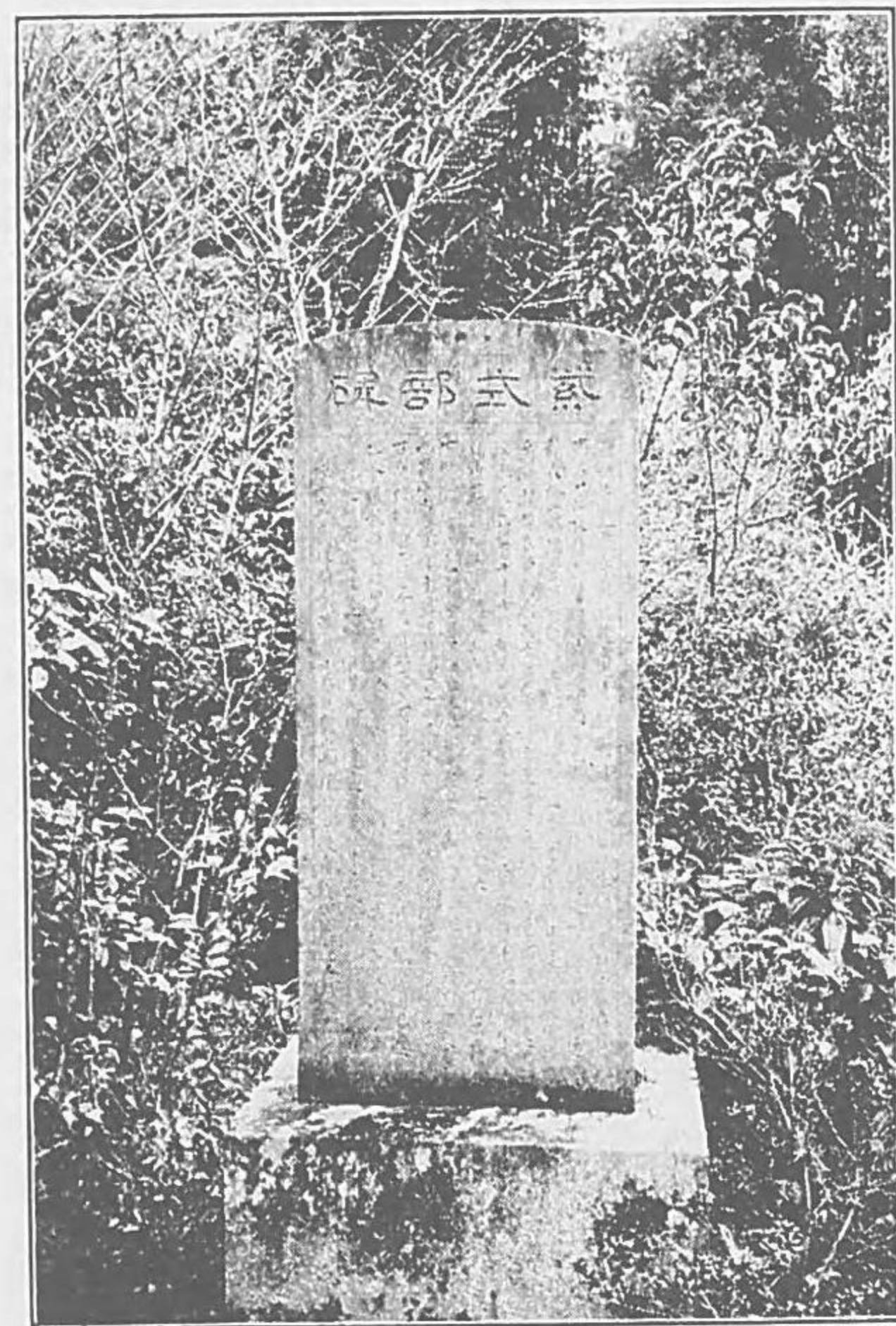
大宮村にあり、篁の後胤加賀藩の家老横山氏碑を立て之を表したり

一二二 紫式部墓

小野篁の兆域内にあり僅に其形を存せり碑は別に大徳寺中に在り詳に其由を記したり

一二三 石田三成墓

大徳寺内三玄院墓地に在り客年東京朝吹英二發起改葬し更に碑を立て其由を記せり



一二四 蒲生氏郷墓

大徳寺内舊昌林院墓地に在り、氏郷聚樂第に薨し蓮臺野に茶毘し此に葬り寺を建て昌林院といふ即ち氏郷の法號なり、現時院廢し塔失はれ他の塔を其上に置きたり

一二六 小堀政一墓

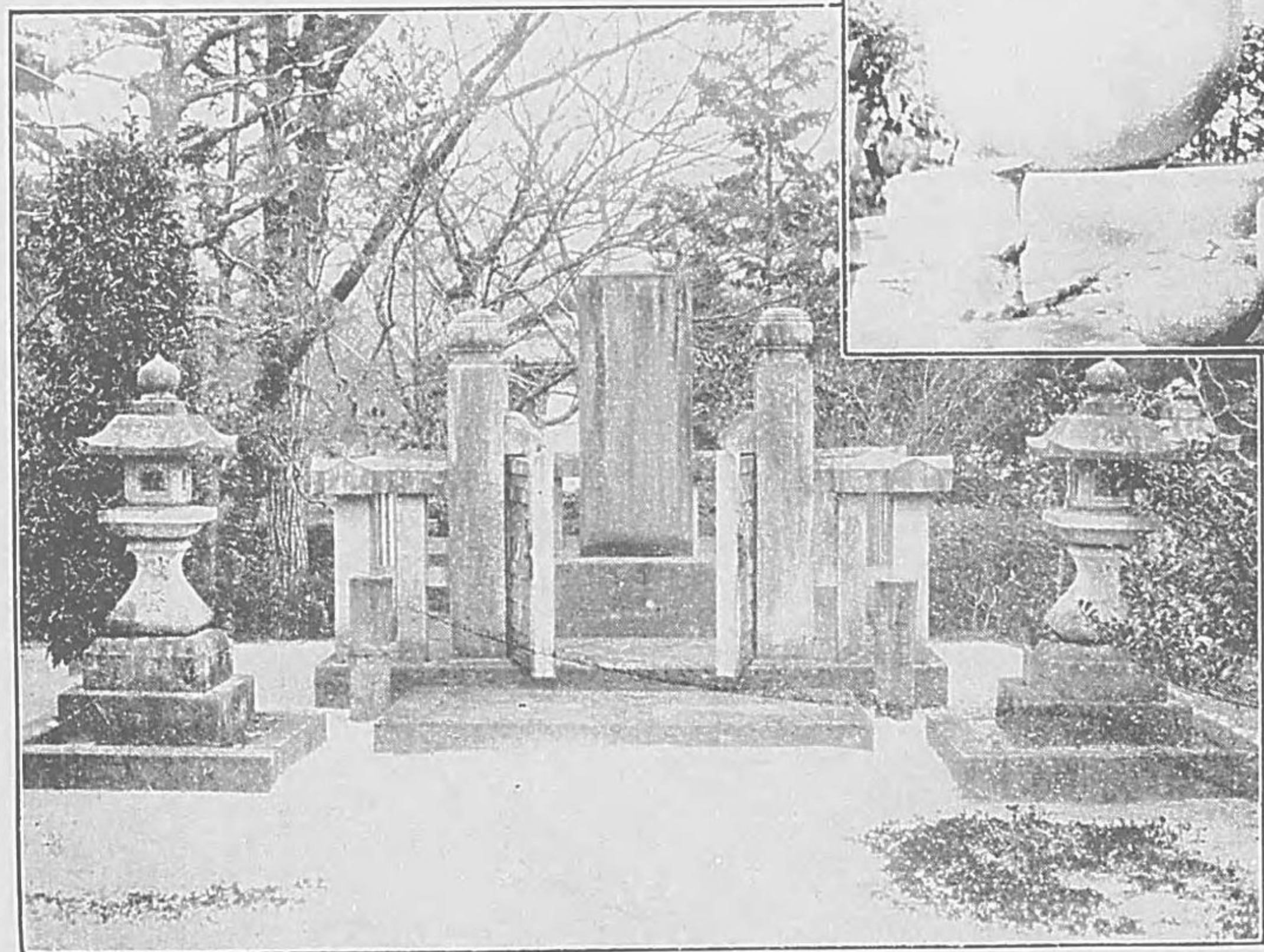
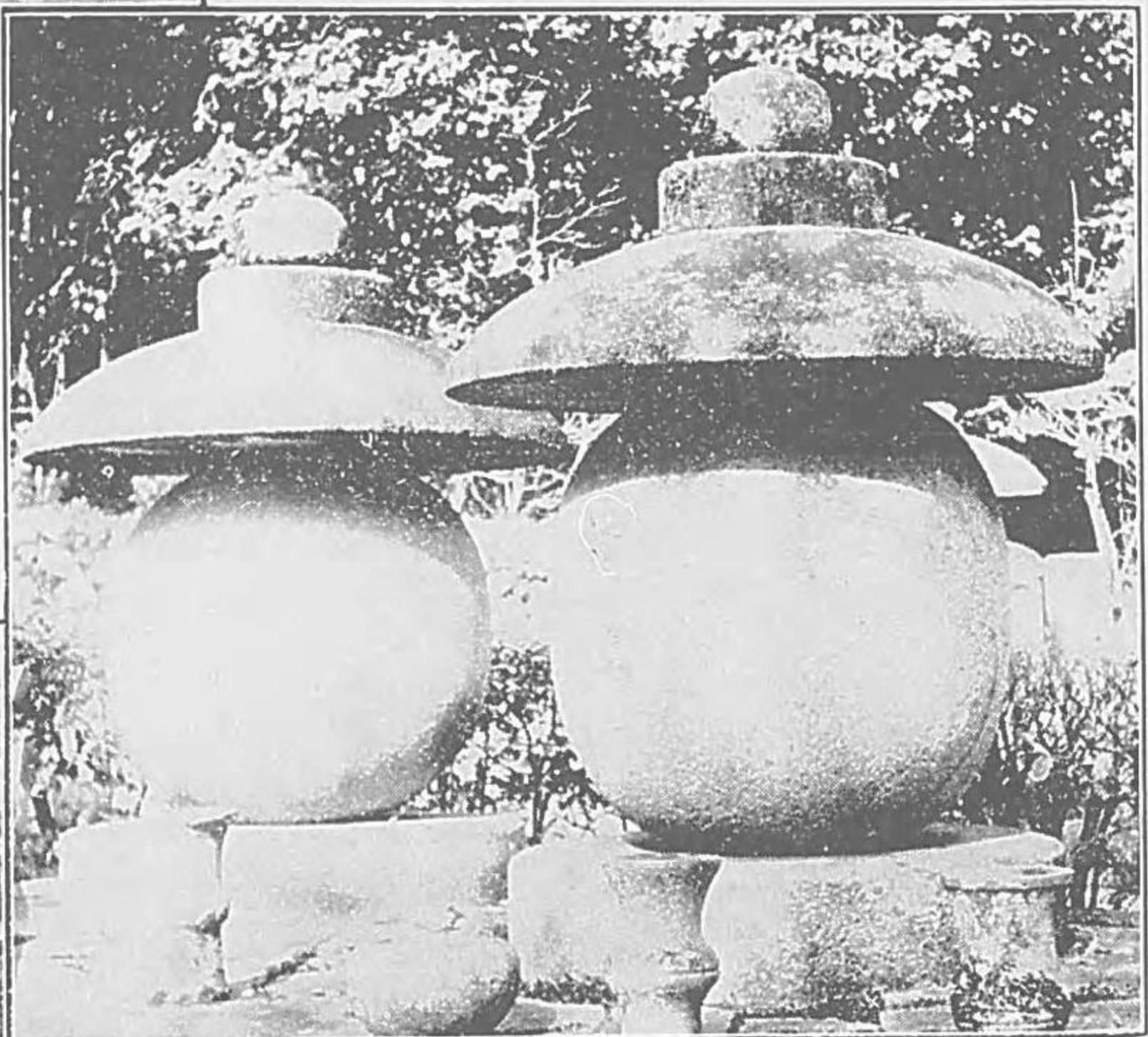
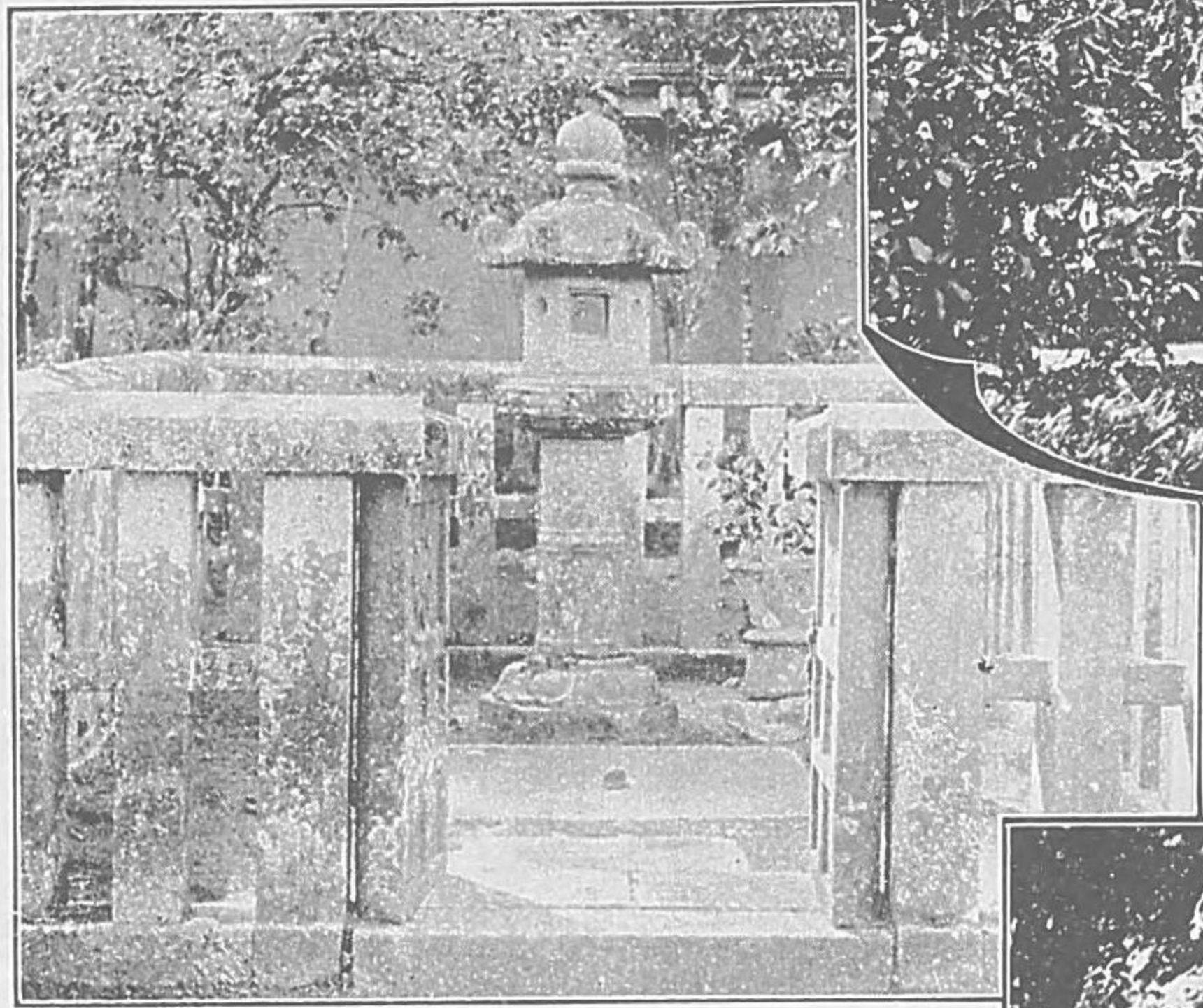
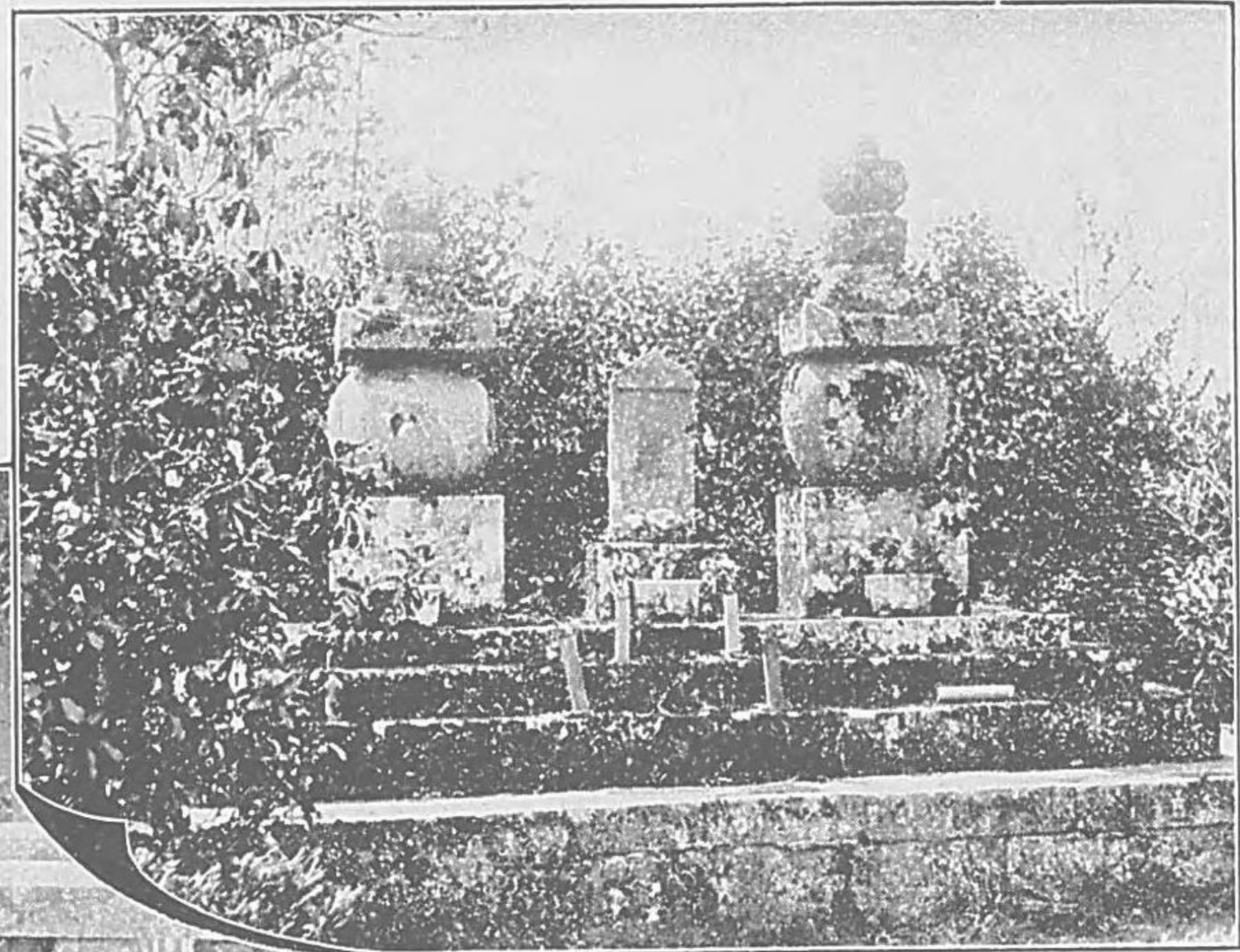
大宮村大徳寺内孤蓬庵に在り、庵は小堀遠州が最も肝膽を碎き建立せしものにして世上著名のものなり因て墓を此に建つと云ふ

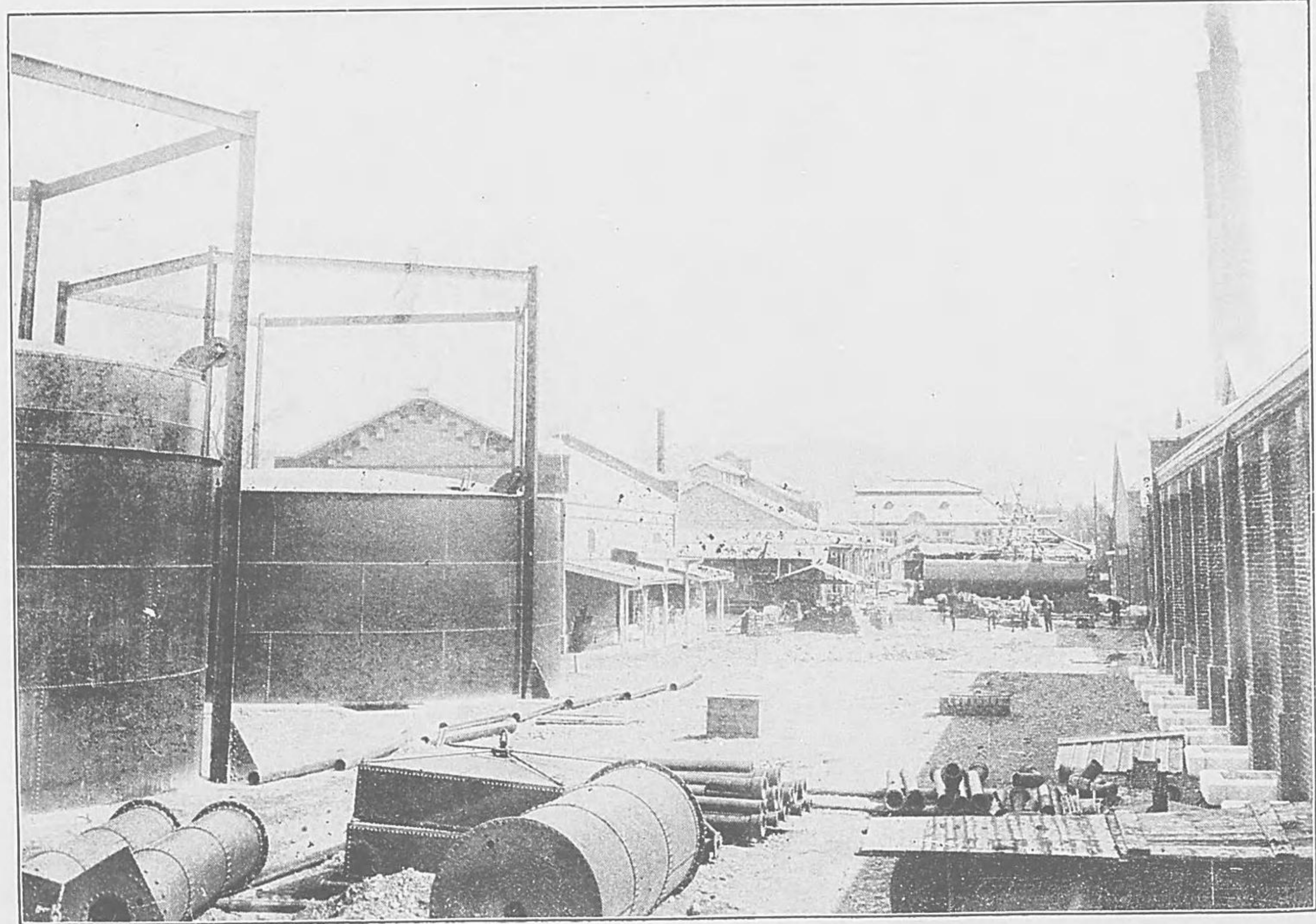
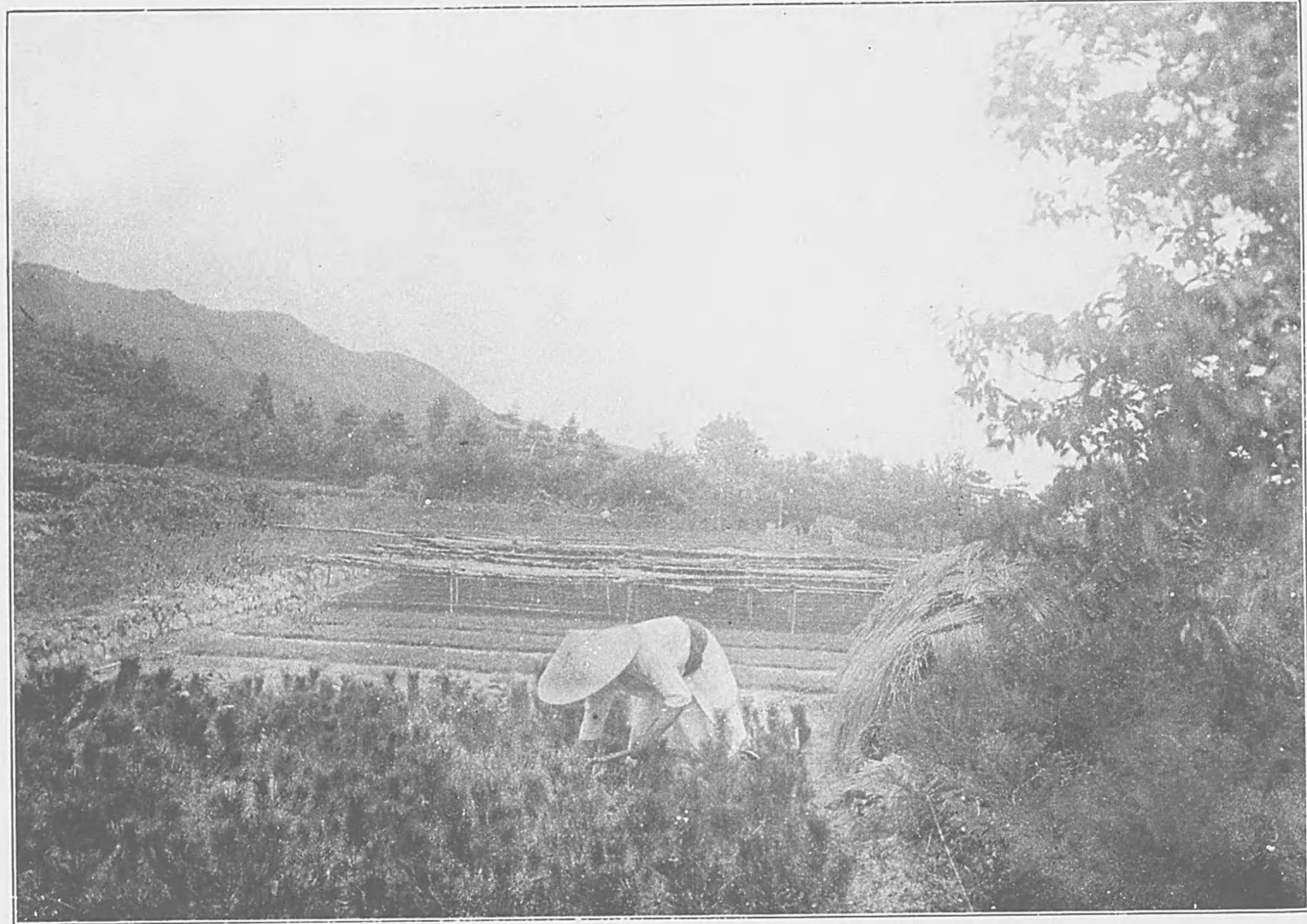
一二五 細川忠興墓

大徳寺内高桐院に在り別に兆域を卜し一の石燈籠を安す、忠興が遺愛の品にて遺命に依り之を石塔に代ふ其側に殉死人の墓あり

一二七 岩倉具視公髮塔

岩倉村岩倉家別荘の内にあり、公の幽閉剃髮せられしなり、公の遺髪を埋め碑を立て其事を記せり





一二八 叡山模範林苗圃

修學院村に在り、本村字四明ヶ嶽比叡山に於ける府有模範林の植栽に供する樹苗養成の爲め明治三十九年三月創設す面積一町三反七畝歩にして扁柏、赤松、杉、樺、漆、厚朴等の苗木を栽ゆ此に撮影せしは播種地の一部なり

一二九 鐘ヶ淵紡績株式會社  
京都工場

愛宕郡田中村大字高野川原に在り、近年の設置にて四十一年三月業務を開始せり、主として紡績絹絲を製造し職工約八百餘人を使得せり創業以來日仍ほ淺きも本場の全鍾數一萬五千鍾運轉するに至れば一箇年約五萬貫を産出すへしと云ふ



一三〇 大原女

大原の婦女は一種の風俗あり、其扮装を爲し物を頭上に戴き京都市内に賣る、其の形、古質にて風流なるを以て世に名高し

一三一 白川女

白川村より出づる花賣女にて、野装楚、種種の花弁を束ねて頭に戴き京都市中に賣行く様、頗る風流なるにより白川女とて世に聞ゆ



### 一三二 桂離宮

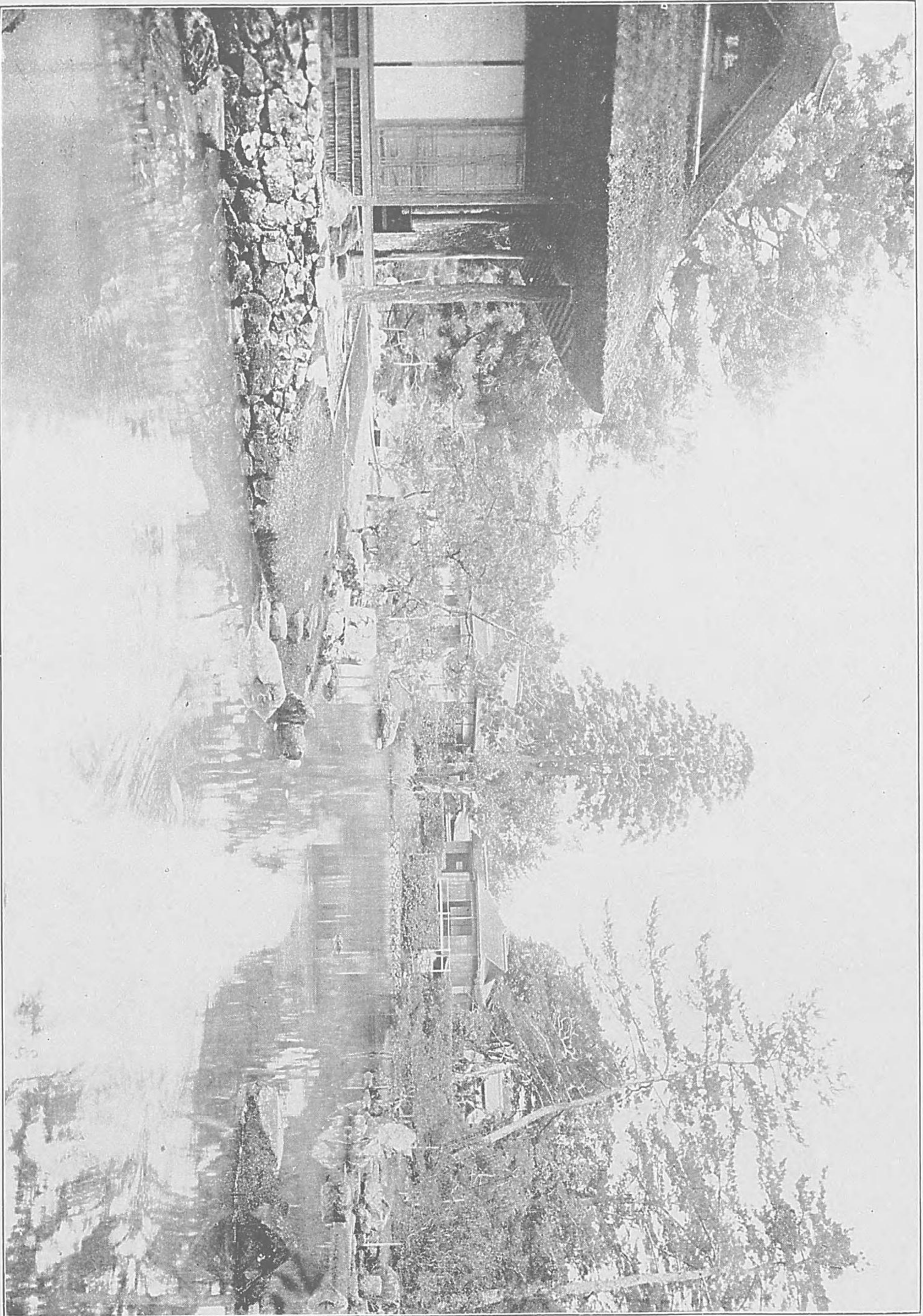
桂川の西桂村にあり川流を引き大池を作り假山を築き林泉奇巧を盡し其宮殿も亦極めて敷奇を盡され離宮中にて最も瀟洒高雅なる建造なり小堀政一の意匠に成ると云ふ此地は豊臣氏が智仁親王の爲め新營せしものにて桂宮の御料なりしが近來離宮となり大に修理を加へらる



す

離宮林泉中の離亭にして池水の中心にあり奇石古松の間に  
風流清雅なる茶亭あり即ち松琴亭なり通するに石橋を以て

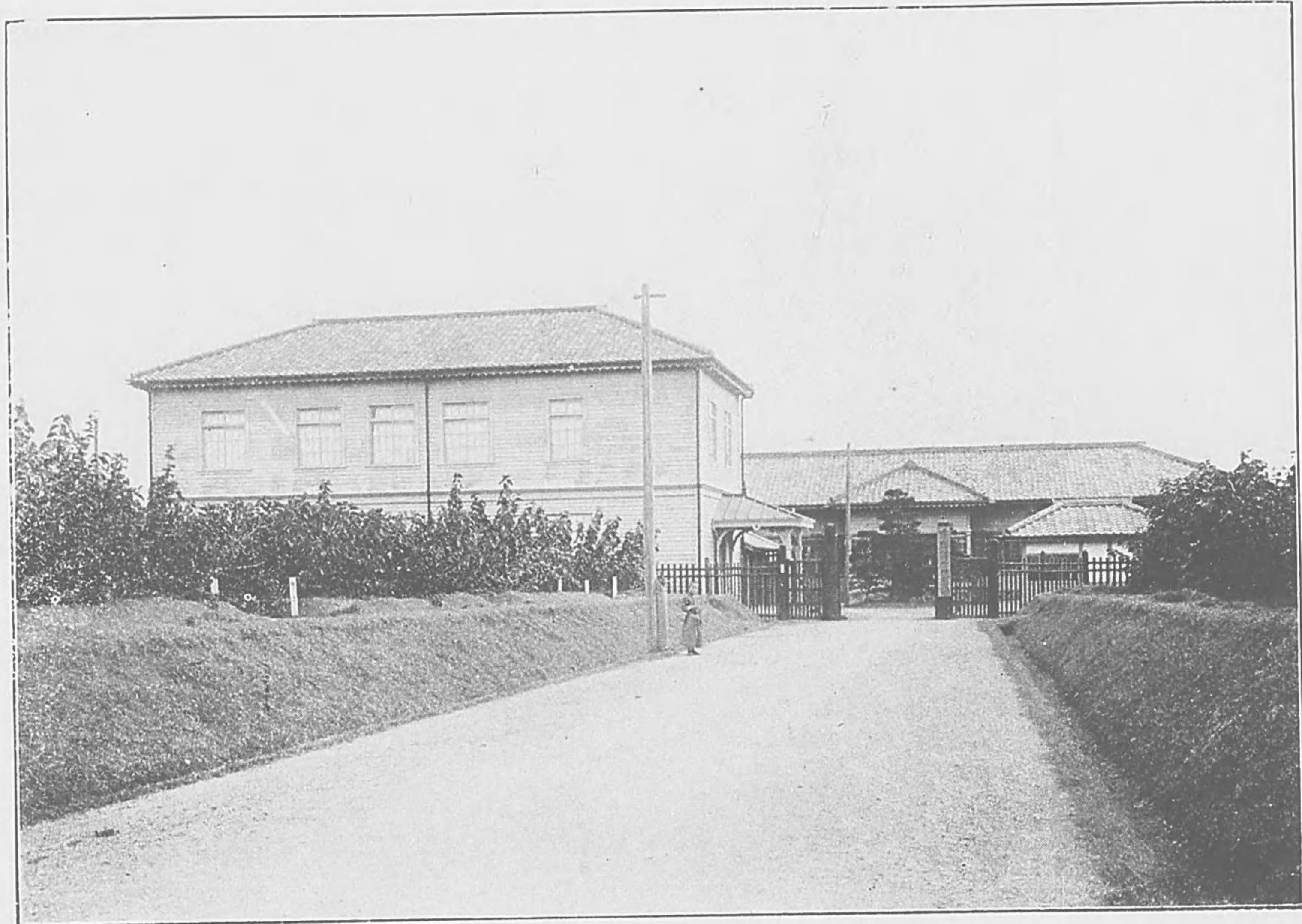
### 一三三三 桂離宮松琴亭



一三四 桂離宮御庭

深林古樹奇石怪岩清池長橋小亭茶寮其間に點綴し山に登り  
池に泛ひ深山幽溪の思あり





一三五 京都蠶業講習所

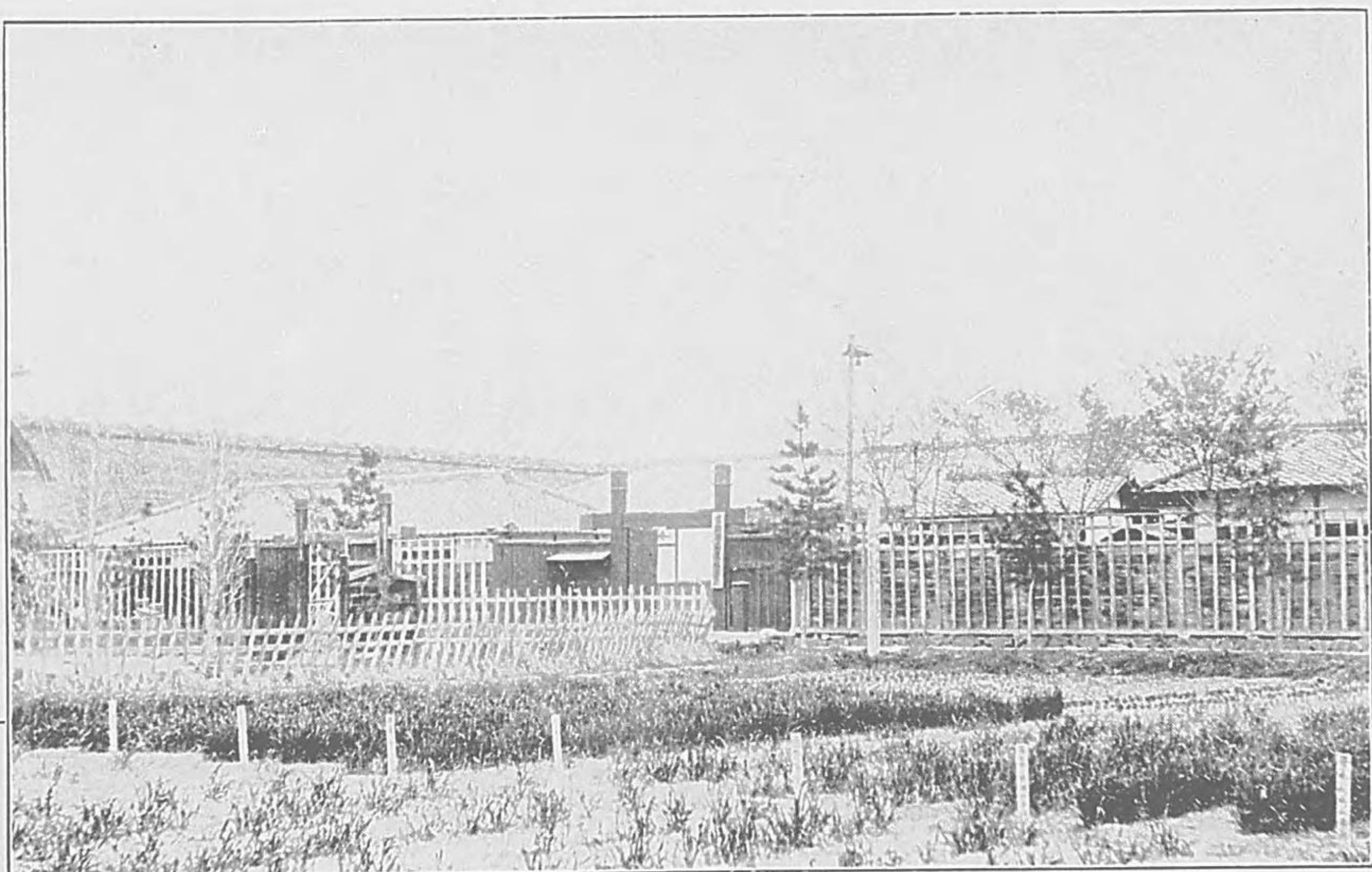
衣笠村にあり、明治三十二年創設せられたるものにして、農商務省の所管に属す。蠶絲業に關する講習、試験、調査、巡回、講話、蠶種の配布、質問、應答の事を掌れり。建坪千六百坪餘、桑園四町二反歩餘、創立以來卒業者本科に百六人別科に二百十四人を出し、斯業の改善發展に裨益を與へしこと尠なからず。

一三六 二條停車場

葛野郡朱雀野村にあり、嵯峨、龜岡を経て園部町に達する鐵道の要驛にして、明治三十九年の統計に據れば、乗客數三十一萬一千餘人、降客三十萬五千餘人に達し、貨物の輸送約十二萬噸に及へり。

一三七 府立農林  
學校

桂村にあり、甲種農學校たり  
其開校は明治二十八年にし  
て初め京都府簡易農學校と  
稱す、三十七年農學、林學の二  
科に分ち、今の名に改む、在學  
生徒二百十名、開校以來の卒  
業生本科三百六十七名、別科  
修了者三千七十二名なり



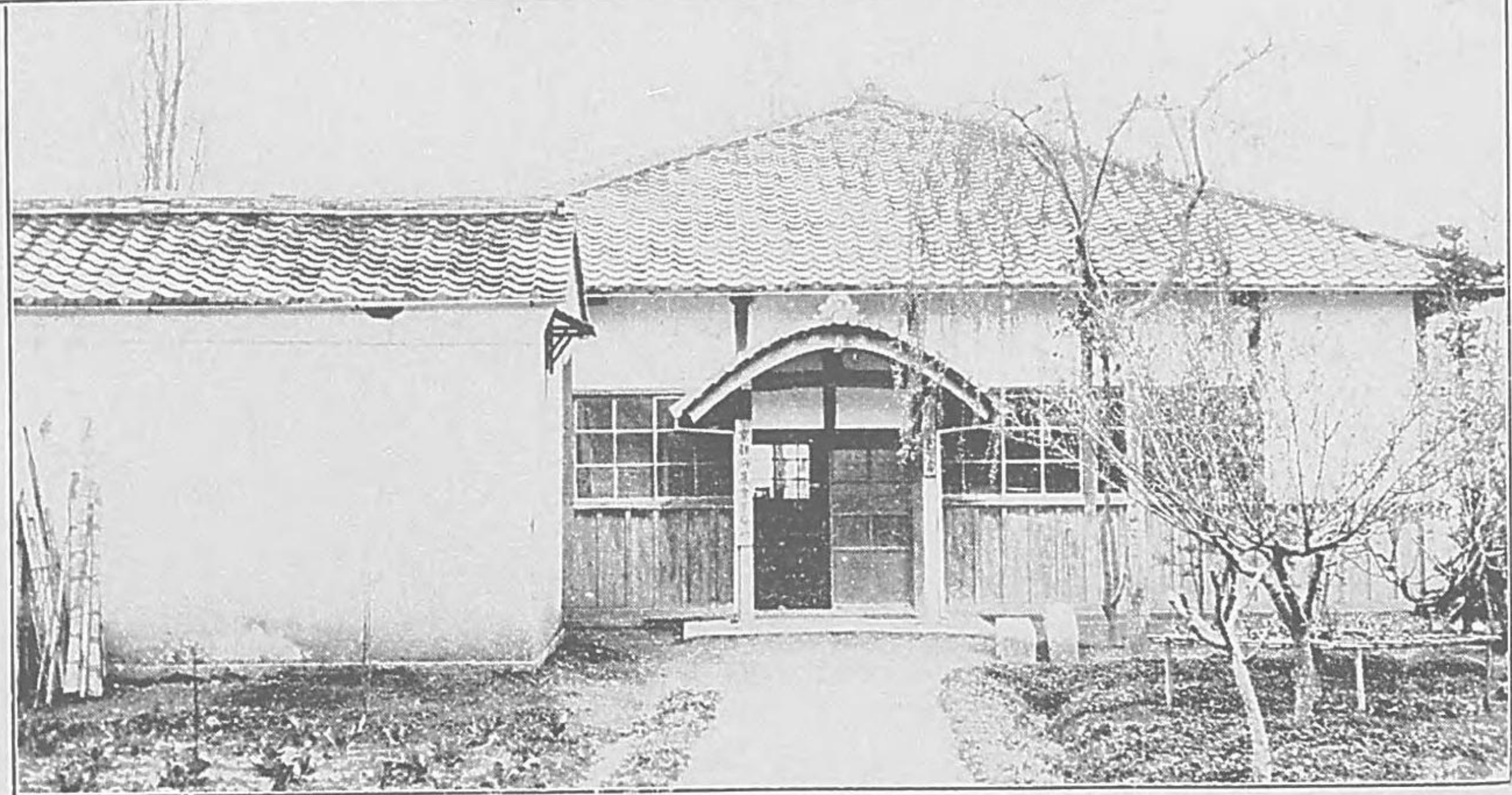
一三八 京都府農  
事試驗場

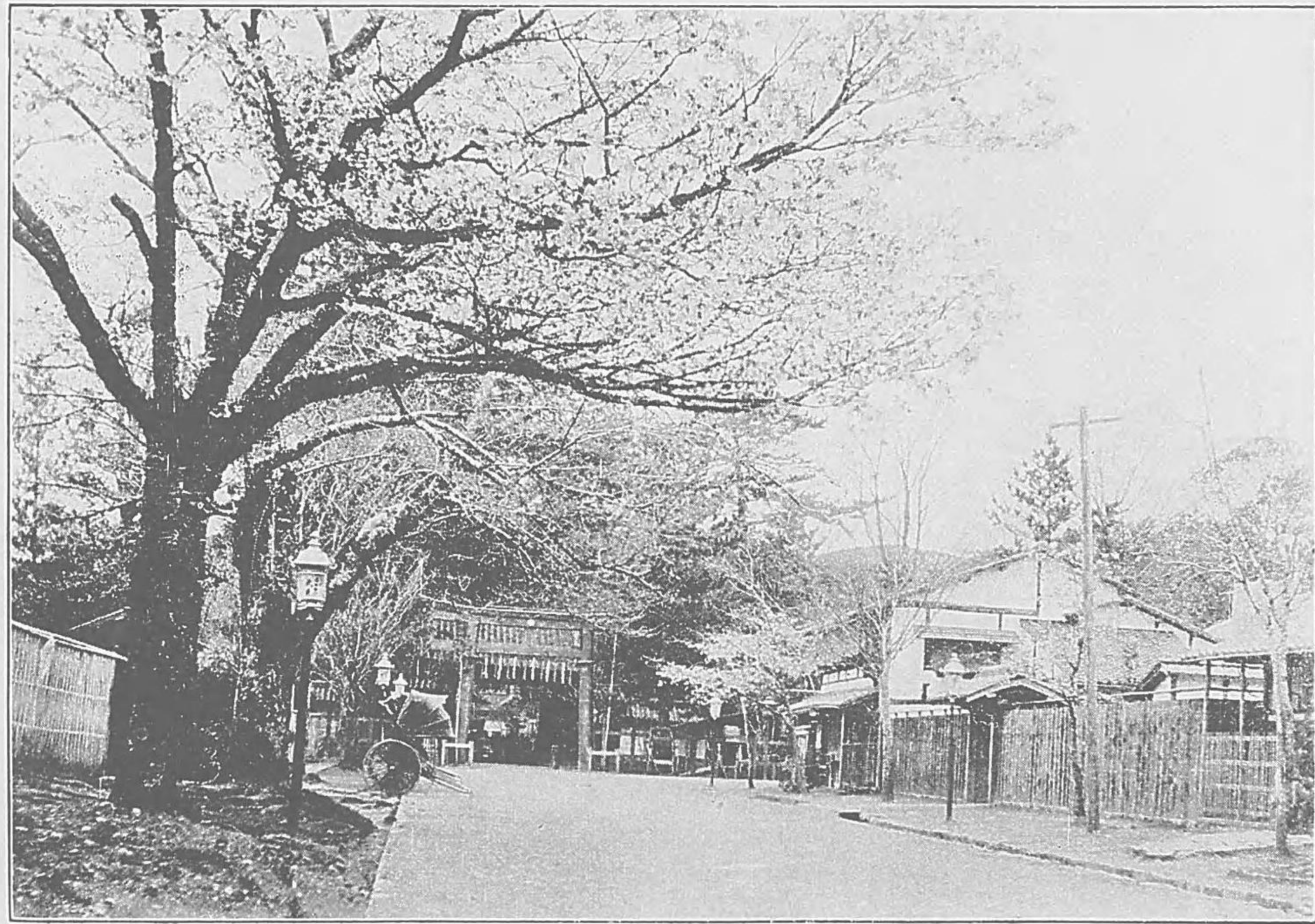
桂村に在り、明治三十三年の  
創設に係る農事全般の栽培  
試験を行ふ、試験地反別二町  
五反歩餘、建坪一百九十三坪  
餘にして、桃山綾部の兩分場  
と相俟て各種の試験事業を  
經營せり



一三九 京都府農  
會

桂村にあり、明治二十五年の  
創立に係る三十三年農會令  
の規定に依り繼續認可を受  
けたり、本會の下に郡、町、村農  
會ありて一定の方針に基き  
農事の改善を圖りつゝあり





一四〇 松尾神社

松尾村上山田にあり大山咋神、市杵島姫神を祭る社傳に文武天皇大寶元年秦忌寸部理神殿を建て奉仕せしに始むと云ふ、延暦以來朝廷の尊崇厚く明治維新後官幣大社に列せられ例祭は四月二日、私祭は四月中の卯日、五日上の酉日を用ひ頗る盛んなり

一四一 平野神社

衣笠村字小北山に在り官幣大社にて祭神は今木神、久度神、古開神、比賣神なり、舊社なれば縁起多きも古典の徴すへきなし、境内櫻花幾十花時甚た盛んなり

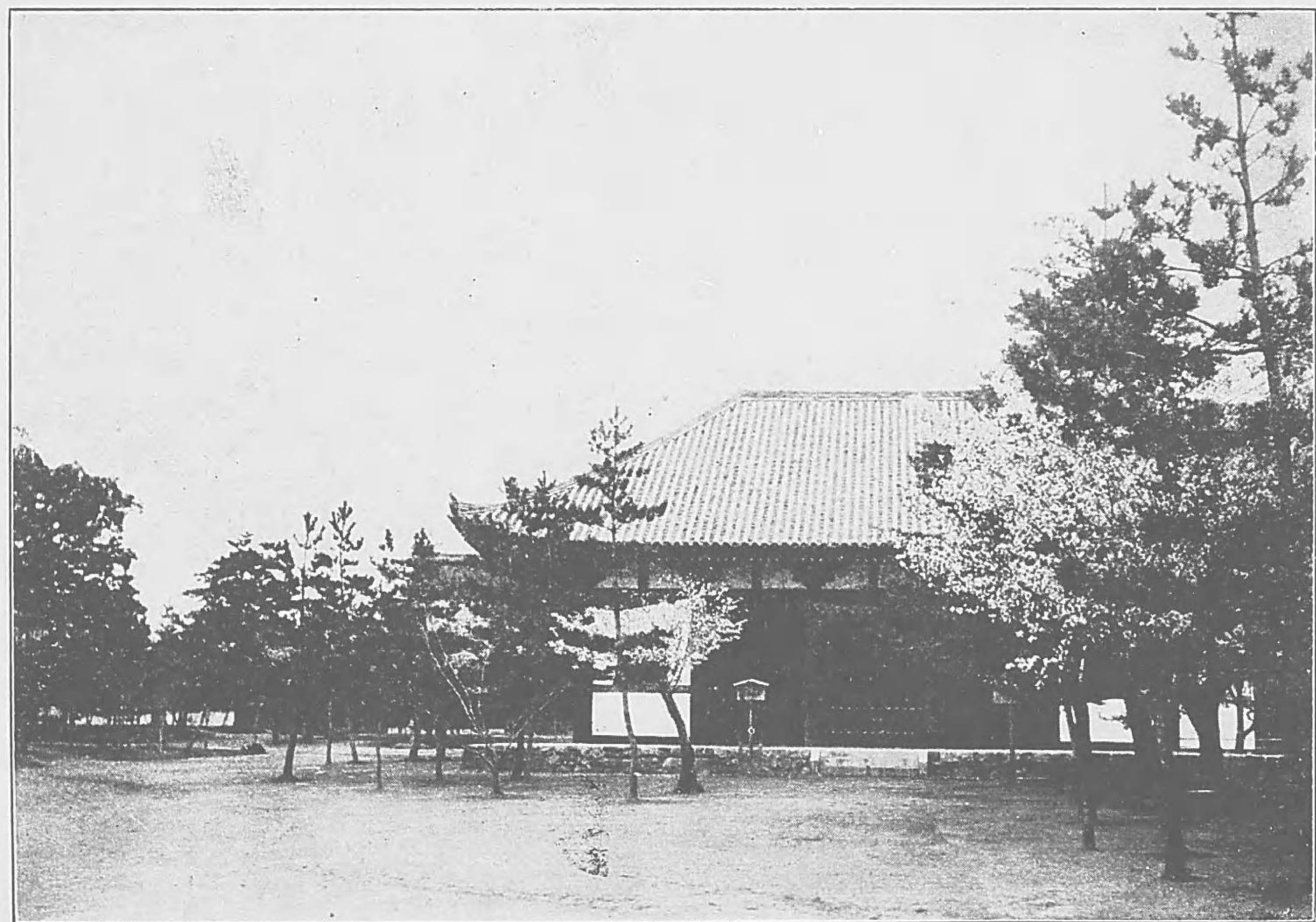
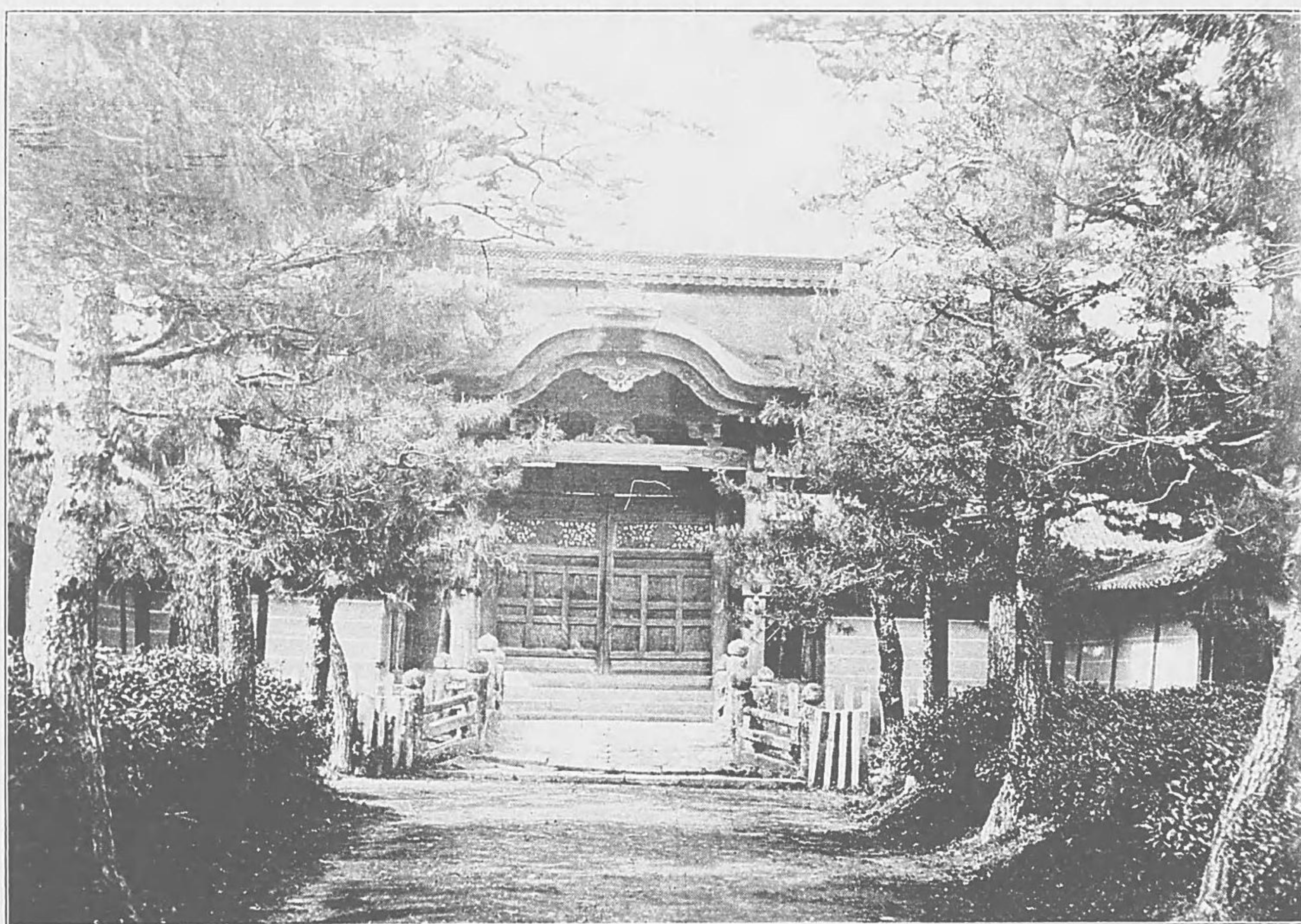


一四二 愛宕神社

嵯峨村字旭嶺にあり、府社にして本宮は推彦日神、埴山姫命、伊弉册命、天人熊命、豊受姫命を祭り、若宮は雷神、加遇槌命、破无神を祭れり。山路一里頗る険なり、世人の崇敬最も厚く、賽者絶ゆる事なし。

一四三 仁和寺

花園村字御室にあり、光孝天皇の勅願に依りて建立せる真言の巨刹にして、御室派の本山なり。宇多天皇落飾、此に住し給ふ故に、御室の名門跡の稱あり。是より皇族門跡となり、總法務として隆盛を極む。應仁の兵燹に罹りしを、徳川氏の始め再興す。維新の際、彰仁親王御住院あり。舊殿は火災に罹りしも、本堂は紫宸殿を賜ひしものにて、五重塔と同しく特別保護物たり。其他國寶重器多し。寺内に八重櫻多く、花時賞観に適す。



一四四 大覺寺

嵯峨村にあり眞言宗の本山にして舊時嵯峨天皇の離宮なりしか淳和太后改めて佛寺となし廢太子恒寂親王を以て開基となす後宇多天皇之を中興し給ひ爾來法親王の住院たり、大覺寺流の皇統の關係最も深く南北朝の史蹟あり一統の時後龜山天皇の吉野より遷らせ給ひし所なり

一四五 廣隆寺

太秦村にあり眞言宗別格本山にして推古天皇の十二年聖德太子が秦川勝に命じて創建せしめし所洛西最古の佛寺なり寺傳に桂宮院は太子の舊物なりと云ふ講堂は永萬年中の再興にて古式を存し特別保護建造物たり佛像には名作多く國寶亦少からず





一四六 法輪寺

松尾村に在り、行基の創立と云ふ、天長中僧道昌大井川に大堰を築き且つ此の寺を中興す元治元年七月兵燹に罹れり本尊は日本虚空藏の随一とて参拜者極めて多し寺は渡月橋に對し風光明媚なり

一四七 二尊院

嵯峨村小倉村に在り、天台、律、法、相、淨土の四宗兼學にして妙法院に屬す本尊は釋迦彌陀の二體なり故に二尊院と稱す本堂は永享の再造に係り公卿以下の香華寺にして二條、鷹司三條、三條西家の墓多し又伊藤仁齋一家角倉了以一家の墓あり



### 一四八 清凉寺

嵯峨村に在り、淨土宗に屬す、永觀元年南都東大寺の僧齋然入宋の日釋尊の像を模刻せしめ奉じて歸朝し此に安す五臺山に擬し清凉寺と號す所謂嵯峨釋迦堂なり十六羅漢其他國寶少からず

### 一四九 天龍寺

嵯峨村に在り禪臨濟宗五山の一たり延元四年八月 後醍醐天皇芳野に崩御あり僧疎石足利尊氏に伽藍を建立し帝の冥福を祈らんことを勸む尊氏奏請し大に土木を興し躬らも木を引くに至る、堂宇偉麗を極む其後屢、火災に罹り又元治の兵火に災し其後再建せり此地龜山殿の址にして後嵯峨、龜山二帝の御陵あり寶物古書太たく林泉は夢窓國師の構造にして其名著る

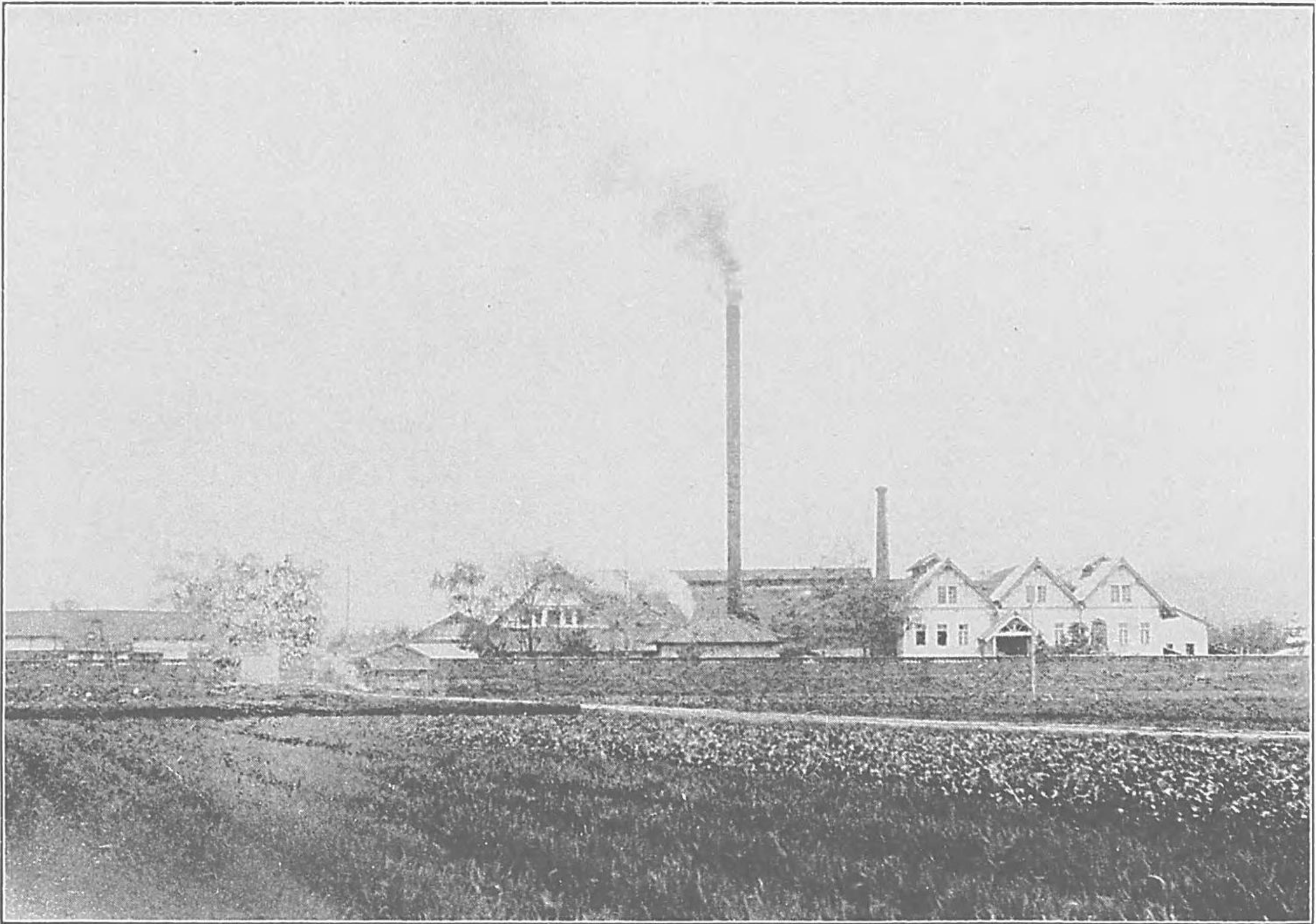
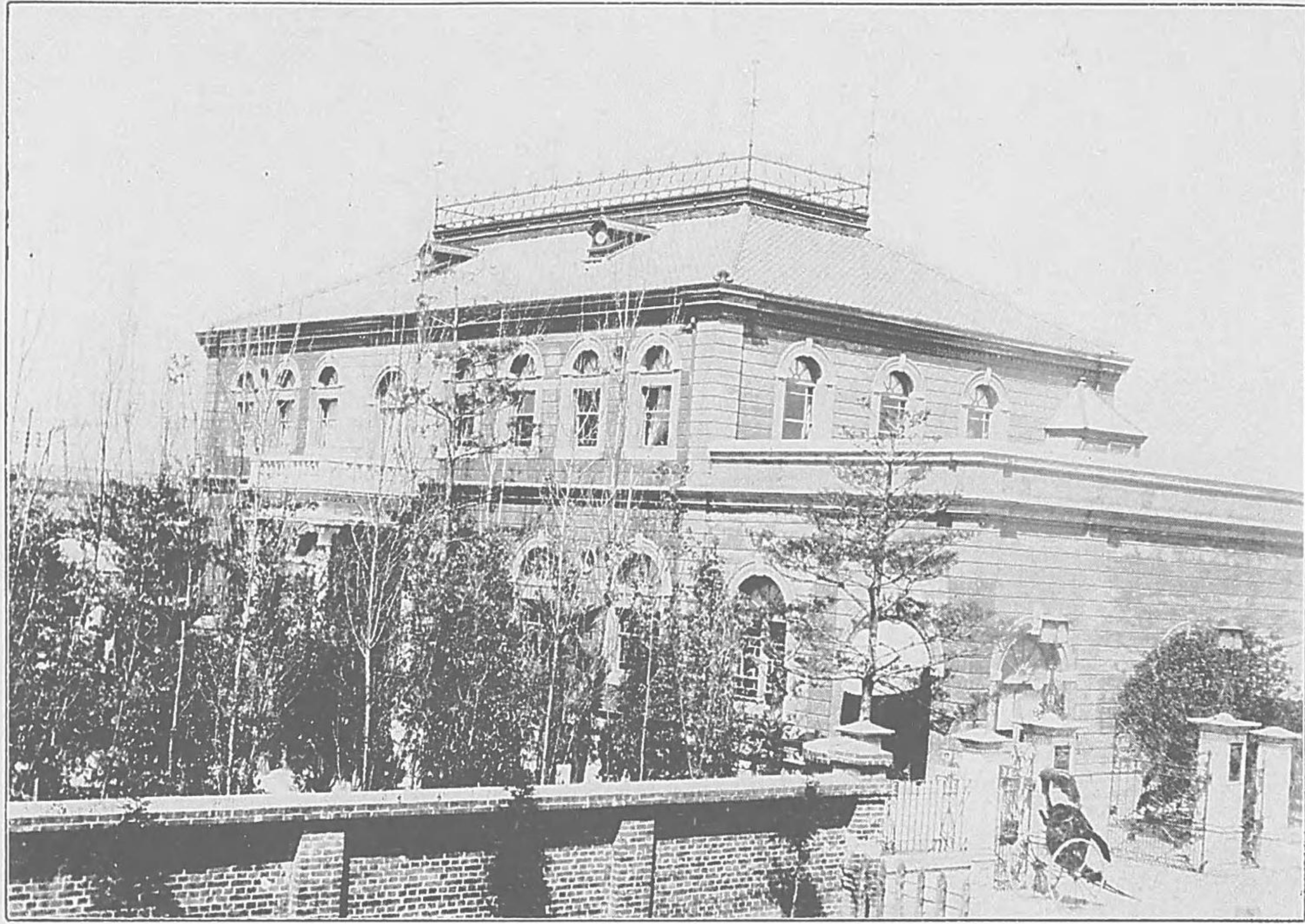


一五〇 妙心寺

花園村にあり禪臨濟宗の本山にして 花園上皇の勅願にて開基は開山國師とす日峰和尚之を中興し次て應仁の兵燹に罹り雪江和尚之を再建し今に至れり禪家本山中最も盛大とす別院四十二宇あり堂塔參差風物清楚にして本寺及別院には寶什頗る多く中にも國寶に編入せられしもの尠からず 玉鳳院は 花園上皇の御住院たり國寶重書甚多く又名賢の墳墓あり

一五一 鹿苑寺(金閣)

衣笠村にあり禪臨濟宗相國寺に屬す舊と西園寺家の別莊なりしを應永年間足利義滿の別莊となし莊麗を極め 主上行幸ありて一時の盛を極めたり金閣は林園中の一堂にして今に存し特別保護建造物に指定せられ大修理を行はる林泉は當時の造築にて京都第一と稱す



一五二 日本製布株式  
會社工場

朱雀野村字壬生にあり、明治三十一年二月の創立にして初め五二會綿テル株式會社と稱し、三十二年京都綿テル株式會社と改め、四十年今の社名に改む。綿テル工場と紡績工場を有し、西陣、桐生、伏見に分工場を設置せり。漸次業務を擴張し、金巾、更紗、綿繻子等の製造に著手せんとす。最近一箇年製産額綿絲百五十萬四千圓餘、綿テル其他織布二百五十二萬七千圓餘にして、職工二千五百人を使役せり。

一五三 梅津製紙株式會社

梅津村字西梅津に在り、明治六年横材本府知事洋紙を製造して輸入を防壓せんことを企て、同九年此地に製紙工場を起せしか。十三年之を磯野小右衛門に拂ひ下けたり。三十九年株式組織に更め、資本金三十萬圓とす。製品の重なるものはロール紙、連史紙、葺包裝紙、ナフキン紙等にて、最近一箇年の産額四十七萬二千餘圓、其四分の一は清、韓兩國及米國に輸出せり。



### 一五四 京都農園

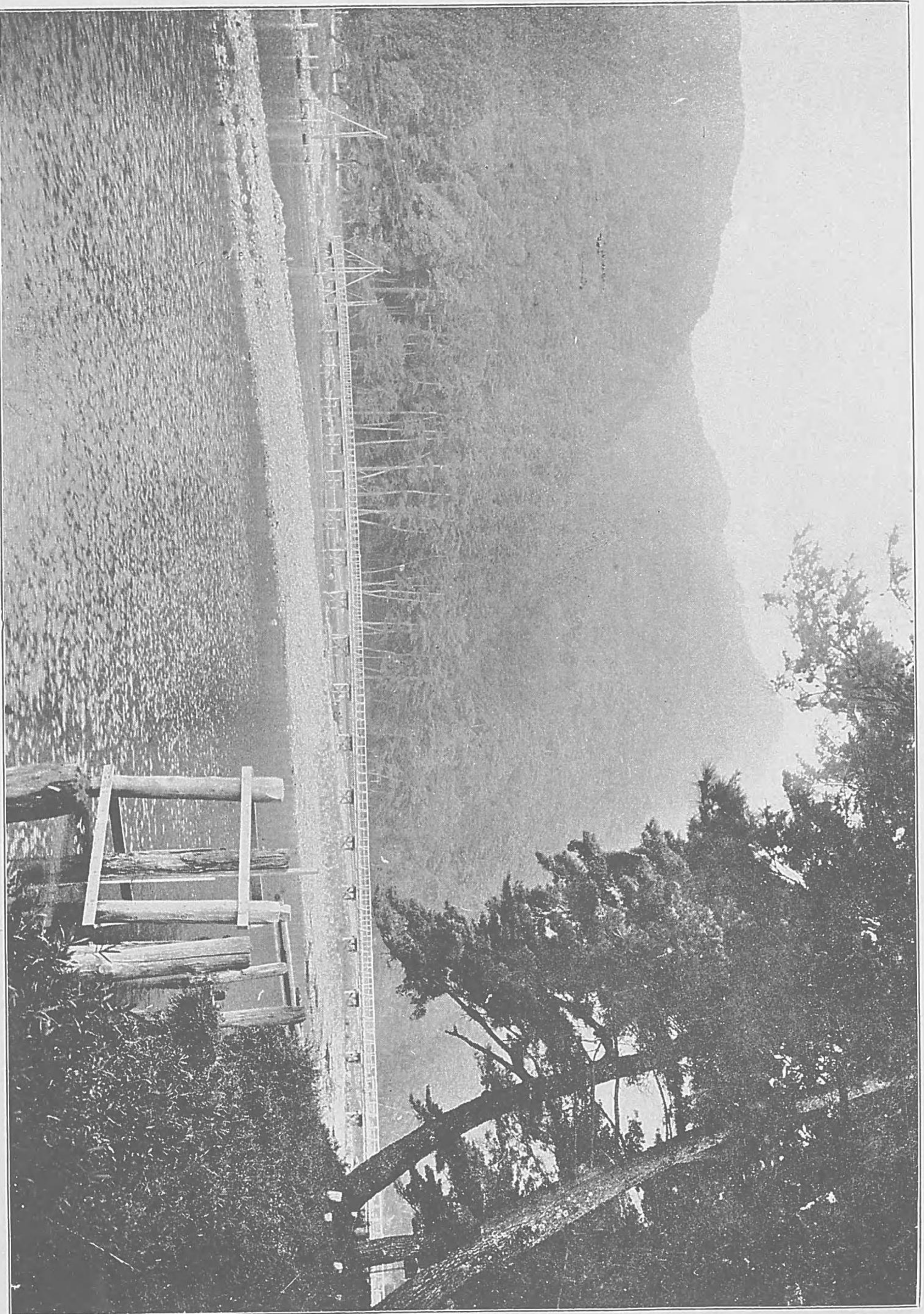
花園村に在り、杉本保彦の企畫經營せる園藝場にして面積三萬坪を有し内外の種苗を販賣し各種の草花を作り傍ら園藝雜誌を發行せり

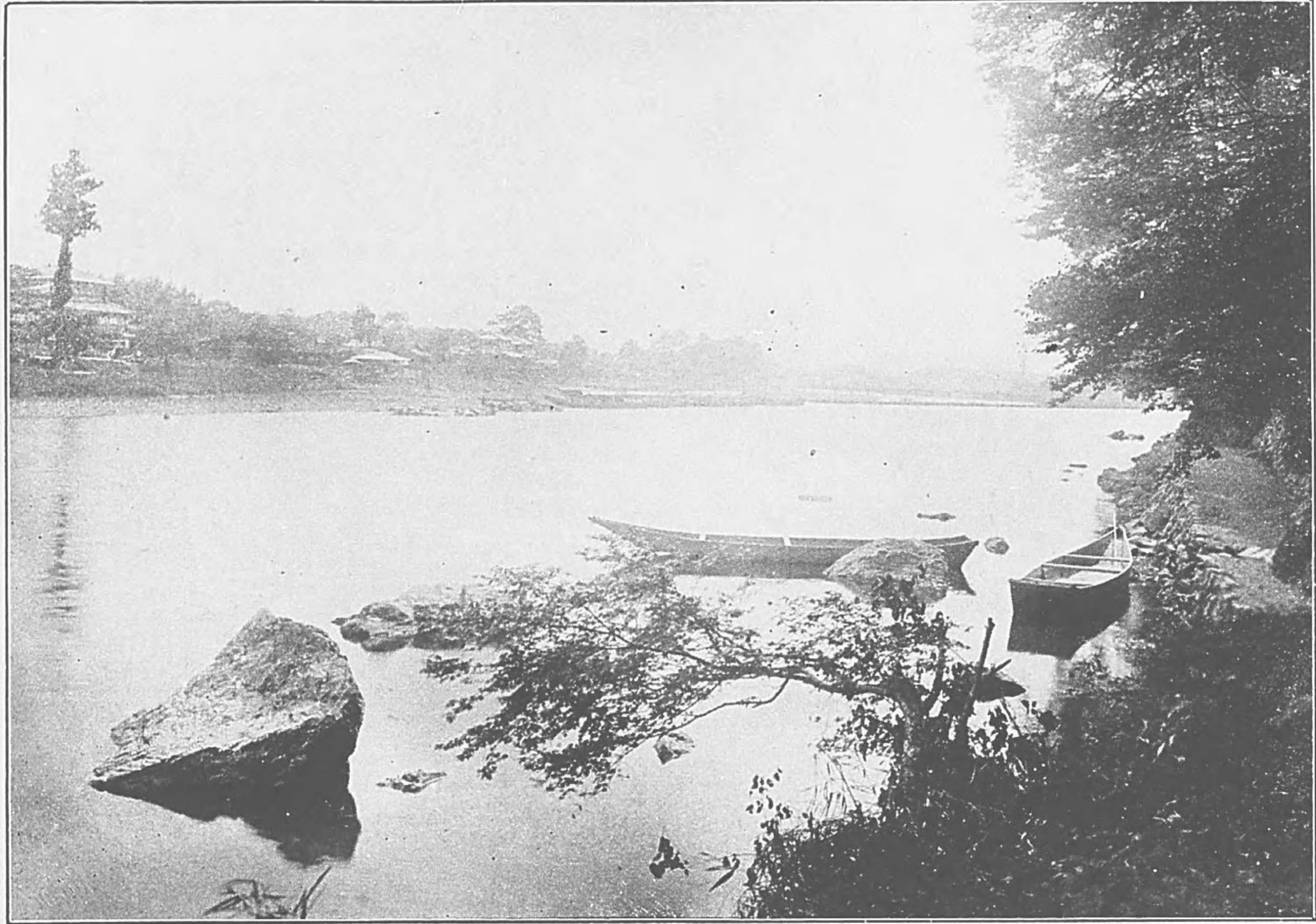
### 一五五 北山臺杉林

小野郷、中川の兩村に在り此地丹波國北桑田郡に接す古來白杉の造林盛に行はれ其方法普通の造林と趣を異にし一株より茶釜様に數十本を生長せしむ材質緻密美麗にして建築用材として愛重せられ古來北山丸太の名汎く海内に喧傳せり

嵐山の勝景は洛西の第一として世に著るし古代は多く紅葉を以て著はれ 皇上の行幸名家の賞遊も概ね秋晩にありしか 後嵯峨龜山二帝の龜山殿を造營ありし日吉野山の櫻を移され此より櫻花の名所となれり龜山殿の時には大堰川も此庭の内に流れ嵐山も全く離宮の景致たりしなり清明の候遊人常に盈つ

### 一五六 嵐山



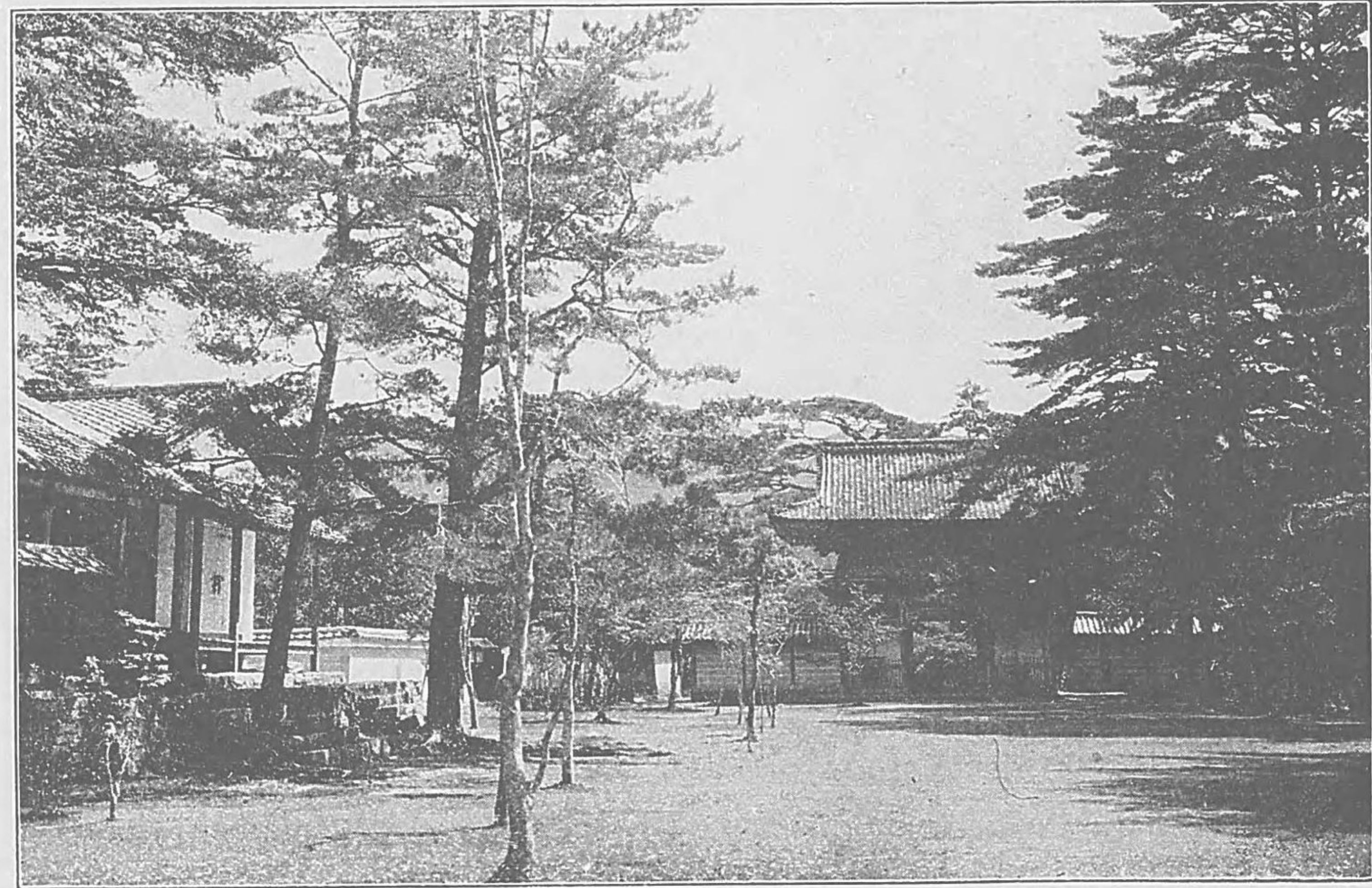


一五七 大井川

嵐山の下に大堰あり灌漑の用に資す故に大堰と云ふ又大井に作る嵐山に掩映し風光最も好し橋あり渡月橋といふ

一五八 雙丘

仁和寺の南位に在り三丘南に相連なるを以て此名あり満山稚松蔚生翠光掬すへし古來の名勝にて今は官林たり



一五九 清 瀧

愛宕山の下なる溪流にして、危巖突兀清泉其間より出て景色頗る奇なり此より筏にて大井川に下るへし

一六〇 神 護 寺

神護寺は梅ヶ畑村なる高尾山に在る古刹なり眞言宗の別格本山にして史書に其名を知られ加ふるに高尾の紅葉を以て世に著はる其西北方に地藏院の址跡あり直に斷崖に臨んで最も山水の景に富む神護寺と云へは即ち高尾山を聯想し高尾山と云へは即ち紅葉を聯想し紅葉と云へは又神護寺を聯想せざるなし



一六一 高尾

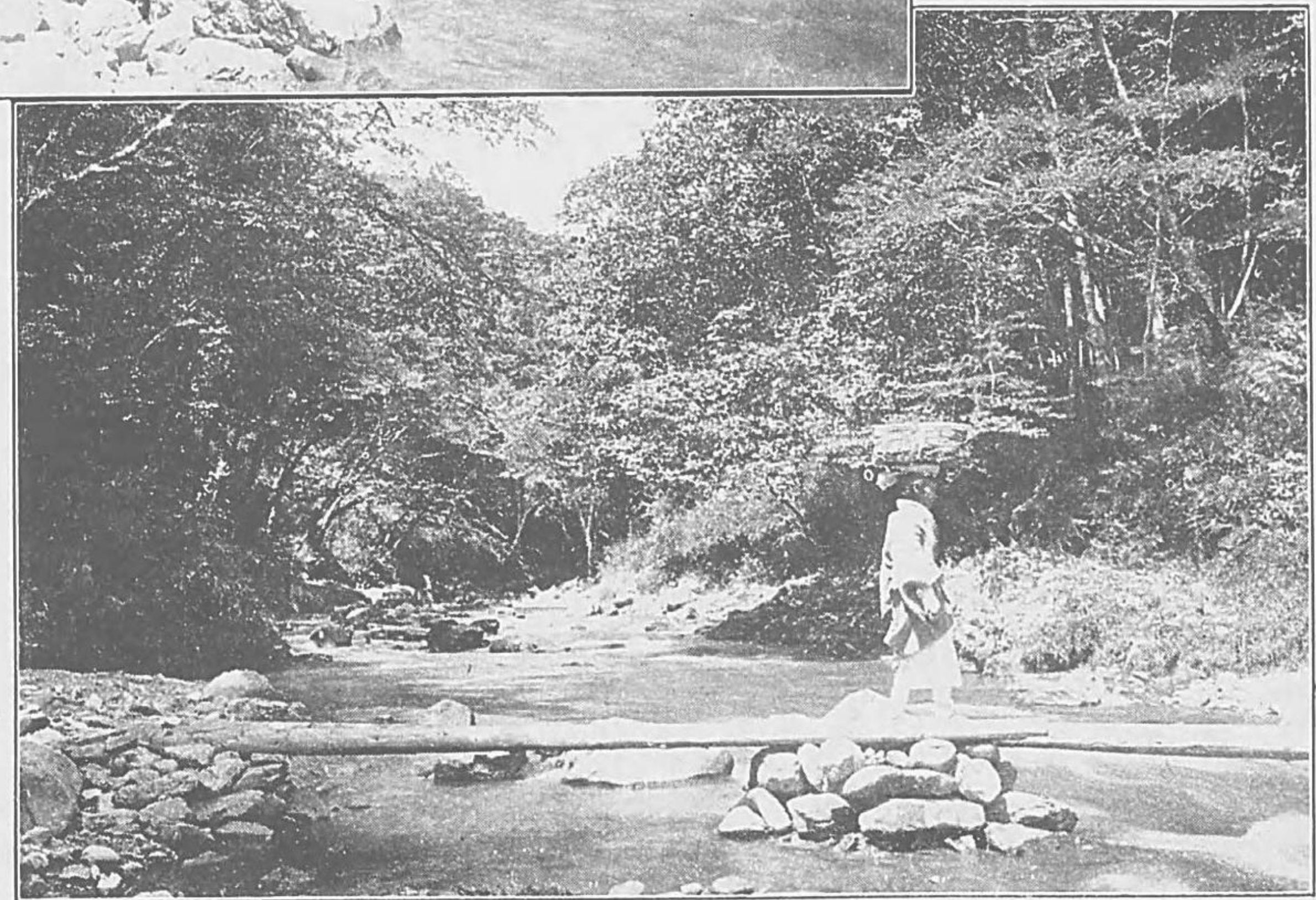
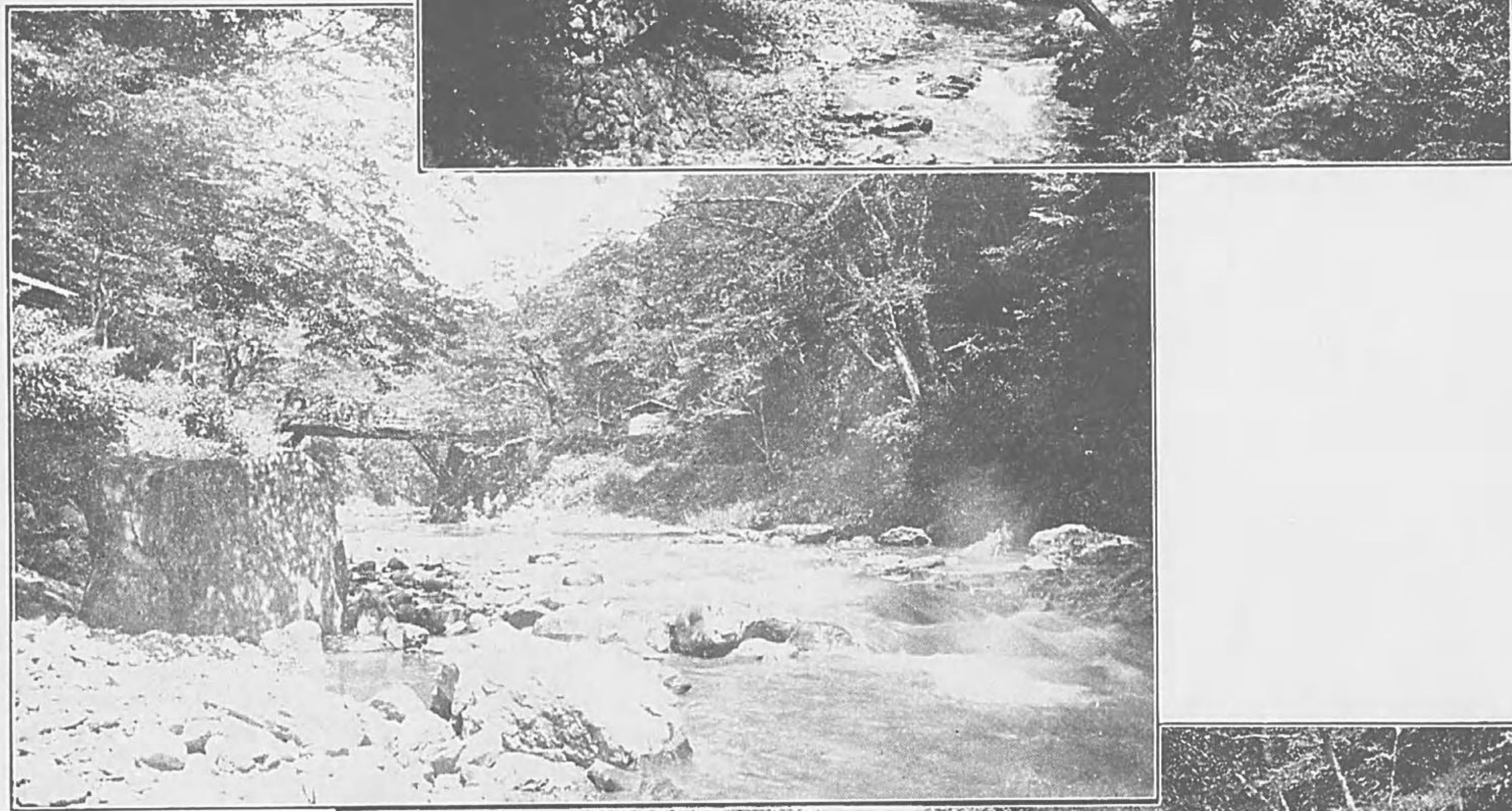
高尾、槇尾、柵尾世に三尾と稱し皆梅ヶ畑村に屬す共に紅葉の勝地なり西北は千仞の溪に臨み南は連山匿匿して清瀧川其下を繞り溪光山色頗る清絶を極め兩岸の楓樹は柯を交へ葉を重ね三秋の候に至れば雲錦清流に掩映し爽麗云ふへからす天下紅葉の大觀なり

一六二 槇尾

高尾の東北にあたり清瀧川屈曲して其間を流る西明寺あり堂宇壯嚴なり境内楓樹多からすと雖古株陰森として頗る幽邃なるを以て至るもの頓に塵外の想あらしむ

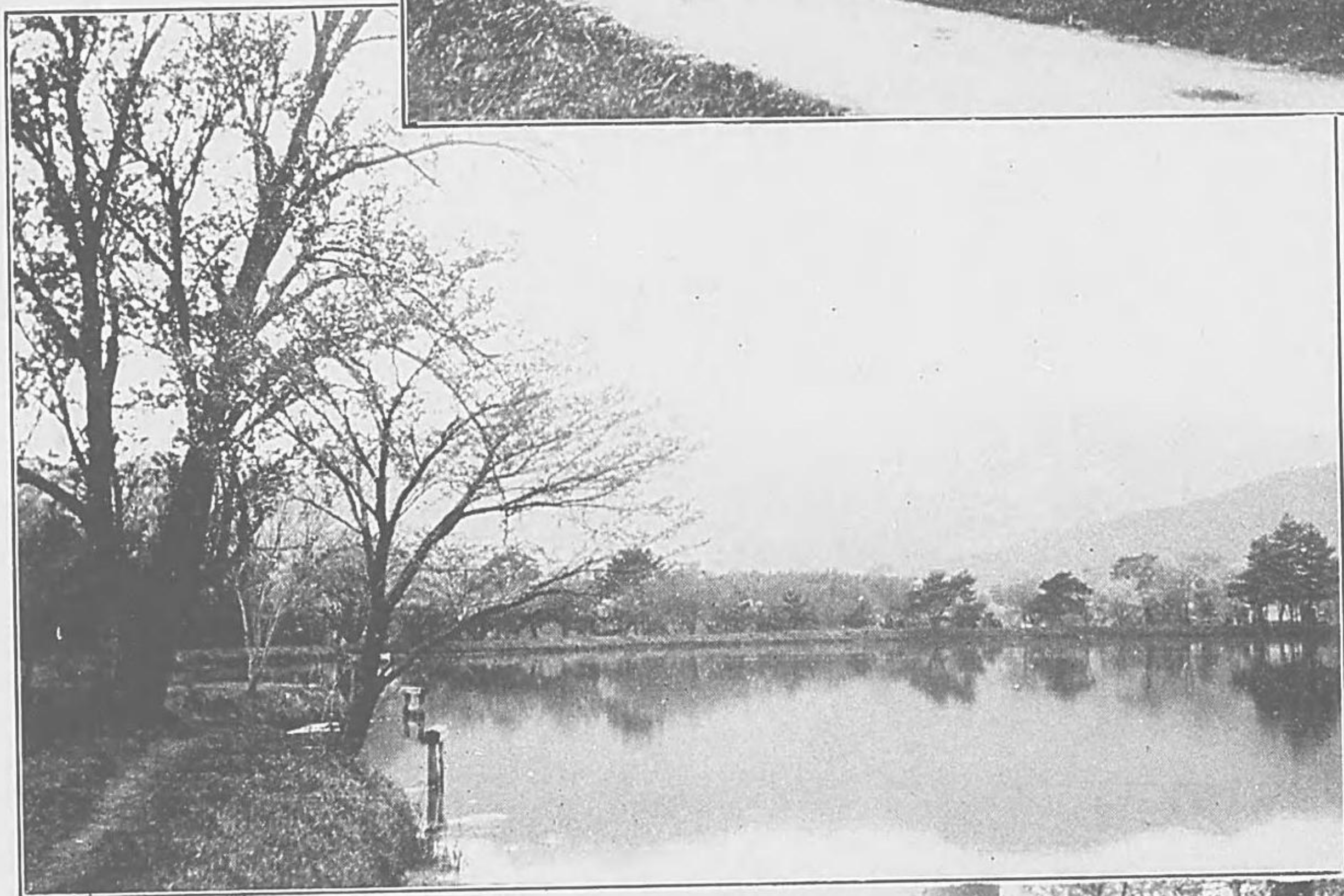
一六三 柵尾

高尾より十町許東北に當る此地に高山寺あり境内は大楓樹最も多く入口なる白雲橋より清瀧川一帯は老幹巨枝相交錯し深紅淡黄水を照らし山に映し世に絶景と稱す又此邊の婦女は世に畑の姥と稱し一種の風俗あり頭上に物を戴き賣行くさま太古質を帶ふ



一六四 廣澤池

嵯峨村と花園村との間、北山の下にあり、寛朝僧正の開鑿せし所にして、灌漑の用に充つ。周回十二町許、山光映帶、澄波混漾、最も觀月に宜し。藤原明衡の詩に、『何處月光足放遊、寺稱遍照富風流』と詠せしところなり。遍照寺は眞言の巨刹なりしか、今は僅に池畔に遺址あり。近年有志者、碑を立て、寛朝水利の功を記せり。



一六五 大澤池

大覺寺境内の池水にて、繞すに長堤を以てし、堤上老楓古櫻列を爲す。池中、小島あり、架するに土橋を以てし、風景明媚なり。名古屋の瀧の跡、其北にあり。古來歌に詠せしところなり。

一六六 時雨亭の跡

嵯峨村二尊院の上、小倉山にあり、小亭を構へて、其跡を存せり。定家卿の時雨亭の在りし所なりといふ、未だ審かならず。

一六七 和氣清麻呂

公墓

高雄山神護寺、山内鐘樓の奥に在り、隆然墳狀を爲せり。明治三十年公の千百年に當り有志者此の地に就て修營を加へ其墳前の左方に碑石を立つ。京都府知事内海忠勝勅使として墳前に宣命せり。

一六九 角倉了以墓

嵯峨村二尊院小倉山墓地上段、角倉墓地に在り、東面す。巨大なる無縫塔にして表に其法號を刻す。其妻の墓と相併ふ。近年其識別し難きを以て墓側と寺門の前に石の墓標を立て之を表したり。

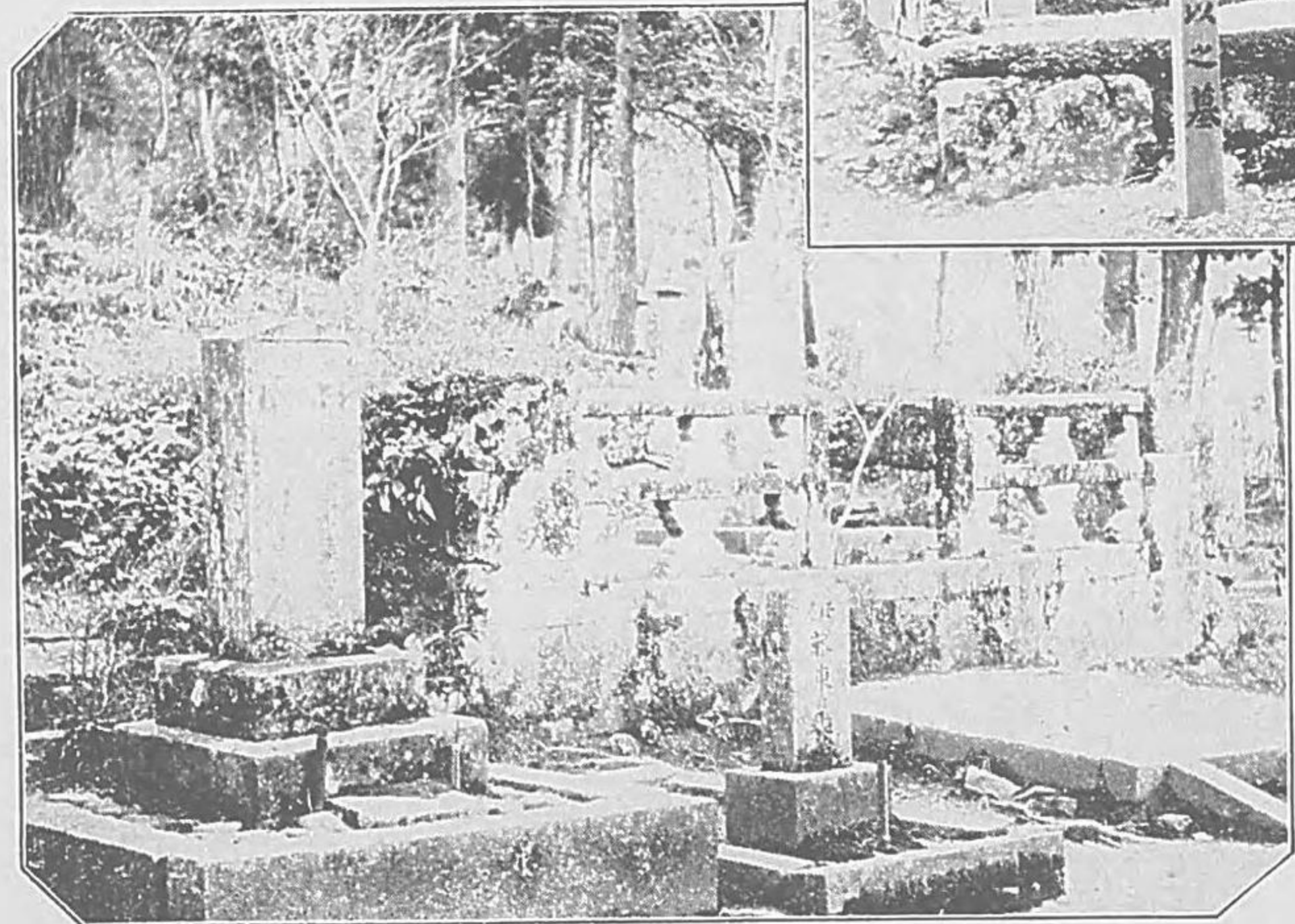
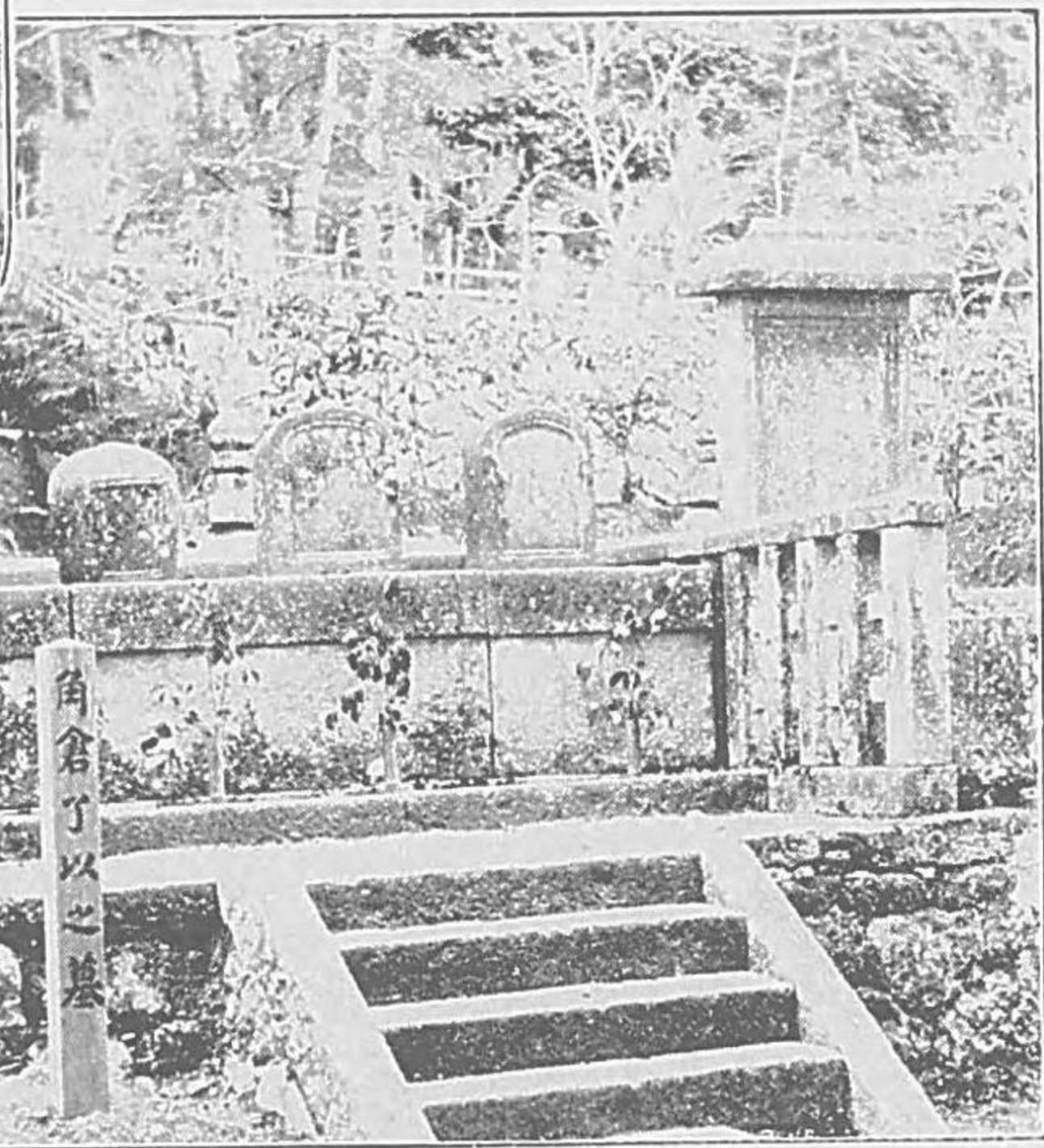
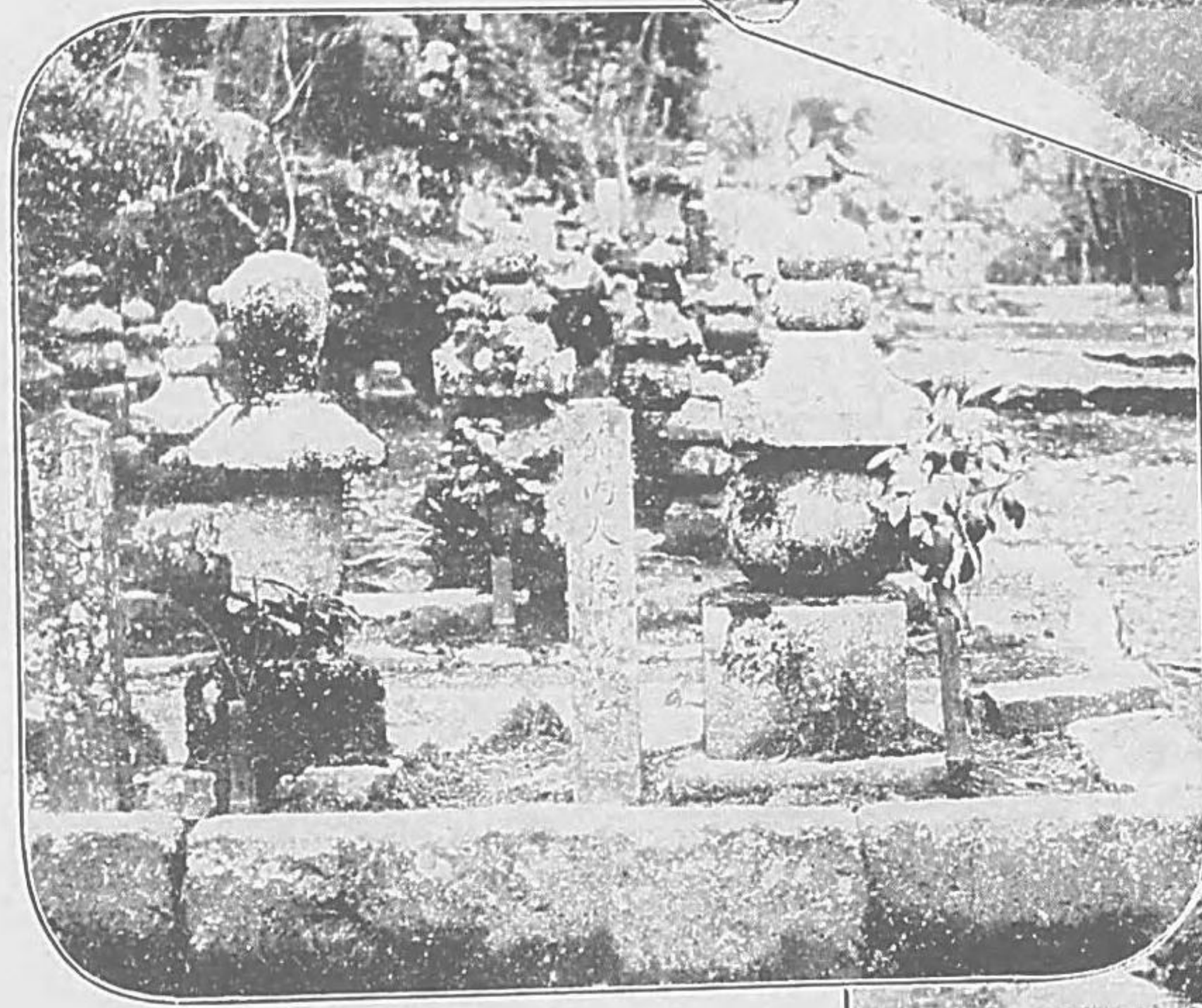
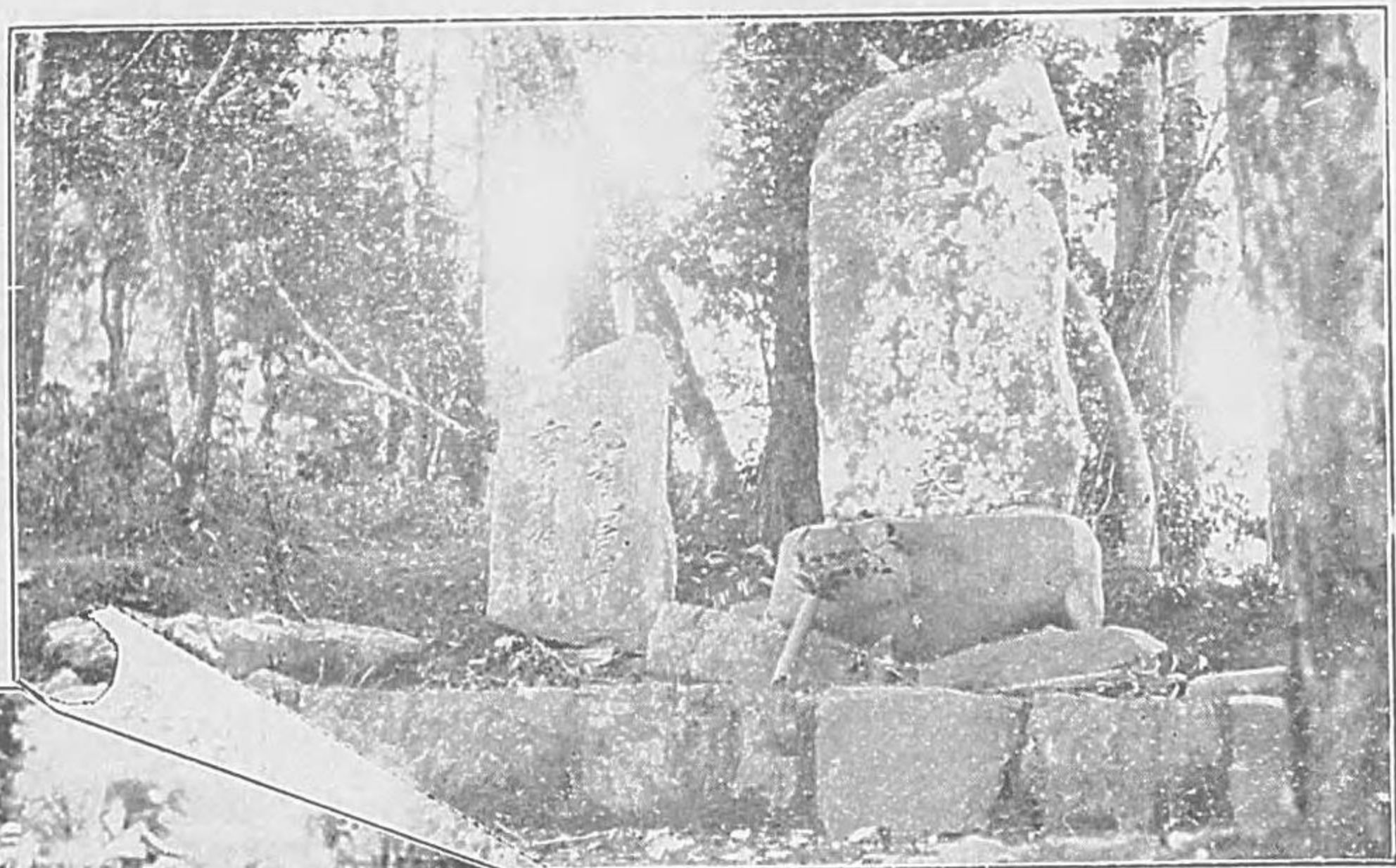
一六八 三條西實隆

公墓

小倉山二尊院開山塔の左側に在り、小き五輪塔也。近年其側に石を立て之を標す。公は足利時代朝廷式微の時に當り拮据經營、隱然力を盡したるの人。院に其肖像あり。國寶となれり。墓側に公の子實枝、孫實澄の墓あり。

一七〇 伊藤仁齋墓

嵯峨村二尊院墓地小倉山に在り、其中段に伊藤氏歴世の墓域あり。仁齋の墓は其中央に在り、山を掘り凹形を爲し、切石にて築き、前に石柵石垣あり。内に馬鬣封をなし、碑を其前に建つ。

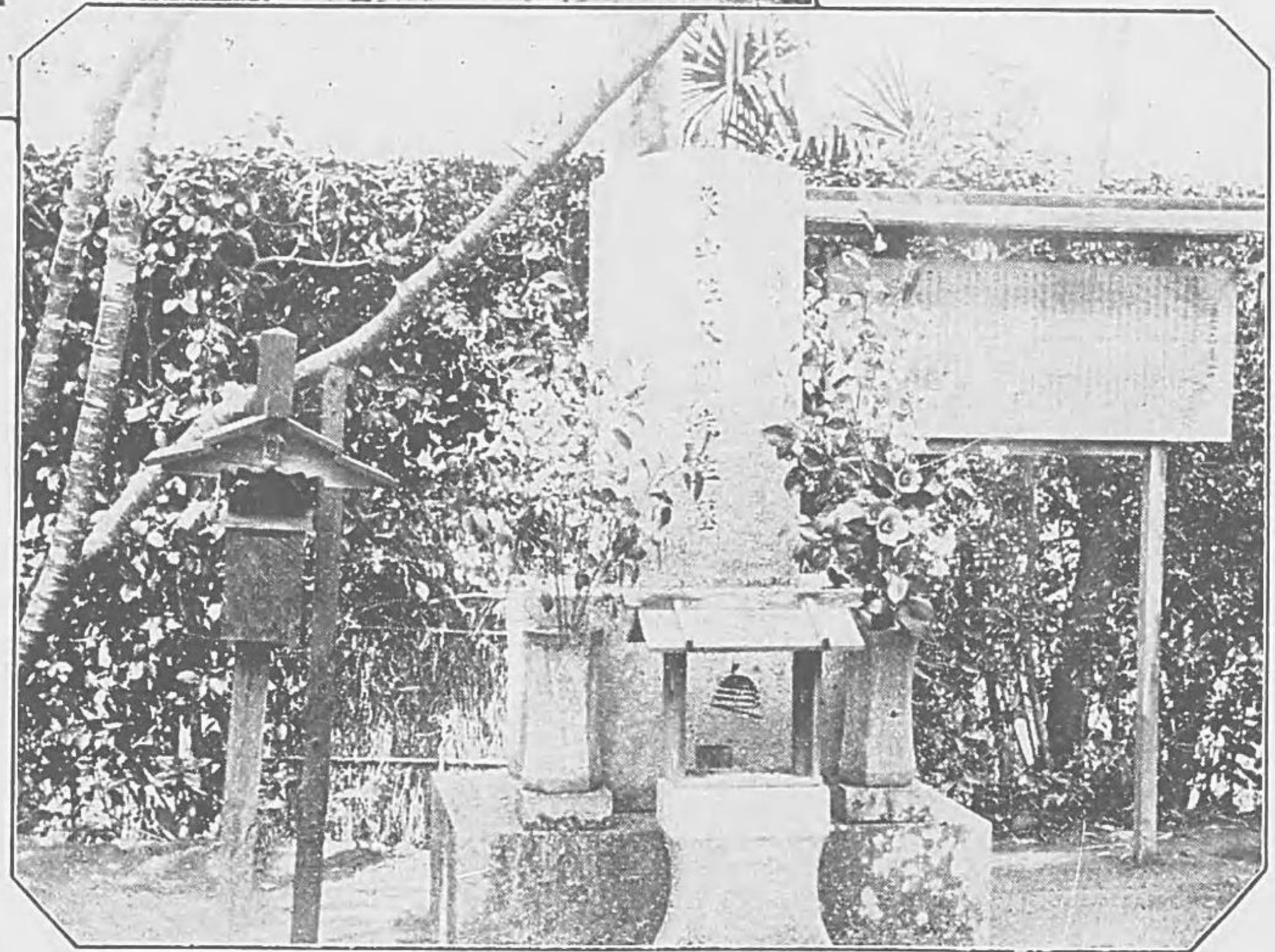
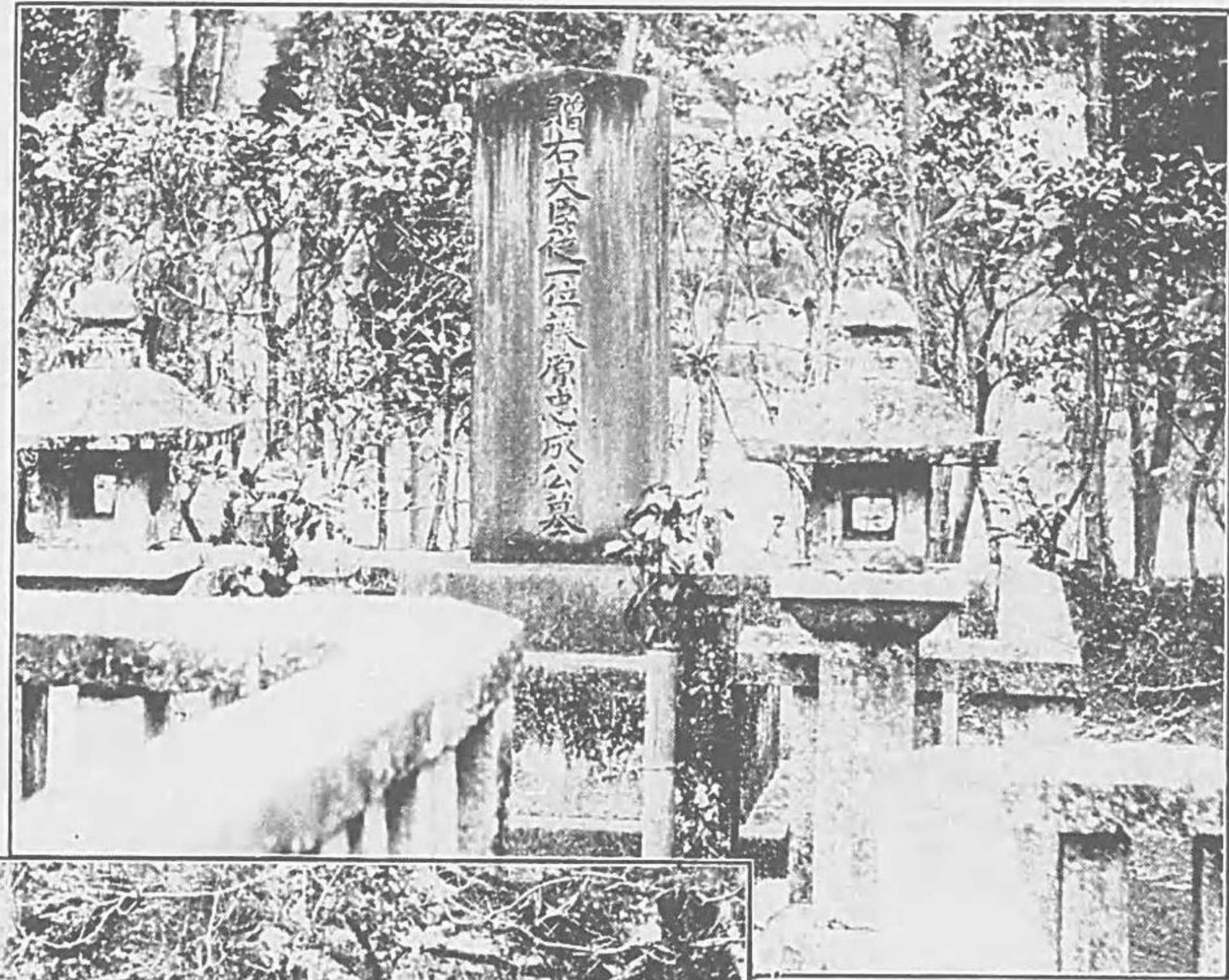
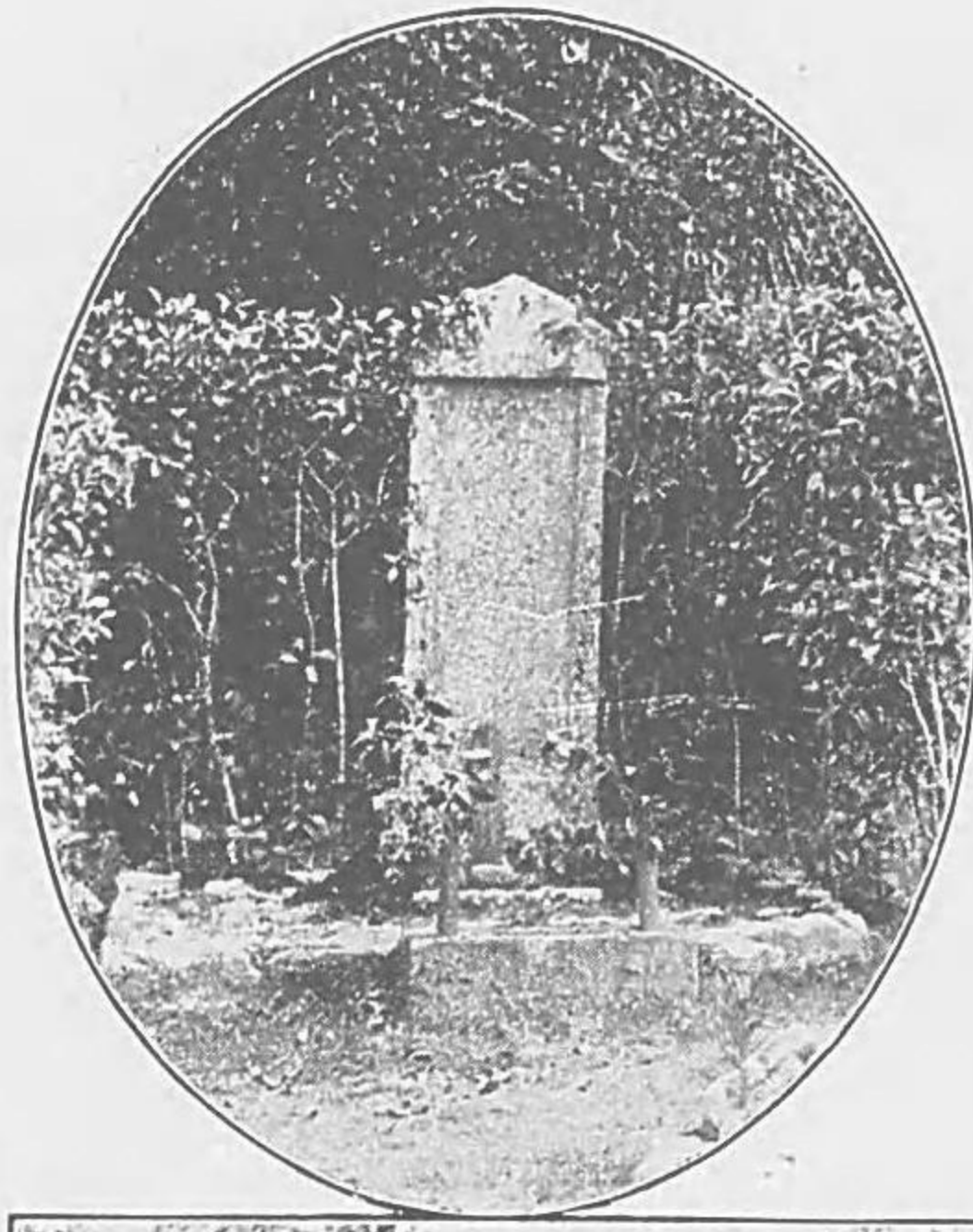


一七一 三條實萬  
公墓

嵯峨村二尊院に在り、公維新の  
洪業を圖り幕府の爲に幽閉せ  
られ安政六年十月六日薨せら  
るるや其遺骸を本院に葬る當  
時嫌疑の間事勿卒に屬せしな  
り、明治維新後公に右大臣を賜  
ひ忠成と諡せられ更に大碑を  
建つ

一七二 本阿彌光  
悦墓

應峰村光悦寺墓地東南隅に在り、長  
形圭狀をなし高四尺七寸廣一尺五寸  
厚八寸面に六字題目の下に  
應峰山  
丁寂院光悦日豫居士と刻す  
大虛庵



一七三 三條實美  
公髮塔

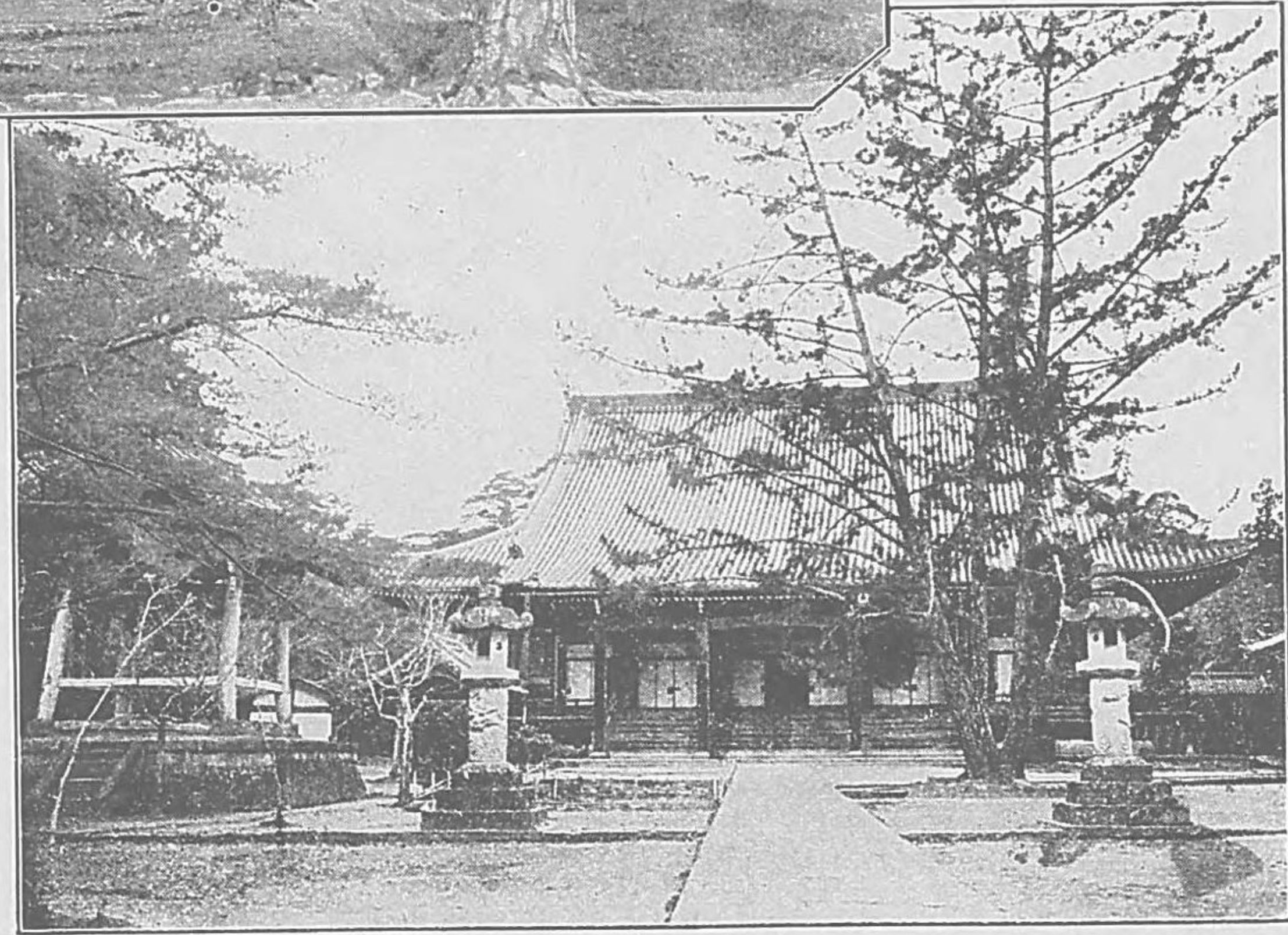
嵯峨村二尊院に在り、明治二  
十四年二月十八日公東京に  
薨し音羽護國寺に葬りし時  
本院は舊來の菩提寺なるを  
以て特に遺髮を葬り此塔を  
立て其の由を碑陰に刻せら  
る

一七四 佐久間象  
山墓

花園村妙心寺内大雄院の奥  
にあり、元治元年七月十一日  
象山の三條木屋町に害せら  
るるや嫌疑を恐れて納葬す  
る者なし大雄院は眞田家の  
寺なるを以て強て此に葬れ  
り、其後門人陸軍少將牧野毅  
其の墓石を建て其四十年祭  
に當り更に修營を加へ墓標  
を建つ

一七五 長岡天満宮

新神足村字開田に在り社傳に菅公此地を過き休憩す其後從者鎮西より歸り此に社を設くと然れとも確ならず社地頗る廣く池に臨みて風景最も宜し



一七六 寶積寺

(寶寺)

大山崎村にあり、眞言宗なり所謂寶寺にて世に著るし舊時は巨刹なりしか今は大に荒廢せり寶塔一基猶存せり

一七七 光明寺

郡内粟生の地に在り、淨土宗西山派の總本山なり 四條天皇光明寺の額を賜ふ乙訓郡第一の巨刹なり

一七八 妙喜庵

禪臨濟宗東福寺の末なり、大崎村に在り、天正中、豊臣太閤山崎陣營の時、千利休此寺に居りしを以て、時時此に臨まる其名之より世に聞えたり

一八〇 苦竹林

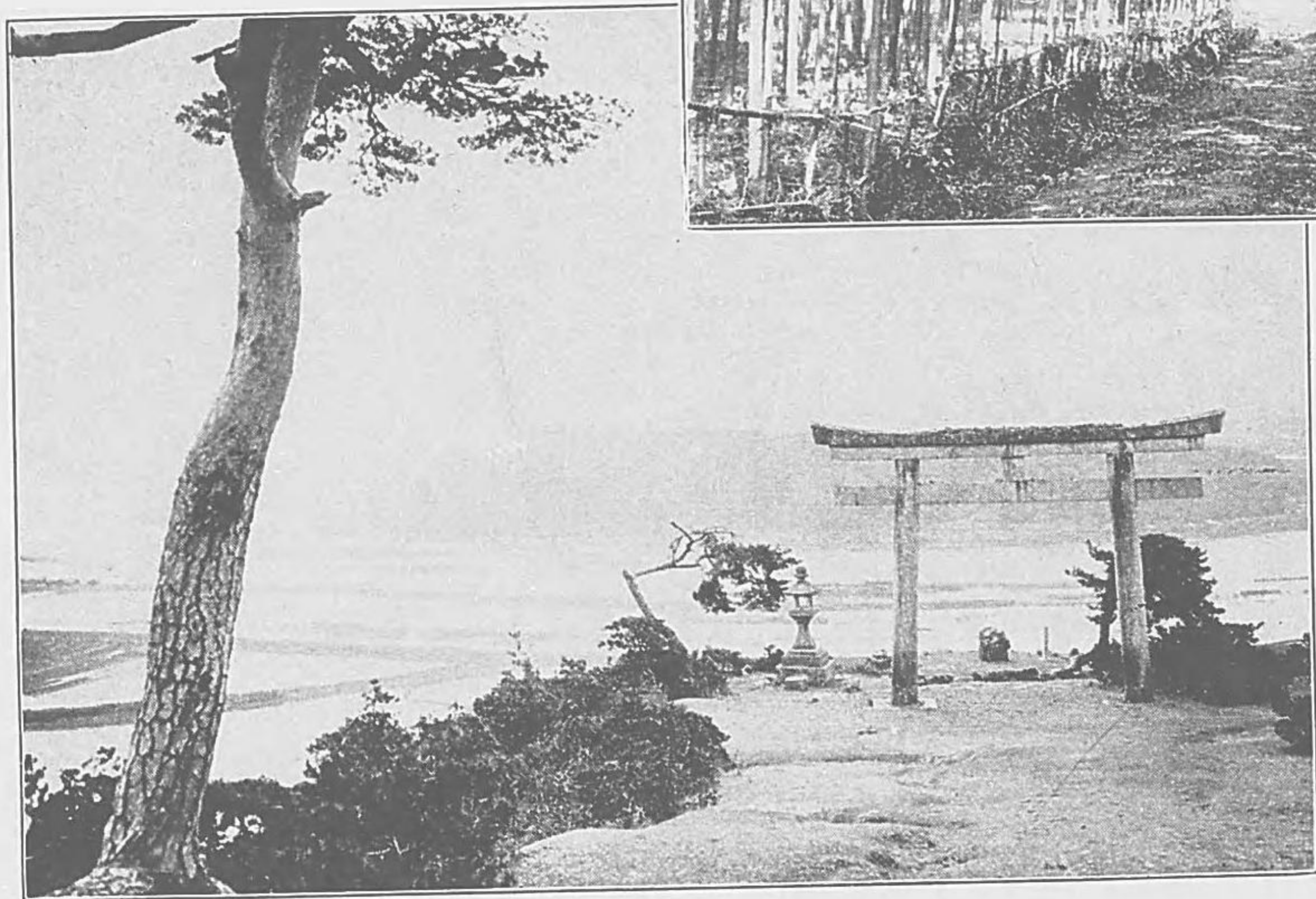
山城一帯の地竹の栽培に適し、材質最も優秀なり、主として葛野、乙訓、宇治等の各郡に産し、明治三十九年度の産額十六萬七千九百五十七束、價額十一萬千七百七十四圓に上れり

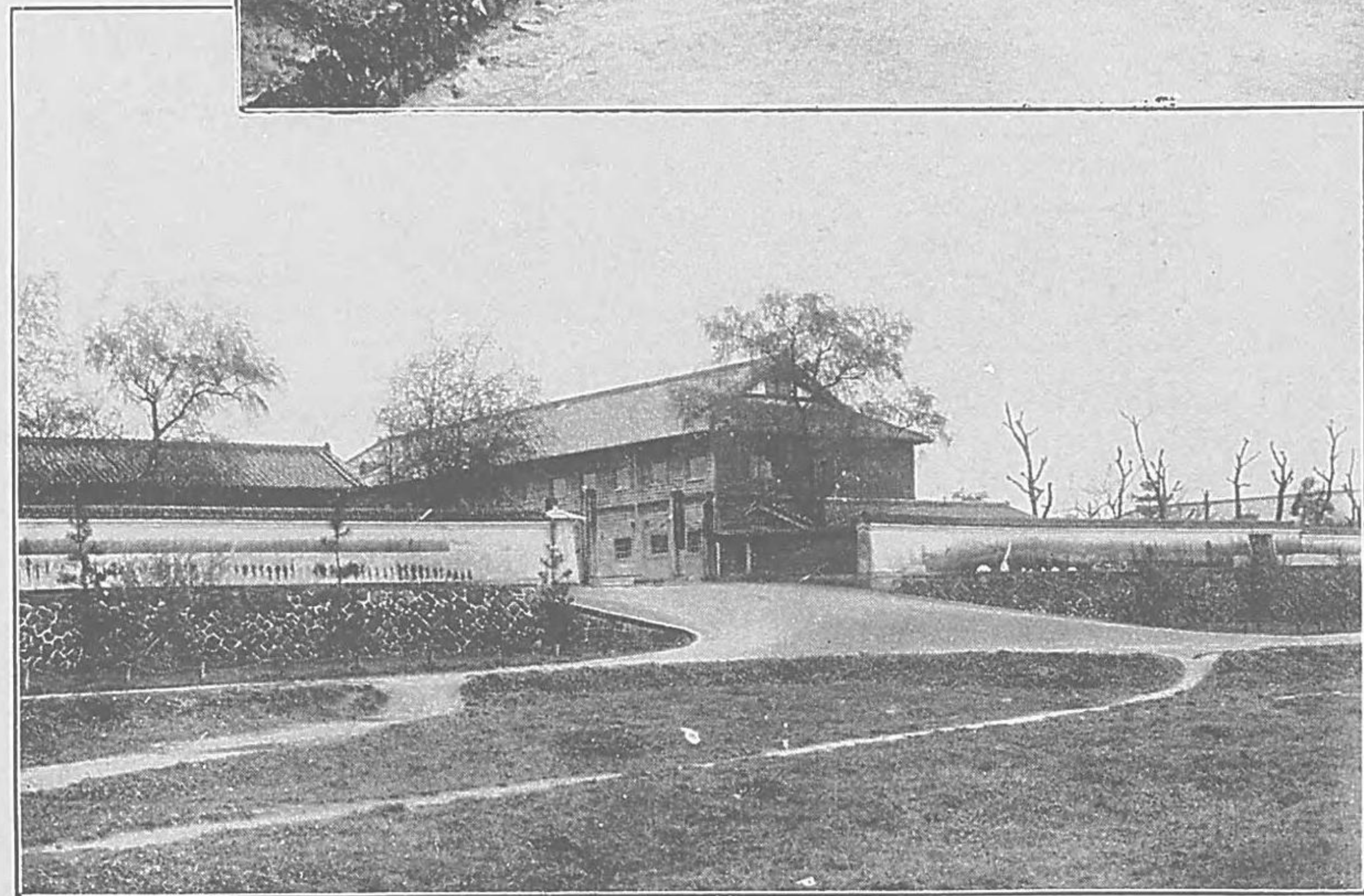
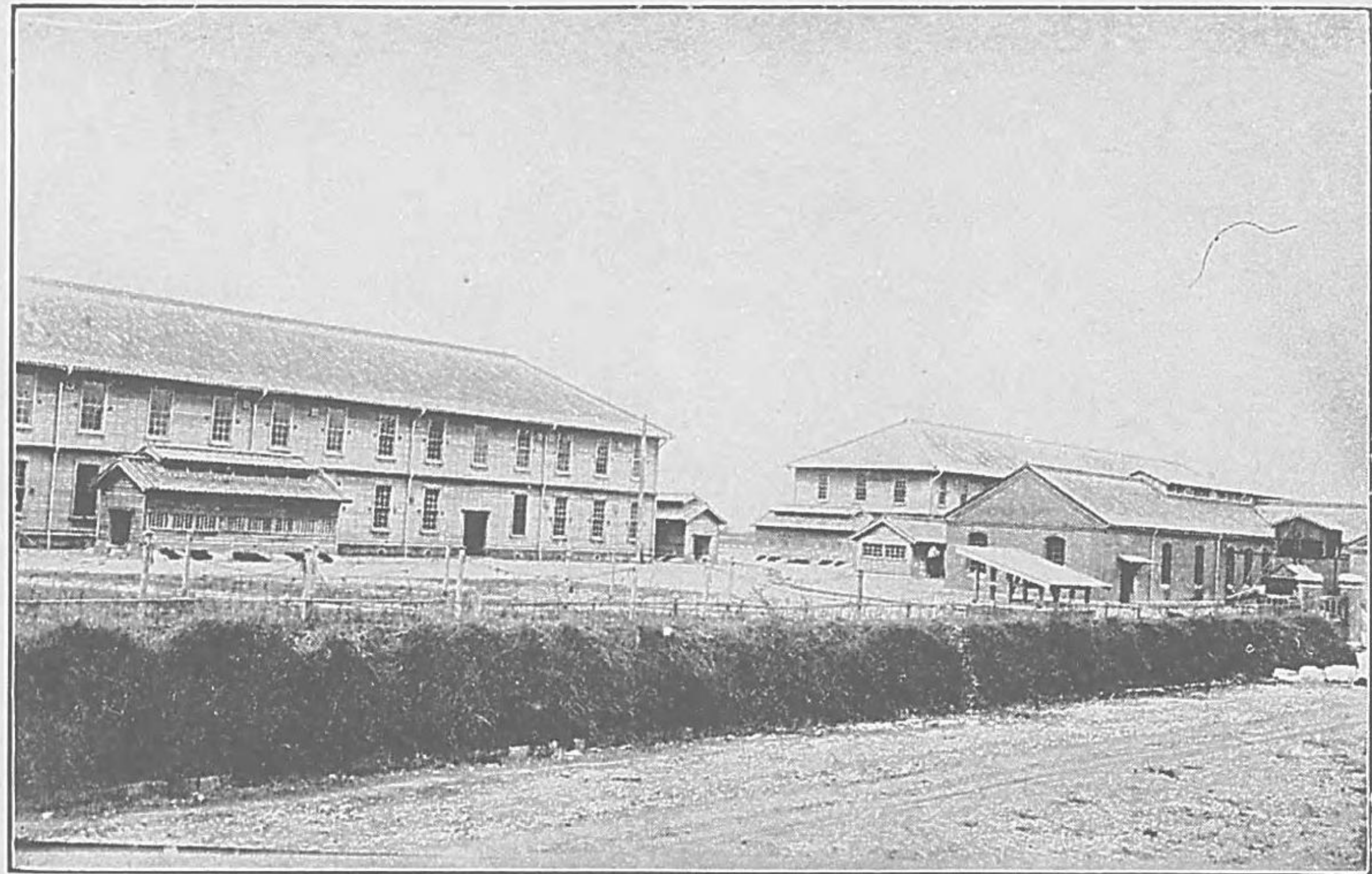
一七九 江南竹林

江南竹は即ち孟宗竹にして、乙訓、宇治其他南山城各郡に産す、其筍は豊美柔軟にして、販路多く、近時罐詰として需用盛んなるより、栽植益行はれ、其作付反別は七百五十三町歩餘にして、價格十八萬九千餘圓に達せり

一八一 山崎古戰場

山崎村天王山の下、澱川の西にして、北に勝龍寺の城址あり、天正十年六月、豊太閤、明智光秀を討ち之を誅し、霸基を定めし所なり、其山上の元治の役、真木和泉等が割腹せし所なり





一八二 第十六師團

明治四十年九月紀伊郡深草村に設置地域を下し其原部隊は大坂府下泉北郡高石村及天王寺、天下茶屋に假駐屯し四十一年三月兵營の建築に著手し今や竣工しつつあるを以て野砲兵第二十二聯隊は十月十八日師團司令部は十一月一日騎兵第二十聯隊は十月二十三日輜重兵第十六大隊は十月二十五日各殘留員を移轉し京都衛戍病院は十一月一日を以て従來の三等病院を擴張し其幹部材料を臨時濱寺衛戍病院並に天下茶屋臨時衛戍病院より増加せり  
騎兵第二聯隊輜重兵第十六大隊の實員は十一月舉行の特別大演習を終了後新兵營に移轉すへき計畫なりと云ふ

一八三 歩兵第三十

八聯隊

深草村に在り明治二十九年五月兵舎の建築に著手し三十一年竣工し聯隊の編成完畢せしは同年十二月一日なり

一八四 工兵第四

大隊

伏見町に在り明治八年三月創めて大阪城内に設置せられ十九年五月今の地に移轉し二十二年十二月兵舎完成を告げたり

一八五 府立第二

中學校

上島羽村に在り、明治三十三年四月開校面積一萬一千四百九十八坪を有す、現在生徒五百九十八名、開校以來卒業生三百九十四名を出せり



一八六 稻荷神社

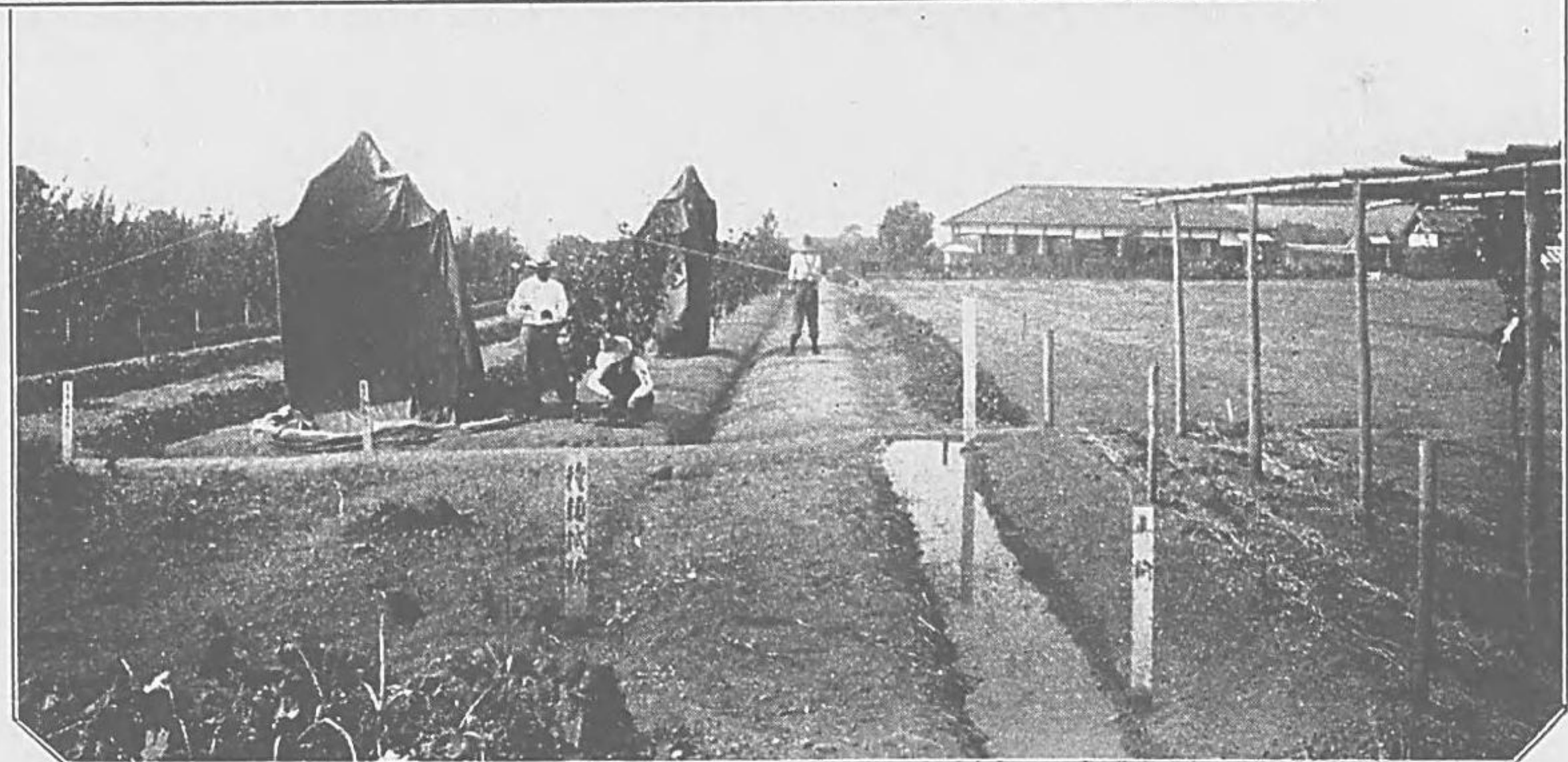
深草村大字福稻に在り、官幣大社にして宇迦之御魂大神、佐田彦大神、大宮比賣大神三座を祭る元明天皇和銅四年二月始めて伊奈利山三峯に鎮座し今は其の麓に遷座す、歴朝の崇敬著し私祭は舊に仍り之を行ひ四月第二午日神幸、五月第一卯日を還幸とす、社地廣大參拜者日夜絶えず



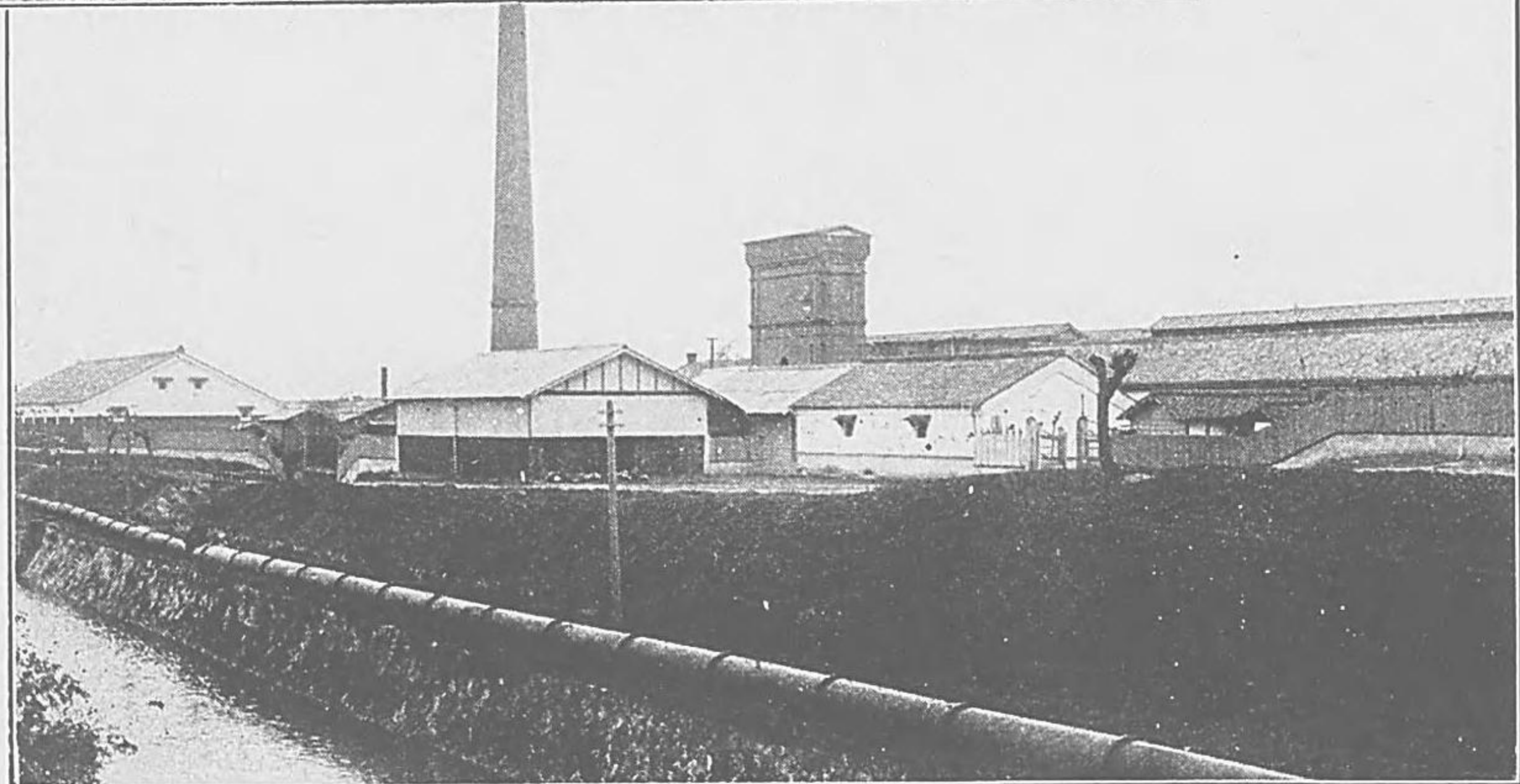
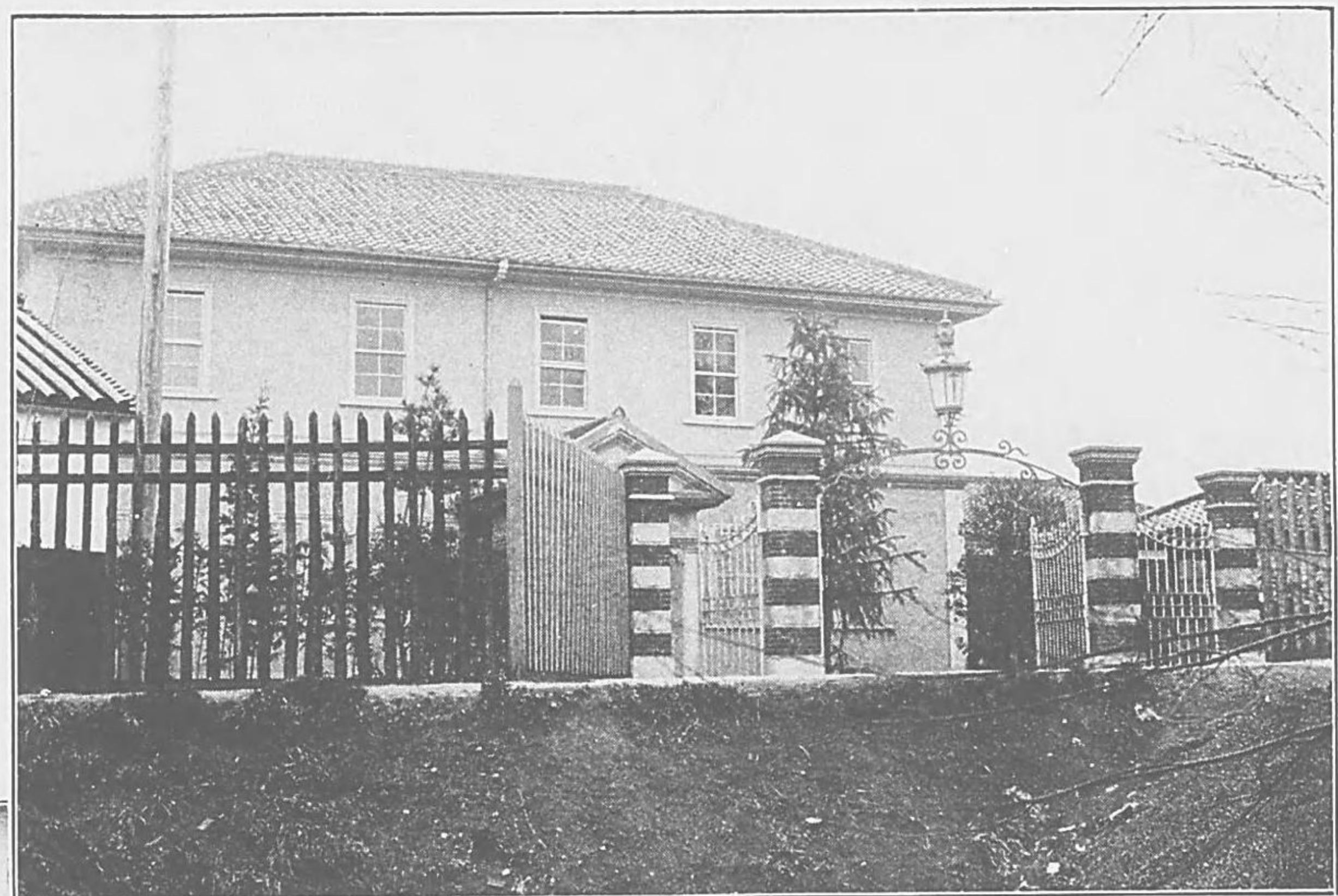
一八七 農事試験場

桃山分場

堀内村に在り府立農事試験場の分場として明治三十七年の創立に係る試験地總反別五町歩にして事業は果樹の試験を主とし傍ら蔬菜を栽培し府下に於ける斯業の改善發達を獎勵せり







一八八 松風陶器合  
資會社工場

紀伊郡深草村大字福稻に在り、明治三十九年四月の創業に係り資本金十萬圓にして最近一箇年の製産價額三十萬圓、概ね北米合衆國、加奈陀、南米諸國及英、佛、獨等の諸國に輸出せり最新式製造法に依り府下に於て初めて純白色磁器を製出するに至れり又別に高壓電氣用磁器を製作し輸入防壓の目的を達せんとし盛んに製造しつつあり

一八九 大阪紡績株式會社伏見  
分工場

伏見町に在り、明治二十八年伏見紡績株式會社の工場として創立せしか屢變遷して三十九年五月大阪紡績株式會社に合併し其分工場として營業す産額一箇年約六十萬圓なり

一九〇 濱口罐詰  
工場

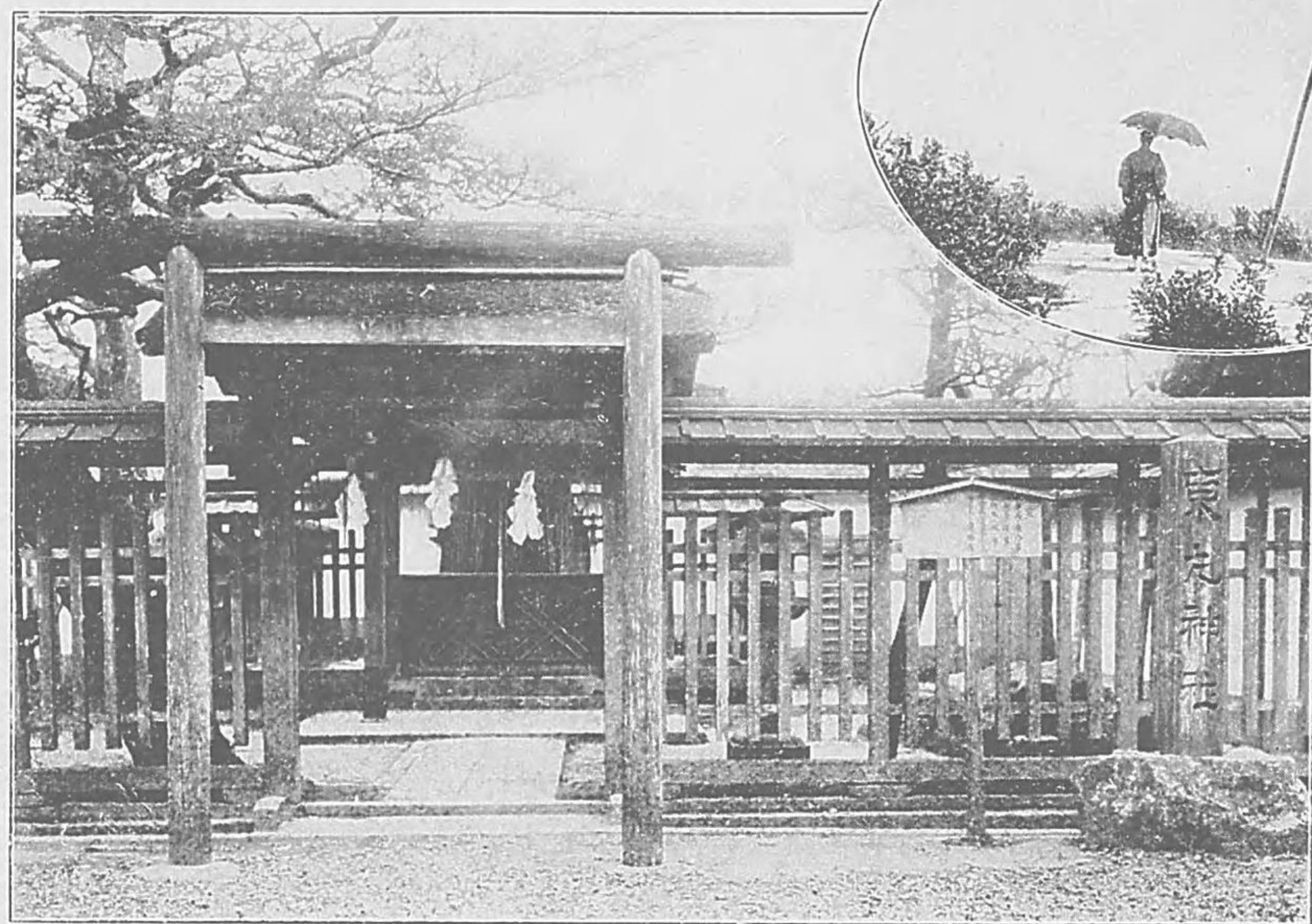
東九條村にあり、濱口富三郎の經營に係る、明治十九年二月の創業にして工場四百二十四坪、職工五十餘名、各種罐詰業を營み漸次業務を擴張せり

一九一 伏見城址及桃山

伏見町、堀内村に互る豊太閤伏見城の舊址なり、文祿年中此地を相し城閣及殿宇を設く城閣頗る華麗を極め明國の使節を此に受く慶長三年豊公此に薨す關ヶ原役後徳川氏之を毀ち其建物は所所に頒ち今猶存するものあり其舊址は本丸、三三の丸松丸其他猶分明たり眼界開豁京南第一の勝地なり城墟は概ね宮内省に屬せり桓武天皇柏原御陵は其山上に在り、伏見宮の舊址は其南端に在り

一九二 荷田東麻呂墓

官幣大社稻荷神社より一町の南字阿里山墓地の東南隅にあり明治の初年大學大博士平田鐵胤首唱し新に碑を立つ舊石塔は其新碑の後に立ち前面に羽倉齋荷田春滿之墓元文元年歲次丙辰七月二日と刻したり



一九三 醍醐寺

醍醐村に在り、眞言宗醍醐派の本山なり延喜七年僧聖寶に勅して開創す、山上山下に分れ無數の堂宇寺仿相連なる三寶院の林泉建物は豊太閤の造築にて今に現存し林泉の景最も勝れたり、寶物古文書の多き他に類無き所なり又古建築にて特別保護建造物も少からず

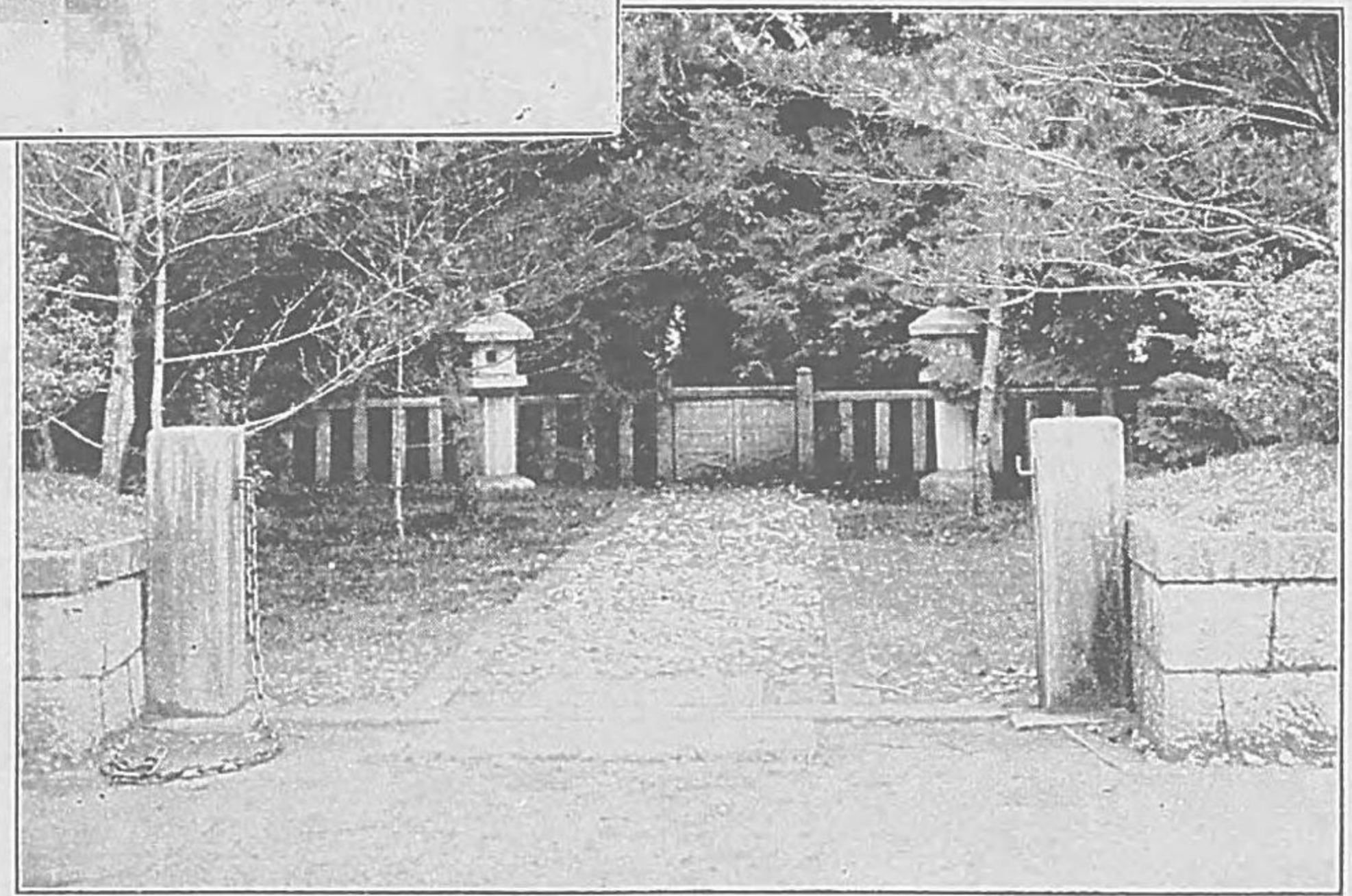
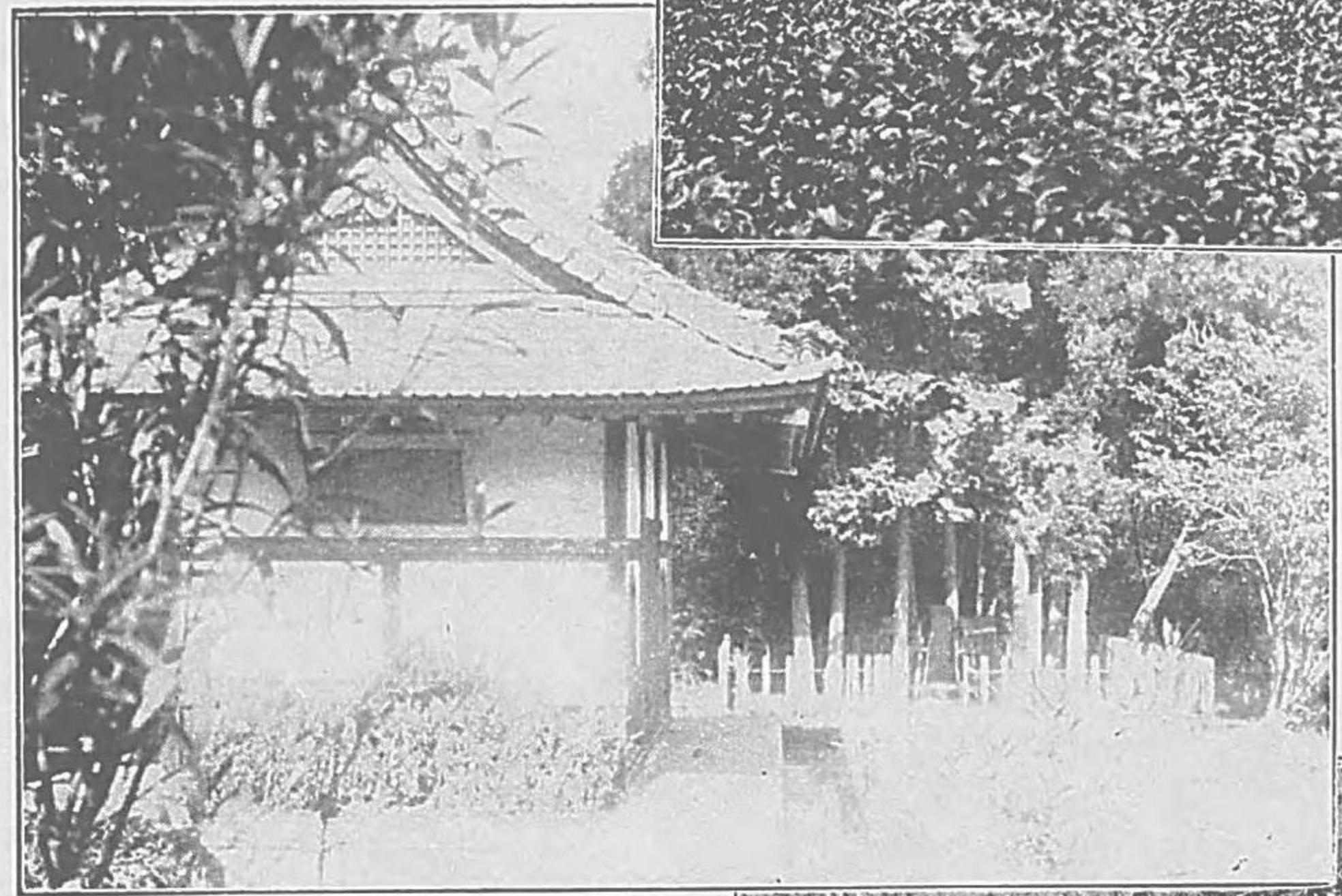
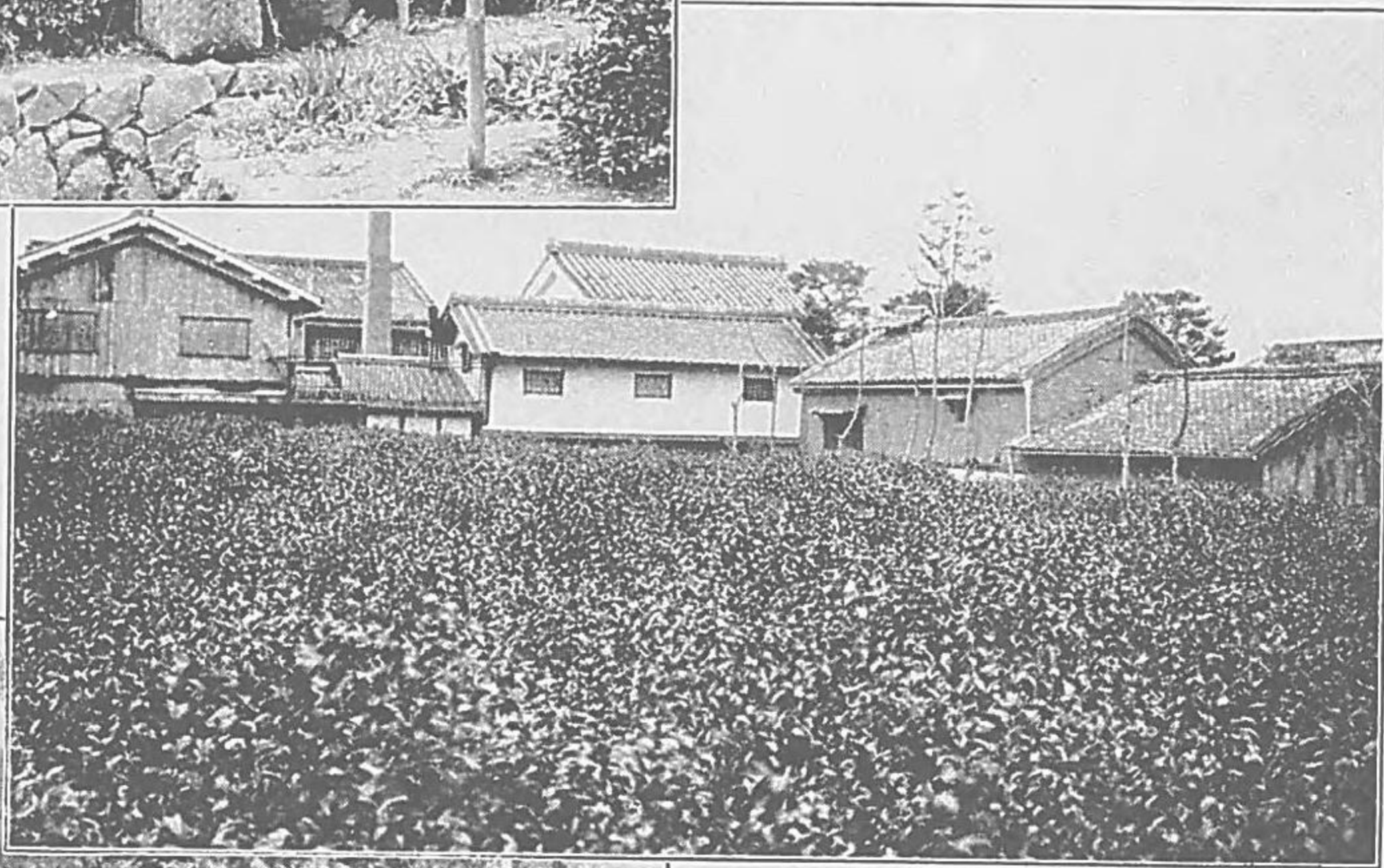


一九四 勸修寺

山科村に在り、眞言宗の本山なり醍醐天皇の  
 母后胤子の本願に依り延喜年中帝の外祖父  
 宮道の宅を以て伽藍となし玉ひしに始まり  
 爾來門跡寺院たり維新の際晃親王の御住院  
 たり林泉幽邃にして他に稀なる所なり

一九五 萬福寺

宇治村に在り、黄蘗宗の大本山にて隱元禪師  
 を開祖とす、其經營多く支那風を模し山門、天  
 王殿、雄寶殿、法堂、鼓樓等鱗次す、寺域は頗る廣  
 裕、靜閑、堂殿、門樓、丹碧、燦煌、殊に諸禪僧の扁額  
 雙聯多く、京都の巨刹中にて開創當時の堂宇  
 全存するは唯是のみ



一九七

松尾嘉平治  
製茶工場

宇治村に在り、天保年間の創業にして茶園段別十町二反歩工場四百二十坪を有す爐數七十六箇にして一箇年の産額千七百八十貫に上れり

一九六 宇治茶園

宇治茶の名聲は古來世に著はる、本園は宇治町の玉露園なり、其産地は主として綴喜、相樂、宇治の三郡に在り管内一箇年の産額八十四萬八千圓にして就中久世郡の産額は十六萬三千四百九十二圓の多きを占む

一九八

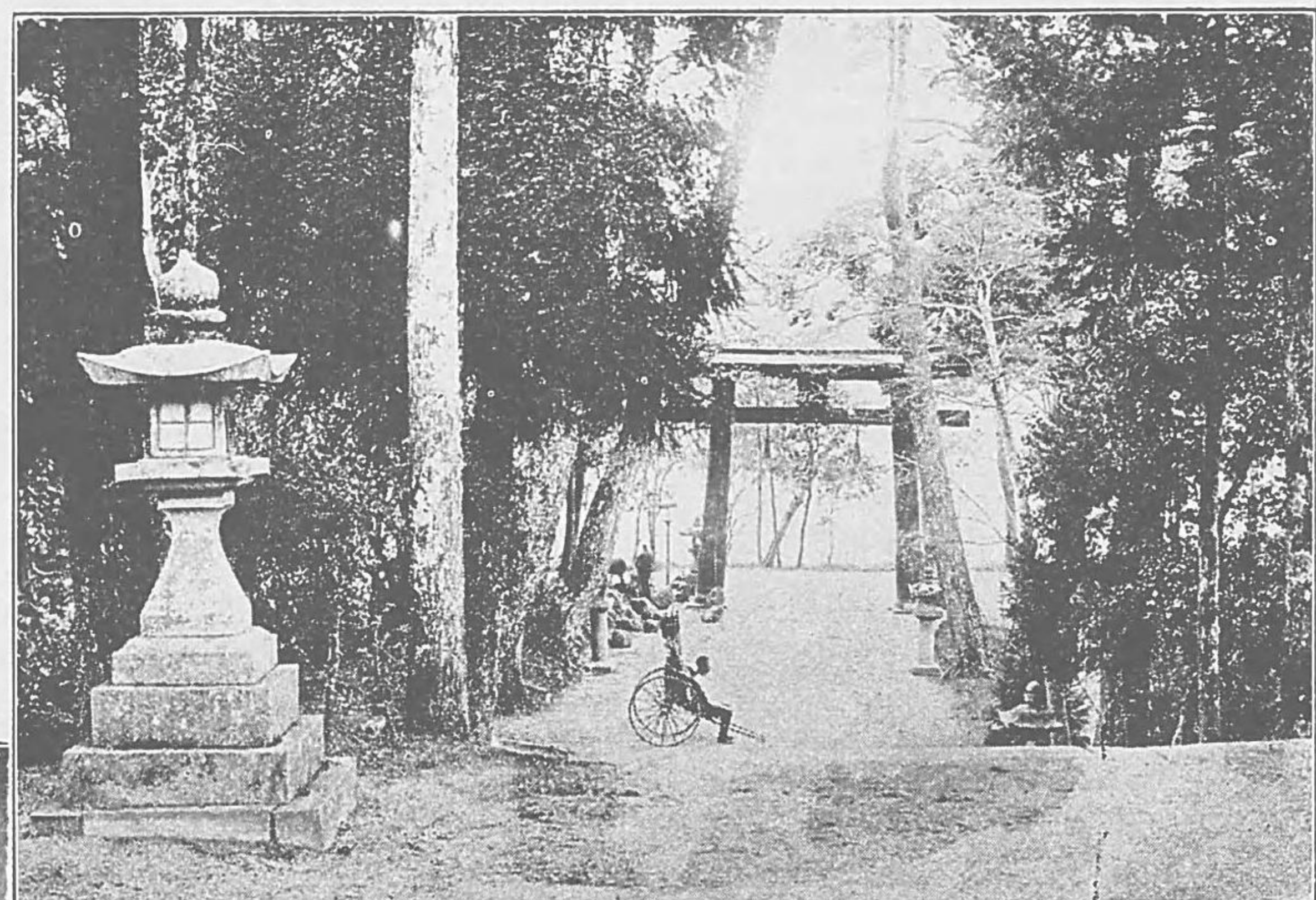
大石良  
雄舊址

山科村西野山山科神社の下にあり、石を立て之を表す世に大石山科の隱家とは此所なりといふ

一九九 田村將

軍墓

山科村にあり、將軍の薨するや特に此地を賜ひ甲冑武具を備へて京師に迎へ之を葬る事は國史に在り近年修營し大碑を立て之を表したり



一一〇〇 宇治神社

宇治町宇治郷にあり祭神は菟道稚郎子命にして延喜式内に在る神社たり上宮は桐原山の麓に在り延喜年中の建造にて特別保護建造物となる

一一〇一 巨掠池

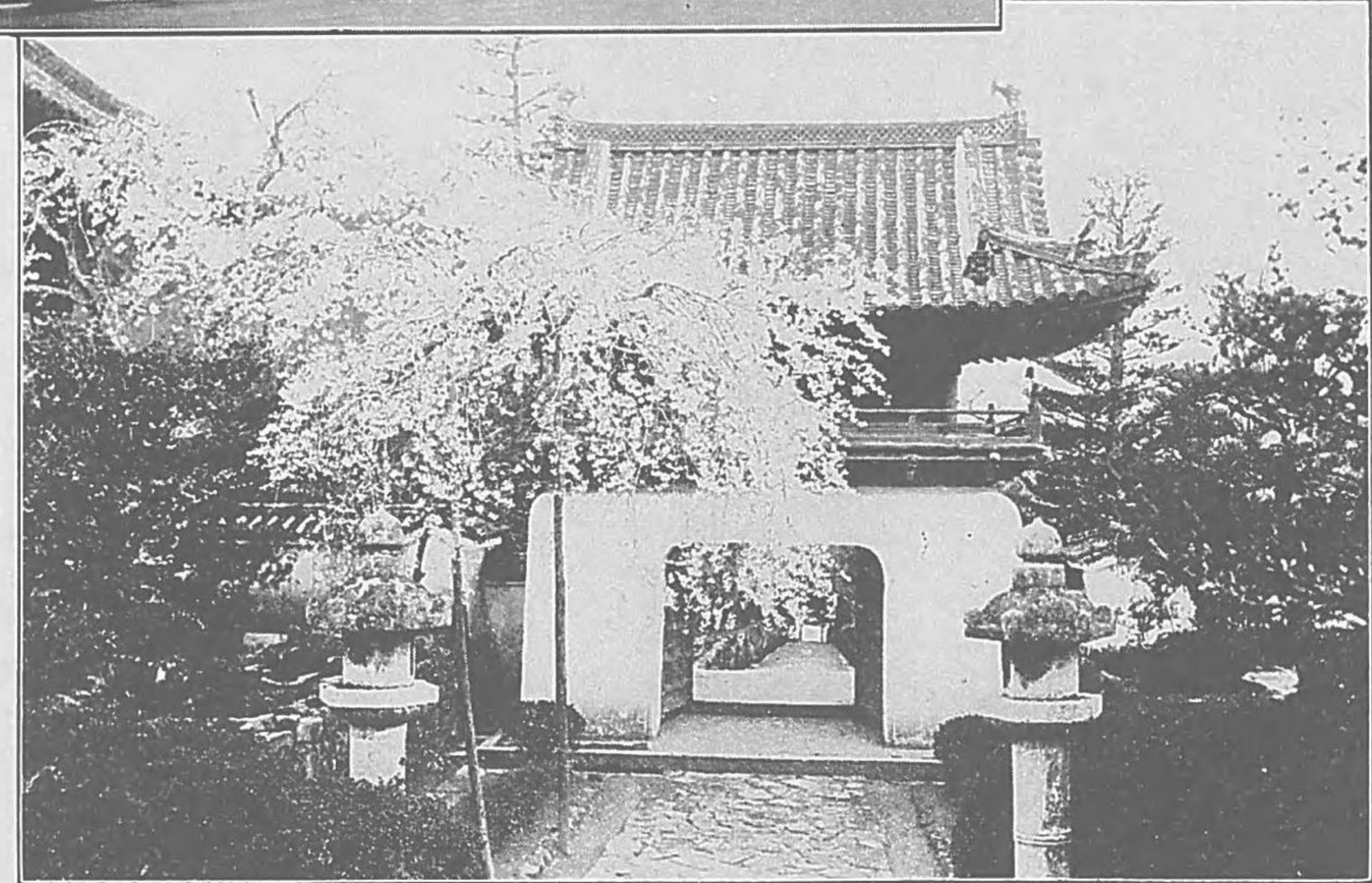
紀伊、久世、二郡に互り周圍三里、史上に著はれたる池なり豊太閤長堤を池中に通し湖光山色相掩映して眺観最宜し又魚蝦の利、観蓮の勝あり

一一〇二 寺田村李畑

南山城農産物中梨果に亞ける名産なり、通俗巴旦杏と稱すれと實は一種の李果に屬す寺田村に産するもの形大にして甘味に富み且つ佳香あり近來東京大阪地方へ輸出するもの多し

二〇三 宇治平  
等院

宇治は宇遲菟道等に作り早く國史地誌に顯はれし地なり、應神の朝稚郎子皇子此に住し日桁の宮あり又押熊王の戦あり後年源賴政が戦敗れて自刃せしも此處にして扇か芝の古跡あり大和と山城の中間に在りて大河の險あるを以て常に戦争攻守の要地となれり、關白頼通別業を築き平等院となし鳳凰堂を築きしより其名益高し鳳山と俱に京都の勝景たり鳳凰堂は永承の建築にして藤原氏の全力を注ぎ當時各種の美術工藝を盡し爾來變遷多きも今に存し特別保護建造物となれり、本尊阿彌陀如来は國寶となり近年之に修理を加へらる今は地勢大に變したれとも宇治川に臨み勝景を占めたり、天台淨土二宗にて之を護せり

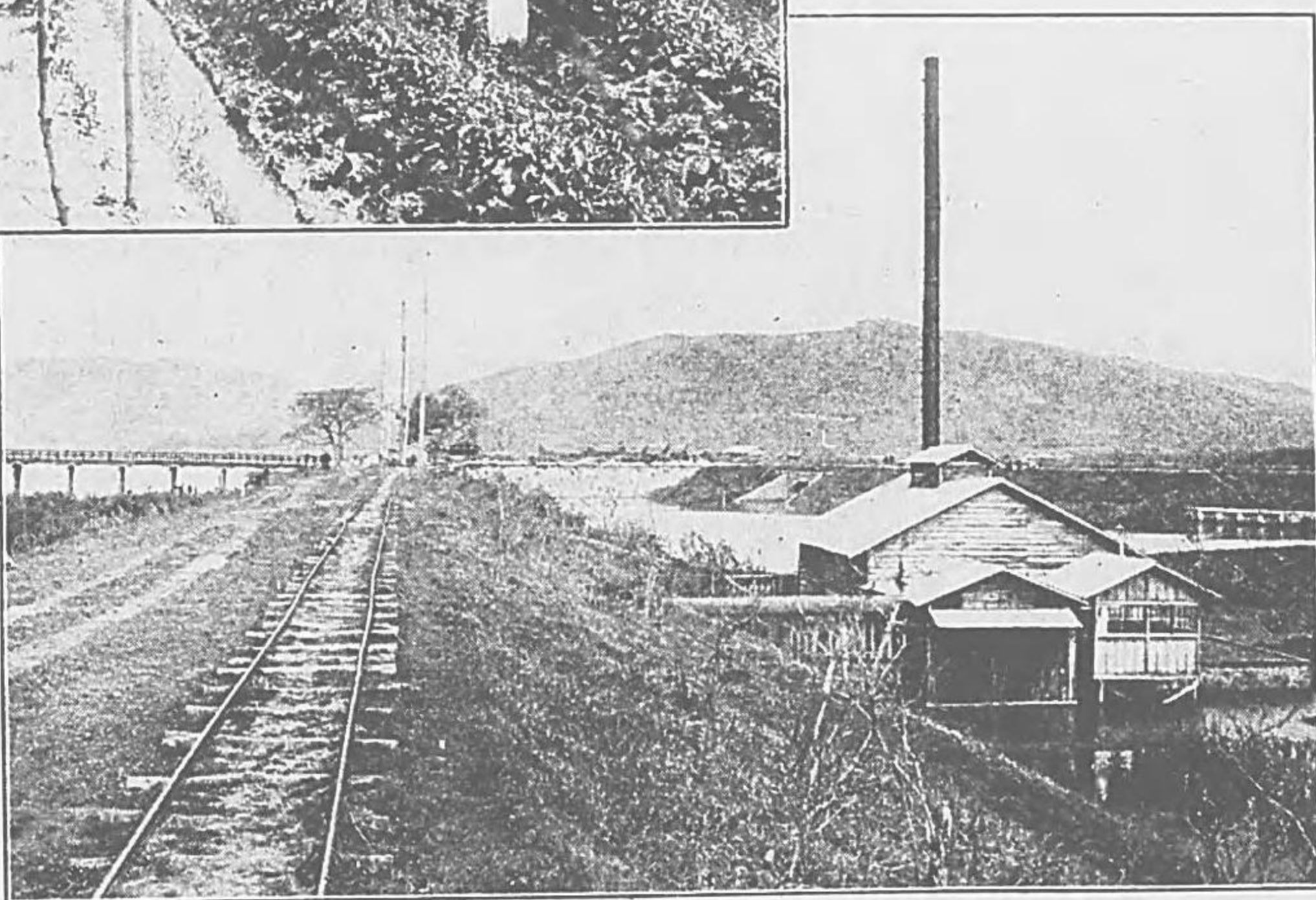
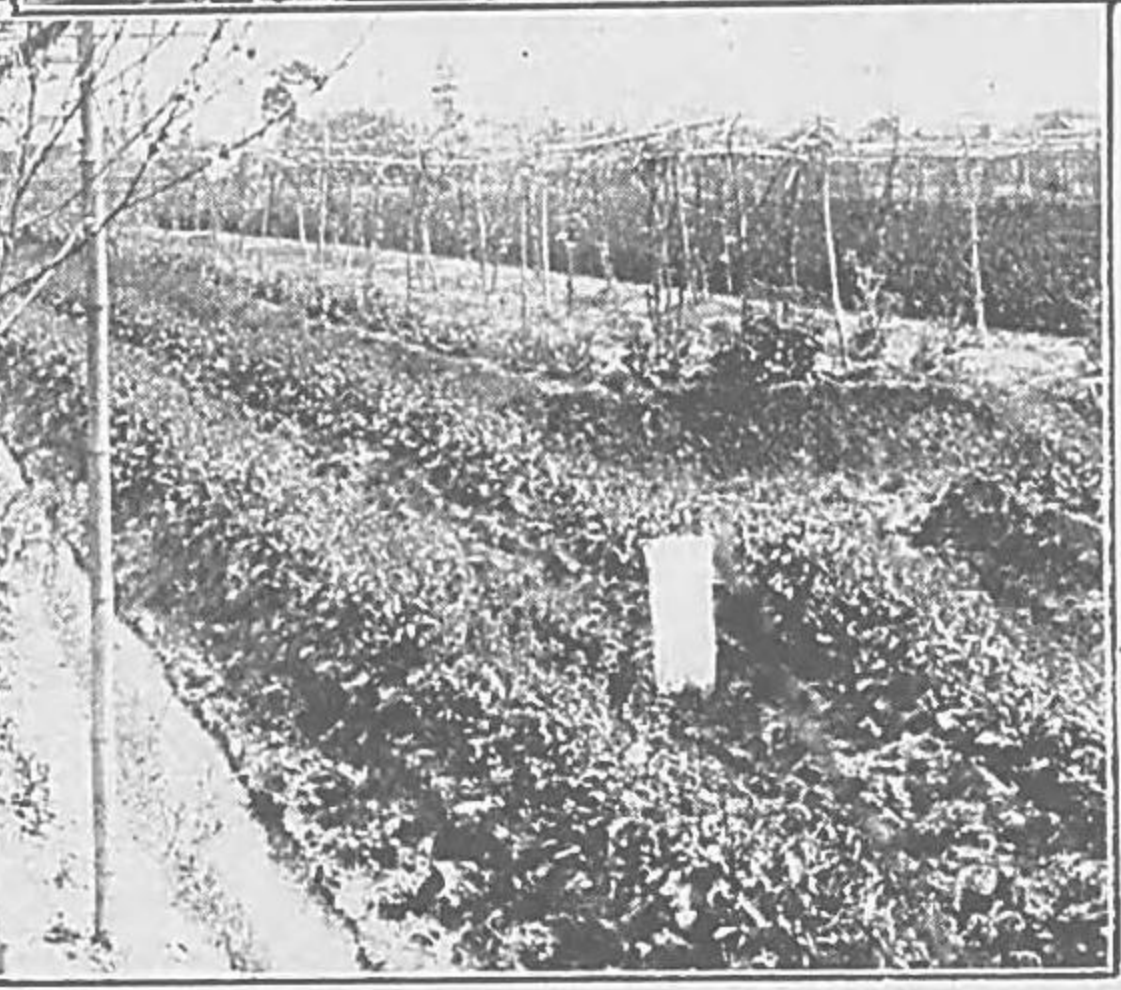
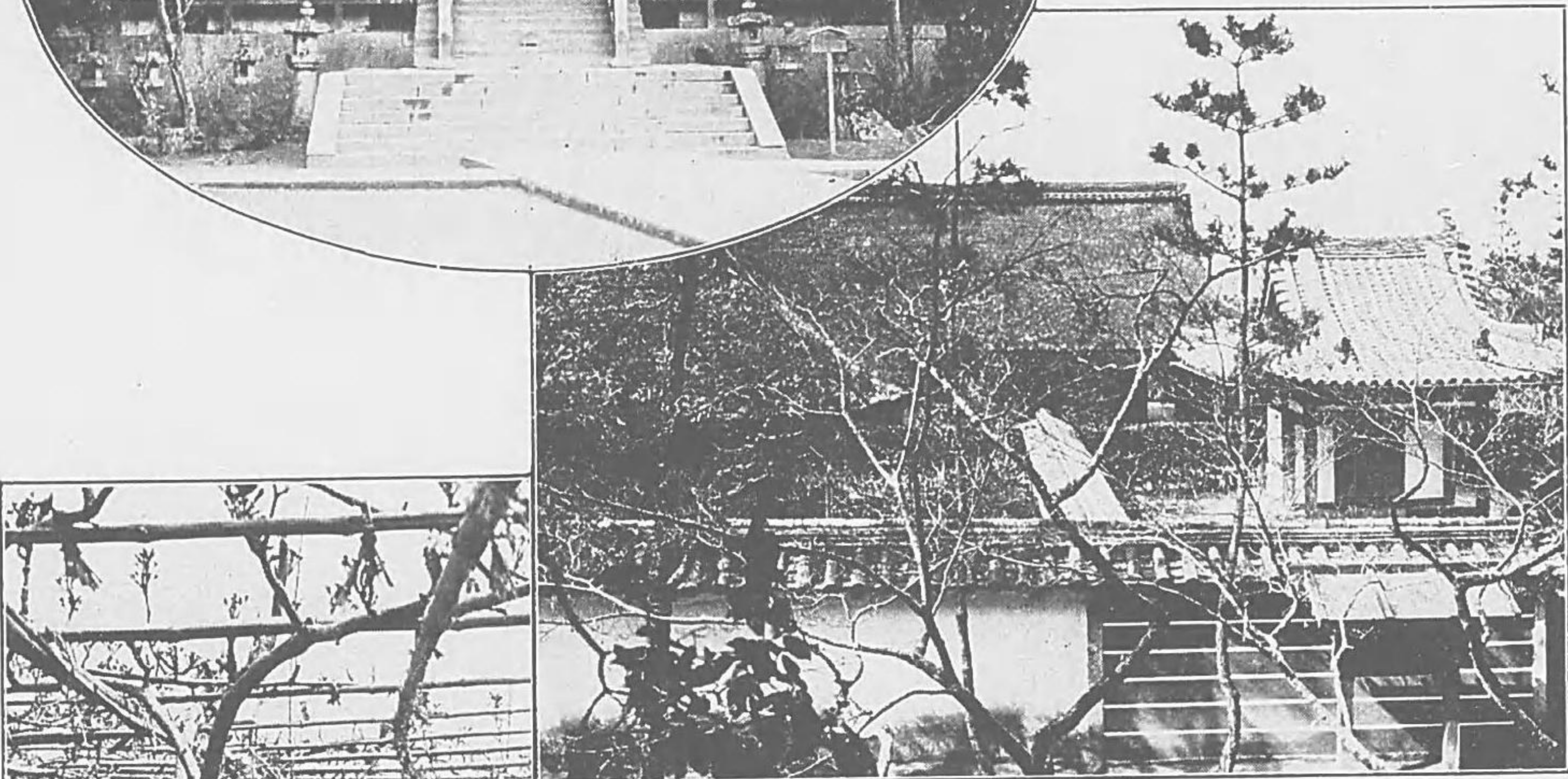
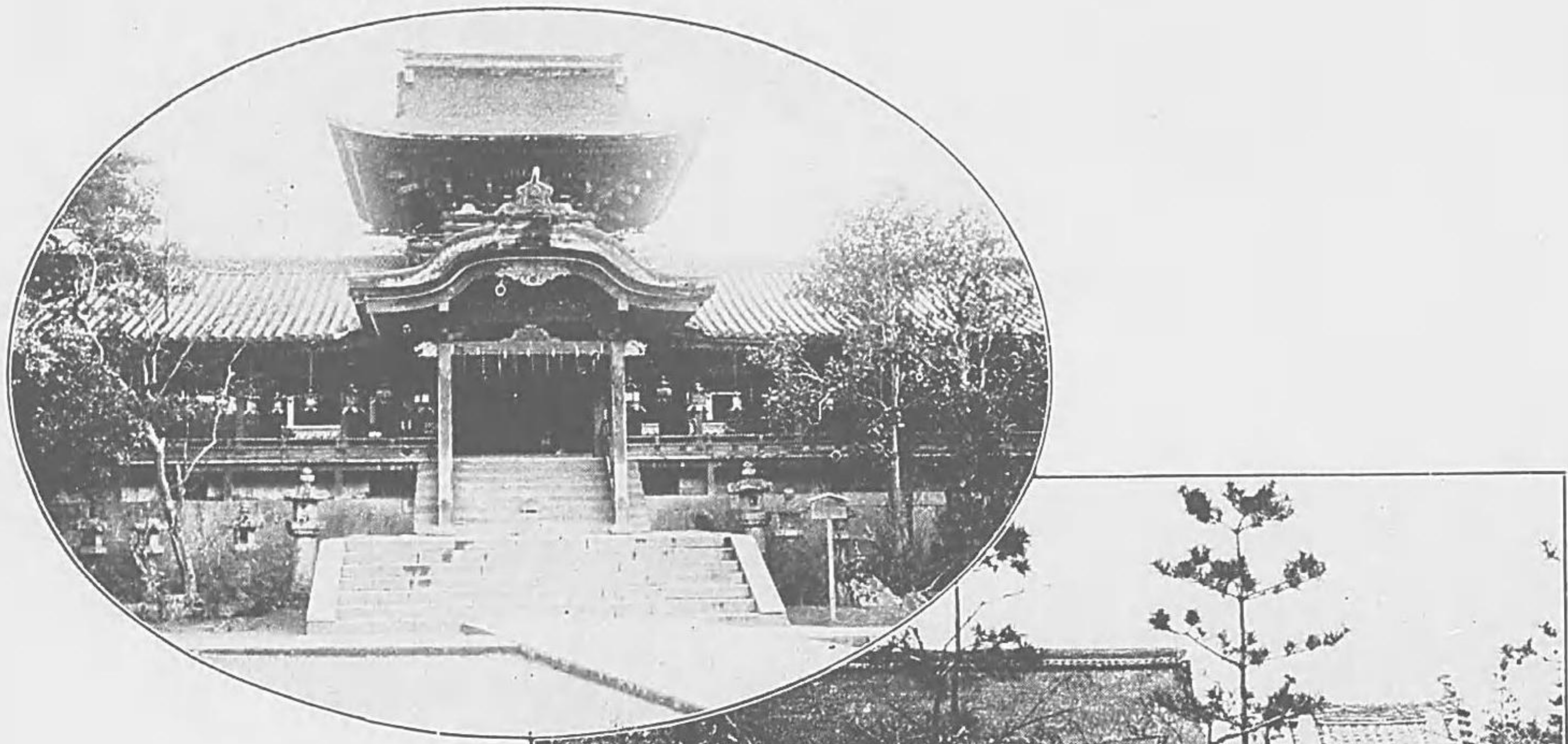


二〇四 宇治橋

宇治川に架する大橋にて、其起原頗る古く幾多變遷ありて替る事なく南北交通の要路に當り古來の史蹟多し宇治橋の碑は日本金石文字の有名なるものにしていま橋寺に之を藏す

二〇五 興聖寺

宇治町に在り、曹洞宗最初の禪院にして道元禪師を開祖となし四條天皇、興聖寶林寺の勅額を賜ふ舊來深草に在りしを淀城主永井氏此に再興し其石門宇治川に臨み風光勝絶の禪刹なり



二〇六

男山八幡宮

八幡町に在り、官幣大社にして、應神天皇を祭り神功皇后、玉依媛を配祀す、初め貞觀年中宇佐より遷し勅して社殿を建て官社となす爾來朝廷の崇敬最も厚く時時行幸、奉幣のこと絶えず近くは孝明天皇文久三年攘夷祈願の行幸あり、今上陛下も亦屢、行幸あらせ給へり、例祭は九月十五日、其他臨時祭あり儀式最も盛んなり殿舎は特別保護建造物にして舊記寶物多し

二〇七

酬恩庵

田邊町字薪に在り、臨濟宗大徳寺派に屬す、大應國師の開基にして中興は一休禪師なり禪師の庵室今猶存し其墓も亦此城内に在り

二〇八

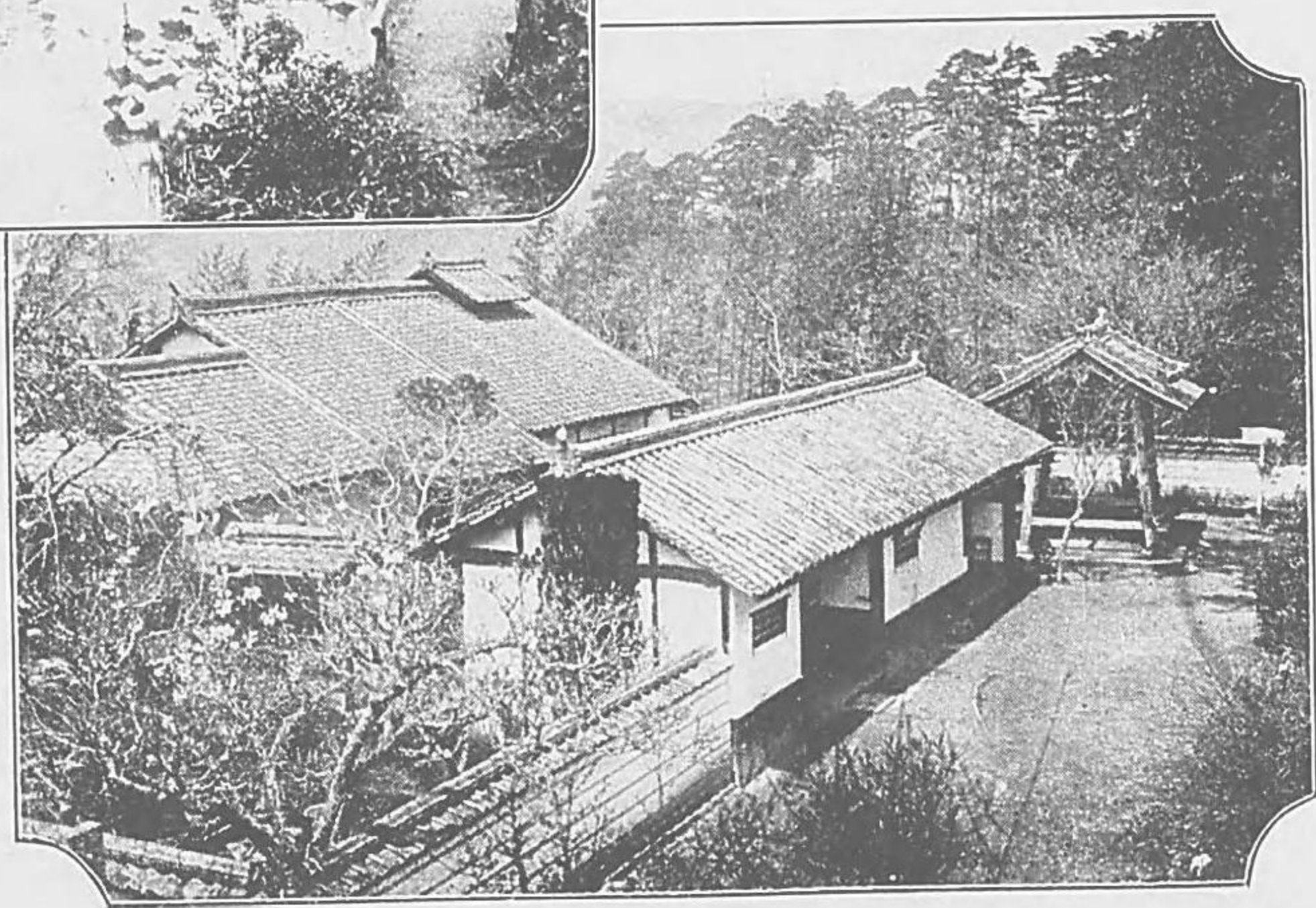
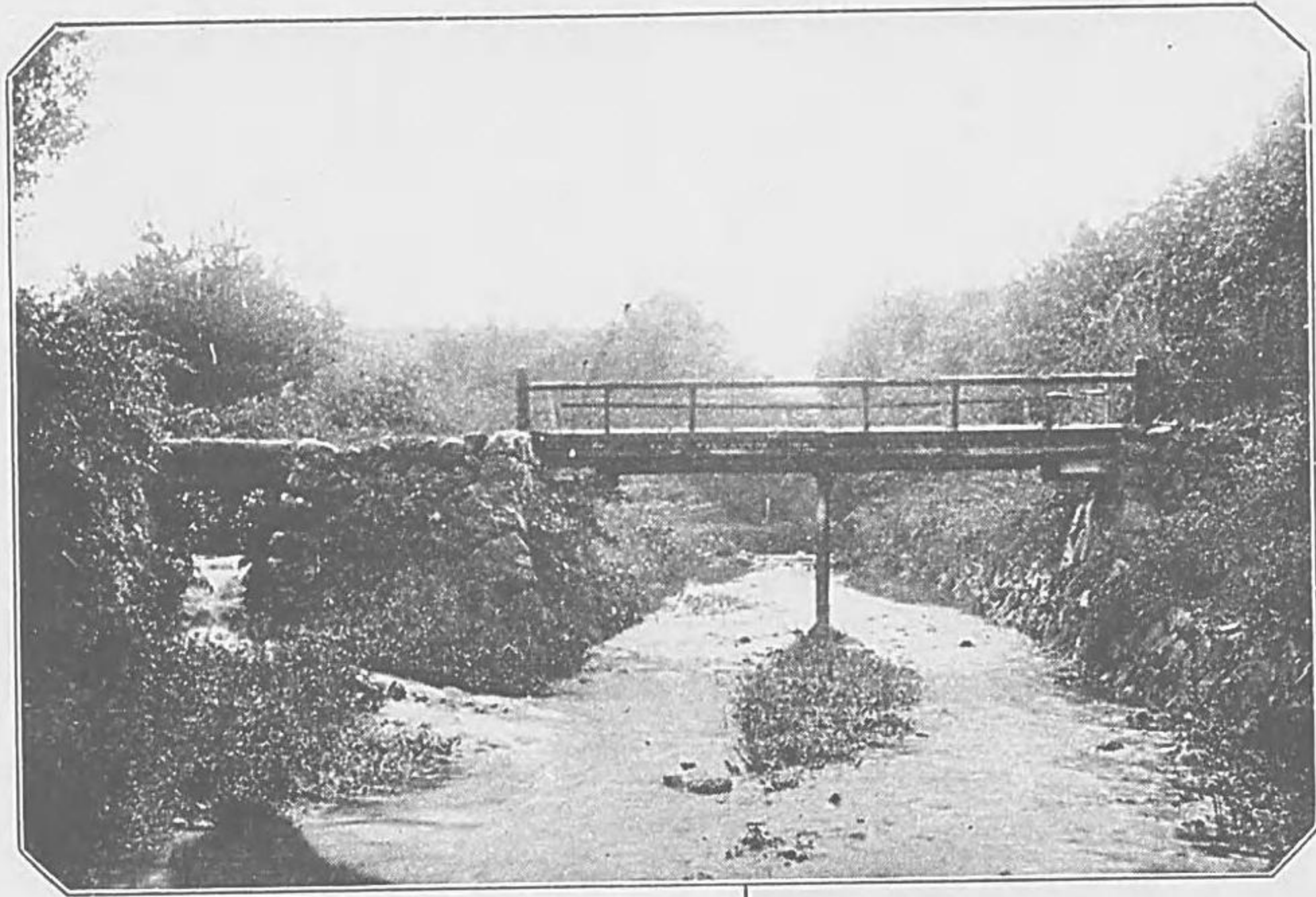
有智郷村梨畑

梨の主産地は南山城に在り、文政年間苗木を美濃國に求め漸次各地に播植し地方の特産たるに至れり明治三十九年中の産額は七萬八千餘圓にして近來益、栽培を増加しつつあり、本圖は有智郷村の梨畑なり

一〇九

八幡町美豆村  
聯合排水工事

本地區は、澱、木津兩川の間に在りし前年澱川改修の結果悪水流出の途を失ひ約六十餘町歩は殆んど其收穫を亡ふ、有志者相謀り明治三十九年耕地整理に伴ふ附帶事業として排水唧筒（六十四馬力一時間排水量三千六百八石）を設置し爾來年年雨期に之を使用し今日には全く悪水を排除して能く其患害を免かるに至れり



一一一〇

井手の玉川

井手村の山間より西流し木津川に入る小川にて六玉川の一なり溪間に山吹多し橋左府の別業の舊跡にて聖武天皇の行幸ありし所なり今は廢滅すれとも尙當時の古瓦を出すことあり

一一一一

澱川

琵琶湖の水宇治川となり木津鴨桂の諸川と相合し此に澱川の稱あり畿内第一の大河たり淀城其衝に當り近年大に治水の法を講しつあり

一一一二

淨瑠璃寺

當尾村に在る眞言宗なり寺傳に釋行基の創建といふ今は荒殘すれとも其本堂は永承二年の古建築にして其寶塔と共に特別保護建造物たり

一一一三

笠置寺

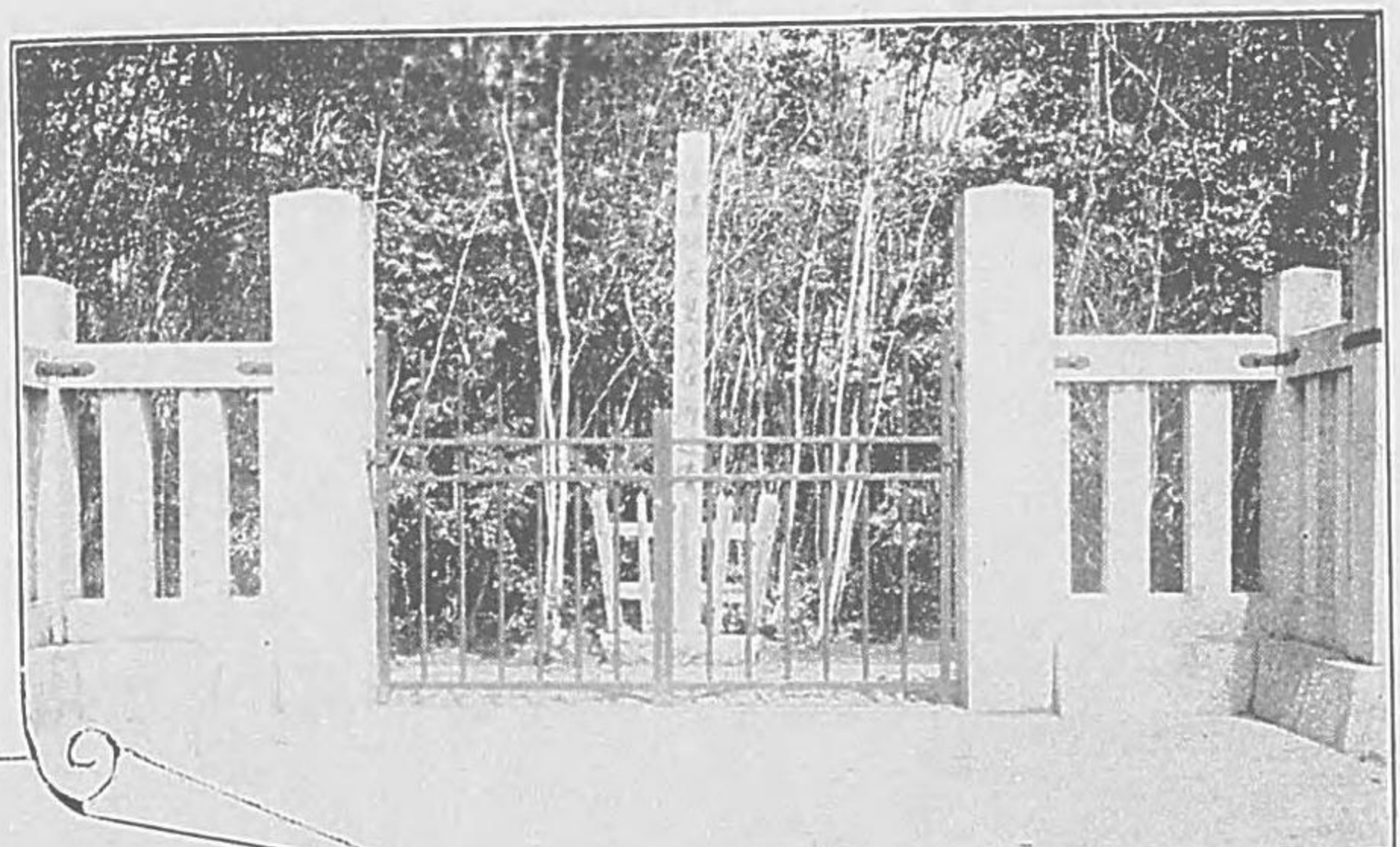
笠置村笠置の山上に在り眞言宗新義派智積院に屬す傳へ云ふ天武天皇白鳳十二年始めて伽藍を創建し良辨僧正及び空海上人等此に祕法を修せし處なりと其後衰微せしを建久年間解脫上人之を中興し元弘元年後醍醐天皇此に蒙塵し楠公を召して恢復の策を聽き給ひし所なり此時一山兵燹に罹り徳川氏の時藤堂家の領地となり數宇の寺院を造營せしか今は福壽院のみ存在す之を鹿鷲山笠置寺と稱せり



一一四

笠置行在址

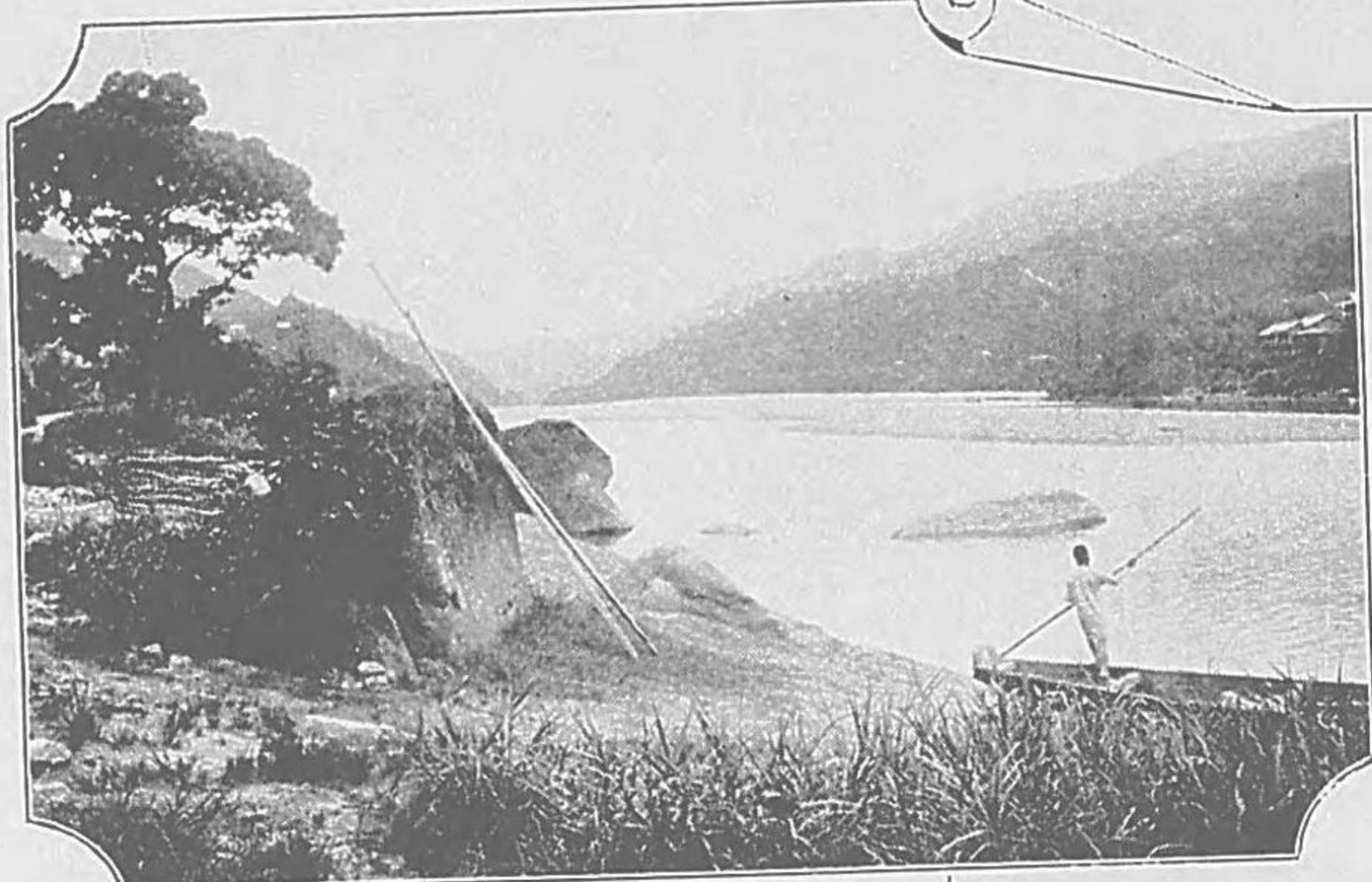
笠置山の絶頂にあり  
其の地平坦にして約  
三百餘歩、樹木叢生し  
石塔を圍らし元弘行  
在所の遺址たること  
を標せり



一一五

木津川

伊賀國及大和國の東  
部より出て南山城に  
入り木津に出て澱川  
に合す白砂清流山谷  
に介在するも能く小  
艇に帆して溯るへし  
風景の清麗亦愛する  
に堪へたり



一一六

相樂園

木津町に在り、明治三  
十七八年戰役記念の  
爲め相樂郡の事業と  
して木津町の北方高  
地に二町三反歩の果  
樹園を設置せしもの  
なるか故に戰時記念  
相樂園と名け果樹蔬  
菜及苗木を養成し郡  
内の模範とせり



一一七

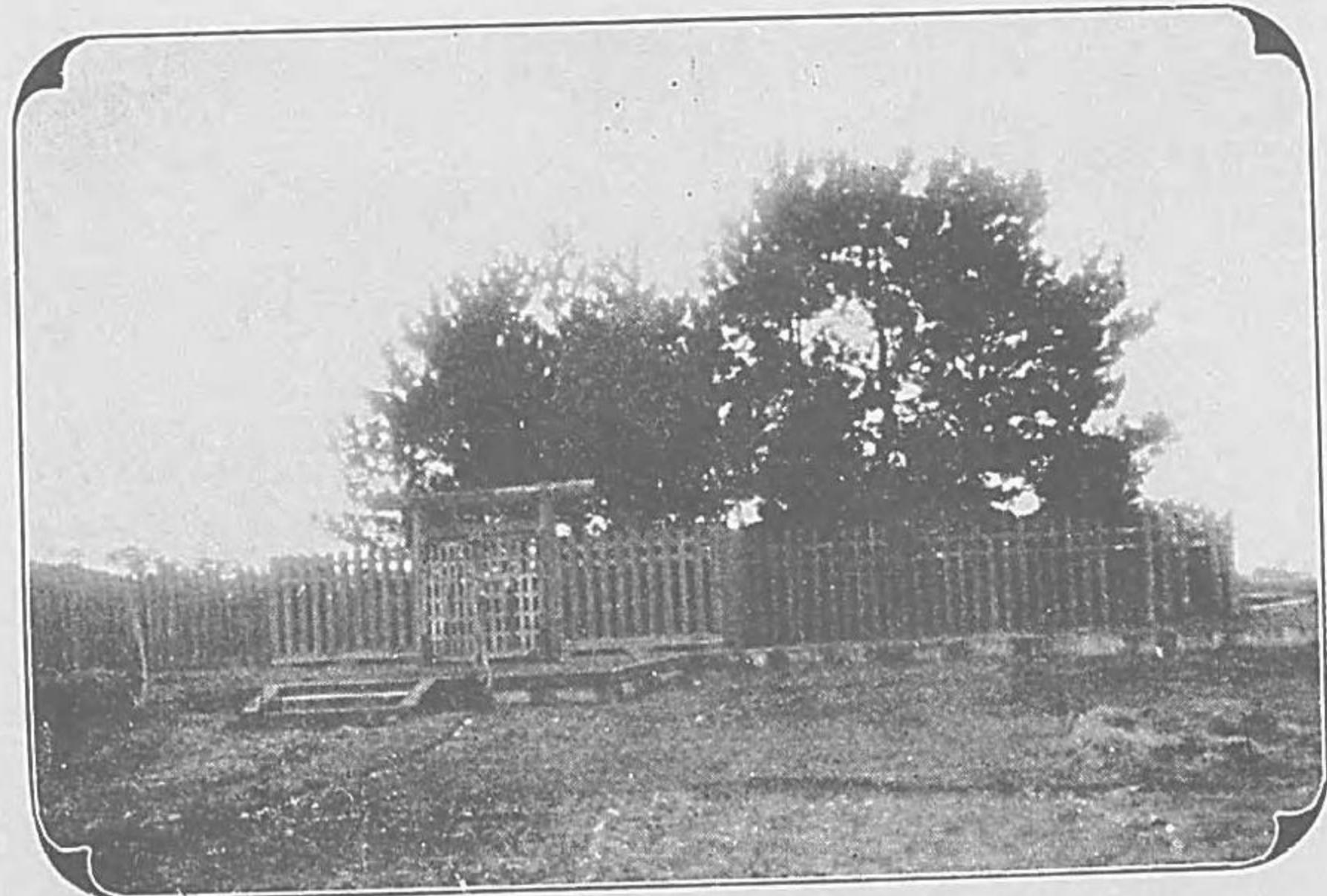
瓶原村柑橘園

柑橘は梨果に亞て南山城  
地方に産する主要園藝品  
の一たり初めて相樂郡に  
栽植せしに土質に適して  
結實佳良なりしより漸次  
地方に傳播し一の特産物  
となれり本園は同郡瓶原  
村に於て最も古き柑橘園  
なり

一一八

藤原百川公墓

相樂村にあり公は桓  
武天皇擁立の大勳あ  
るを以て近年官民協  
力し此塚を修築した  
り



### 二一九 保津川

南桑田郡保津より山峡に入り葛野郡嵐山の下に出で大堰川と  
なる其上流亂巖危石の間に屈曲し飛瀑激湍千態萬狀の奇觀か  
り慶長中角倉了以舟路を開きしより其景勝大に著はれ今は龜  
岡驛より扁舟を浮へ保津川下りと稱し萬里觀光の客も必ず遊  
覽する所となれり

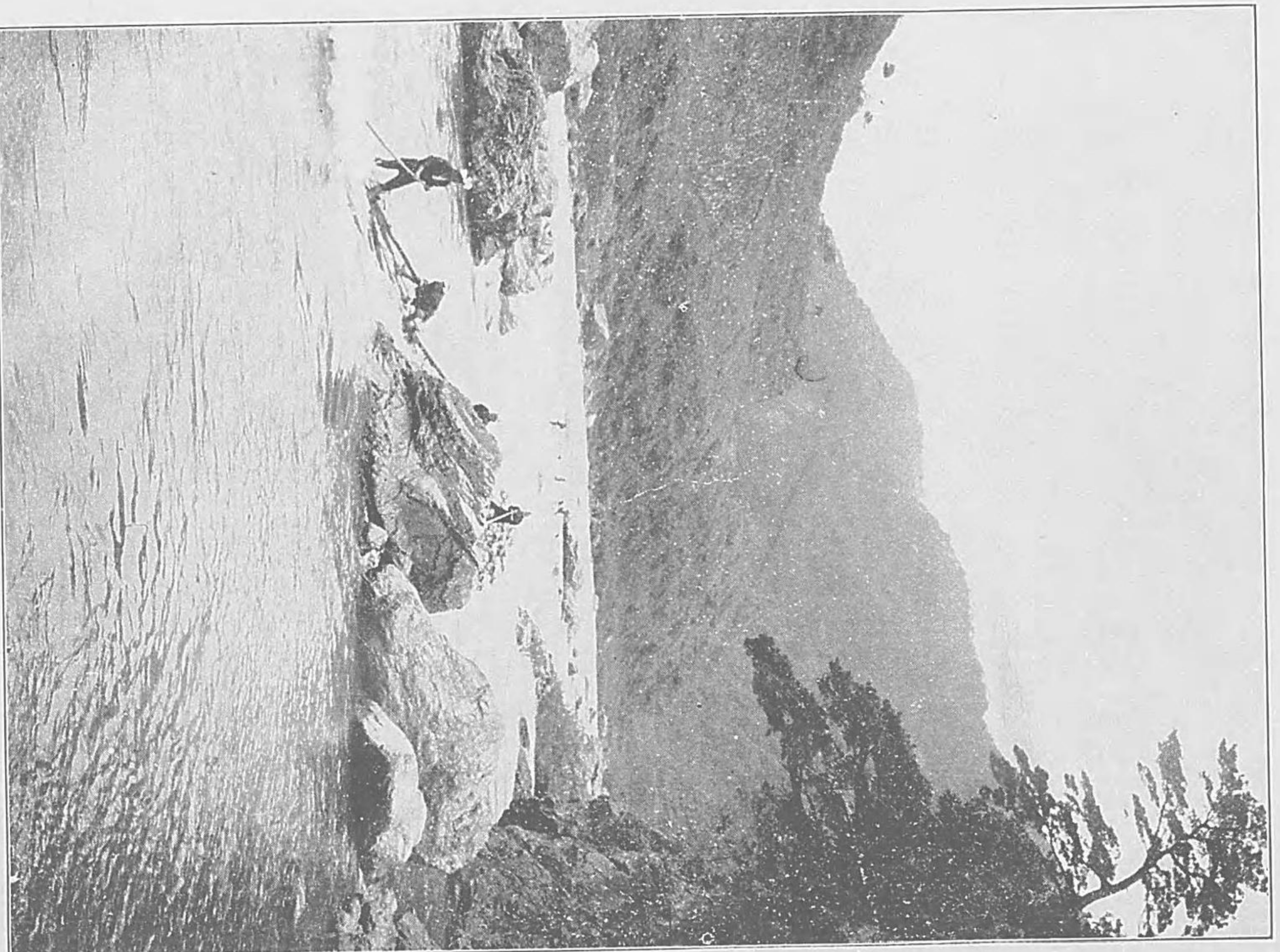
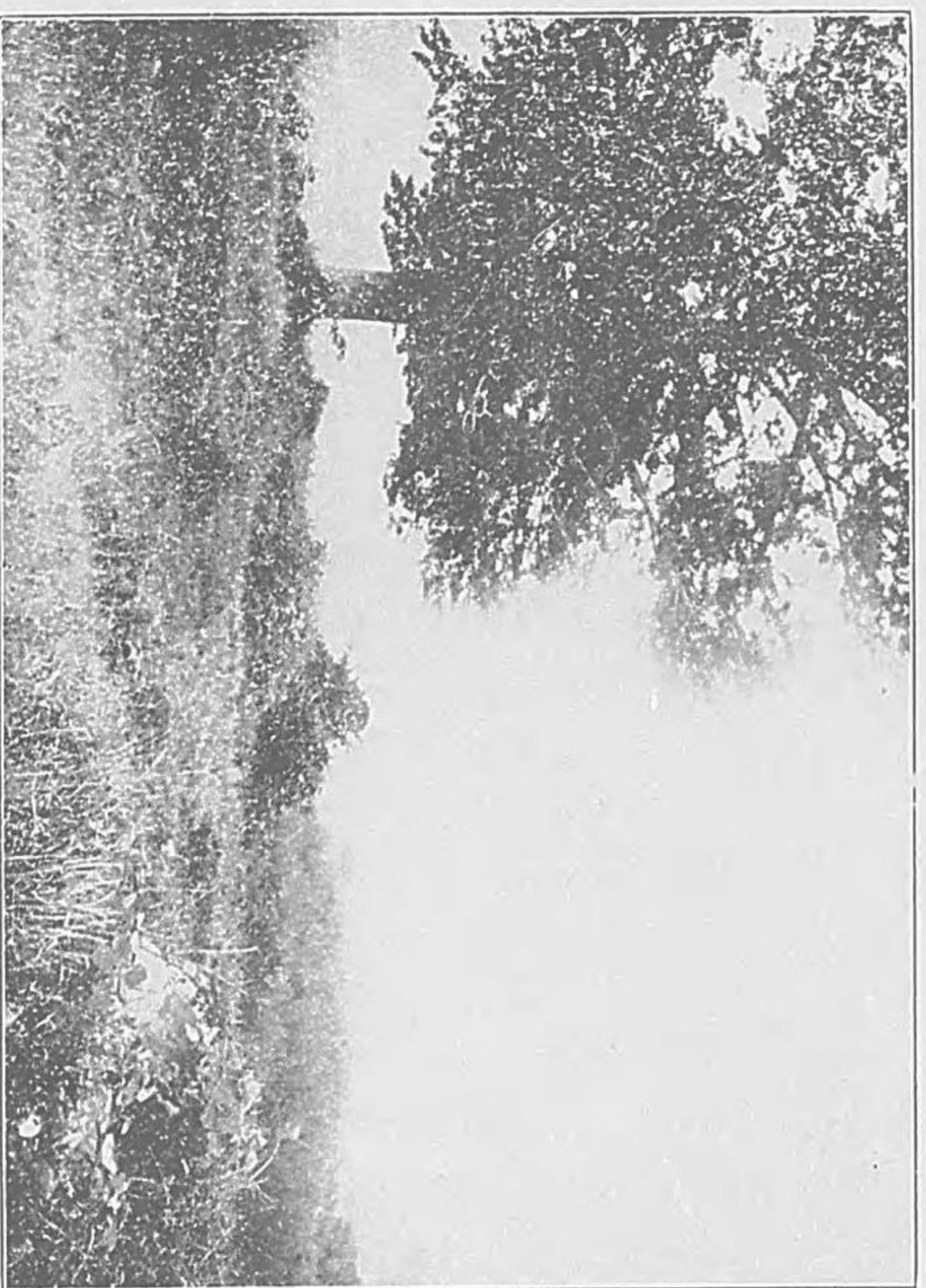
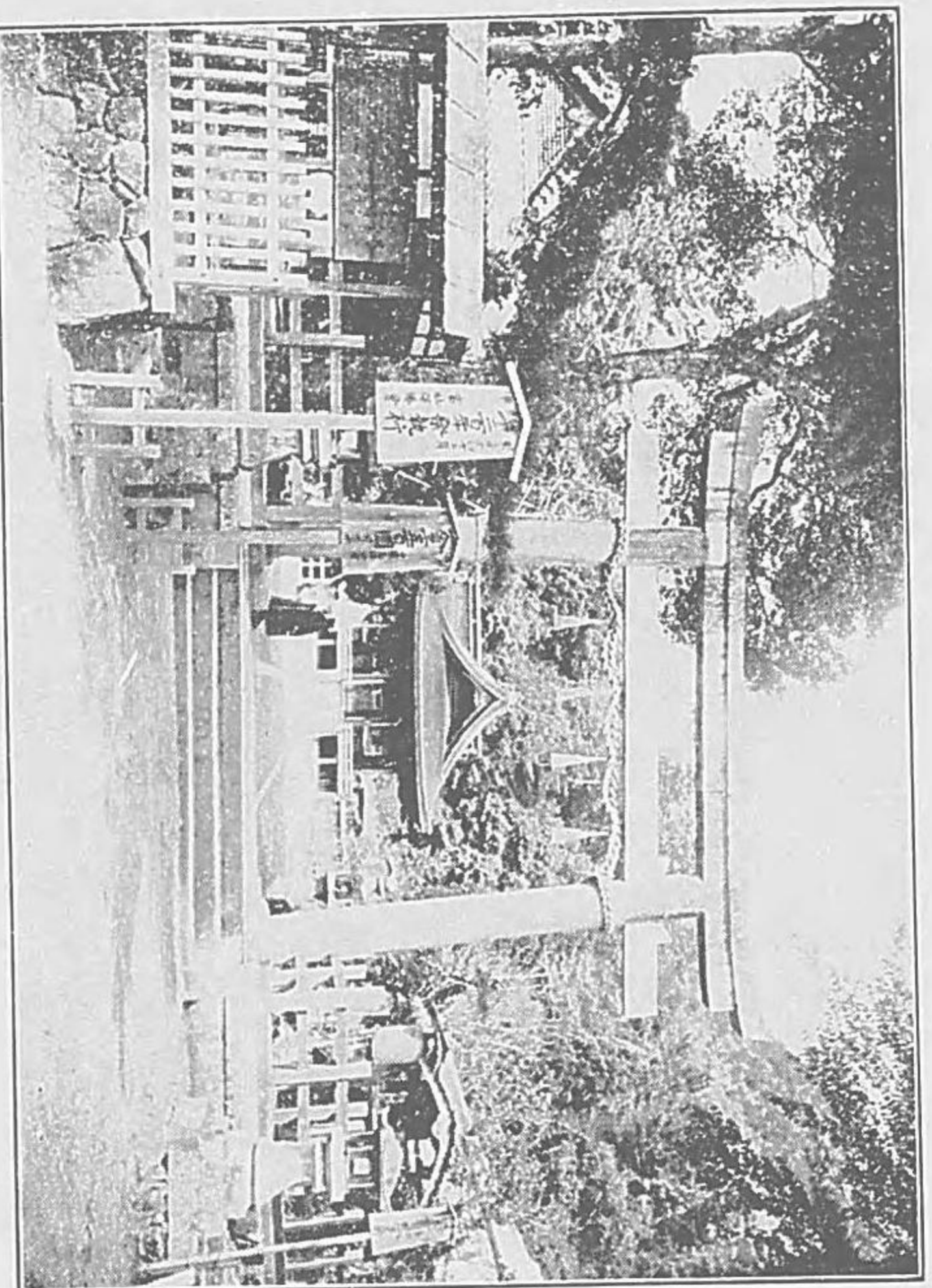


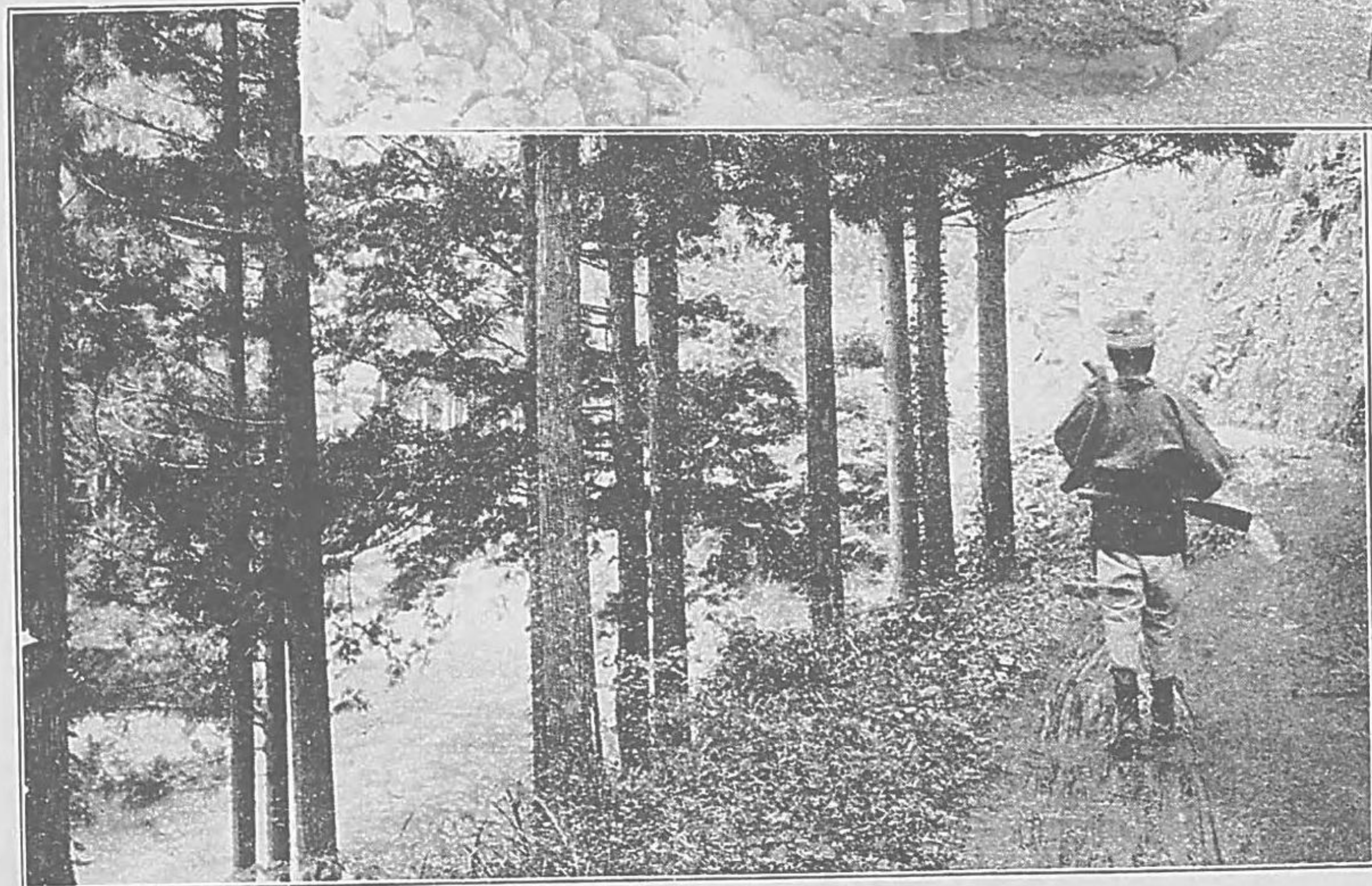
### 二二〇 出雲神社

國幣中社にして祭神は大汝命  
なり千歲村に在り出雲大社の  
分靈にして和銅二年の創立な  
りといふ延喜式の大社にて丹  
波國の舊一の宮なり

### 二二二 龜山城趾

天正年間明智光秀之を築く其  
後數代を経て松平氏之を領し  
明治廢藩に及び廢毀せられ今  
は唯其荒墟を存するのみ





一三二一 常照寺

山國村に在り、禪臨濟宗にして天龍寺末なり初め光嚴法皇俗塵を厭離し諸國を行脚し給ひ此地の幽邃世塵跡を絶つを愛し爰に隱栖し終に崩御あり後山に葬る山國陵と云ふ又後土御門天皇の御分骨所あり堂塔伽藍完備し光嚴法皇の御遺物あり

一三二二 山國招魂社  
竝碑

戊辰の役山國の有志者奮て征東の從軍を願ひ鳥取藩に屬し所所に轉戦し功あり當軍陣亡者の功績を表せんため招魂社を立て官祭に屬す碑は其事を記したるなり

一三二四 杉林及柚人

北桑田郡は本府東北隅に位し近江若狭の二國に接す山岳連互し桂川由良川皆源を茲に發し最も森林に富む桓武帝平安遷都の際御柚職を本郡山國村に置き木材を斫伐輸送し以て御所造營の材料に充てしめたり爾來林業大に發達し現今近畿地方に於て奈良縣吉野郡に亞くの林産たるに至れり當地の樵夫は其風俗今猶舊時の遺風を存す

一二二五 府立種畜場

高原村に在り、府下畜牛の改良増殖を計らんか爲め明治三十九年十月設置せしものにして現今敷地一萬五千坪、和種牝牛十一頭、牡牛二頭、洋種牝牛六頭、牡牛四頭、及ひ雜種牝牛二頭、牡牛二頭、總計二十七頭を有せり



一二二六 園部公園

園部町に在り、舊園部藩小出氏の城址にして船井郡の公園なり、近時の經營に係るも園地頗る廣く又老木多し、其間に花樹を栽へ亭榭を設け其設備漸くに成れり

一二二七 瑠璃溪

西本梅村の山谷にあり、山勢曲折、溪流其間を下り飛瀑懸簾、景色奇絶なり、近年發見にかかり之を瑠璃溪と號す、船井郡の名所たり

